
2020年度
武庫川女子大学・武庫川女子大学大学院・
武庫川女子大学短期大学部
卒業時アンケート
結果報告書

2021年10月
武庫川女子大学・武庫川女子大学短期大学部
自己評価委員会

調査概要 -----	3
調査結果から見えてくる今後の改善点	
調査結果から見えてくる今後の改善点 -----	7
アンケート結果 詳細内容【回答者のプロフィール】	
回答者プロフィール -----	20
アンケート結果 詳細内容【立学の精神、ディプロマ・ポリシーの浸透度】	
「立学の精神」の浸透度 -----	28
ディプロマ・ポリシーの浸透度 -----	33
アンケート結果 詳細内容【満足度】	
教育内容の満足度 -----	39
卒業後の進路の満足度 -----	44
総合満足度 -----	49
アンケート結果 詳細内容【修学状況】	
学びの機会 -----	55
学びの充実度 -----	85
アンケート結果 詳細内容【ディプロマ・ポリシーの修得度】	
修得した能力【大学】 6学部14学科 -----	111
修得した能力【短期大学部】 7学科 -----	125
修得した能力【大学院】 修士 6研究科8専攻・博士 後期課程1研究科1専攻 -----	132
アンケート結果 学部別サマリー	
学部別サマリー【大学】 6学部14学科 および【短期大学部】 7学科 -----	138
巻末資料【調査票】	
調査票 -----	160

調査概要

1. 調査の目的

卒業時のディプロマ・ポリシーの達成度と教育内容に対する評価を把握し、学修成果を測定。教育内容および教育方法の適切性を検証するための指標として活用する。

2. 調査対象

2021年3月に学校法人武庫川学院の大学、短期大学部、大学院のいずれかを卒業する卒業生(2020年度卒業生)

武庫川女子大学	1,923名
武庫川女子大学短期大学部	648名
武庫川女子大学大学院 修士課程	108名
武庫川女子大学大学院 博士後期課程	8名
計	2,687名

3. 調査実施時期

2021年1月28日(木)～3月30日(火)

4. 調査方法

Googleフォームで作成したアンケートによるWeb調査

5. 主な調査項目

- 立学の精神、ディプロマ・ポリシーの浸透度
- 教育内容の満足度
- 卒業後の進路の満足度
- 総合満足度
- 学びの機会
- 学びの充実度
- ディプロマ・ポリシーの修得度(学科別)

学科・専攻別の回収率

	卒業年次 人数	卒業生数	回答数	回答率	有効 回答数	有効 回答率
大学・計	2003	1923	1059	52.9%	1059	55.1%
文学部	873	840	397	45.5%	397	47.3%
文学部 日本語日本文学科	202	192	109	54.0%	109	56.8%
文学部 英語文化学科	238	228	127	53.4%	127	55.7%
文学部 教育学科	258	254	87	33.7%	87	34.3%
文学部 心理・社会福祉学科	175	166	74	42.3%	74	44.6%
健康・スポーツ科学部 健康・スポーツ科学科	186	181	142	76.3%	142	78.5%
生活環境学部	555	547	259	46.7%	259	47.3%
生活環境学部 生活環境学科	143	139	47	32.9%	47	33.8%
生活環境学部 食物栄養学科	214	212	90	42.1%	90	42.5%
生活環境学部 情報メディア学科	154	152	80	51.9%	80	52.6%
生活環境学部 建築学科	44	44	42	95.5%	42	95.5%
音楽学部	49	48	44	89.8%	44	91.7%
音楽学部 演奏学科	30	29	29	96.7%	29	100.0%
音楽学部 応用音楽学科	19	19	15	78.9%	15	78.9%
薬学部	248	217	141	56.9%	141	65.0%
薬学部 薬学科	194	164	117	60.3%	117	71.3%
薬学部 健康生命薬科学科	54	53	24	44.4%	24	45.3%
看護学部 看護学科	92	90	76	82.6%	76	84.4%
短期大学部・計	684	648	354	51.8%	353	54.5%
短期大学部 日本語文化学科	105	96	57	54.3%	57	59.4%
短期大学部 英語キャリア・コミュニケーション学科	106	98	73	68.9%	72	73.5%
短期大学部 幼児教育学科	127	125	68	53.5%	68	54.4%
短期大学部 心理・人間関係学科	106	96	42	39.6%	42	43.8%
短期大学部 健康・スポーツ学科	58	54	26	44.8%	26	48.1%
短期大学部 食生活学科	94	92	35	37.2%	35	38.0%
短期大学部 生活造形学科	88	87	53	60.2%	53	60.9%
大学院・計	145	116	42	29.0%	42	36.2%
大学院 修士課程・計	116	108	40	34.5%	40	37.0%
文学研究科	30	29	3	10.0%	3	10.3%
文学研究科 日本語日本文学専攻	3	3	1	33.3%	1	33.3%
文学研究科 英語英米文学専攻	2	2	0	0.0%	0	0.0%
文学研究科 臨床心理学専攻	25	24	2	8.0%	2	8.3%
臨床教育学研究科 臨床教育学専攻	13	9	5	38.5%	5	55.6%
健康・スポーツ科学研究科 健康・スポーツ科学専攻	10	9	1	10.0%	1	11.1%
生活環境学研究科	43	42	26	60.5%	26	61.9%
生活環境学研究科 食物栄養学専攻	11	10	4	36.4%	4	40.0%
生活環境学研究科 生活環境学専攻	2	2	0	0.0%	0	0.0%
生活環境学研究科 建築学専攻	30	30	22	73.3%	22	73.3%
薬学研究科 薬科学専攻	7	7	2	28.6%	2	28.6%
看護学研究科	13	12	3	23.1%	3	25.0%
看護学研究科 看護学専攻看護学研究コース	9	8	2	22.2%	2	25.0%
看護学研究科 看護学専攻看護学研究保健師コース	4	4	1	25.0%	1	25.0%
大学院 博士後期課程・計	29	8	2	6.9%	2	25.0%
文学研究科 英語英米文学専攻	2	0	0	0.0%	0	-
臨床教育学研究科 臨床教育学専攻	13	2	0	0.0%	0	0.0%
生活環境学研究科	5	1	0	0.0%	0	0.0%
生活環境学研究科 食物栄養学専攻	4	0	0	0.0%	0	-
生活環境学研究科 生活環境学専攻	1	1	0	0.0%	0	0.0%
薬学研究科 薬学専攻	2	0	0	0.0%	0	-
看護学研究科 看護学専攻	7	5	2	28.6%	2	40.0%
総計	2832	2687	1455	51.4%	1454	54.1%

参考:2018年度調査概要

<参考>2018年度卒業時アンケート

・調査対象

	対象者数	回収数	回収率
武庫川女子大学	1,999名	1,805名	90.3%
武庫川女子大学短期大学部	780名	741名	95.0%
計	2,779名	2,546名	91.6%

・調査実施時期

2019年3月21日(木)、22日(金) ※卒業式当日のガイダンス時に実施

・調査方法

学内配布・回収

調査結果から見える今後の改善点

本まとめでお伝えすること

大学、短期大学部の課題を共有することを目的とし、基本的には全体における以下の調査結果をお伝えする。

- ・ 学生の貴学における学びに対する評価、改善要望
- ・ 学生のディプロマポリシーの修得状況
- ・ 学生のディプロマポリシー、立学の精神の認知度
- ・ 今後に向けて

参考値として前回値(2018年度実施)を比較対象として用いる。

しかし、調査実施方法が2018年度と2020年度で大きく異なるため、注意が必要である。

調査実施方法の違いと 調査結果に影響を与える要因

<調査実施方法>

2018年度: 卒業式当日のガイダンス時に質問紙を配布しその場で回収

2020年度: 2021年1月28日～2021年3月30日までWebアンケートで回収

WebアンケートはメールにてアンケートURLを配信

<調査結果に影響を与えると想定される要因>

調査実施時のシチュエーションの違い

2020年度はコロナ禍での冬休み期間中の実施となり、学科によっては国家試験受験前にアンケートに回答している学生もいる。こういった学生の回答時の心境の違いが結果に影響を与えている可能性が想定される。

調査の回収率の違い

2020年度の回収率(54.1%)は2018年度(91.6%)に比べて低い。2020年度はより貴学の教育に関心があり、まじめな学生からの回答の割合が高くなっていることが想定される。

調査結果の要点

＜貴学の教育の強み＞

- ・ 貴学での学びは、協働作業や発表を行う授業、将来との関わりを感じる授業が充実している。
- ・ 教育満足度、進路満足度、総合満足度のいずれも、満足している学生が9割を超え、多くの学生が満足して卒業している。

＜さらなる向上が必要だと考えられる項目＞

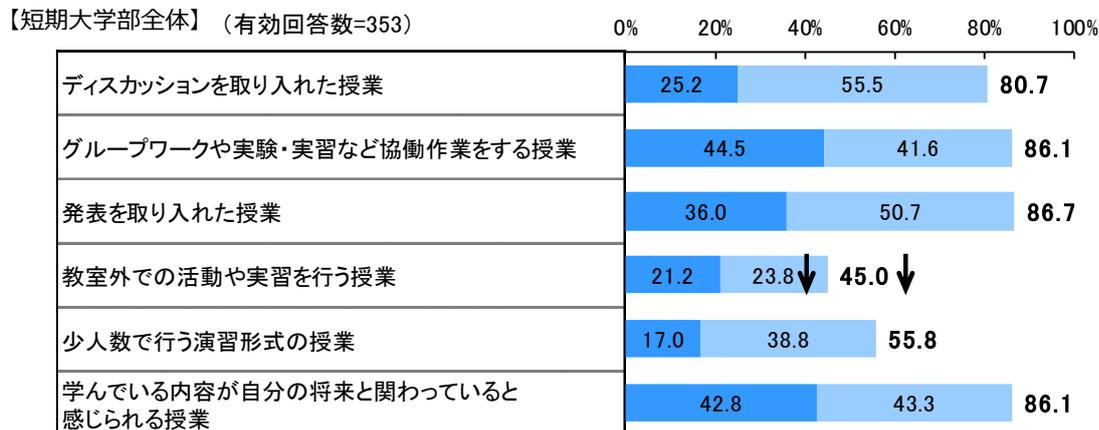
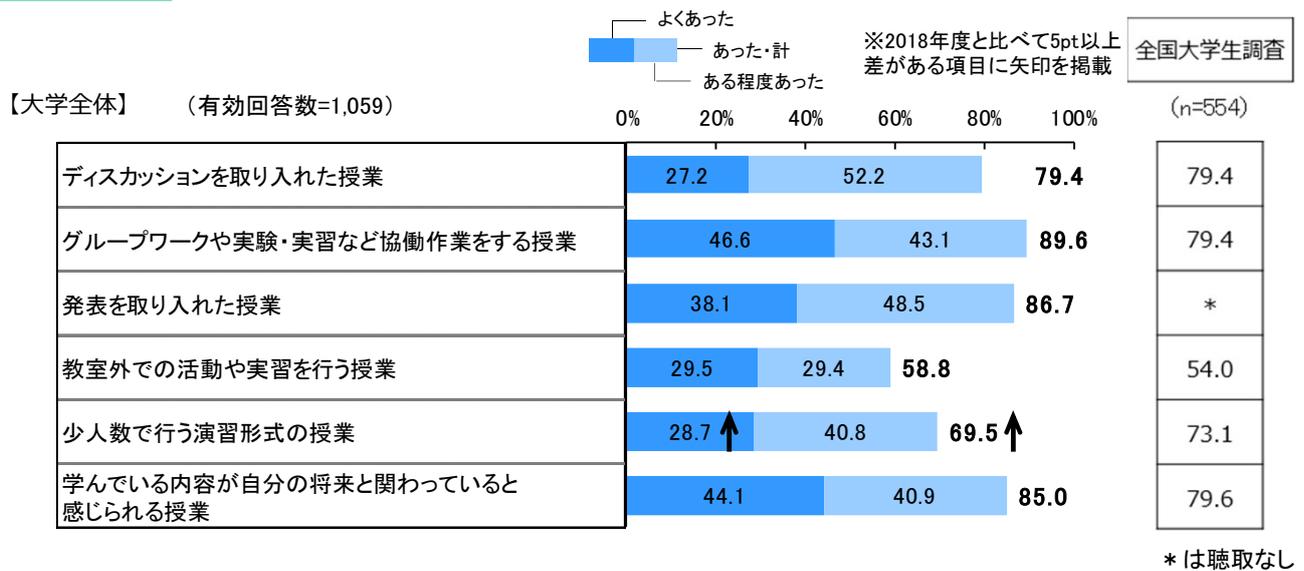
- ・ 基礎教育科目における英語の授業や学べる第二外国語の種類、留学の内容に関して課題がみられる。
- ・ 専門分野の教育の充実は9割の学生が充実していると回答している。
しかし専門分野の教育の充実は学生にとって特に重視度が高い項目であると考えられ、自由記述の設問内でも改善要望があがっている項目である。
- ・ ディプロマ・ポリシーの中でも特に、思考力や学び続ける姿勢、国際性の修得に関して課題がみられる。
- ・ ディプロマ・ポリシーの内容を理解している学生は少数に留まる。
- ・ オンライン授業の質向上に関して学生から改善要望があがる。

調査結果のまとめ【学びの機会】

■ 協働作業や発表を行う授業、将来との関わりを感じる授業が充実している点は貴学の強み。

- 貴学の学びに対して、9割近くの学生が「グループワークや実験・実習など協働作業をする授業」「発表を取り入れた授業」「学んでいる内容が自分の将来と関わっていると感じられる授業」があったと回答している。全国大学生調査の結果と比較しても評価が高く貴学の強みといえる。その他の項目を比較しても、全国大学生調査より突出して低い項目は見られない。
- 経年で結果を確認すると、短期大学部全体において「教室外での活動や実習を行う授業」の評価が低くなっている以外は、目立って実感度が下がっている項目は見られない。

学びの機会



<全国大学生調査>

進研アド独自調査 調査方法: インターネット調査 対象者数: 4,313名 実施時期: 2020年6月

女子・4年生 (n=554) の値を掲載 聴取項目は上から
授業で、グループワーク・ディスカッションなどに参加する
授業で、グループワーク・ディスカッションなどに参加する
(聴取なし)
授業で、フィールドワークなどの体験的な活動や実習を行う
少人数教育(1クラスが20~30人以下)の授業を受ける
授業で、学んでいる内容と将来のかかわりについて考える

調査結果のまとめ【満足度】

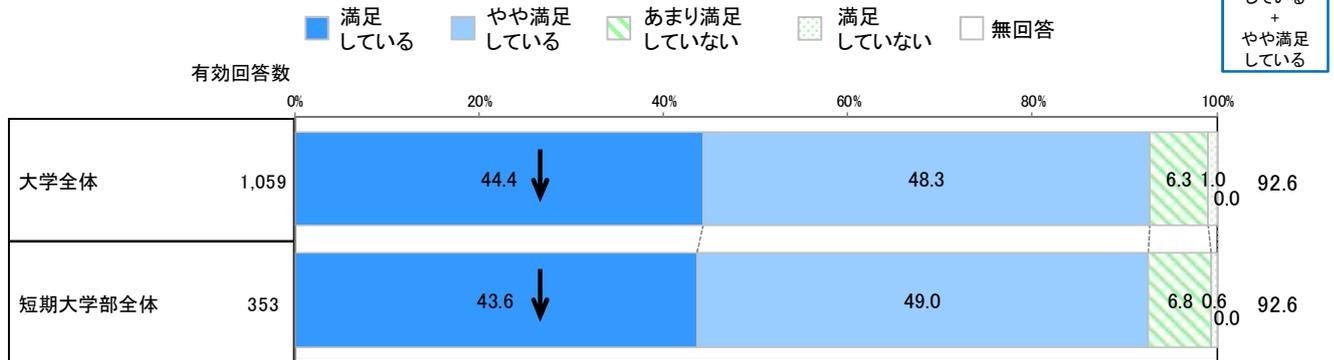
■ 貴学に対する満足度は9割を超え高い。

教育満足度の「満足している」割合の低下には注意が必要。

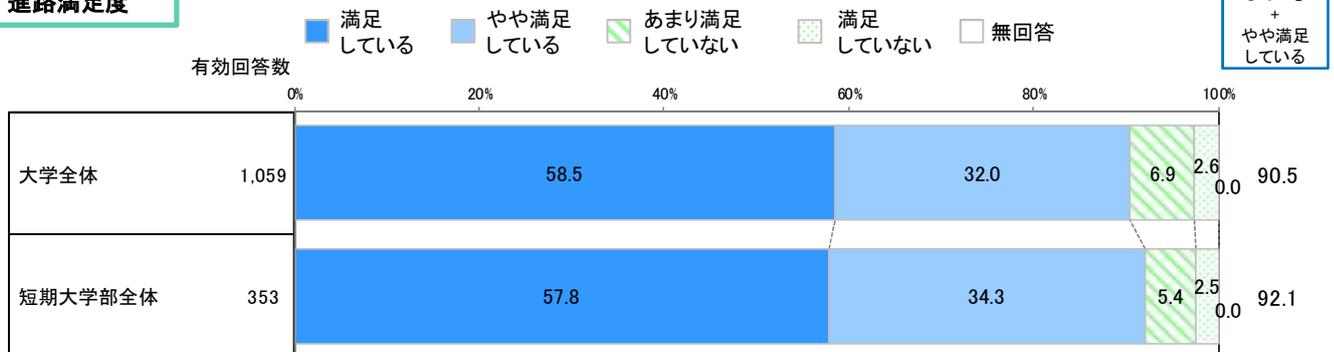
- 貴学の教育満足度は、9割を超える学生が満足しており高い。また、進路満足度も同様に高い。学生生活の振り返りを問う総合満足度も高い値を示している。
- 経年で結果を確認すると、教育満足度において「満足している」学生の割合が低下。学生の教育内容に対する満足度が低下している可能性が推測される。現状、総合満足度に大きな影響を与えるまでには至っていないが、注視していく必要がある。

教育満足度

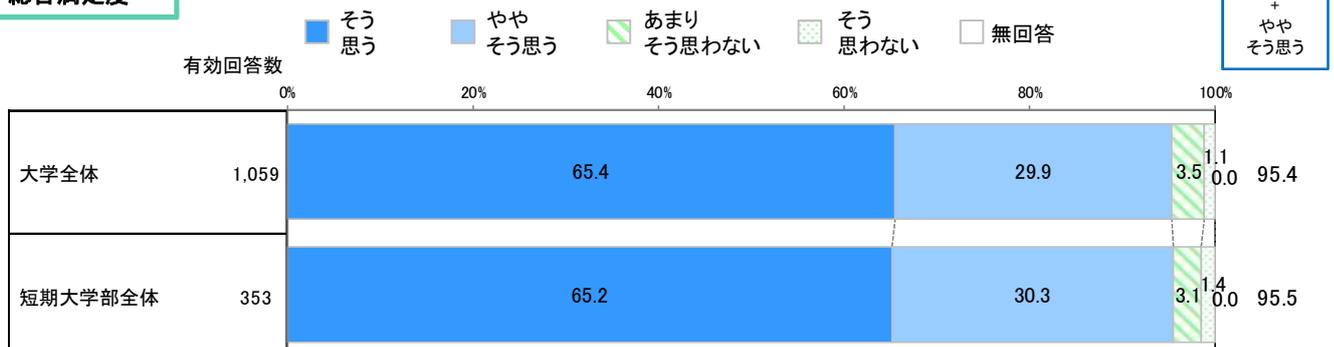
※2018年度と比べて5pt以上差がある項目に矢印を掲載



進路満足度



総合満足度

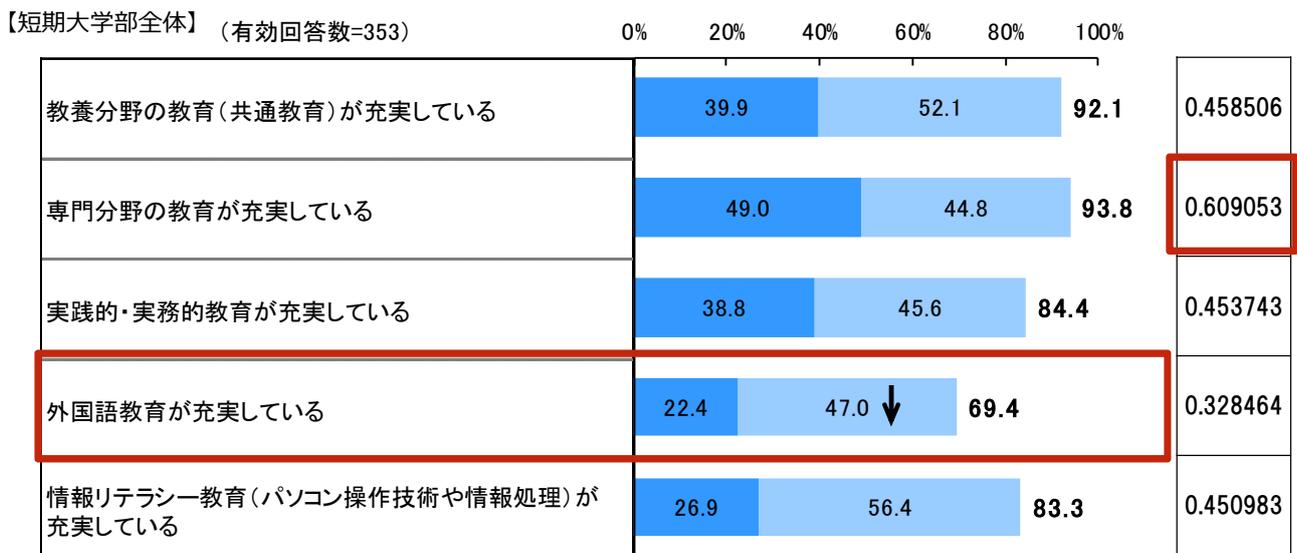
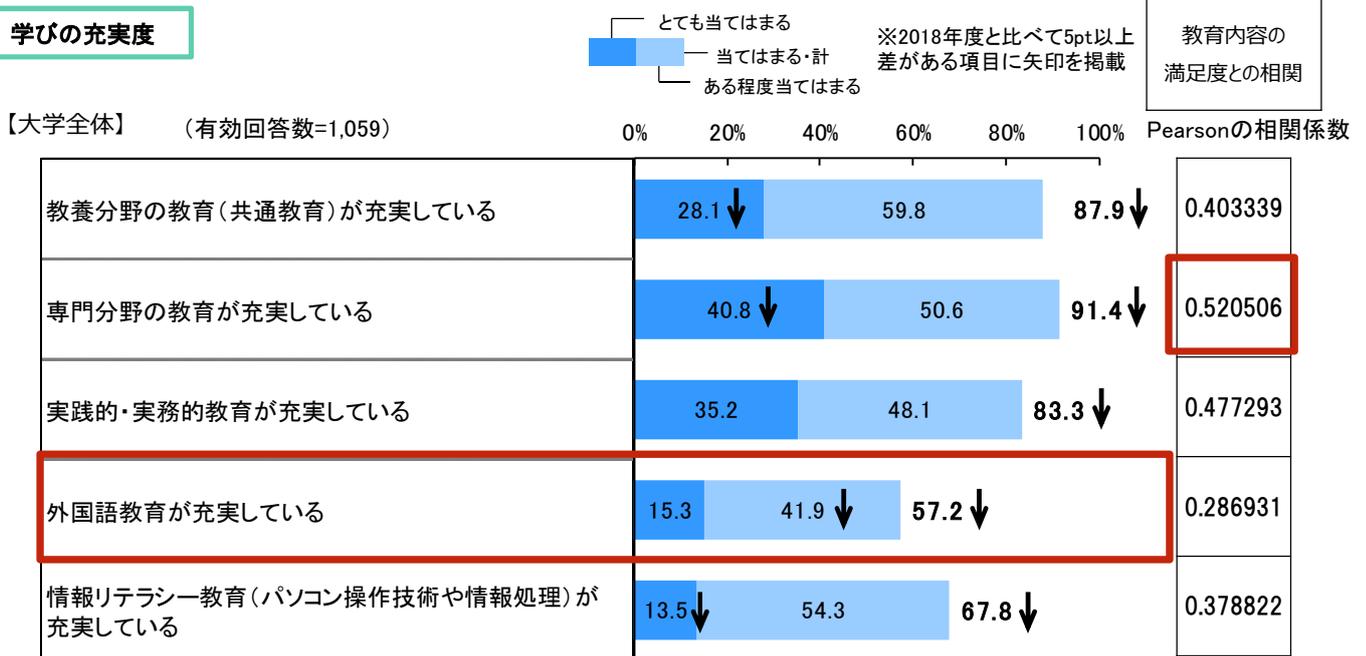


調査結果のまとめ【学びの充実度】

■ 外国語教育は相対的に見て貴学の弱みであり、特に今後も伸びしろがある。
 専門教育に対する評価は高いもののとりわけ重要度が高い項目であり、今後も注力が必要。

- 貴学の学びに対して、9割以上の学生が「専門分野の教育が充実している」と回答し、評価が高い。大学、短期大学部においては「教養分野の教育(共通教育)が充実している」も9割前後の学生が評価している。対して「外国語教育が充実している」は相対的に評価が低く、貴学の弱みである。
- 経年で結果を確認すると、大学ではすべての項目で、短期大学部では「外国語教育が充実している」点で数値が低下。
- 各項目と教育内容の満足度との相関をみると、大学と短期大学部のいずれにおいても「専門分野の教育が充実している」で最も相関係数が高く、貴学の教育内容の満足度に強く影響していることが想定される。そのため、現状評価が高いものの今後も注力が必要な項目である。

学びの充実度



調査結果のまとめ【教育内容に対する改善要望(大学)】

■ 大学では特に、専門教育と外国語教育に関する要望があがる。

- ・ 教育満足度との関連性が推測される専門教育において、さらなる充実を求める意見があがる。大英および新薬では早期からの専門教育の充実に関する意見もあがっている。
- ・ 外国語教育に関しては、教育内容の満足度との関連性は相対的に低いと想定されるものの、専門教育に対する要望に次いで具体的な要望があがっている項目である。

<大学>コロナとは直接関係がないと想定される要望

専門教育の充実

- ・近現代文学について受けられる授業が増えればいいのにと感じていた。(大日)
- ・英語スキルを活かし、他分野への研究ができるなど視野を広く持たせるような教育にしていけばいいと思いました。(大英)
- ・ピアノやリトミック、手遊びなどもっと実践的で活用できる授業が充実すると良い。(大教)
- ・心理学の専門科目をもっと増やしてください。基礎系、臨床系ともに増やしてほしいです。(大心)
- ・指導案の書き方をもっと早い段階で知りたかった。(新健)
- ・デザインを具体的に教わらなかった。就活で苦労した。(大環)
- ・大情では、専門的な教育はゼミ中心であり、通常授業ではかなり基礎的な部分でしか身に付かないと感じた。もう少し、専門的能力を上げるために必要になる科目を検討してほしいと思う。またプログラミング系の授業が多く、デザイン系向けの授業が足りない。(大情)
- ・学科の育成ポリシーとして、～の建築家になるとあるが建築設計者を育てる課題だったと感じている。(大築)
- ・もう少し専門知識を深く学べれば良いなと思った。国試を受けないから飛ばされた内容もあったので、そこは時間を取ってでも教えてほしかった。(新薬)

早期からの専門科目充実や国家試験対策

- ・1～2年のうちから専門分野をもっと履修できるようにして欲しい。(大英)
- ・もう少し早めに専門分野に触れて、学ぶことができれば、英語に対して嫌悪感が減ったのでは？と思ってしまう。3回生からではなく、1回生からビジネス英語や翻訳、または国際的な視点でビジネスを学ぶことができれば、大学卒業後の進路も変わっていたかもしれません。(大英)
- ・低学年の時から予備校の授業を受けたかったです。(新薬)
- ・低学年時から臨床の薬剤師業務や内容を意識した授業を受け、実務実習前に実務の内容を実践的に学べているとより薬剤師へのモチベーションが向上すると思います。(新薬)

外国語教育の充実

- ・英語の授業のレベルを上げてほしい。(新健)
- ・外国人の先生をもっと増やすべきだと思う。(大英)
- ・第二言語がなく、共通科目でしかとれなかったのが、少し残念だった。(大環)
- ・グローバル教育を掲げているのに第二言語がフランスかドイツは矛盾している。共通教育で受講できると言われるが、レベルが低すぎる。(大英)
- ・外国語教育について、1年次の頃はある程度行われていましたが、2年次以降、必修科目ではなかったため、あまり取り組めませんでした。(大心)
- ・学部内の留学プランなどがあれば、良かったと思います。(大心)
- ・交換留学の制度がずさん。在学中に留年せず交換留学に行けることを売りにしているが、実際の互換単位が国によって違いすぎる。留学前後、留学中のサポート体制も酷い。(大英)
- ・留学先も少なすぎるし、英語圏ばかりなのにも疑問。(大英)
- ・留学を団体で行動させるのはどうかと思う。どうしても日本語を話してしまう。(大英)

時間割の自由度の向上

調査結果のまとめ【教育内容に対する改善要望(大学)】

■ コロナ禍の影響で、オンライン授業の質向上と施設設備の利用に関する要望があがる。

- ・ コロナ禍の影響でオンライン授業となり、授業の内容や教員間での対応の差における改善要望があがる。また、通学が困難になったことで大学の施設や設備が使えず、個人の学びを進めにくくなったことについて要望があがっている。
- ・ 今回調査対象となった卒業生は3年生の後半から本格的なコロナ禍に入っており、これらの要望は特に「専門分野の教育の充実」と「実践的・実務的教育の充実」に影響を与えていると想定され、貴学の教育内容に対する満足度の低下に影響を与えていると推測される。

<大学>コロナの影響で発生した要望

オンライン授業の質向上・対面授業を増やしてほしい

- ・ オンライン授業は助かる点も多々あったがやはり対面授業と比べると授業を受けているという実感も持ちにくく、きっちり90分授業が開講されることも少なく感じた。
- ・ 授業のやり方も教え方も様々でいいが、オンラインの時はそれがしんどかった。先生によって課題の提出の仕方を統一していただきたかった。
- ・ コロナによってオンラインでの授業が行われたが先生によって工夫されている先生もいれば、雑な先生もあり、オンラインであっても授業料など支払っているのでもっと質の高い授業を受けたかった。
- ・ 対面での授業は満足していますが、オンラインになってゼミ以外は少し孤独感を感じるようになった。

学ぶ上で重要度が高い施設や設備を利用しやすくしてほしい

- ・ コロナ禍で、教室の使用を制限されたのが制作をする上で、物理的金銭的に大変でした。
- ・ コロナ禍でMM6階のMacBookの部屋が印刷機も含め自由に使用できなかったことが悲しかったです。
- ・ 実習室の使用規定が厳しく、全然学校で学べない最後の一年だったのが本当に残念です。
- ・ 以前図書館を自習場所に利用していた学生は多くいたので、感染対策を行った上でも自習場所として利用できるようにしていただけると、学生にとってより過ごしやすい学校になると考えます。

調査結果のまとめ【教育内容に対する改善要望(短期大学部)】

■ 短期大学部では、特にオンライン授業の質向上に関する要望が上がる。

- ・短期大学部でもコロナ禍の影響でオンライン授業となり、授業の内容や教員間での対応の差における改善要望があがる。
- ・今回調査対象となった卒業生は在学期間中の半分以上でコロナ禍を経験しており、特にオンライン授業の質が貴学の教育内容に対する満足度の低下に関連している可能性が推測される。
- ・次いで大学と同様に専門科目や外国語教育に関する要望があがる。

<短期大学部>コロナの影響で発生した要望

オンライン授業の質向上・対面授業を増やしてほしい

- ・卒業学年はコロナ禍での授業という異例の1年間でしたが、<中略>親身に対応していただきありがとうございました。しかし、通常の1年間に比べると満足度のいく学習はできませんでした。
- ・このようなご時世なので全授業対面は難しいかもしれませんが、できれば卒業学年なので講義授業もオンデマンドでなく対面が良かったです。周りの友人も、オンデマンドだと授業を受けた気にならないという意見が大変多かったです。
- ・オンラインになってから授業がPDFをみて課題を出すだけだったり、90分の価値がないように感じられる授業が多かったです。
- ・オンライン授業になってから、授業内容の差が目立つようになったと思います。
- ・専門や科目が違う先生(外部の先生含む)でも、オンラインの使い方が慣れている先生、そうじゃない先生で意見交換やアドバイスを出し合ってそれぞれ改善していけば、どの授業ももっと受けやすくなるのではないかなと思います。オンライン授業はオンライン授業でも、資料の見方や課題の出し方などシステムがバラバラで、ある程度統一してもらった方がお互いにやりやすいくないかなと思います。

<短期大学部>コロナとは直接関係がないと想定される要望

外国語教育の充実

- ・外国語教育をもう少し充実させた方が良いと思います。be動詞からスタートで驚きました。(短日)
- ・第二言語の教科を増やしていただけると嬉しいです。(短生)
- ・留学は武庫川女子大学のキャンパスに行くのではなくアメリカの学校に入学させてほしかった。(短英新)
- ・留学時の寮の日本人人数が多すぎて、ほとんど日本語で喋っていたので寮に外国人が5人くらい欲しいと思いました。(短英新)

専門教育の充実

- ・もう少し高いレベルの英語の授業があっても良かったと思う。(短英新)
- ・教育実習に行き感じたのは、実習前に道德の模擬授業が行っておきたかったということです。来年入学してくる学生たちのためにも、ぜひカリキュラムに追加していただきたいと感じます。(短健)
- ・もう少し調理実習など、栄養士としての調理技術を身につけたかった。(短食)
- ・インテリアコースが少し建築により過ぎているのかなと思う。インテリア自体の学びを増やしてほしい。(短生)

共通科目の定員増

調査結果のまとめ【ディプロマ・ポリシーの修得度(大学・短期大学部)】

■ 大学、短期大学部では、約半数の学科で修得度の数値が低下しており、注意が必要。

- 各学科におけるディプロマ・ポリシー項目の修得度平均値(TOP2計:「とても身に付いた」+「ある程度身に付いた」の平均値)は、最も低い学科で7割半ば、最も高い学科ではほぼ100%と全体的に高い値を示す。
- 約半数の学科で昨年度に比べて修得度の数値が低下しており、教育内容に対する満足度が低下している可能性とあわせて考えても、今後の対策が必要になるだろう。
- また、学科ごとにディプロマ・ポリシー項目が異なるため、学科間での比較には注意が必要だが、全体と比べて修得度が低い学科においては、カリキュラムや授業内容の見直しも視野に入れるべきであろう。

DP項目の修得度 (学科別平均)

※2018年度と比べて5pt以上差がある項目に矢印を掲載
 ※TOP1:「とても身に付いた」、TOP2計:「とても身に付いた」+「ある程度身に付いた」の%。
 ※TOP1平均、TOP2計平均は、各学科のDP項目のTOP1、TOP2計の平均%。

	調査数	TOP1 平均	TOP2計 平均	
全体	1,454	28.4	84.1	※316項目平均
大学全体	1,059	21.7 ↓	85.4	※146項目平均
文学部 日本語日本文学科	109	19.5	78.2	※8項目平均
文学部 英語文化学科	127	23.0 ↓	80.1	※14項目平均
文学部 教育学科	87	24.6	87.4 ↓	※8項目平均
文学部 心理・社会福祉学科	74	18.5	80.7	※14項目平均
健康・スポーツ科学部 健康・スポーツ科学科	142	27.9	91.0	※10項目平均
生活環境学部 生活環境学科	47	16.6	83.9	※9項目平均
生活環境学部 食物栄養学科	90	24.5 ↓	90.4	※14項目平均
生活環境学部 情報メディア学科	80	15.2	82.9	※7項目平均
生活環境学部 建築学科	42	15.4 ↓	90.2	※9項目平均
音楽学部 演奏学科	29	21.5 ↓	82.5 ↓	※12項目平均
音楽学部 応用音楽学科	15	11.9 ↓	77.6	※14項目平均
薬学部 薬学科	117	29.1 ↓	93.2	※9項目平均
薬学部 健康生命薬科学科	24	18.1	79.6	※9項目平均
看護学部 看護学科	76	38.0 ↓	97.8	※9項目平均
短期大学部全体	353	21.5	86.8	※74項目平均
短期大学部 日本語文化学科	57	18.6	84.4	※8項目平均
短期大学部 英語キャリア・コミュニケーション学科	72	20.0 ↑	76.0	※13項目平均
短期大学部 幼児教育学科	68	30.9	96.5	※8項目平均
短期大学部 心理・人間関係学科	42	20.0	82.5	※12項目平均
短期大学部 健康・スポーツ学科	26	23.9 ↓	95.0	※10項目平均
短期大学部 食生活学科	35	12.0 ↓	87.1	※14項目平均
短期大学部 生活造形学科	53	25.0	86.2 ↓	※9項目平均

全体+10ポイント以上
 全体-5ポイント以上
 全体+5ポイント以上
 全体-10ポイント以上

調査結果のまとめ【修得度が低いディプロマ・ポリシー(大学)】

■ 大学では、思考力、学び続ける姿勢に加えて国際性に課題。

- 学科内において、相対的に修得度が低いディプロマ・ポリシーに着目すると、学科固有の知識やスキルに関する項目が多いが、「思考力」「学び続ける姿勢」に関連する項目も共通して多くあがる。また「外国語を含めた語学や国際性」に関連する力も学科を超えて共通性がみられ、各学科の専門教育における教育改善に加えて全学をあげての一貫した教育改善も重要であると考えられる。

修得度の低いDP項目 (学科別)

※TOP2計:「とても身に付いた」+「ある程度身に付いた」の%。
 ※学科内において、TOP2が低いもの2項目(同率で複数ある場合はTOP1の数値がより低いものを抽出。加えてTOP2が70%未満の項目を抽出。

【大学】

学部学科	調査数	項目	TOP2計
文学部 日本語日文学科	109	技能・表現 D 情報機器(ICT)活用技能を含む諸技能と豊かな表現力を身につけている。	62.4
		態度・志向性 G 日常生活の中で大学での学修の価値を認識し、常に学問的態度を保っている。	73.4
文学部 英語文化学科	127	知識・理解 D 国際人として必要なコンピューターリテラシーを持っている。	65.4
		技能・表現 G ドイツ語・フランス語を理解し、発信することができる。	46.5
		思考・判断 K 専門知識に基づいた、クリティカルな思考力を持っている。	67.7
文学部 教育学科	87	思考・判断 E 国際的視野に基づいた批判的思考力および創造的能力を備えている。	54.0
		態度・志向性 H 教育・保育に関して、生涯にわたり学び、研究し続ける力を身につけている。	80.5
文学部 心理・社会福祉学科	74	知識・理解 C レクリエーション学に関する基礎的・専門的知識を有している。	41.9
		技能・表現 D 科学的な視点に基づき、様々な課題の解決に心理学の専門的知識を統合し活用できる能力を有している。	63.5
健康・スポーツ科学部 健康・スポーツ科学科	142	思考・判断 F 実践力を向上させるための、論理的・実証的に思考する能力を身につけている。	88.0
		思考・判断 G 指導現場においては、成果を得ることが大切であり、そのための問題解決の能力を身につけている。	85.9
生活環境学部 生活環境学科	47	知識・理解 B 快適で健全な生活環境に形作るための、科学的・工学的な観点からの専門知識を有している。	76.6
		技能・表現 D 生活環境を構成する事象を定量的・論理的に分析し、問題の解決につなげることのできる技能を有している。	76.6
		技能・表現 E 生活環境を構成する事象に対し、創造的なアプローチをし、表現する技能を有している。	76.6
生活環境学部 食物栄養学科	90	技能・表現 E 食品開発や食品管理などで必要となる技能・表現力を身に付けている。	75.6
		技能・表現 F ヒトと栄養との関係を研究するために必要となる技能・表現力を身に付けている。	85.6
生活環境学部 情報メディア学科	80	社会共創力 F 社会の仕組みを理解し、社会的な課題の解決に主体的に参加し、他人との協働を通じて、社会の発展に貢献する態度を習得している。	78.8
		社会共創力 G 生涯に亘って自分のキャリアを開拓できる意欲と向上心を身につけている。	73.8
生活環境学部 建築学科	42	高い知性 D コスト、スケジュールなど様々な制約条件を理解し、これらの下で、適切な設計・施工計画を進められる基礎的能力を培っている。	78.6
		高雅な徳性 G 社会の仕組みや現代社会の問題点を理解する能力と継続的に学習できる能力を培い、自律的活動ができる職能人としての素養を理解している。	88.1
音楽学部 演奏学科	29	知識・理解 B 音楽史や文化、音楽作品とその背景に関する幅広い知識を有している。	79.3
		知識・理解 C 音楽に携わる上で必要な語学能力を有している。	62.1
音楽学部 応用音楽学科	15	知識・理解 C 海外の論文や文献研究に必要な語学能力を有している。	20.0
		技能・表現 F 生涯学習における音楽的指導、学校教育における音楽教育の指導者としての知識や技術を習得している。	60.0
		技能・表現 G 音楽産業の中での、企画・運営能力を有している。	66.7
薬学部 薬学科	117	技能・表現 E 薬剤師業務および関連業務に必要なプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力を有する。	86.3
		思考・判断/態度・志向性 I 次世代を担う薬剤師人材を育成する意欲と態度を有する。	87.2
薬学部 健康生命薬科学科	24	技能・表現 F 医薬品合成、成分分析、薬理活性評価もしくは薬物治療などへの応用において必要な基礎的な技術を習得している。	58.3
		思考・判断/態度・志向性 I 次世代を担う薬学研究者の候補となりうる人材を育成する意欲と態度に基づいて活動できる。	70.8
看護学部 看護学科	76	態度・志向性 G 患者のトータルケアを行うプロフェッショナルな看護師として社会に貢献する意欲を持っている。	96.1
		態度・志向性 H 看護師として、生涯にわたって自分を高めていこうとする強い意思・意欲を持っている。	93.4

調査結果のまとめ【修得度が低いディプロマ・ポリシー(短期大学部)】

■ 短期大学部では、思考力、国際性、情報収集やコンピューター活用力に課題。

- ・ 学科内において、相対的に修得度が低いディプロマ・ポリシーに着目すると、学科固有の知識やスキルに関する項目が多いが、「思考力」に関連する項目も共通して多くあがる。また「外国語を含めた語学や国際性」に関連する力や「情報収集やコンピューター活用力」も学科を超えて共通性がみられ、大学と同様に全学をあげての一貫した教育改善が重要になると考えられる。

修得度の低いDP項目 (学科別)

※TOP2計:「とても身に付いた」+「ある程度身に付いた」の%。
 ※学科内において、TOP2が低いもの2項目(同率で複数ある場合はTOP1の数値がより低いものを抽出。
 加えてTOP2が70%未満の項目を抽出。

【短期大学部】

学部学科	調査数	項目	TOP2計
日本語文化学科	57	態度・志向性 H 広範で体系的知識と豊かな感性、倫理観に基づき、自らの役割を自覚しながら使命を全うしようとする強い意欲と意志を持っている。	77.2
		技能・表現 D 情報機器(ICT)活用技能を含む諸技能と豊かな表現力を身に付けている。	78.9
		思考・判断 F 論理的思考を身に付け、自ら課題を発見して解決に導く能力を備えている。	78.9
英語キャリア・コミュニケーション学科	72	思考・判断 J 専門知識に基づいた、クリティカルな思考力を持っている。	59.7
		知識・理解 C 国際社会・経済に関して幅広く正確な知識を持っている。	59.7
		知識・理解 D 国際人として必要なコンピューターリテラシーを持っている。	65.3
		技能・表現 F 専門分野の英語を理解し、発信することができる。	66.7
		技能・表現 G コンピューターを利用して情報を収集し、発信することができる。	69.4
幼児教育学科	68	技能・表現 D 教育・保育に関わる多様な人々とコミュニケーションをとり、連携・協働することができる。	94.1
		思考・判断 E 市民としての自覚に基づいた思考力および創造的能力を備えている。	92.6
心理・人間関係学科	42	知識・理解 C レクリエーション学に関する基礎的知識を有している。	57.1
		技能・表現 D 自らの考えを他者に伝えられるコミュニケーション能力およびプレゼンテーション能力を有している。	69.0
健康・スポーツ学科	26	態度・志向性 I 学修の価値を正しく評価し、国際的な視野に立ちながら常に向上的態度を保ち続けている。	88.5
		態度・志向性 J 高い倫理観に基づき、健康・スポーツ指導者・実践的リーダーとして、強い意欲と意志を持っている。	84.6
食生活学科	35	技能・表現 E 食品開発や食品管理などで必要となる技能・表現力を身に付けている。	65.7
		技能・表現 F ヒトと栄養との関係を研究するために必要となる技能・表現力を身に付けている。	80.0
生活造形学科	53	思考・判断 F 新たな課題に対し、論理的に考え、問題を解決する能力を身に付けている。	73.6
		技能・表現 D 生活を構成する事象を定量的・論理的に分析し、問題の解決につなげることのできる技能を有している。	81.1

【単位: %】

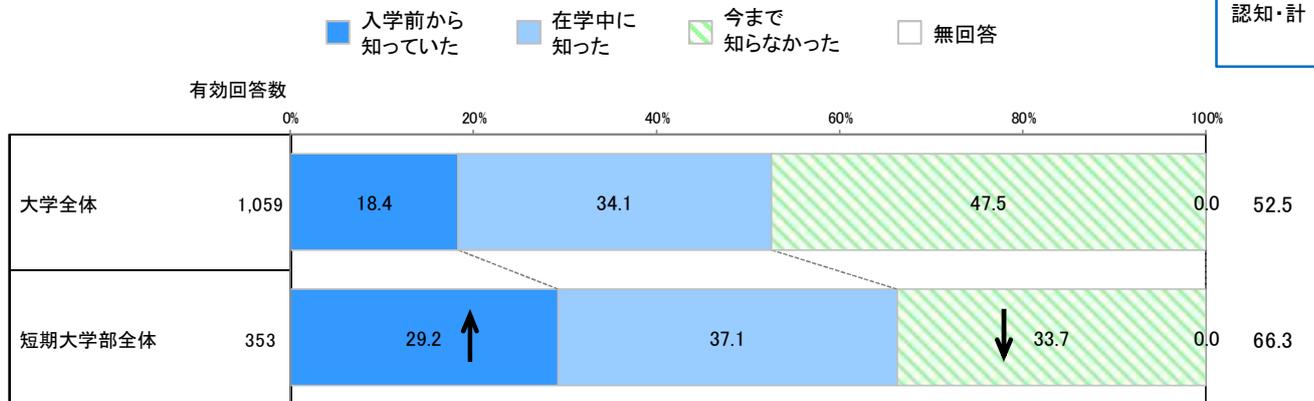
調査結果のまとめ【立学の精神認知／ディプロマ・ポリシー理解度】

■ 半数を超える学生がディプロマ・ポリシーを認知しているものの、理解している学生は少数。

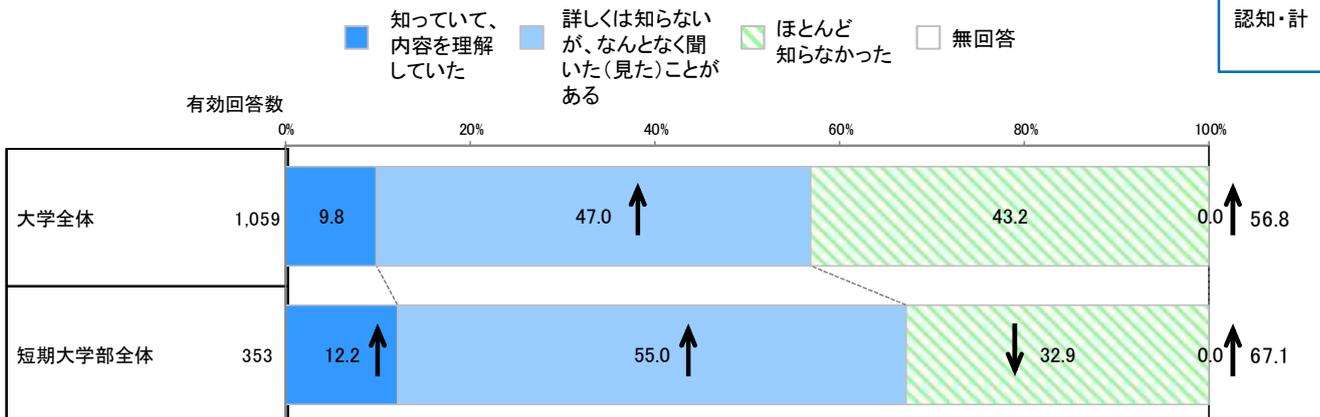
- 立学の精神で掲げる女性像やディプロマ・ポリシーは半数を超える学生が認知しており、特に大学に比べて短期大学部での認知度が高い。とはいえディプロマ・ポリシーの内容理解度をみると理解している学生は少数に留まり、前回調査に引き続き課題といえる。
- 経年で結果を確認すると、大学および短期大学部のいずれにおいても特にディプロマ・ポリシーの認知度が上昇している。第一段階として学生にディプロマ・ポリシーを認知させるという点において、貴学の取り組みの成果が表れている可能性がある。

※2018年度と比べて5pt以上差がある項目に矢印を掲載

立学の精神認知



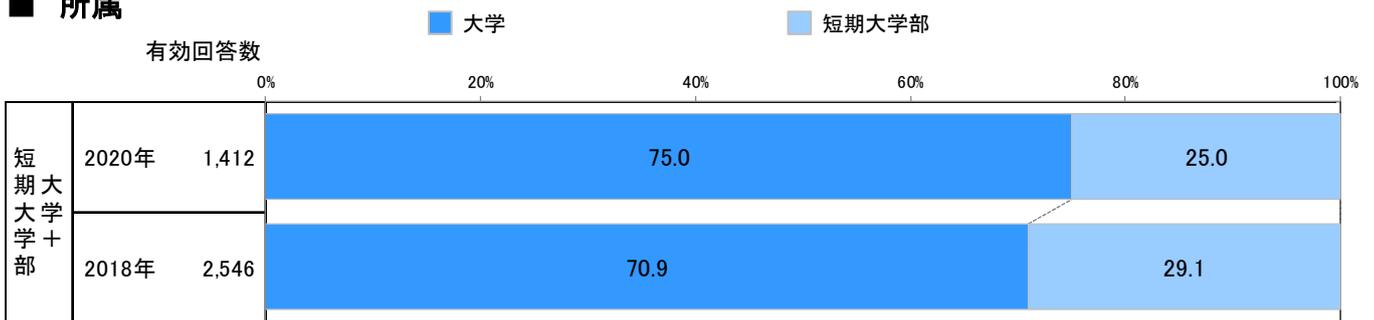
DP理解度



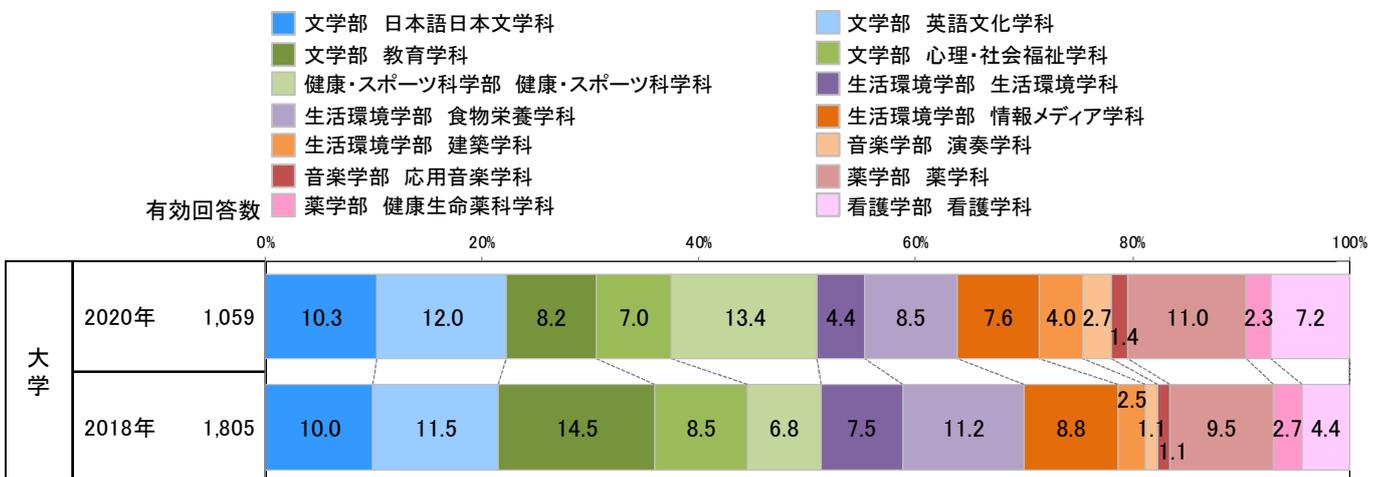
アンケート結果 詳細内容
【回答者のプロフィール】

回答者プロフィール

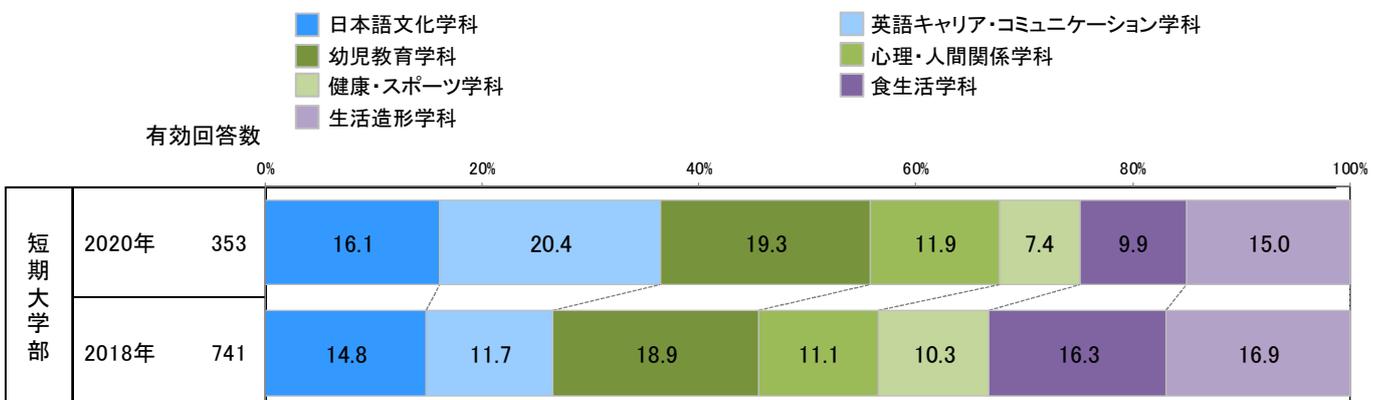
■ 所属



【大学 在籍学部・学科】



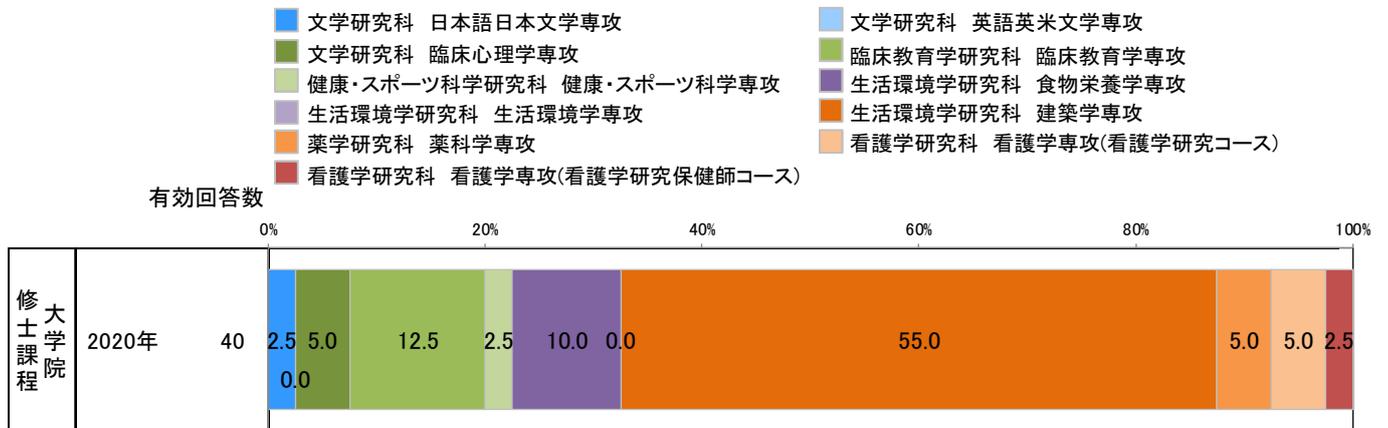
【短期大学部 在籍学科】



回答者プロフィール

■ 所属

【大学院 修士課程 在籍専攻】



【大学院 博士後期課程 在籍専攻】

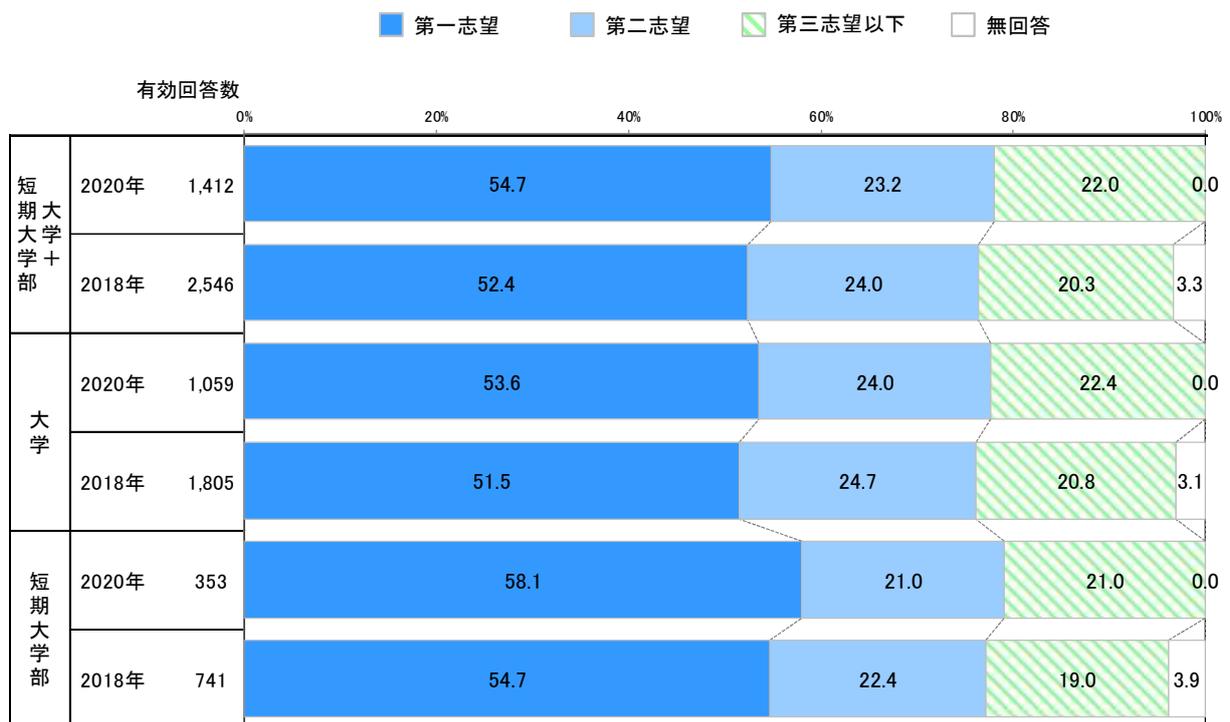
看護学研究科 看護学専攻の2020年度卒業生2名が回答

回答者プロフィール

- 2020年度の結果をみると、大学、短期大学部ともに、「第一志望」が半数以上を占める。
- 結果を経年で比較すると、短期大学部は「第一志望」の人が3.4pt上昇している。

Q1 本学はどの程度の志望順位でしたか。

■ 志望度

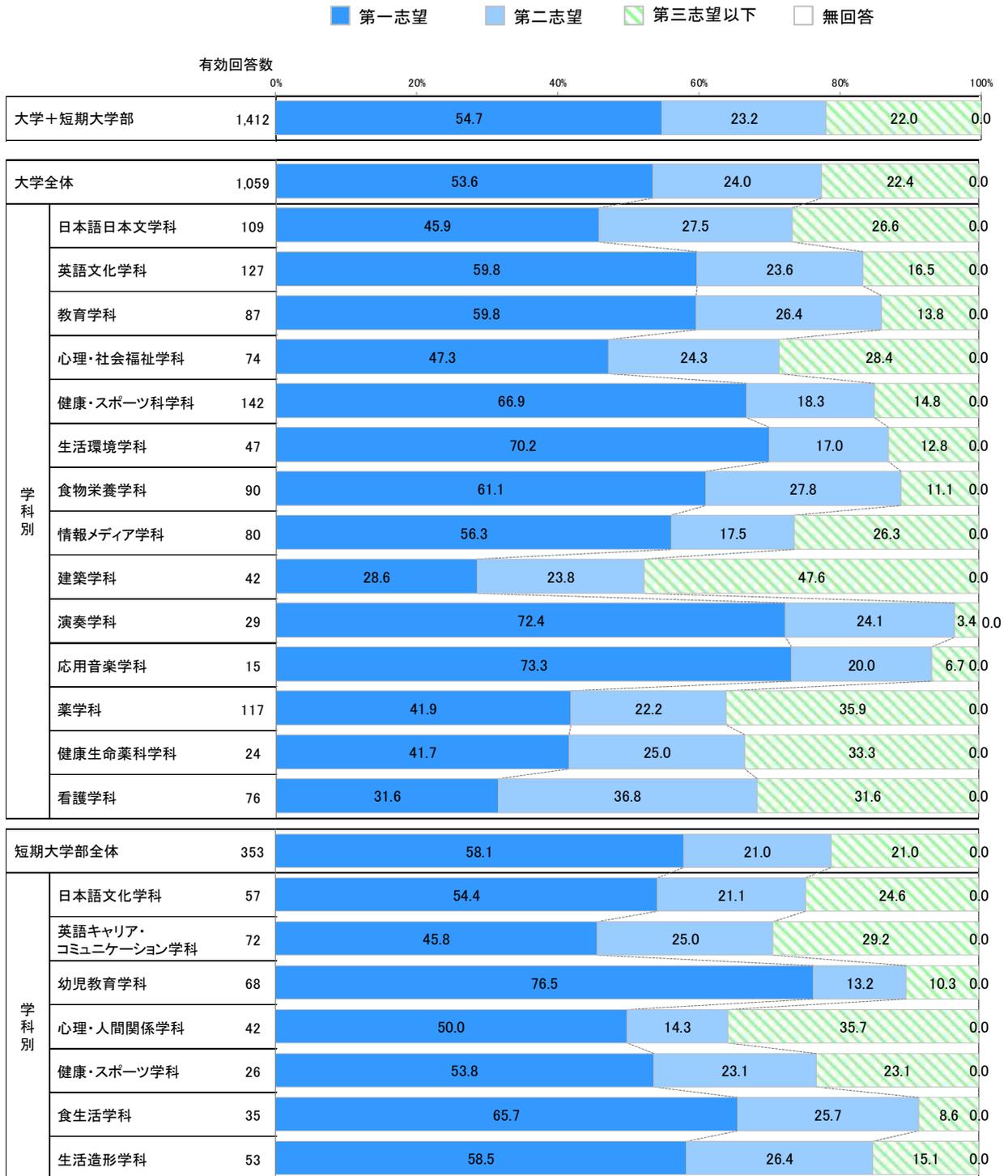


回答者プロフィール【大学・短期大学部 学科別 今年度結果】

- 大学の学科別で「第一志望」の割合が特に高いのは、健康・スポーツ科学科、生活環境学科、食物栄養学科、演奏学科、応用音楽学科で、いずれも6割を超える。
- 対して、建築学科、薬学科、健康生命薬科学科、看護学科は、「第一志望」が約3割～約4割と低い。
- 短期大学部の学科別で「第一志望」の割合が特に高いのは、短期大学部の幼児教育学科、食生活学科で、いずれも6割を超える。
- 対して、英語キャリア・コミュニケーション学科は「第一志望」が4割台後半と低い。

Q1 本学はどの程度の志望順位でしたか。

志望度

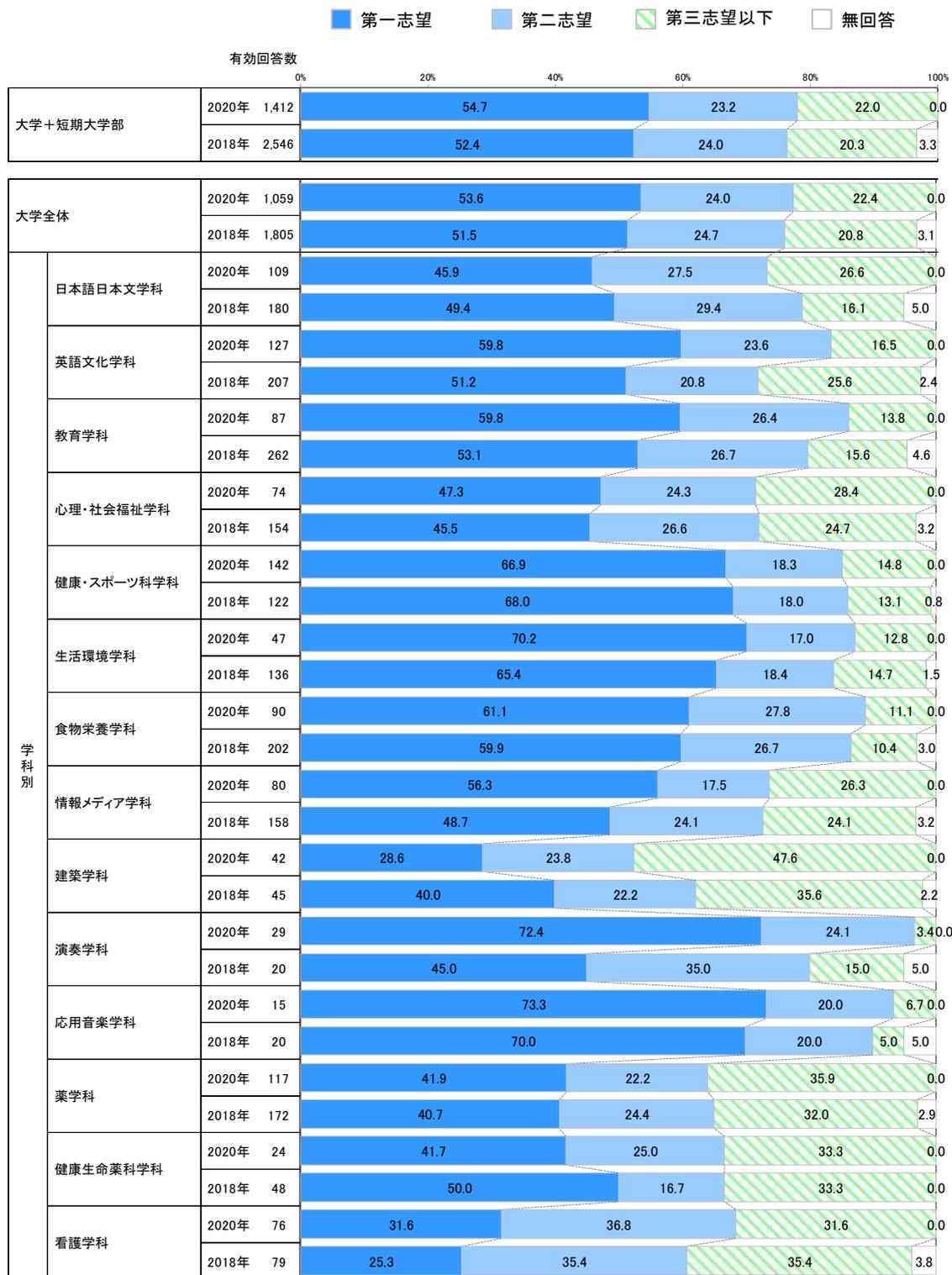


回答者プロフィール【大学 学科別 経年比較】

- 大学の結果を経年で比較すると、「第一志望」が特に高まっているのは演奏学科で、27.4ptの上昇となっている。また、英語文化学科、教育学科、情報メディア学科、看護学科でも5pt以上の上昇がみられる。
- 対して、建築学科、健康生命薬科学科は、「第一志望」が2018年度よりも8～11pt程度低下している。

Q1 本学はどの程度の志望順位でしたか。

■ 志望度

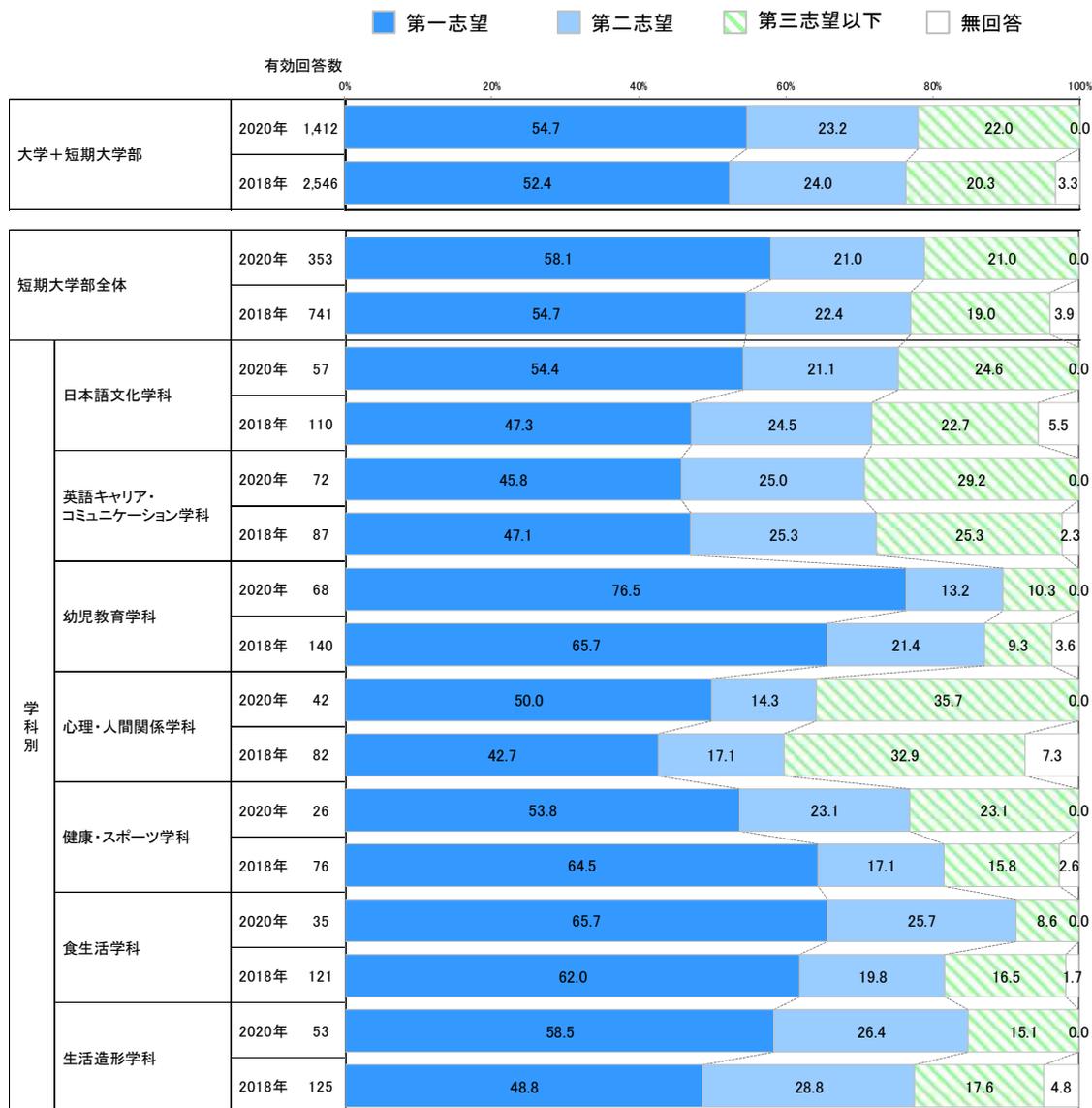


回答者プロフィール【短期大学部 学科別 経年比較】

- 短期大学部の結果を経年で比較すると、「第一志望」が高まっているのは日本語文化学科、幼児教育学科、心理・人間関係学科、生活造形学科で、いずれも7～11pt程度上昇している。
- 対して、健康・スポーツ学科は、「第一志望」が2018年度よりも10.7pt低下している。

Q1 本学はどの程度の志望順位でしたか。

■ 志望度



回答者プロフィール【大学院 専攻別 今年度結果】

■ 大学院は「第一志望」が約6割を占める。

Q1 本学はどの程度の志望順位でしたか。

■ 志望度

		有効回答数	第一志望	第二志望	第三志望以下	無回答
大学院全体		42	61.9	21.4	16.7	0.0
専攻別	大学院 修士課程・計	40	60.0	22.5	17.5	0.0
	文学研究科 日本語日本文学専攻	1	100.0	0.0	0.0	0.0
	文学研究科 英語英米文学専攻	0	0.0	0.0	0.0	0.0
	文学研究科 臨床心理学専攻	2	100.0	0.0	0.0	0.0
	臨床教育学研究科 臨床教育学専攻	5	80.0	0.0	20.0	0.0
	健康・スポーツ科学研究科 健康・スポーツ科学専攻	1	100.0	0.0	0.0	0.0
	生活環境学研究科 食物栄養学専攻	4	100.0	0.0	0.0	0.0
	生活環境学研究科 生活環境学専攻	0	0.0	0.0	0.0	0.0
	生活環境学研究科 建築学専攻	22	45.5	31.8	22.7	0.0
	薬学研究科 薬科学専攻	2	0.0	50.0	50.0	0.0
	看護学研究科 看護学専攻(看護学研究コース)	2	100.0	0.0	0.0	0.0
	看護学研究科 看護学専攻(看護学研究保健師コース)	1	0.0	100.0	0.0	0.0
	大学院 博士後期課程・計	2	100.0	0.0	0.0	0.0
	文学研究科 英語英米文学専攻	0	0.0	0.0	0.0	0.0
	臨床教育学研究科 臨床教育学専攻	0	0.0	0.0	0.0	0.0
	生活環境学研究科 食物栄養学専攻	0	0.0	0.0	0.0	0.0
	生活環境学研究科 生活環境学専攻	0	0.0	0.0	0.0	0.0
	薬学研究科 薬学専攻	0	0.0	0.0	0.0	0.0
	看護学研究科 看護学専攻	2	100.0	0.0	0.0	0.0

【単位：%】

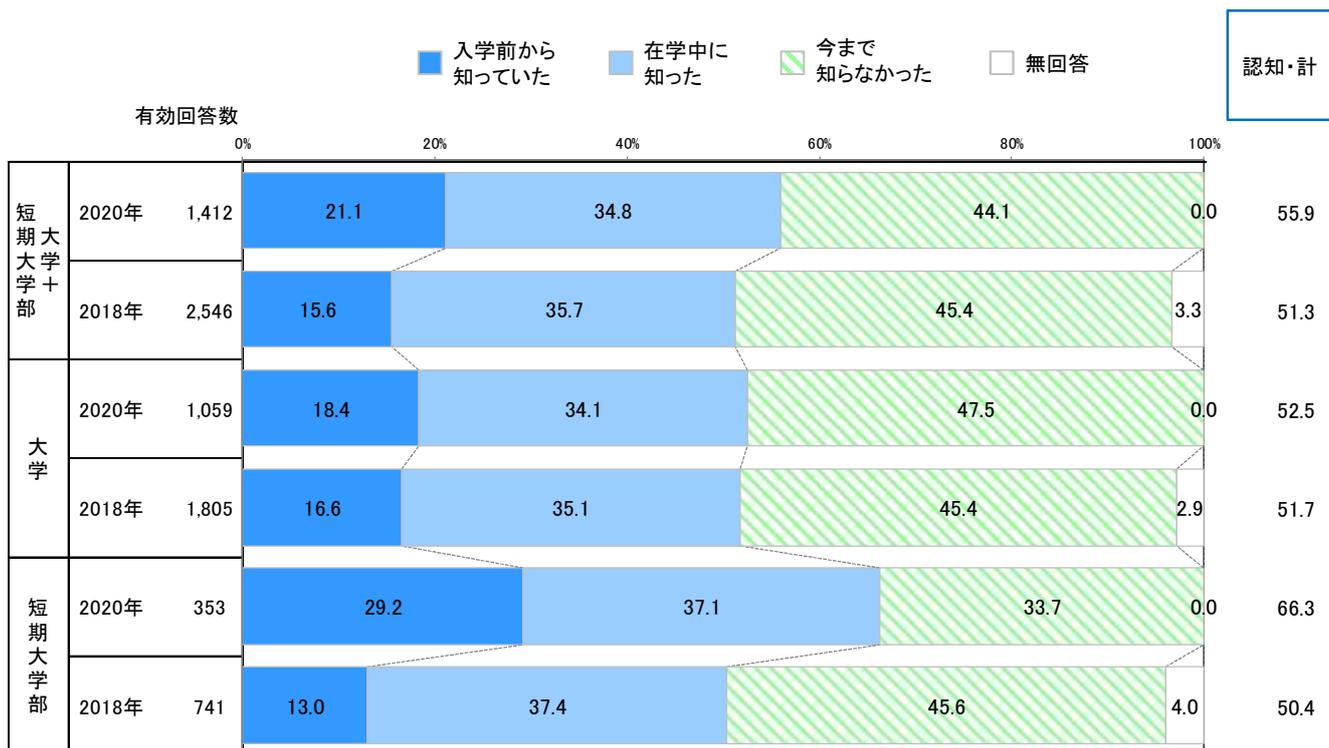
※大学院については回収サンプル数が少ないため、参考値として数表で結果を掲載

アンケート結果 詳細内容
【立学の精神、ディプロマ・ポリシーの浸透度】

「立学の精神」の浸透度【大学・短期大学部 学校区分別 経年比較】

- 2020年度の結果をみると、「立学の精神」を「入学前から知っていた」「在学中に知った」を合わせた卒業時点での認知・計は、大学では5割前半にとどまり、短期大学部でも7割弱の認知率。
- 結果を経年で比較すると、短期大学部では「立学の精神」を入学前から知っていた人が16.2pt上昇している。

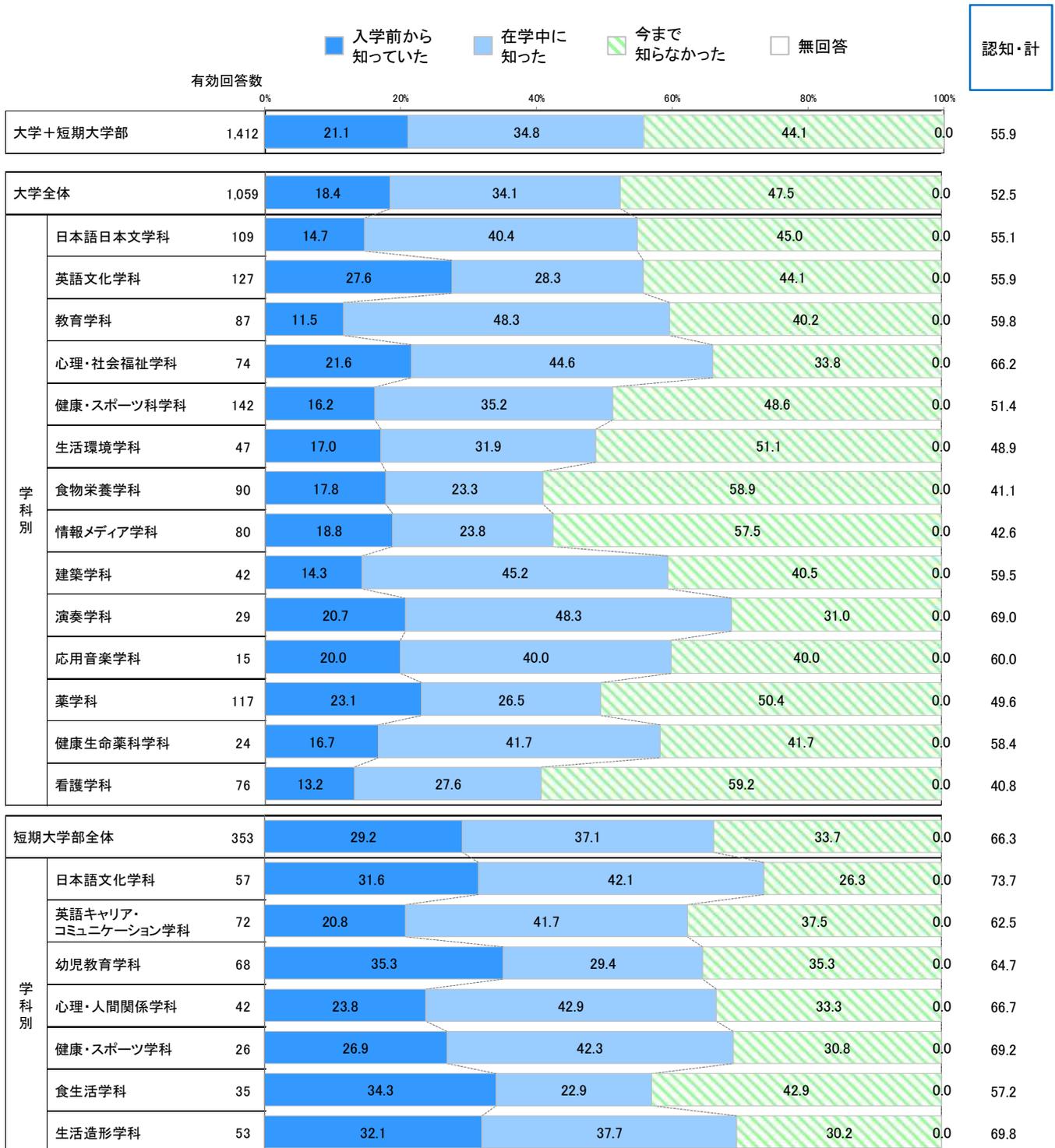
Q2 本学では、立学の精神の中で、「高い知性」、「善美な情操」、「高雅な徳性」を兼ね備えた有為な女性を育成することを掲げています。あなたは、このことを知っていましたか。



「立学の精神」の浸透度【大学・短期大学部 学科別 今年度結果】

- 大学の学科別で、「立学の精神」を「入学前から知っていた」「在学中に知った」を合わせた卒業時点での認知・計が最も高いのは演奏学科であり、約7割の学生が「立学の精神」を認知している。
- 対して、食物栄養学科、情報メディア学科、看護学科は卒業時点での「立学の精神」の認知・計が約4割と低い。
- 短期大学部の学科別で認知・計が最も高いのは日本語文化学科であり、7割強の学生が「立学の精神」を認知している。
- 対して、食生活学科は、認知・計が約6割と低い。

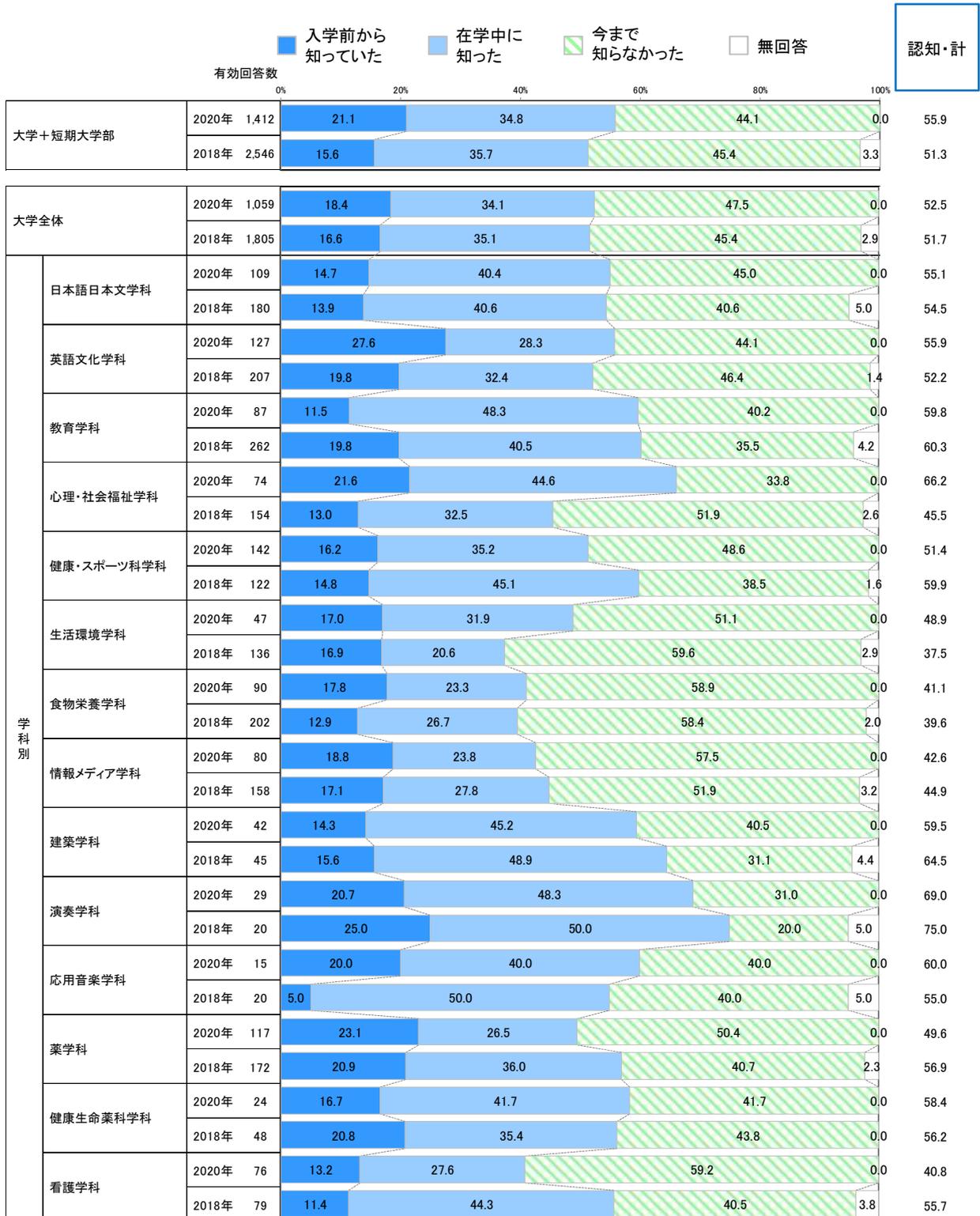
Q2 本学では、立学の精神の中で、「高い知性」、「善美な情操」、「高雅な徳性」を兼ね備えた有為な女性を育成することを掲げています。あなたは、このことを知っていましたか。



「立学の精神」の浸透度【大学 学科別 経年比較】

- 大学の結果を経年で比較すると、「立学の精神」を「入学前から知っていた」「在学中に知った」を合わせた卒業時点での認知・計が特に高まっているのは、心理・社会福祉学科で20.7pt上昇している。また、生活環境学科でも11.4ptの上昇がみられる。
- 対して、健康・スポーツ科学科、薬学科、看護学科は、認知・計が2018年度よりも7～15pt程度低下している。

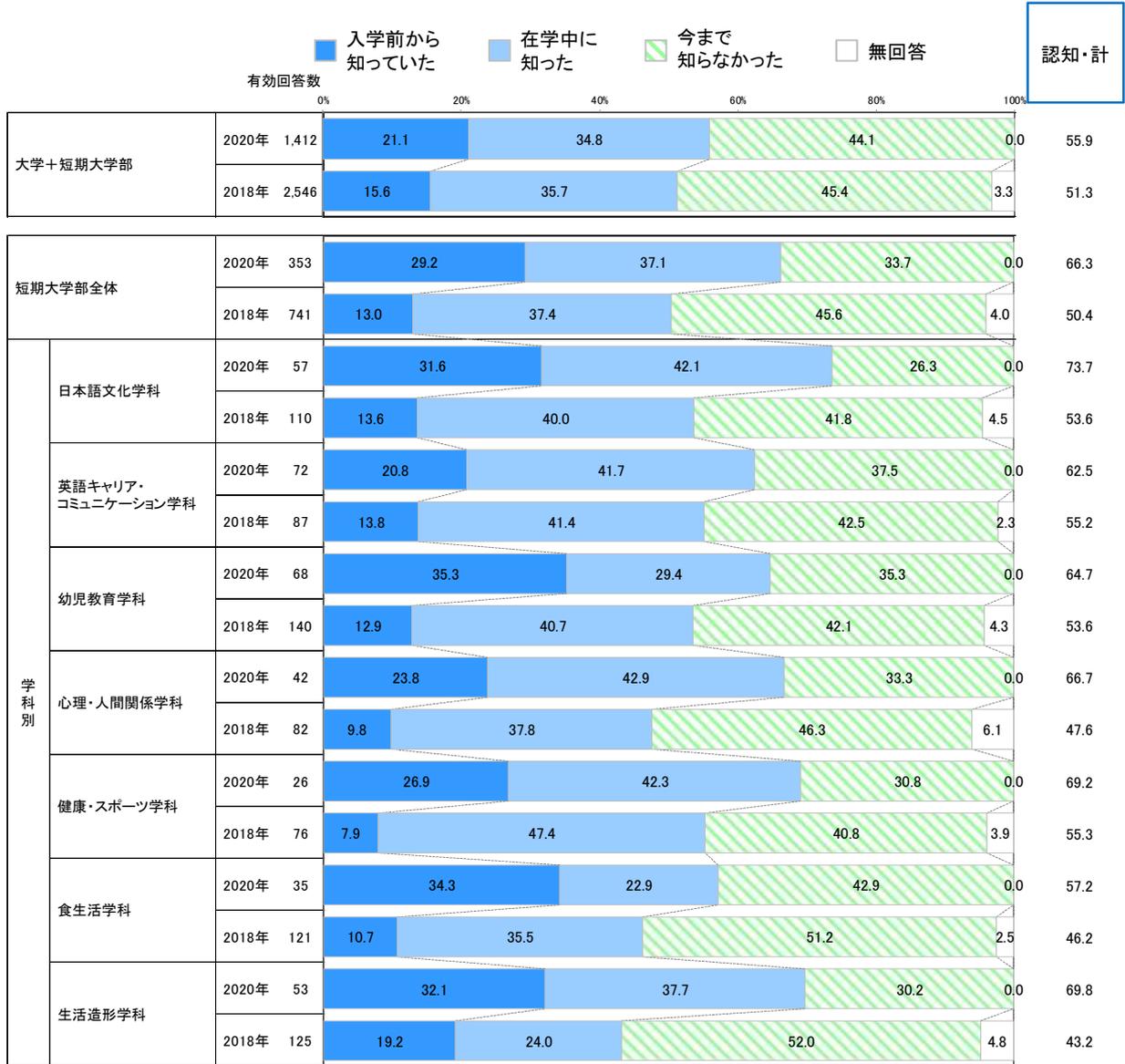
Q2 本学では、立学の精神の中で、「高い知性」、「善美な情操」、「高雅な徳性」を兼ね備えた有為な女性を育成することを掲げています。あなたは、このことを知っていましたか。



「立学の精神」の浸透度【短期大学部 学科別 経年比較】

- 短期大学部の結果を経年で比較すると、「立学の精神」を「入学前から知っていた」「在学中に知った」を合わせた卒業時点での認知・計が特に高まっているのは、日本語文化学科、心理・人間関係学科、生活造形学科で、いずれも19～27pt程度上昇している。
- 2018年度よりも認知が低下している学科はみられない。

Q2 本学では、立学の精神の中で、「高い知性」、「善美な情操」、「高雅な徳性」を兼ね備えた有為な女性を育成する」ことを掲げています。あなたは、このことを知っていましたか。



「立学の精神」の浸透度【大学院 専攻別 今年度結果】

- 大学院における「立学の精神」を「入学前から知っていた」「在学中に知った」を合わせた卒業時点での認知・計は、約6割。

Q2 本学では、立学の精神の中で、「高い知性」、「善美な情操」、「高雅な徳性」を兼ね備えた有為な女性を育成することを掲げています。あなたは、このことを知っていましたか。

		有効回答数	入学前から知っていた	在学中に知った	今まで知らなかった	無回答	認知・計
大学院全体		42	11.9	50.0	38.1	0.0	61.9
専攻別	大学院 修士課程・計	40	10.0	52.5	37.5	0.0	62.5
	文学研究科 日本語日本文学専攻	1	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0
	文学研究科 英語英米文学専攻	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	文学研究科 臨床心理学専攻	2	0.0	50.0	50.0	0.0	50.0
	臨床教育学研究科 臨床教育学専攻	5	20.0	40.0	40.0	0.0	60.0
	健康・スポーツ科学研究科 健康・スポーツ科学専攻	1	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0
	生活環境学研究科 食物栄養学専攻	4	25.0	25.0	50.0	0.0	50.0
	生活環境学研究科 生活環境学専攻	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	生活環境学研究科 建築学専攻	22	9.1	45.5	45.5	0.0	54.6
	薬学研究科 薬科学専攻	2	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0
	看護学研究科 看護学専攻(看護学研究コース)	2	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0
	看護学研究科 看護学専攻(看護学研究保健師コース)	1	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0
	大学院 博士後期課程・計	2	50.0	0.0	50.0	0.0	50.0
	文学研究科 英語英米文学専攻	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	臨床教育学研究科 臨床教育学専攻	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	生活環境学研究科 食物栄養学専攻	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
生活環境学研究科 生活環境学専攻	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
薬学研究科 薬学専攻	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
看護学研究科 看護学専攻	2	50.0	0.0	50.0	0.0	50.0	

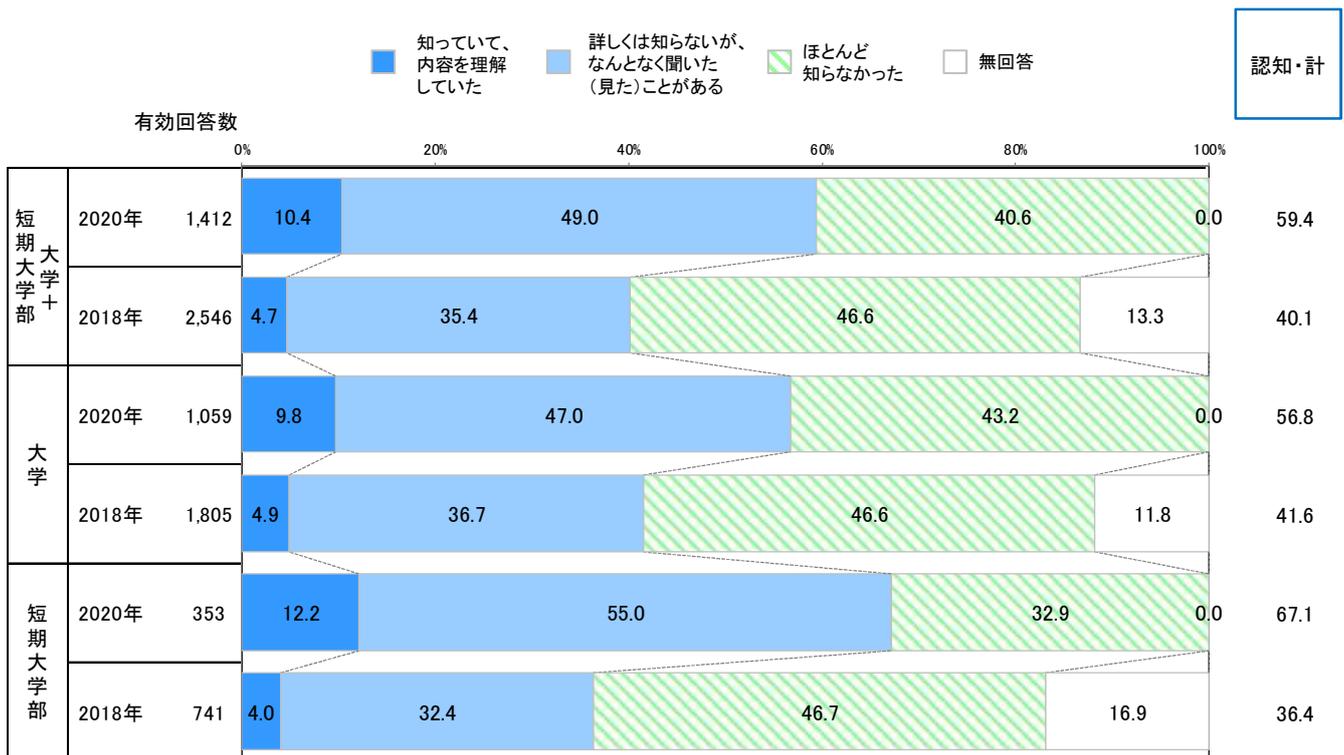
【単位：%】

※大学院については回収サンプル数が少ないため、参考値として数表で結果を掲載

ディプロマ・ポリシーの浸透度【大学・短期大学部 学校区分別 経年比較】

- 2020年度の結果をみると、大学の「知っていて、内容を理解していた」「詳しくは知らないが、なんとなく聞いた(見た)ことがある」を合わせた認知・計は6割弱、短期大学部では約7割。しかし、大学、短期大学部ともに、「詳しくは知らないが、なんとなく聞いた(見た)ことがある」が5割前後を占めており、「知っていて、内容を理解していた」学生は約1割にとどまる。
- 結果を経年で比較すると、認知・計が大学で15.2pt、短期大学部では30.7pt上昇している。

Q4 本学では、学科ごとに卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)を設定しています。
あなたは、別紙にある所属学科のディプロマ・ポリシーの内容を知っていましたか。

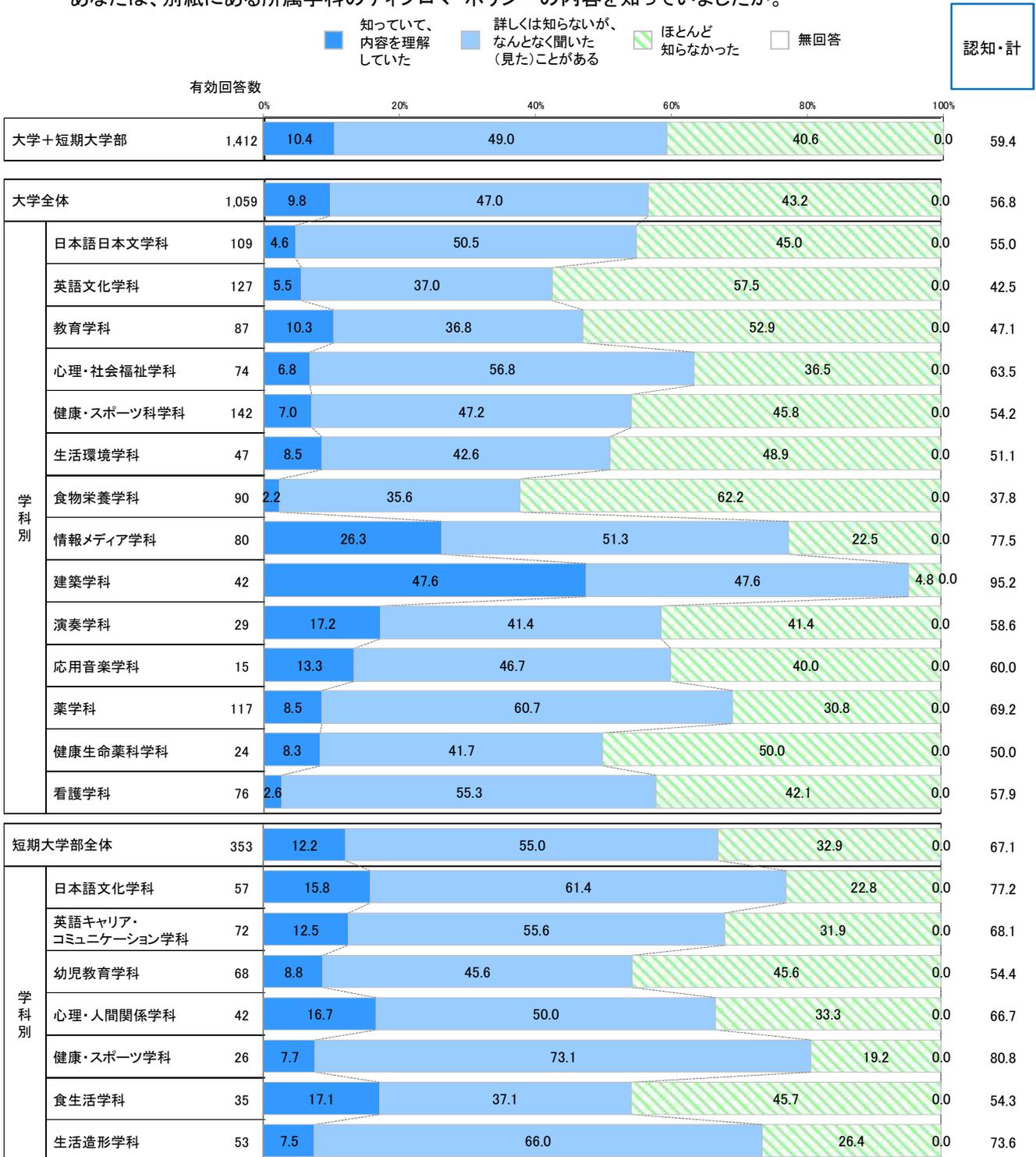


ディプロマ・ポリシーの浸透度【大学・短期大学部 学科別 今年度結果】

- 大学の学科別で「知っていて、内容を理解していた」「詳しくは知らないが、なんとなく聞いた(見た)ことがある」を合わせた認知・計が最も高いのは建築学科であり、95.2%の学生が「ディプロマ・ポリシー」を認知している。
- 対して、英語文化学科、教育学科、食物栄養学科は、認知・計が半数に満たない。
- 短期大学部の学科別で認知・計が最も高いのは健康・スポーツ学科であり、約8割の学生が「ディプロマ・ポリシー」を認知している。
- 対して、幼児教育学科、食生活学科は、認知・計が5割半ばと低い。

Q4 本学では、学科ごとに卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)を設定しています。

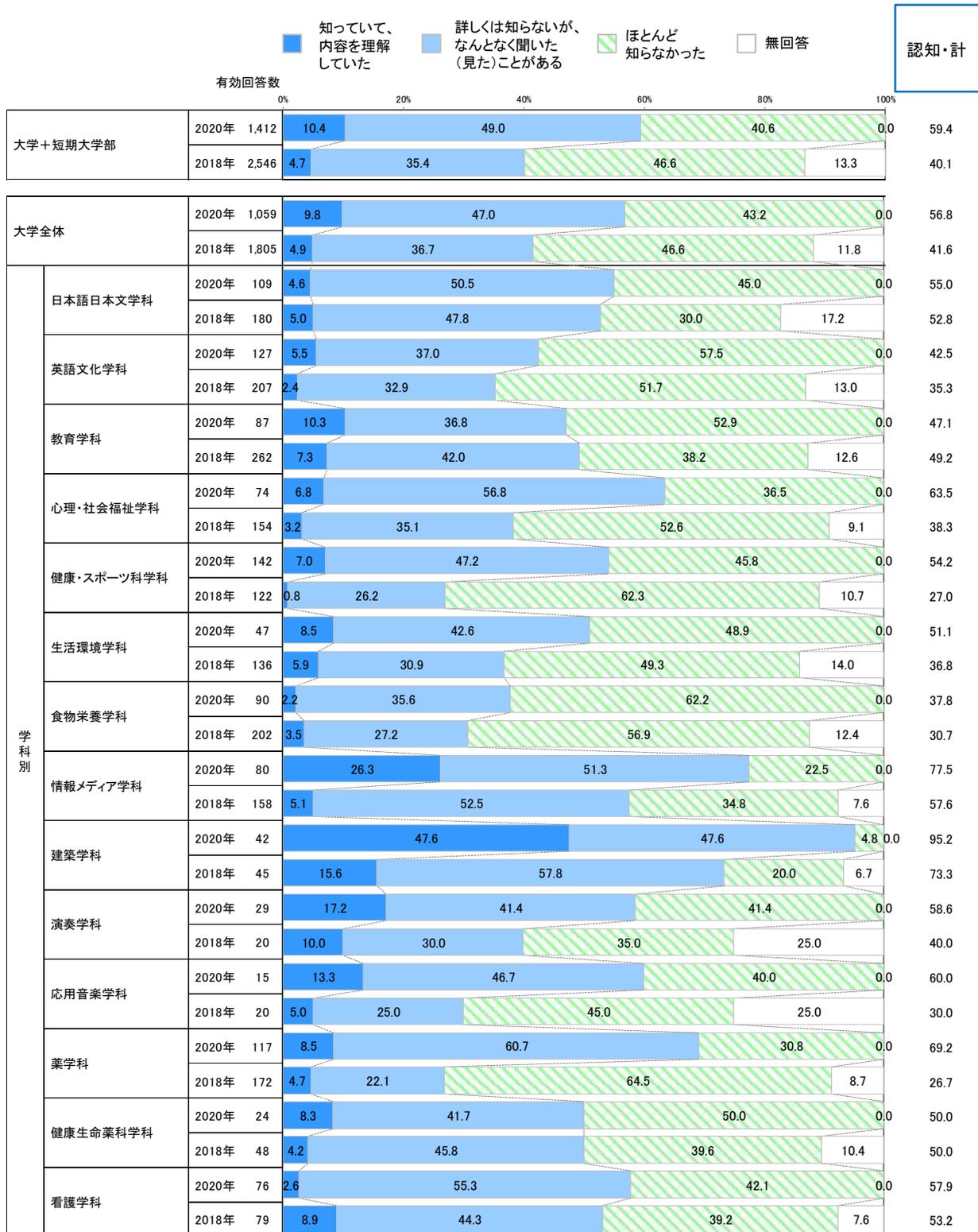
あなたは、別紙にある所属学科のディプロマ・ポリシーの内容を知っていましたか。



ディプロマ・ポリシーの浸透度【大学 学科別 経年比較】

- 大学の結果を経年で比較すると、「知っていて、内容を理解していた」「詳しくは知らないが、なんとなく聞いた(見た)ことがある」を合わせた卒業時点での認知・計が特に高まっているのは薬学科で、42.5pt上昇している。また、心理・社会福祉学科、健康・スポーツ科学科、応用音楽学科でも25～30pt程度の上昇がみられる。
- 認知・計が低下している学科は教育学科のみだが、2.1ptの低下に留まっている。

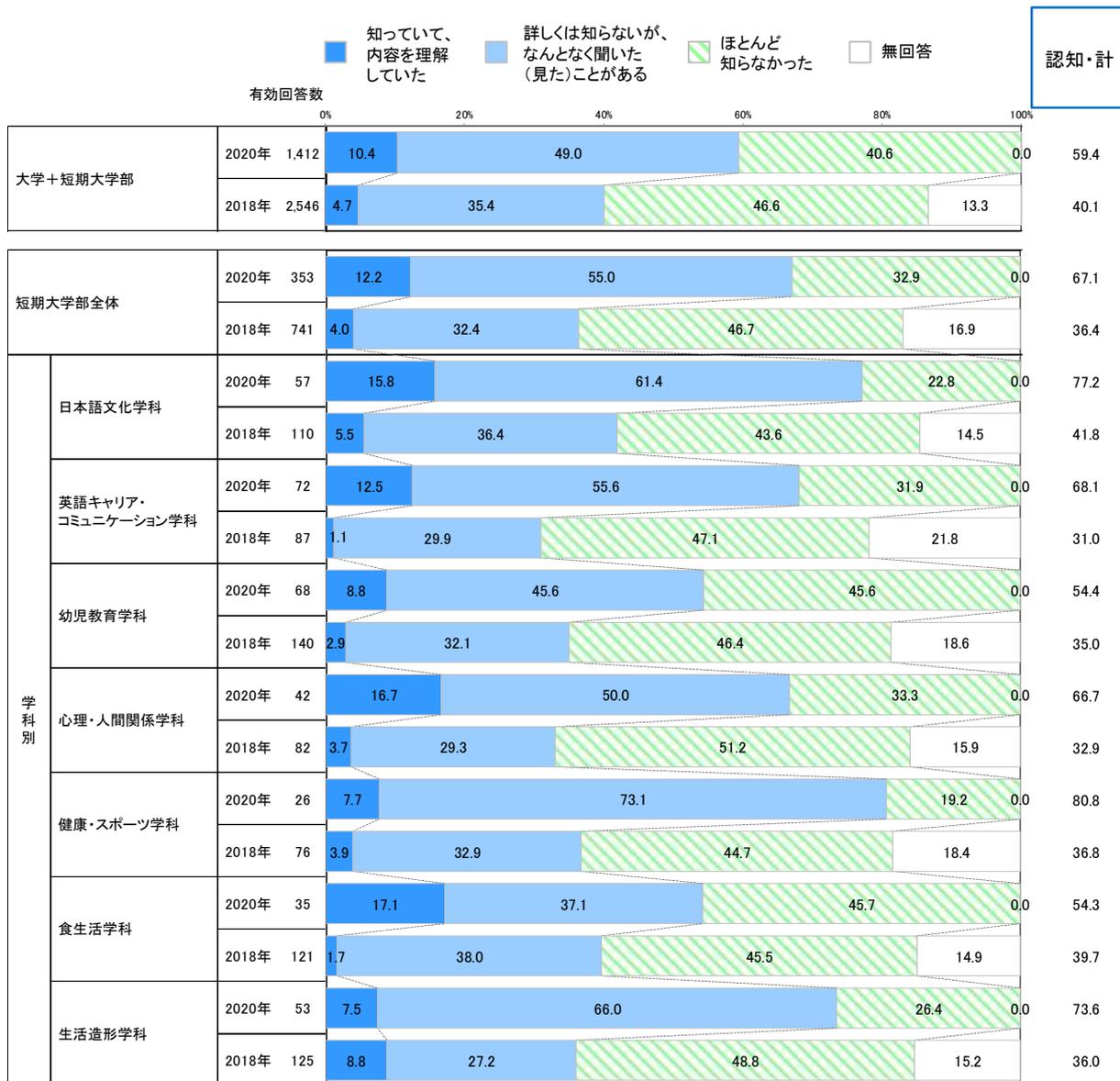
Q4 本学では、学科ごとに卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)を設定しています。
あなたは、別紙にある所属学科のディプロマ・ポリシーの内容を知っていましたか。



ディプロマ・ポリシーの浸透度【短期大学部 学科別 経年比較】

- 短期大学部の結果を経年で比較すると、「知っていて、内容を理解していた」「詳しくは知らないが、なんとなく聞いた(見た)ことがある」を合わせた卒業時点での認知・計が最も高まっているのは健康・スポーツ学科で、44.0pt上昇している。また、英語キャリア・コミュニケーション学科、生活造形学科でも37pt以上の上昇がみられる。
- 2018年度よりも認知が低下している学科はみられない。

Q4 本学では、学科ごとに卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)を設定しています。
あなたは、別紙にある所属学科のディプロマ・ポリシーの内容を知っていましたか。



ディプロマ・ポリシーの浸透度【大学院 専攻別 今年度結果】

- 大学院では「知っていて、内容を理解していた」「詳しくは知らないが、なんとなく聞いた(見た)ことがある」を合わせた卒業時点での認知・計が約9割を占める。

Q4 本学では、学科ごとに卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)を設定しています。
あなたは、別紙にある所属学科のディプロマ・ポリシーの内容を知っていましたか。

	有効回答数	知っていて、内容を理解していた	(なんとなく聞いた)詳しくは知らないが、聞いたことがある	ほとんど知らなかった	無回答	認知・計	
大学院全体	42	38.1	54.8	7.1	0.0	92.9	
専攻別	大学院 修士課程・計	40	35.0	57.5	7.5	0.0	92.5
	文学研究科 日本語日本文学専攻	1	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0
	文学研究科 英語英米文学専攻	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	文学研究科 臨床心理学専攻	2	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0
	臨床教育学研究科 臨床教育学専攻	5	20.0	60.0	20.0	0.0	80.0
	健康・スポーツ科学研究科 健康・スポーツ科学専攻	1	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0
	生活環境学研究科 食物栄養学専攻	4	0.0	75.0	25.0	0.0	75.0
	生活環境学研究科 生活環境学専攻	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	生活環境学研究科 建築学専攻	22	50.0	45.5	4.5	0.0	95.5
	薬学研究科 薬科学専攻	2	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0
	看護学研究科 看護学専攻(看護学研究コース)	2	50.0	50.0	0.0	0.0	100.0
	看護学研究科 看護学専攻(看護学研究保健師コース)	1	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	大学院 博士後期課程・計	2	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	文学研究科 英語英米文学専攻	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	臨床教育学研究科 臨床教育学専攻	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	生活環境学研究科 食物栄養学専攻	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	生活環境学研究科 生活環境学専攻	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
薬学研究科 薬学専攻	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
看護学研究科 看護学専攻	2	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	

【単位：％】

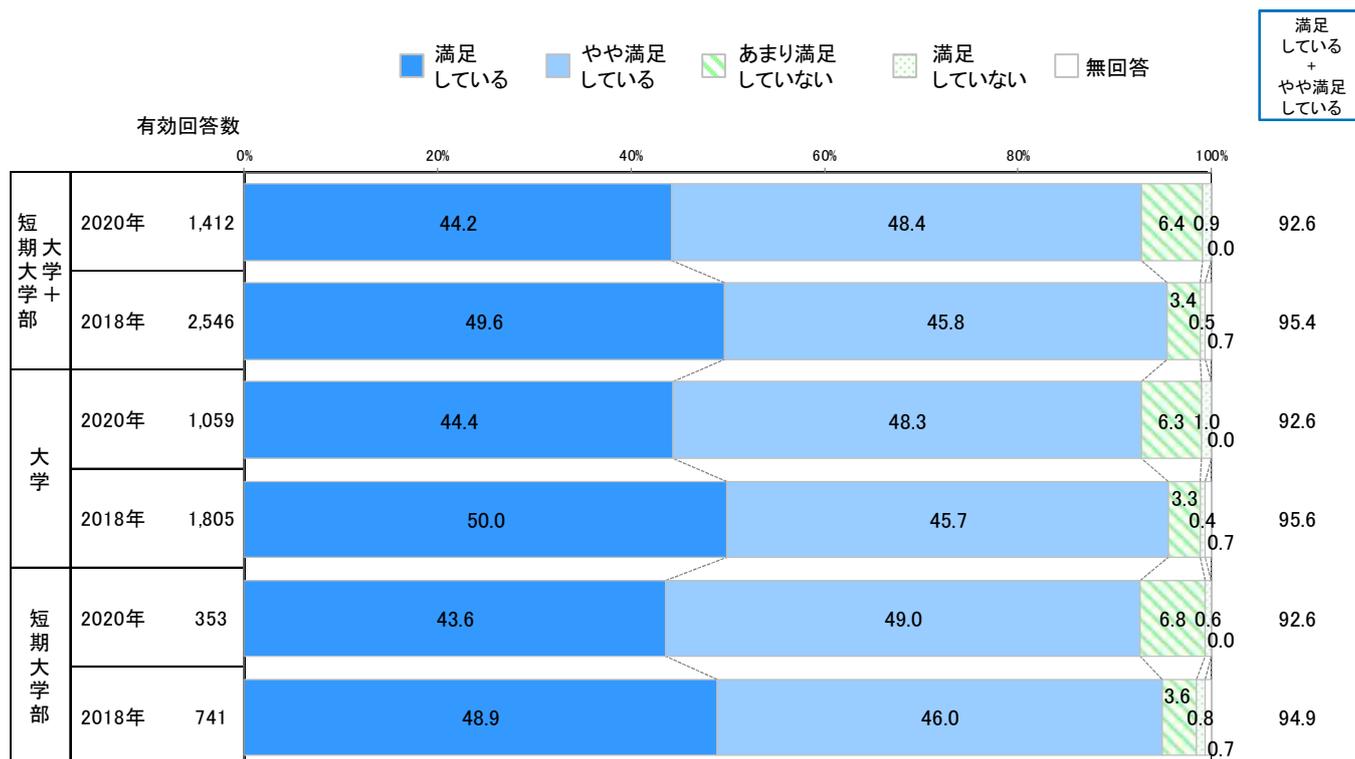
※大学院については回収サンプル数が少ないため、参考値として数表で結果を掲載

アンケート結果 詳細内容
【満足度】

教育内容の満足度【大学・短期大学部 学校区分別 経年比較】

- 2020年度の結果をみると、大学、短期大学部ともに、「満足している」「やや満足している」を合わせた教育満足度が92.6%と高い。
- いずれも「満足している」に絞ると4割強である。
- 結果を経年で比較すると、大学の教育満足度は3.0pt低下している。短期大学部はほぼ同程度。

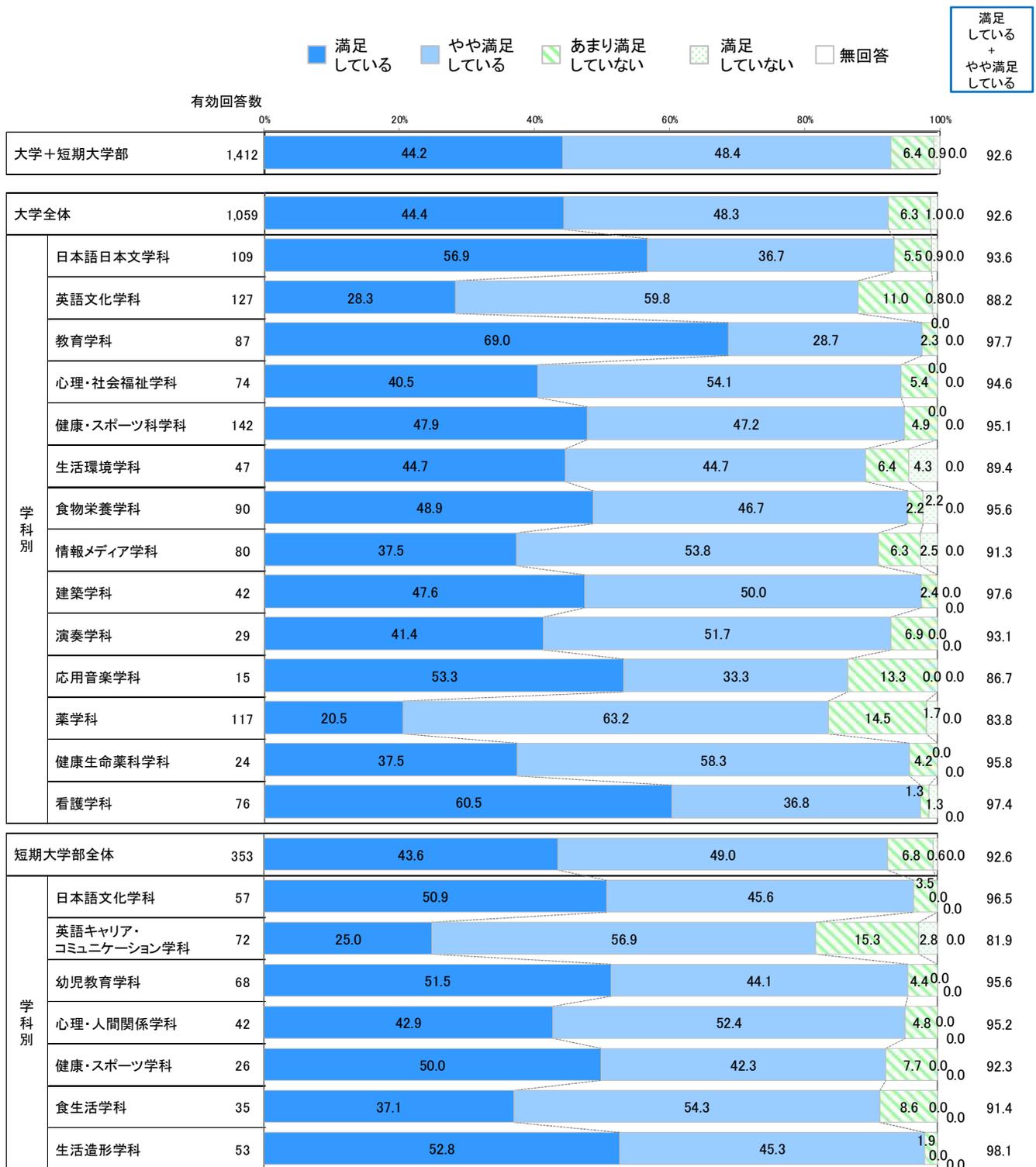
Q7 総合的にみて、あなたは本学の教育内容に満足していますか。



教育内容の満足度【大学・短期大学部 学科別 今年度結果】

- 大学の学科別で「満足している」「やや満足している」を合わせた教育満足度が特に高いのは、教育学科、建築学科、看護学科で、いずれも9割台後半と非常に高い。
- 対して、英語文化学科、生活環境学科、応用音楽学科、薬学科は、いずれも教育満足度が9割に満たない。
- 短期大学部の学科別で教育満足度が特に高いのは、日本語文化学科、生活造形学科で、いずれも96%を超える。
- 対して、英語キャリア・コミュニケーション学科は、教育満足度が約8割と低い。

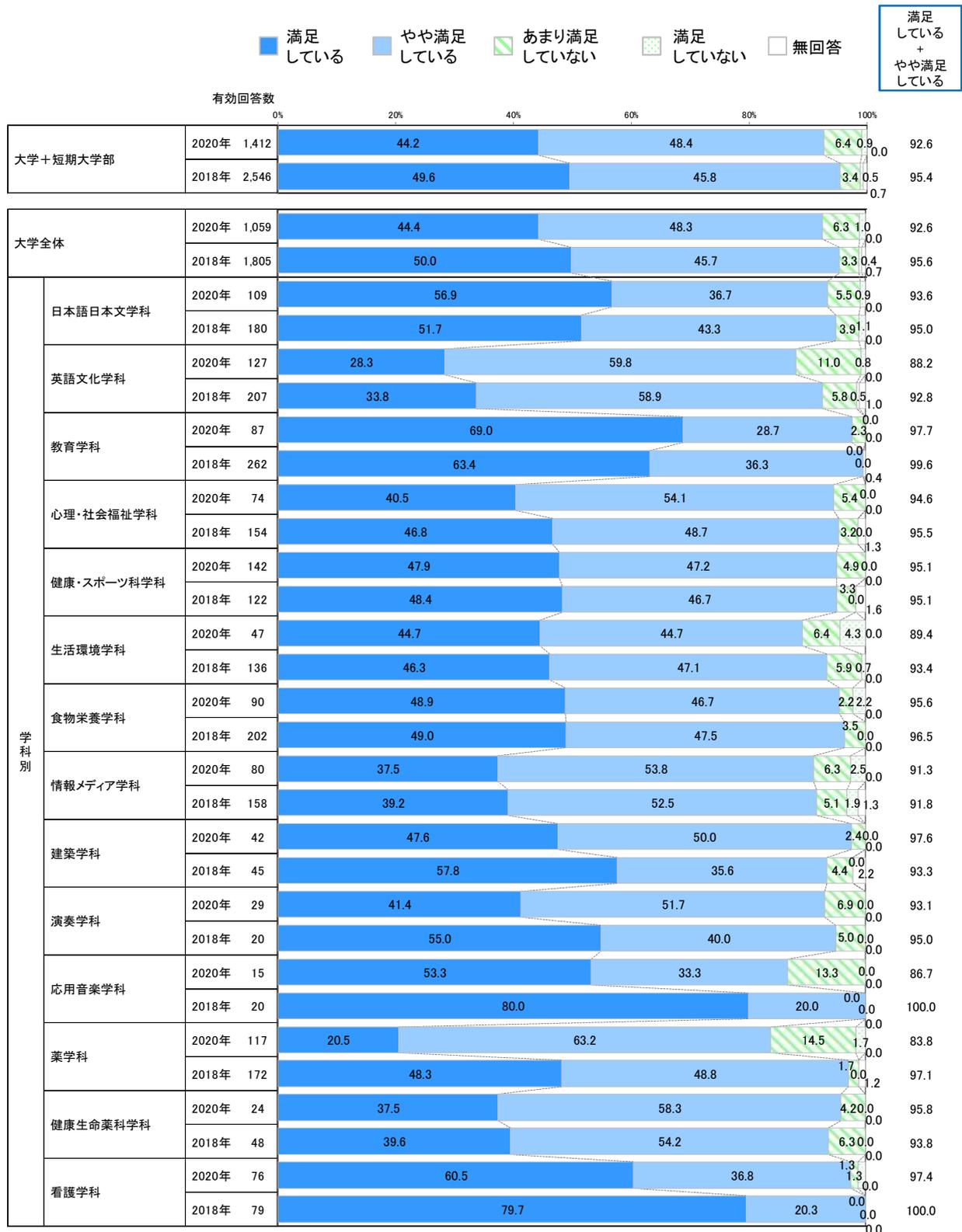
Q7 総合的にみて、あなたは本学の教育内容に満足していますか。



教育内容の満足度【大学 学科別 経年比較】

- 大学の結果を経年で比較すると、「満足している」「やや満足している」を合わせた教育満足度が最も高まっているのは建築学科で、4.3pt上昇している。
- 「満足している」に絞ると、日本語日本文学科、教育学科は、教育満足度が5pt以上上昇している。
- 対して、教育満足度が特に低下している学科は応用音楽学科、薬学科で、いずれも2018年度より13.3pt低下している。

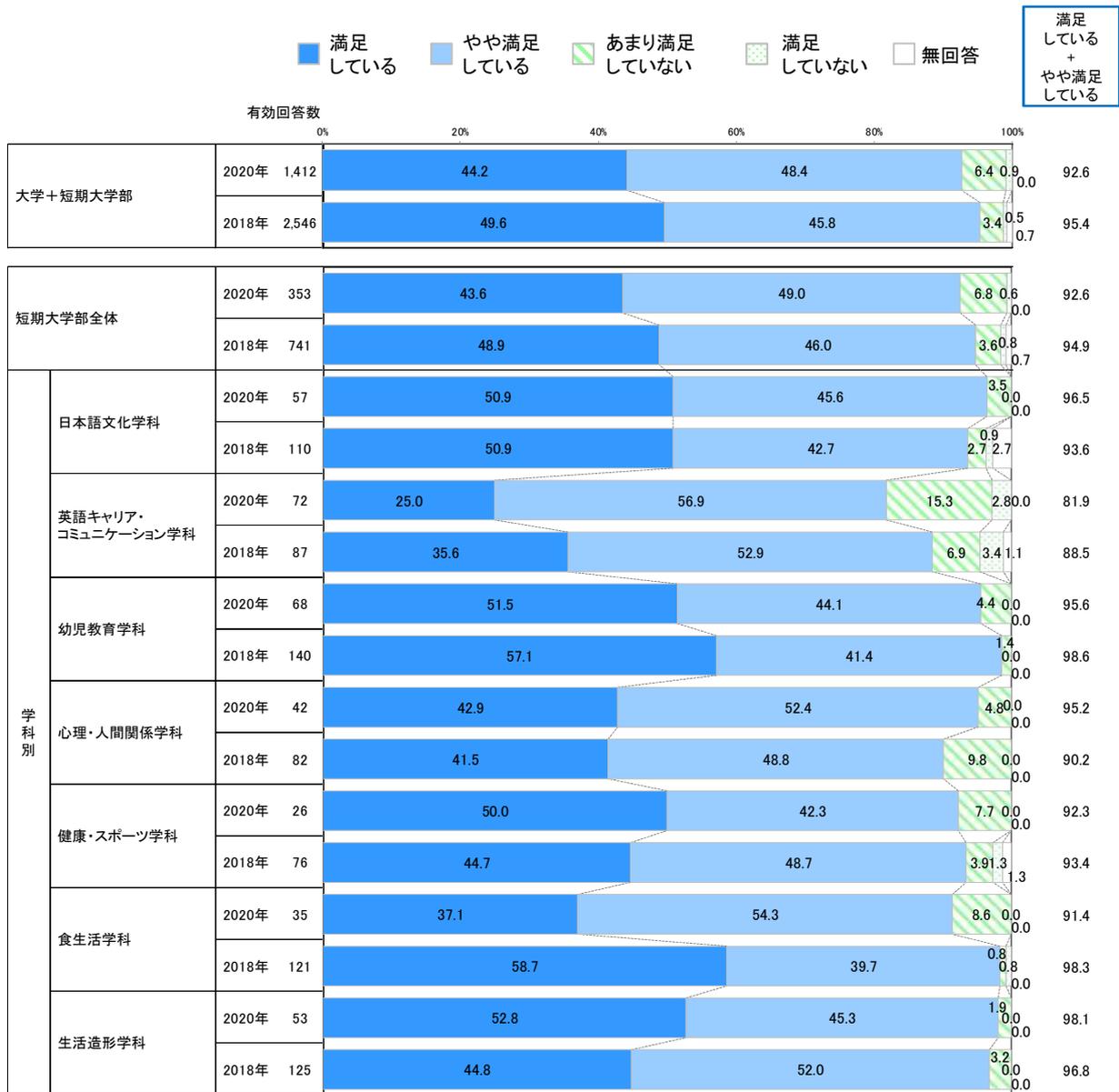
Q7 総合的にみて、あなたは本学の教育内容に満足していますか。



教育内容の満足度【短期大学部 学科別 経年比較】

- 短期大学部の結果を経年で比較すると、「満足している」「やや満足している」を合わせた教育満足度が最も高まっているのは心理・人間関係学科で、5.0pt上昇している。
- 対して、英語キャリア・コミュニケーション学科、食生活学科は、教育満足度が2018年度よりも7pt程度低下している。

Q7 総合的にみて、あなたは本学の教育内容に満足していますか。



教育内容の満足度【大学院 専攻別 今年度結果】

- 大学院は、「満足している」「やや満足している」を合わせた教育満足度が9割台後半と非常に高い。
- 「満足している」学生も7割弱と高い。

Q7 総合的にみて、あなたは本学の教育内容に満足していますか。

		有効回答数	満足している	やや満足している	あまり満足していない	満足していない	無回答	やや満足している 満足している +
大学院全体		42	66.7	31.0	0.0	2.4	0.0	97.6
専攻別	大学院 修士課程・計	40	65.0	32.5	0.0	2.5	0.0	97.5
	文学研究科 日本語日本文学専攻	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	文学研究科 英語英米文学専攻	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	文学研究科 臨床心理学専攻	2	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	臨床教育学研究科 臨床教育学専攻	5	60.0	20.0	0.0	20.0	0.0	80.0
	健康・スポーツ科学研究科 健康・スポーツ科学専攻	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	生活環境学研究科 食物栄養学専攻	4	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	生活環境学研究科 生活環境学専攻	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	生活環境学研究科 建築学専攻	22	72.7	27.3	0.0	0.0	0.0	100.0
	薬学研究科 薬科学専攻	2	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	看護学研究科 看護学専攻(看護学研究コース)	2	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	看護学研究科 看護学専攻(看護学研究保健師コース)	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	大学院 博士後期課程・計	2	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	文学研究科 英語英米文学専攻	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	臨床教育学研究科 臨床教育学専攻	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	生活環境学研究科 食物栄養学専攻	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
生活環境学研究科 生活環境学専攻	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
薬学研究科 薬学専攻	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
看護学研究科 看護学専攻	2	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	

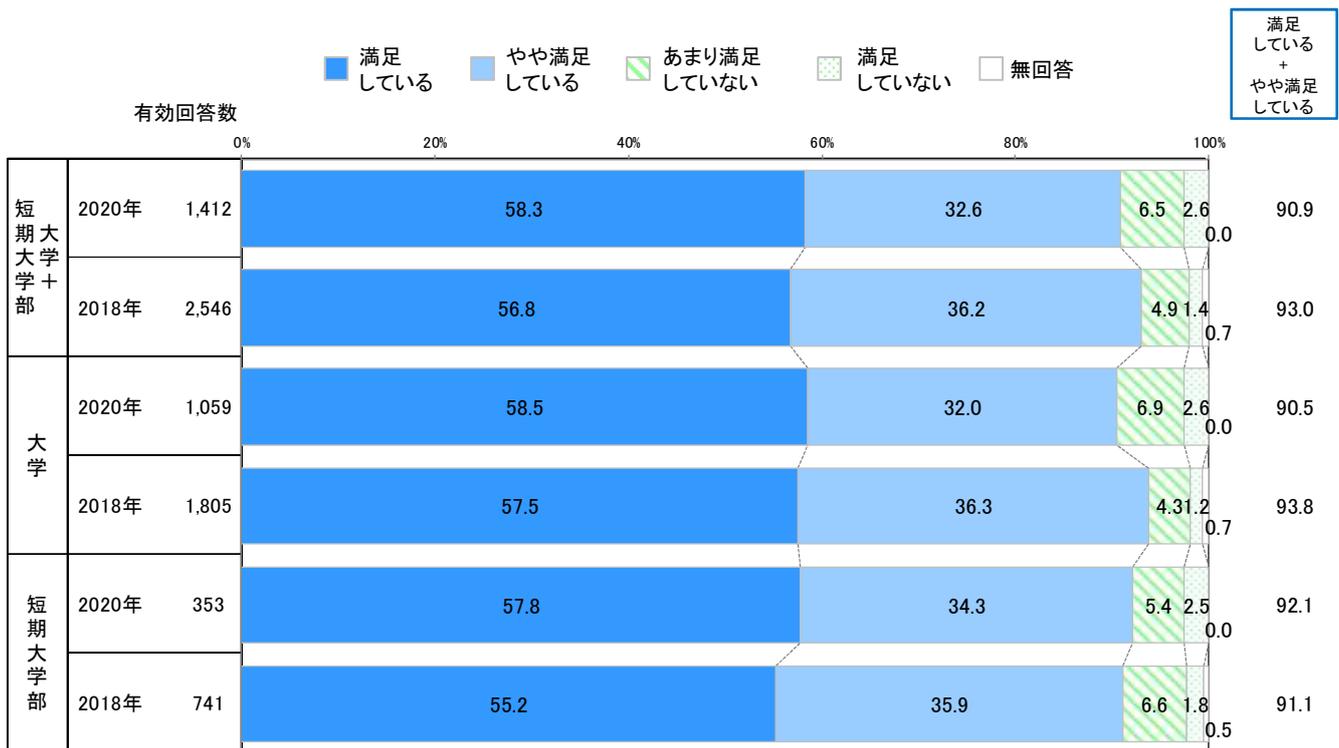
【単位：％】

※大学院については回収サンプル数が少ないため、参考値として数表で結果を掲載

卒業後の進路の満足度【大学・短期大学部 学校区分別 経年比較】

- 2020年度の結果をみると、大学、短期大学部ともに、「満足している」「やや満足している」を合わせた進路満足度は9割を超える。
- 「満足している」に絞った場合でも、いずれも約6割が卒業後の進路に満足している。
- 結果を経年で比較すると、大学の進路満足度は3.3pt低下している。短期大学部はほぼ同程度。

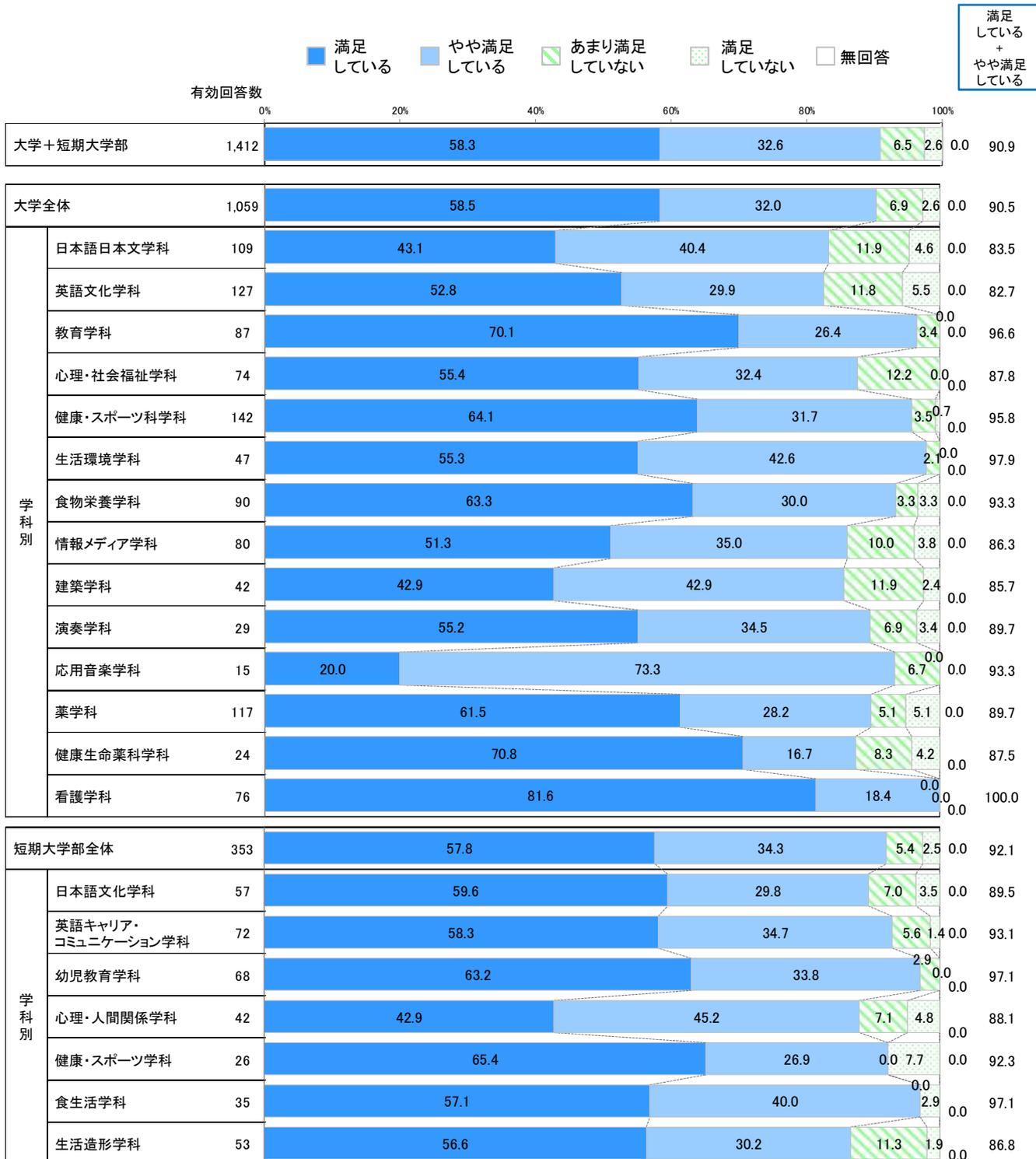
Q8 卒業後の進路について伺います。あなたはご自身の卒業後の進路に満足していますか。



卒業後の進路の満足度【大学・短期大学部 学科別 今年度結果】

- 大学の学科別で「満足している」「やや満足している」を合わせた進路満足度が特に高いのは、教育学科、健康・スポーツ学科、生活環境学科、看護学科で、いずれも9割半ばを超える。なかでも看護学科の進路満足度は100.0%であり、「満足している」との回答に絞っても81.6%と高い。
- 対して、日本語日本文学科、英語文化学科は、進路満足度が約8割と低い。
- 短期大学部の学科別で進路満足度が特に高いのは、幼児教育学科、食生活学科で、ともに97.1%と非常に高い。
- 対して、日本語文化学科、心理・人間関係学科、生活造形学科はいずれも進路満足度が9割に達していない。

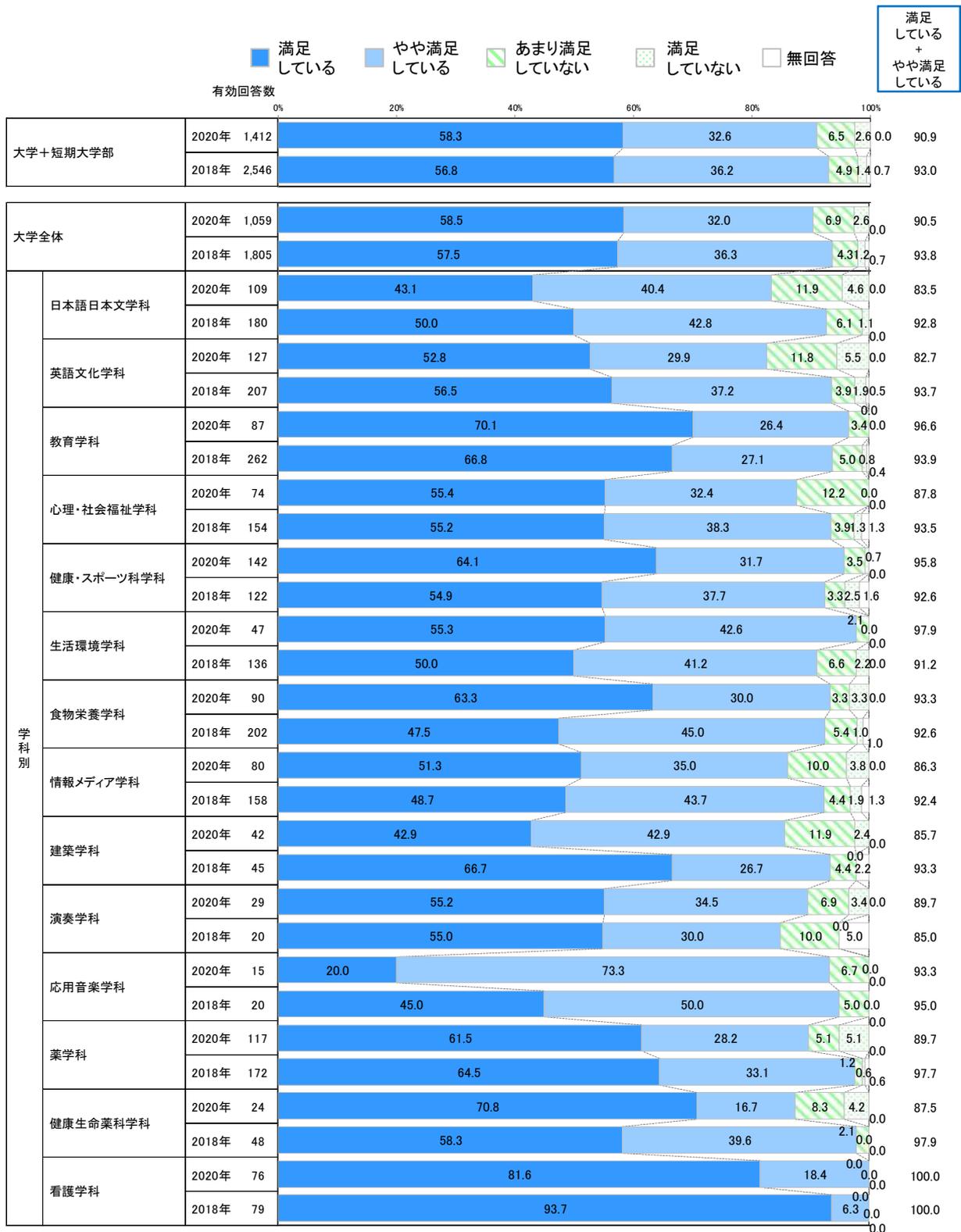
Q8 卒業後の進路について伺います。あなたはご自身の卒業後の進路に満足していますか。



卒業後の進路の満足度【大学 学科別 経年比較】

- 大学の結果を経年で比較すると、「満足している」「やや満足している」を合わせた進路満足度が特に高まっているのは生活環境学科で、6.7pt上昇している。また、演奏学科でも4.7pt上昇している。
- 対して、英語文化学科、健康生命薬科学科は、進路満足度が2018年度よりも10pt以上低下している。

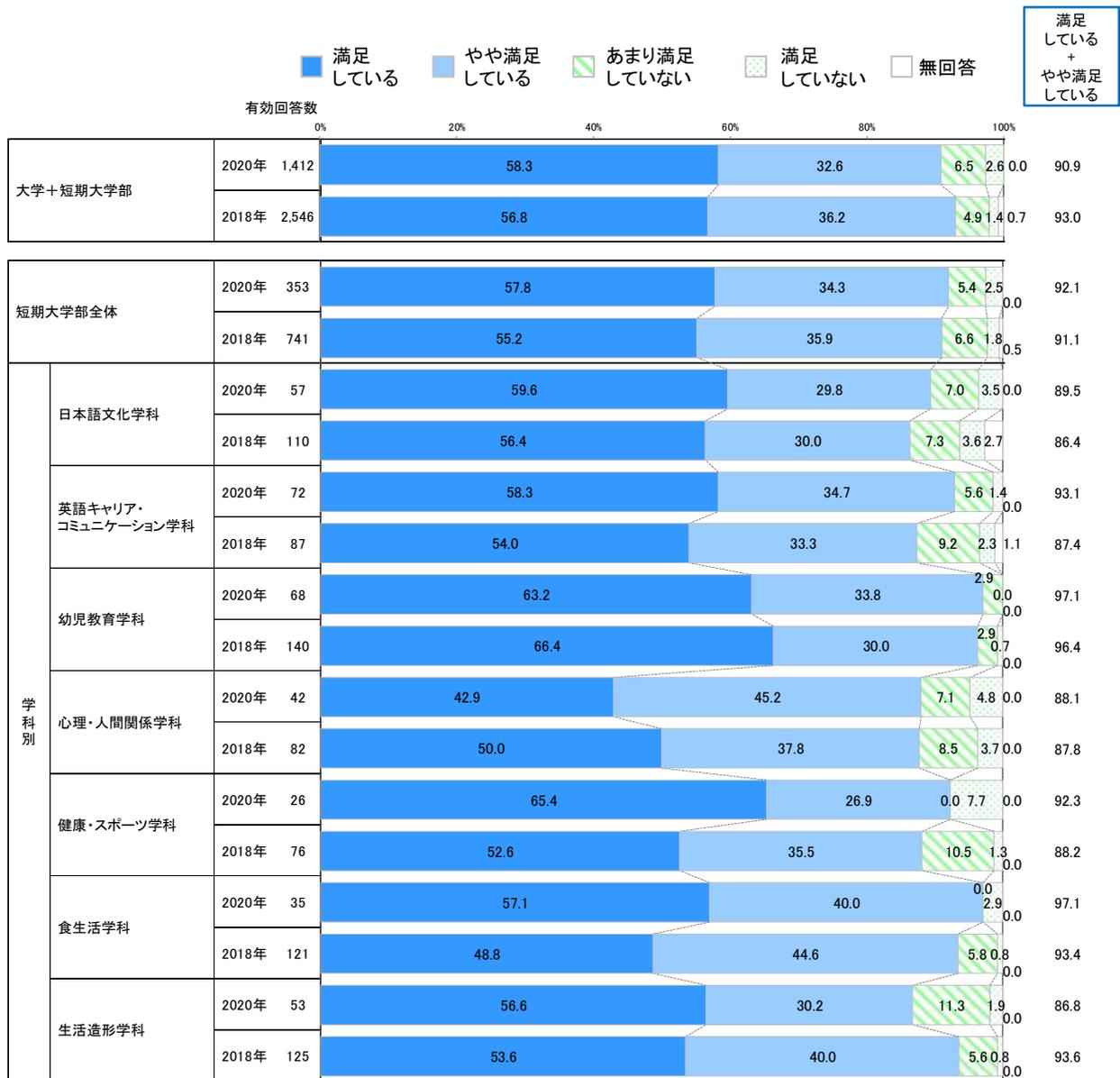
Q8 卒業後の進路について伺います。あなたはご自身の卒業後の進路に満足していますか。



卒業後の進路の満足度【短期大学部 学科別 経年比較】

- 短期大学部の結果を経年で比較すると、「満足している」「やや満足している」を合わせた進路満足度が最も高まっているのは英語キャリア・コミュニケーション学科で、5.7pt上昇している。また、健康・スポーツ学科でも4.1ptの上昇がみられる。
- 対して、生活造形学科は、進路満足度が2018年度よりも6.8pt低下している。

Q8 卒業後の進路について伺います。あなたはご自身の卒業後の進路に満足していますか。



卒業後の進路の満足度【大学院 専攻別 今年度結果】

- 大学院は、「満足している」「やや満足している」を合わせた進路満足度が約9割と高い。
- 「満足している」学生も約7割を占める。

Q8 卒業後の進路について伺います。あなたはご自身の卒業後の進路に満足していますか。

		有効回答数	満足している	やや満足している	あまり満足していない	満足していない	無回答	やや満足している＋満足している
大学院全体		42	69.0	21.4	2.4	7.1	0.0	90.5
専攻別	大学院 修士課程・計	40	70.0	20.0	2.5	7.5	0.0	90.0
	文学研究科 日本語日本文学専攻	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	文学研究科 英語英米文学専攻	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	文学研究科 臨床心理学専攻	2	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	臨床教育学研究科 臨床教育学専攻	5	40.0	40.0	0.0	20.0	0.0	80.0
	健康・スポーツ科学研究科 健康・スポーツ科学専攻	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	生活環境学研究科 食物栄養学専攻	4	75.0	25.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	生活環境学研究科 生活環境学専攻	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	生活環境学研究科 建築学専攻	22	81.8	13.6	0.0	4.5	0.0	95.5
	薬学研究科 薬科学専攻	2	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0
	看護学研究科 看護学専攻(看護学研究コース)	2	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	看護学研究科 看護学専攻(看護学研究保健師コース)	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	大学院 博士後期課程・計	2	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	文学研究科 英語英米文学専攻	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	臨床教育学研究科 臨床教育学専攻	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	生活環境学研究科 食物栄養学専攻	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
生活環境学研究科 生活環境学専攻	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
薬学研究科 薬学専攻	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
看護学研究科 看護学専攻	2	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	100.0	

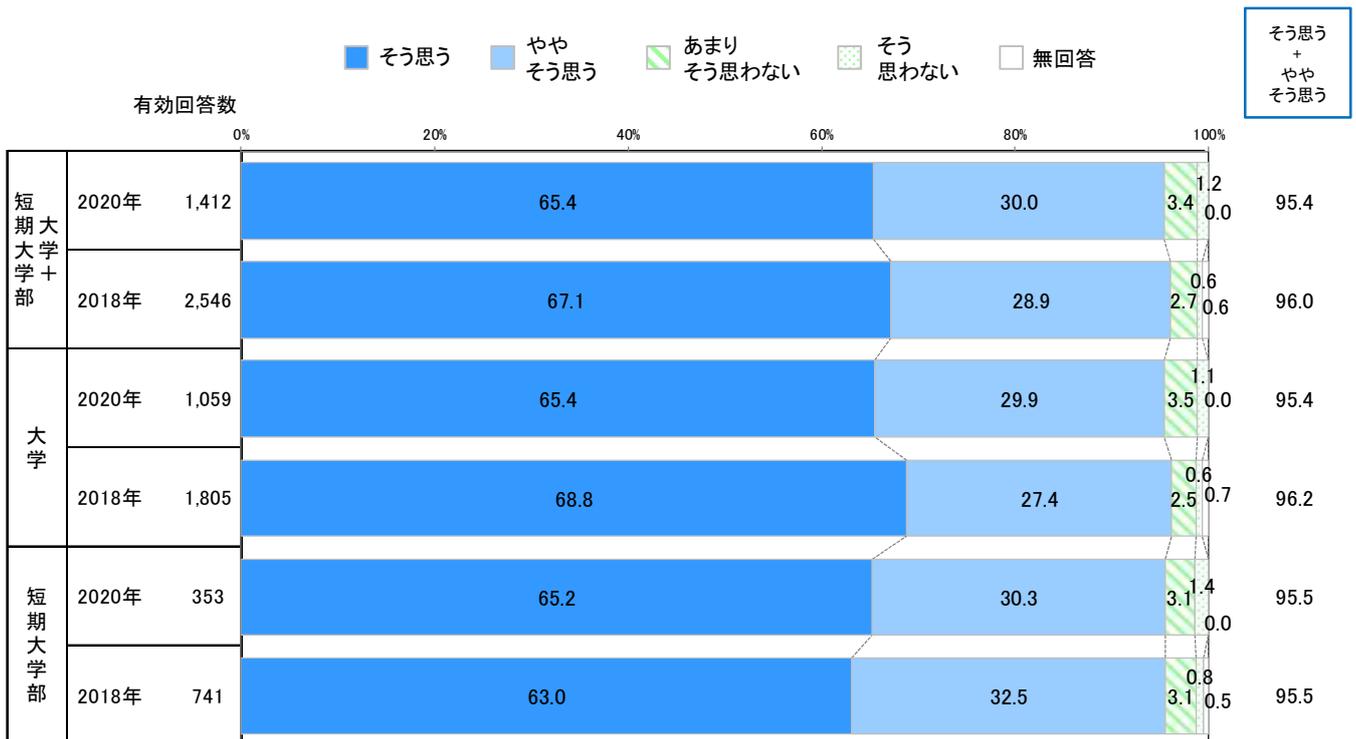
【単位：％】

※大学院については回収サンプル数が少ないため、参考値として数表で結果を掲載

総合満足度【大学・短期大学部 学校区分別 経年比較】

- 2020年度の結果をみると、大学、短期大学部ともに、総合満足度(本学に入学してよかった「そう思う」+「ややそう思う」)は9割半ばと高い。
- 「そう思う」に絞った場合でも、いずれも6割半ばが入学してよかったと感じている。
- 結果を経年で比較すると、大学の進路満足度はほぼ同程度、短期大学部は同率である。

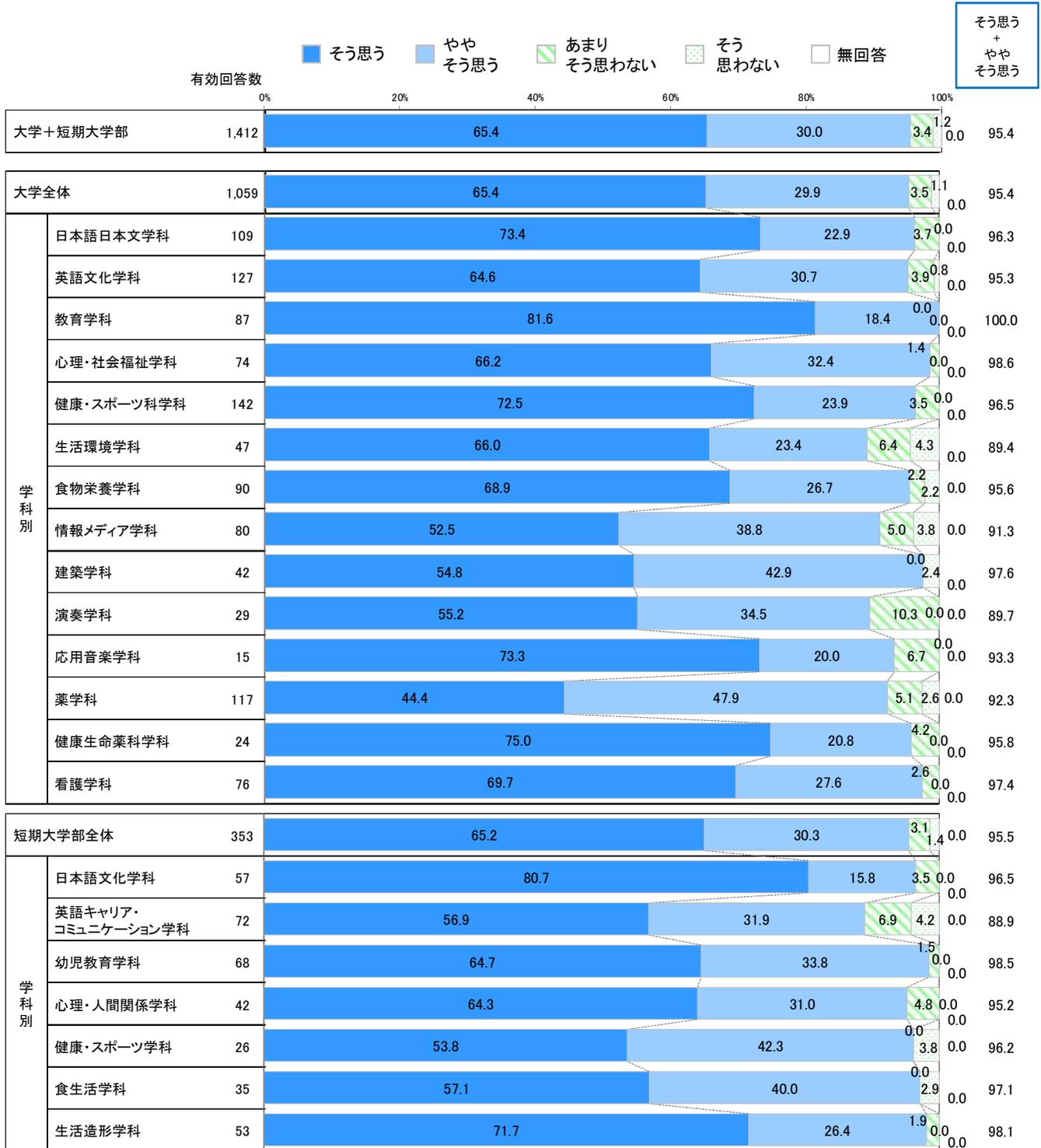
Q9 学生生活を振り返ってみて、本学に入学してよかったと思いますか。



総合満足度【大学・短期大学部 学科別 今年度結果】

- 大学の学科別で総合満足度(本学に入学してよかった「そう思う」+「ややそう思う」)が特に高いのは、教育学科で唯一100.0%に達しており、「そう思う」との回答に絞っても8割を超えている。
- 対して、生活環境学科、演奏学科は、総合満足度が9割に満たない。
- 短期大学部の学科別で総合満足度が特に高いのは、幼児教育学科、生活造形学科で、ともに98%を超える。
- 対して、英語キャリア・コミュニケーション学科は総合満足度が9割に満たない。

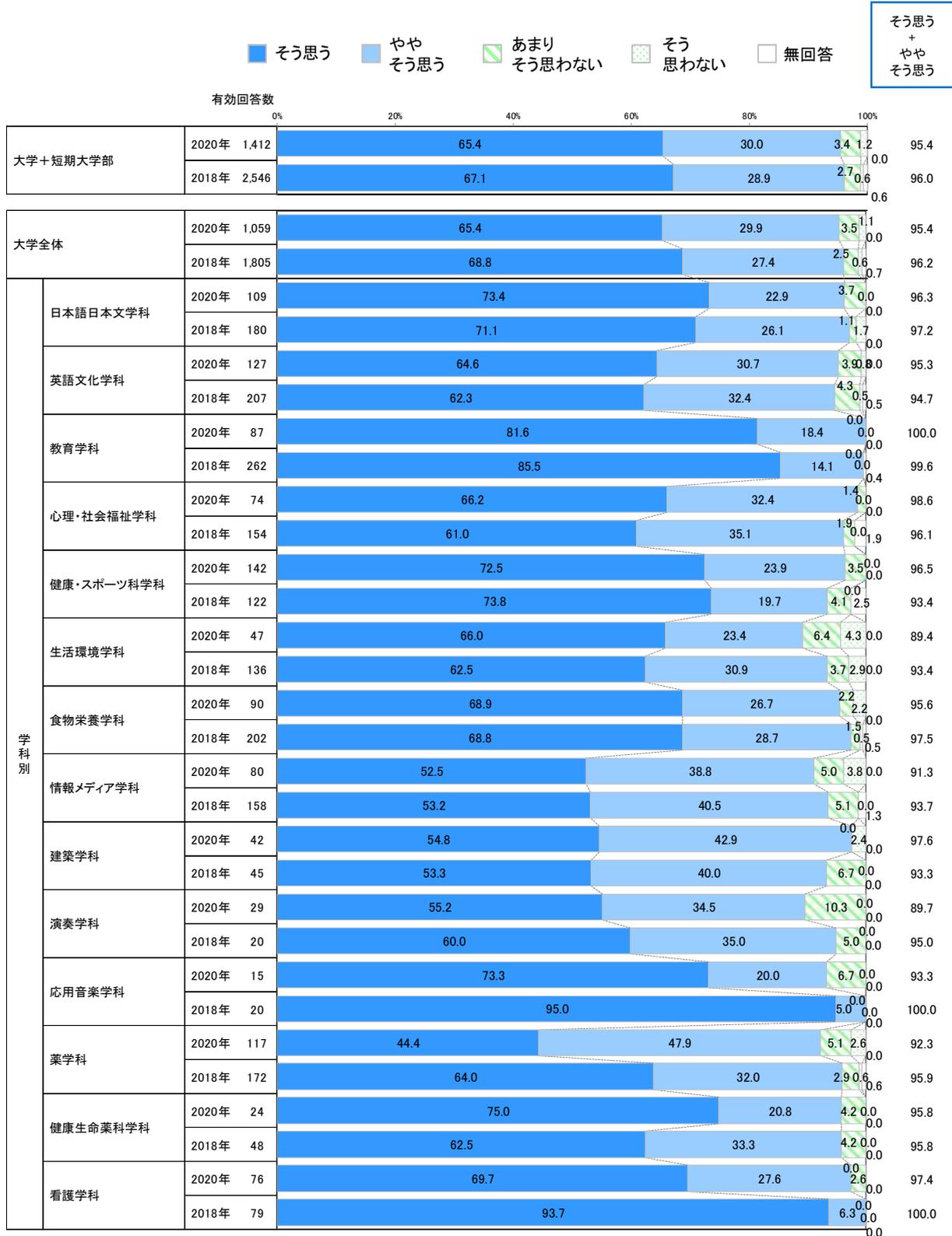
Q9 学生生活を振り返ってみて、本学に入学してよかったと思いますか。



総合満足度【大学 学科別 経年比較】

- 大学の結果を経年で比較すると、総合満足度(本学に入学してよかった「そう思う」+「ややそう思う」)が特に高まっているのは健康・スポーツ科学科、建築学科で、3~4pt程度上昇している。
- 対して、生活環境学科、演奏学科、応用音楽学科、薬学科は、総合満足度が2018年度よりも4~6pt程度低下している。

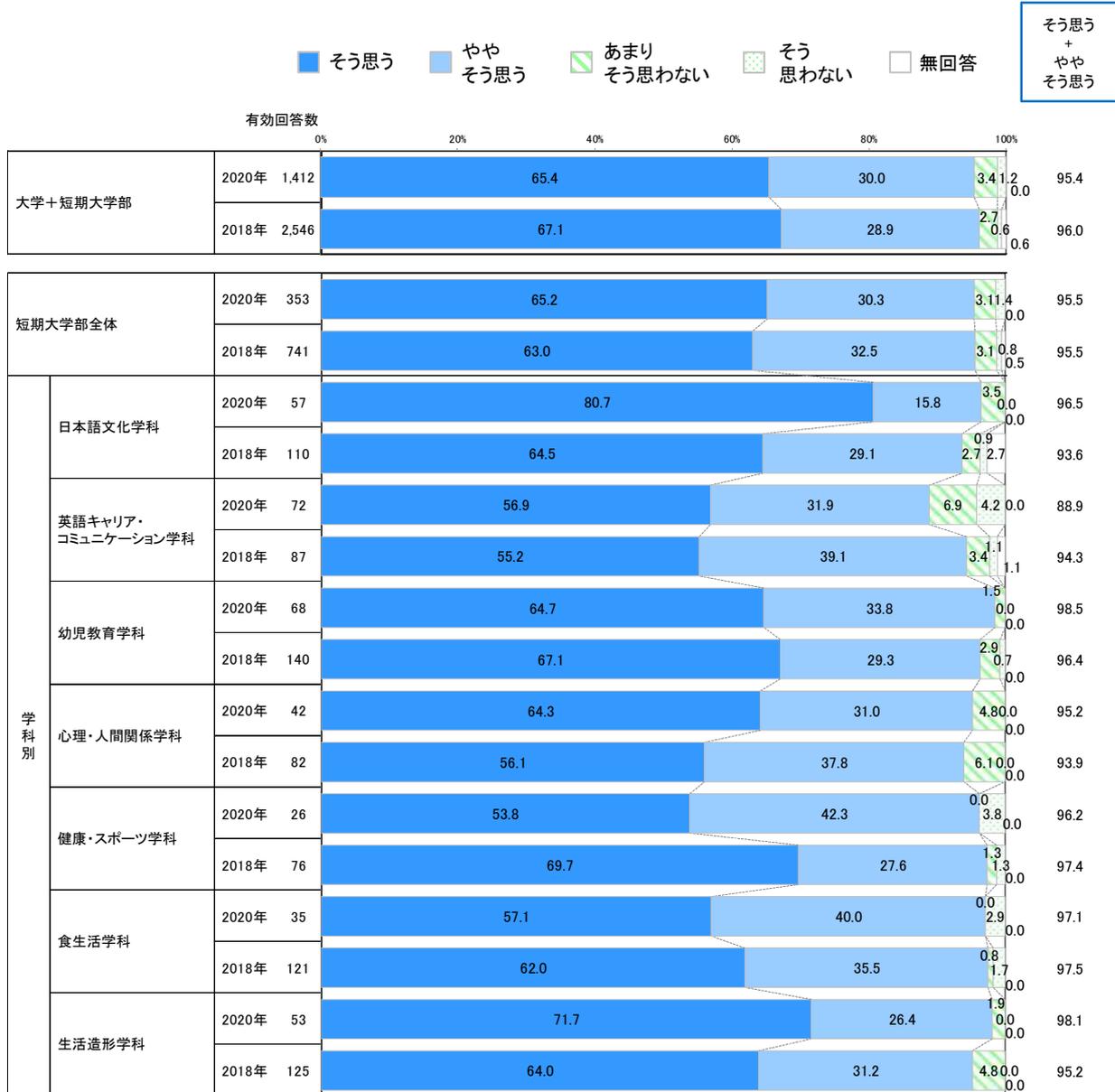
Q9 学生生活を振り返ってみて、本学に入学してよかったと思いますか。



総合満足度【短期大学部 学科別 経年比較】

- 短期大学部の結果を経年で比較すると、総合満足度(本学に入学してよかった「そう思う」+「ややそう思う」)が3pt以上高まっている学科はみられない。
- 対して、英語キャリア・コミュニケーション学科は、総合満足度が2018年度よりも5.4pt低下している。

Q9 学生生活を振り返ってみて、本学に入学してよかったと思いますか。



総合満足度【大学院 専攻別 今年度結果】

- 大学院は総合満足度(本学に入学してよかった「そう思う」+「ややそう思う」)が9割半ばと高い。
- 「そう思う」と回答した学生が8割弱を占める。

Q9 学生生活を振り返ってみて、本学に入学してよかったと思いますか。

		有効 回答数	そう 思う	やや そう 思う	あまり そう 思わない	そう 思わない	無 回答	や そう 思う + そ う 思 う
大学院全体		42	76.2	19.0	0.0	4.8	0.0	95.2
専 攻 別	大学院 修士課程・計	40	75.0	20.0	0.0	5.0	0.0	95.0
	文学研究科 日本語日本文学専攻	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	文学研究科 英語英米文学専攻	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	文学研究科 臨床心理学専攻	2	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	臨床教育学研究科 臨床教育学専攻	5	60.0	20.0	0.0	20.0	0.0	80.0
	健康・スポーツ科学研究科 健康・スポーツ科学専攻	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	生活環境学研究科 食物栄養学専攻	4	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	生活環境学研究科 生活環境学専攻	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	生活環境学研究科 建築学専攻	22	77.3	18.2	0.0	4.5	0.0	95.5
	薬学研究科 薬科学専攻	2	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	看護学研究科 看護学専攻(看護学研究コース)	2	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	看護学研究科 看護学専攻(看護学研究保健師コース)	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	大学院 博士後期課程・計	2	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	文学研究科 英語英米文学専攻	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	臨床教育学研究科 臨床教育学専攻	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	生活環境学研究科 食物栄養学専攻	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	生活環境学研究科 生活環境学専攻	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
薬学研究科 薬学専攻	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
看護学研究科 看護学専攻	2	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	

【単位:%】

※大学院については回収サンプル数が少ないため、参考値として数表で結果を掲載

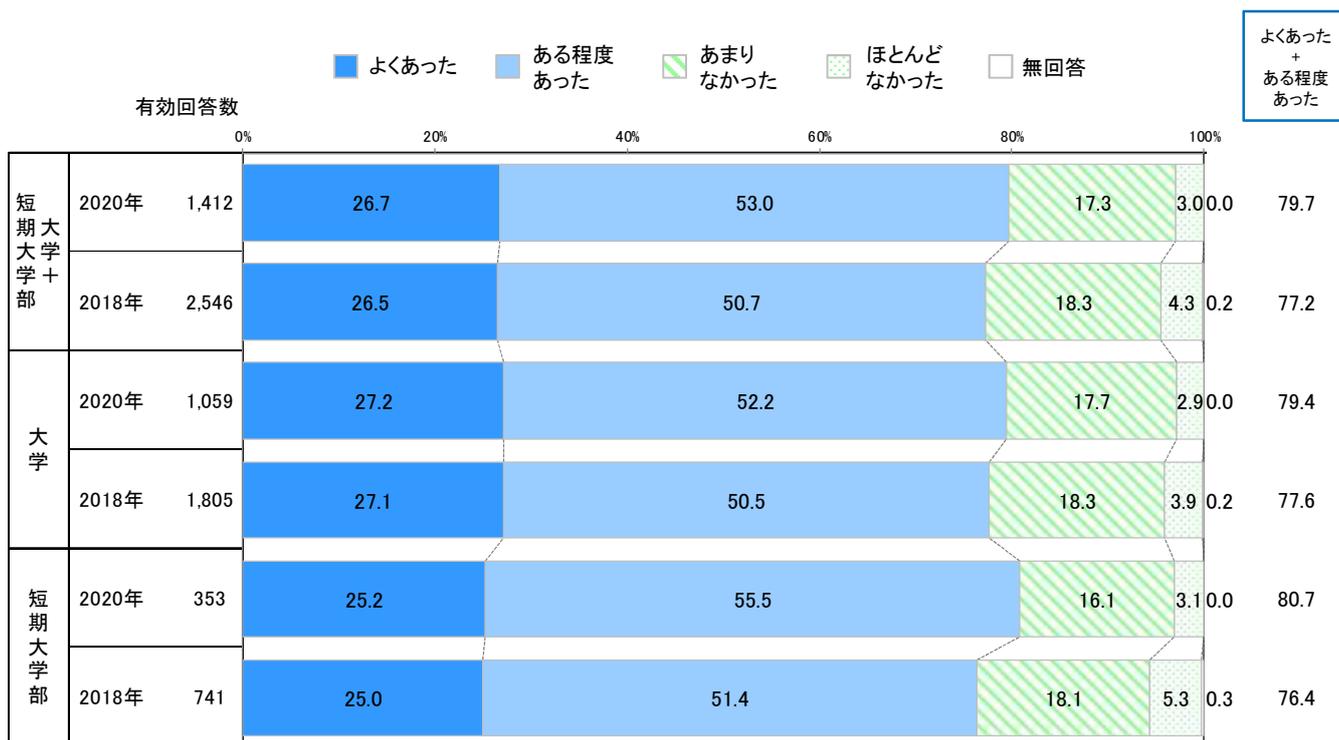
アンケート結果 詳細内容
【修学状況】

学びの機会【大学・短期大学部 学校区分別 経年比較】

- 2020年度の結果をみると、ディスカッションを取り入れた授業は、大学、短期大学部ともに、約8割が経験（「よくあった」+「ある程度あった」）している。
- 結果を経年で比較すると、大学の経験率はほぼ同程度、短期大学部は4.3pt上昇している。

Q3 あなたが在学中に受講した授業の中で、次のような経験がどの程度ありましたか。

<ディスカッションを取り入れた授業>

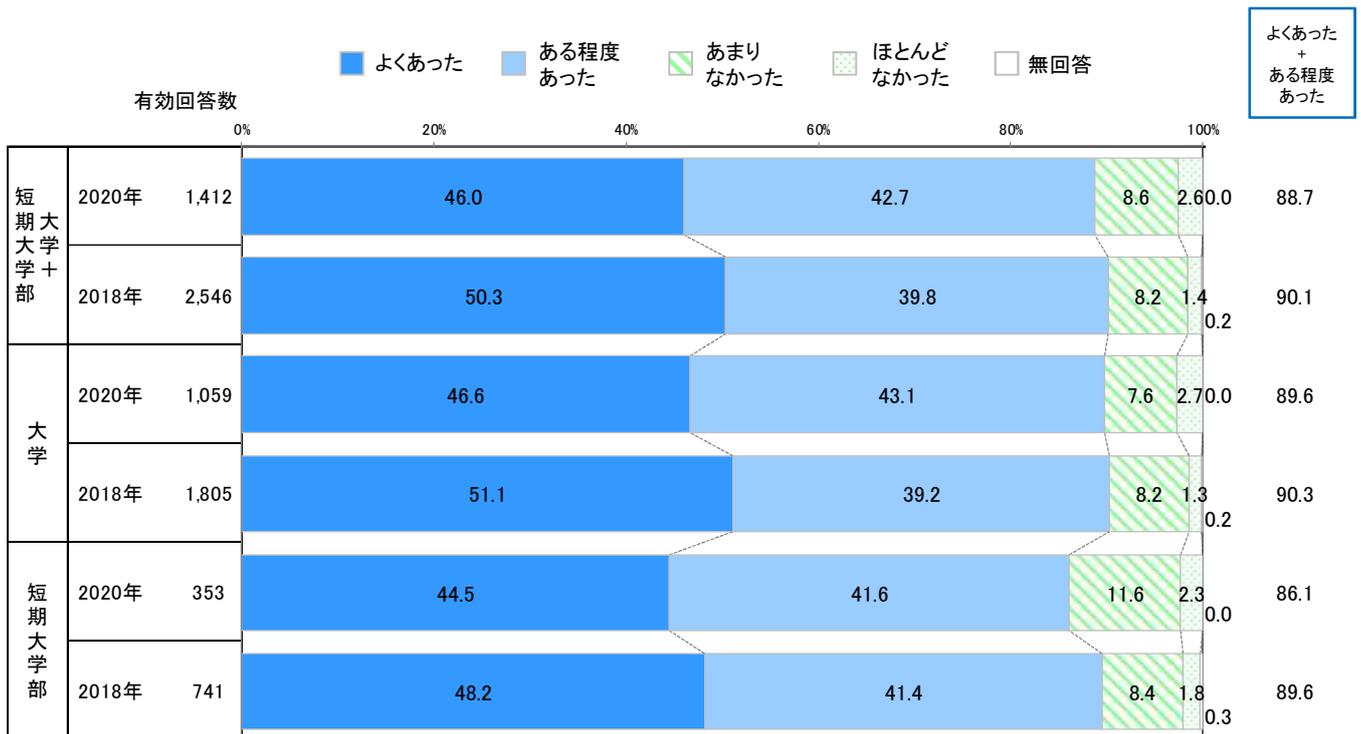


学びの機会【大学・短期大学部 学校区分別 経年比較】

- 2020年度の結果をみると、グループワークや実験・実習など協働作業をする授業は、大学は約9割、短期大学部は8割半ばの経験率（「よくあった」+「ある程度あった」）である。
- 結果を経年で比較すると、大学の経験率はほぼ同程度、短期大学部は3.5pt低下している。

Q3 あなたが在学中に受講した授業の中で、次のような経験がどの程度ありましたか。

<グループワークや実験・実習など協働作業をする授業>

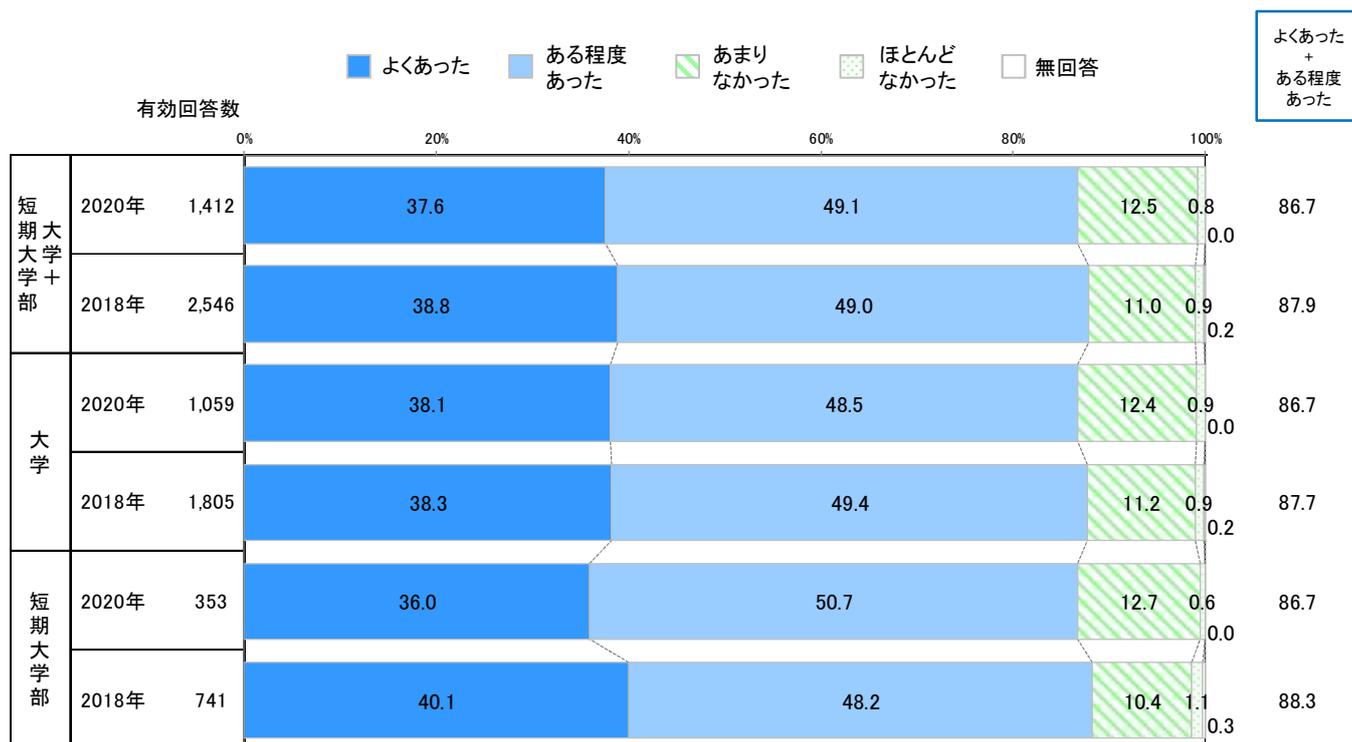


学びの機会【大学・短期大学部 学校区分別 経年比較】

- 2020年度の結果をみると、発表を取り入れた授業は、大学、短期大学部ともに86.7%が経験(「よくあった」+「ある程度あった」)している。
- 結果を経年で比較すると、大学、短期大学部ともにほぼ同程度。

Q3 あなたが在学中に受講した授業の中で、次のような経験がどの程度ありましたか。

<発表を取り入れた授業>

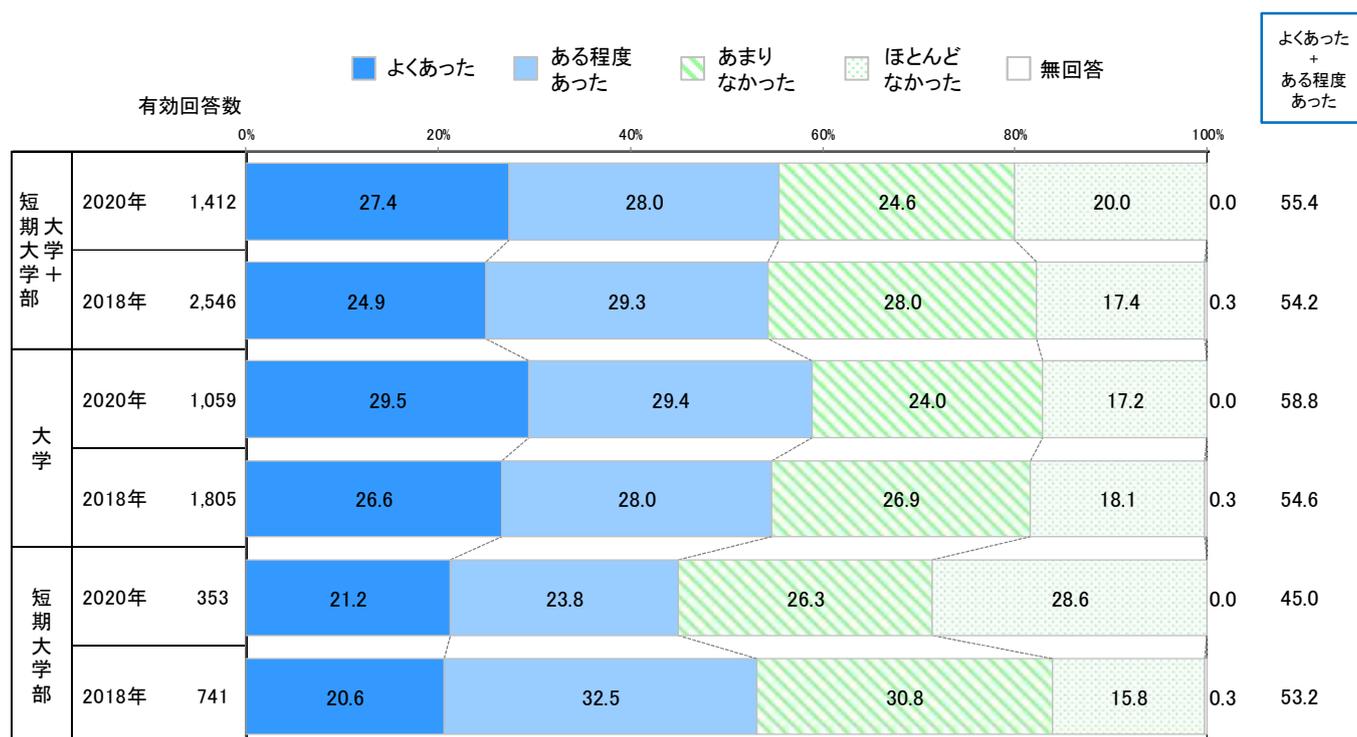


学びの機会【大学・短期大学部 学校区分別 経年比較】

- 2020年度の結果をみると、教室外での活動や実習を行う授業は、大学は約6割、短期大学部は4割半ばの経験率（「よくあった」+「ある程度あった」）である。他の授業経験と比べると低い。
- 結果を経年で比較すると、大学は4.2pt上昇している。対して、短期大学部は8.2pt低下している。

Q3 あなたが在学中に受講した授業の中で、次のような経験がどの程度ありましたか。

<教室外での活動や実習を行う授業>

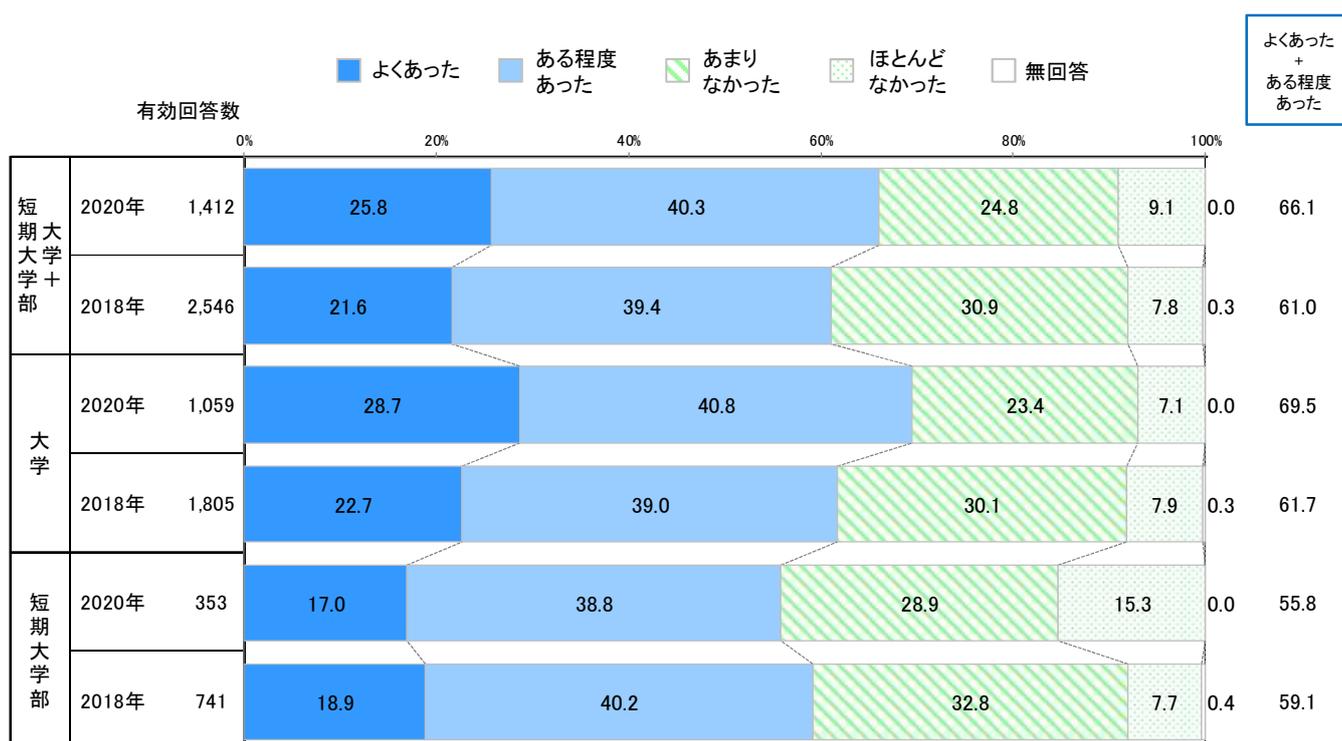


学びの機会【大学・短期大学部 学校区分別 経年比較】

- 2020年度の結果をみると、少人数で行う演習形式の授業は、大学は約7割、短期大学部は5割半ばの経験率（「よくあった」＋「ある程度あった」）である。
- 結果を経年で比較すると、大学は7.8pt上昇している。対して、短期大学部は3.3pt低下している。

Q3 あなたが在学中に受講した授業の中で、次のような経験がどの程度ありましたか。

<少人数で行う演習形式の授業>

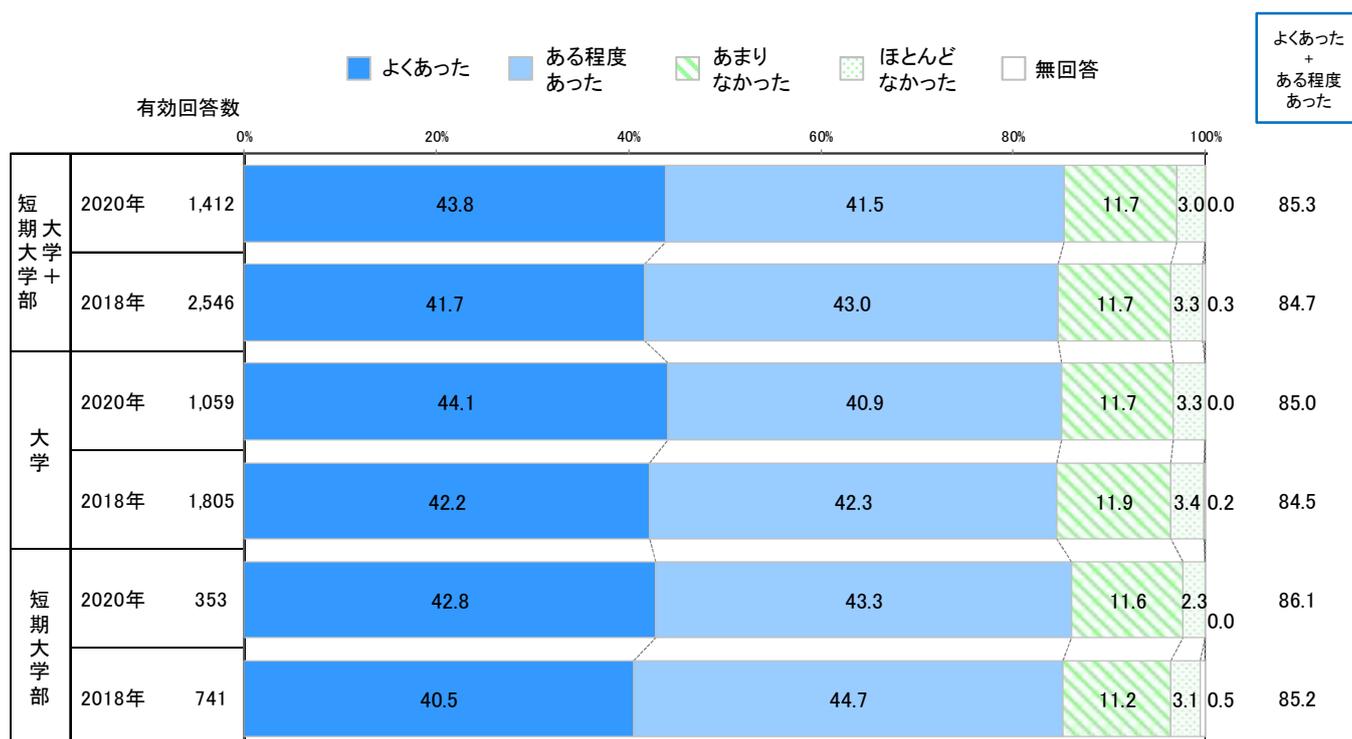


学びの機会【大学・短期大学部 学校区分別 経年比較】

- 2020年度の結果をみると、学んでいる内容が自分の将来と関わっていると感じられる授業は、大学、短期大学部ともに、8割半ばが経験(「よくあった」+「ある程度あった」)している。
- 結果を経年で比較すると、大学、短期大学部ともにほぼ同程度。

Q3 あなたが在学中に受講した授業の中で、次のような経験がどの程度ありましたか。

<学んでいる内容が自分の将来と関わっていると感じられる授業>

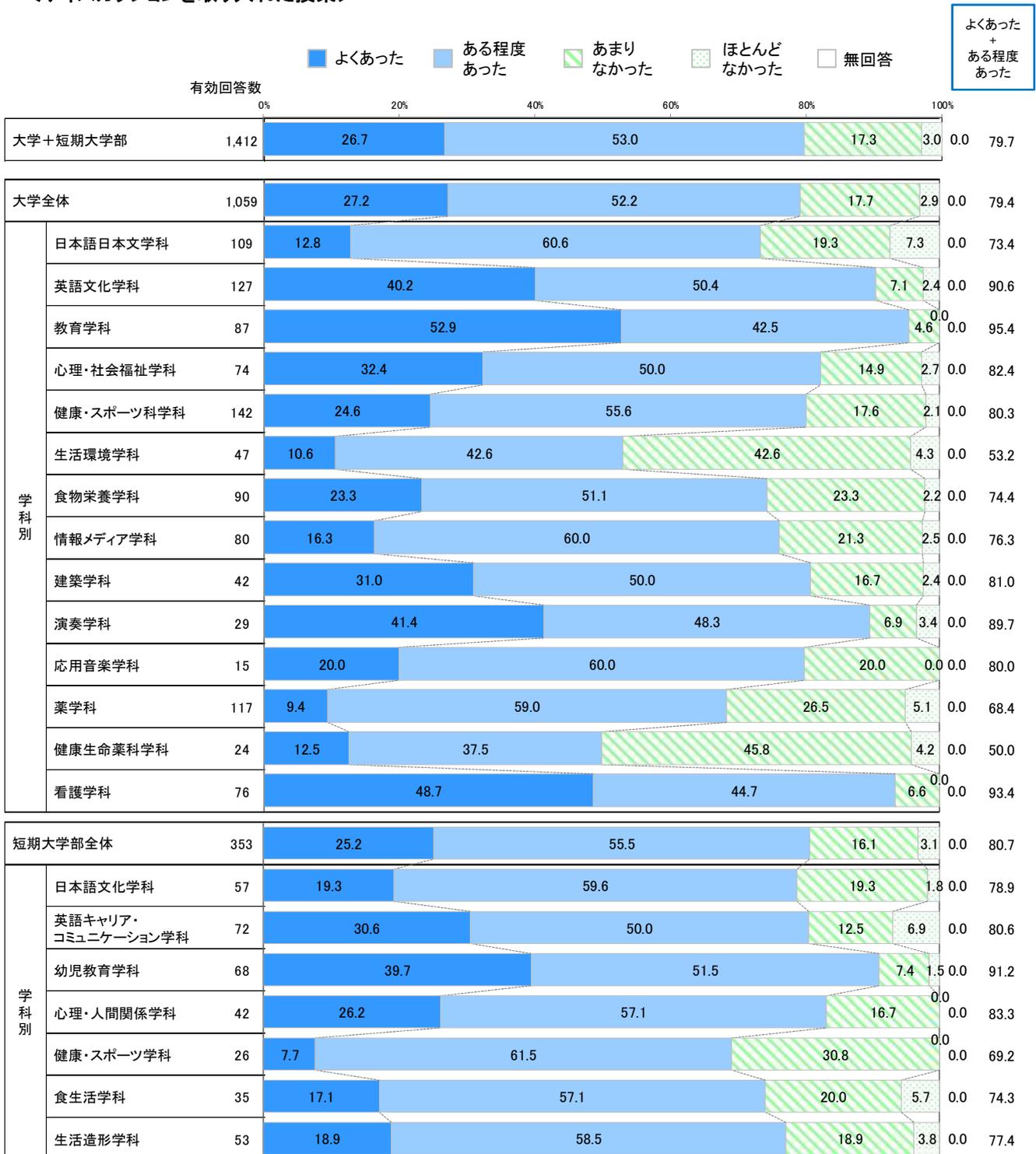


学びの機会【大学・短期大学部 学科別 今年度結果】

- 大学の学科別で、ディスカッションを取り入れた授業の経験率(「よくあった」+「ある程度あった」)が特に高いのは、英語文化学科、教育学科、看護学科で、いずれも9割を超える。なかでも教育学科は、「よくあった」と回答した学生が5割を超える。
- 対して、生活環境学科、健康生命薬科学科は、経験率がともに6割以下と低い。
- 短期大学部の学科別で経験率が特に高いのは幼児教育学科で、約9割である。
- 対して、健康・スポーツ学科、食生活学科は、経験率が約7割～7割半ばである。なかでも健康・スポーツ学科は、「よくあった」と回答した学生が1割に満たない。

Q3 あなたが在学中に受講した授業の中で、次のような経験がどの程度ありましたか。

<ディスカッションを取り入れた授業>

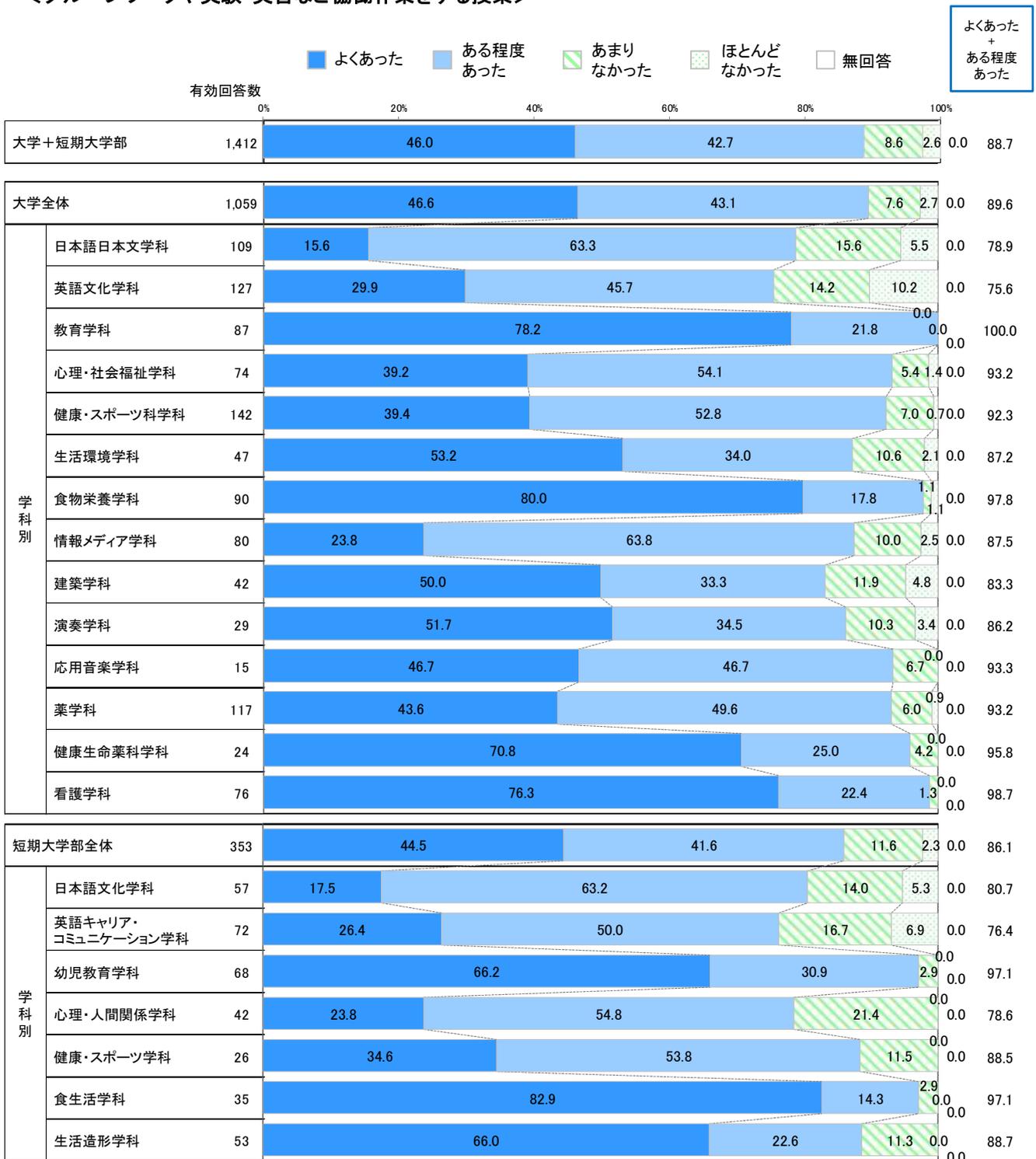


学びの機会【大学・短期大学部 学科別 今年度結果】

- 大学の学科別で、グループワークや実験・実習など協働作業をする授業の経験率(「よくあった」+「ある程度あった」)が特に高いのは、教育学科、食物栄養学科、看護学科で、いずれも97%以上と非常に高い。
- 対して、日本語日本文学科、英語文化学科は経験率が7割台後半と低い。
- 短期大学部の学科別で経験率が特に高いのは、幼児教育学科、食生活学科で、ともに97.1%と非常に高い。
- 対して、英語キャリア・コミュニケーション学科、心理・人間関係学科は、経験率が7割台後半と低い。

Q3 あなたが在学中に受講した授業の中で、次のような経験がどの程度ありましたか。

<グループワークや実験・実習など協働作業をする授業>

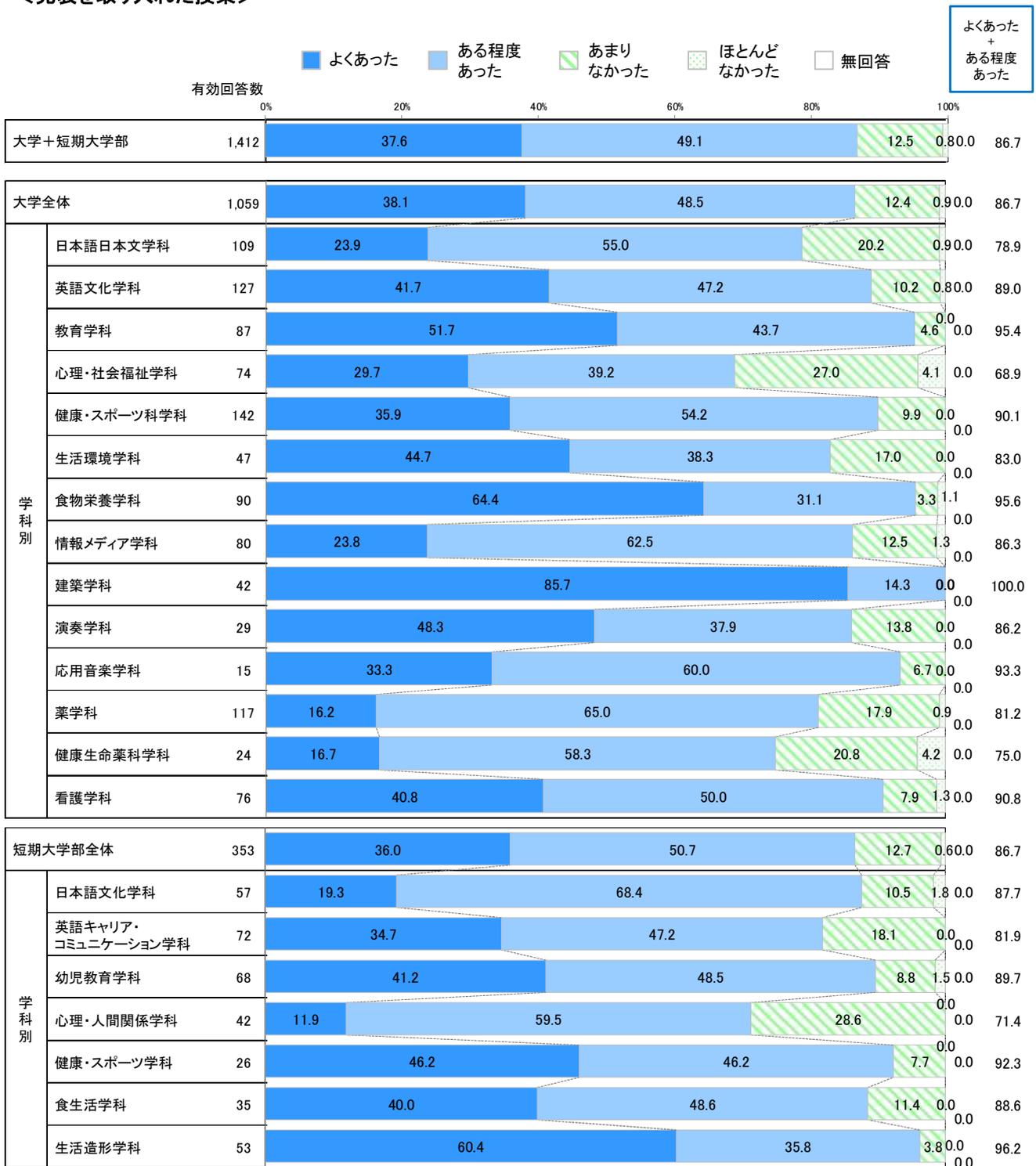


学びの機会【大学・短期大学部 学科別 今年度結果】

- 大学の学科別で、発表を取り入れた授業の経験率(「よくあった」+「ある程度あった」)が特に高いのは、教育学科、食物栄養学科、建築学科で、いずれも9割半ばを超える。なかでも建築学科は、「よくあった」との回答に絞っても8割半ばと高い。
- 対して、心理・社会福祉学科は経験率が7割に満たない。
- 短期大学部の学科別で経験率が特に高いのは、健康・スポーツ学科、生活造形学科で、ともに9割を超える。
- 対して、心理・人間関係学科は、経験率が約7割で、「よくあった」と回答した学生も約1割と低い。

Q3 あなたが在学中に受講した授業の中で、次のような経験がどの程度ありましたか。

＜発表を取り入れた授業＞

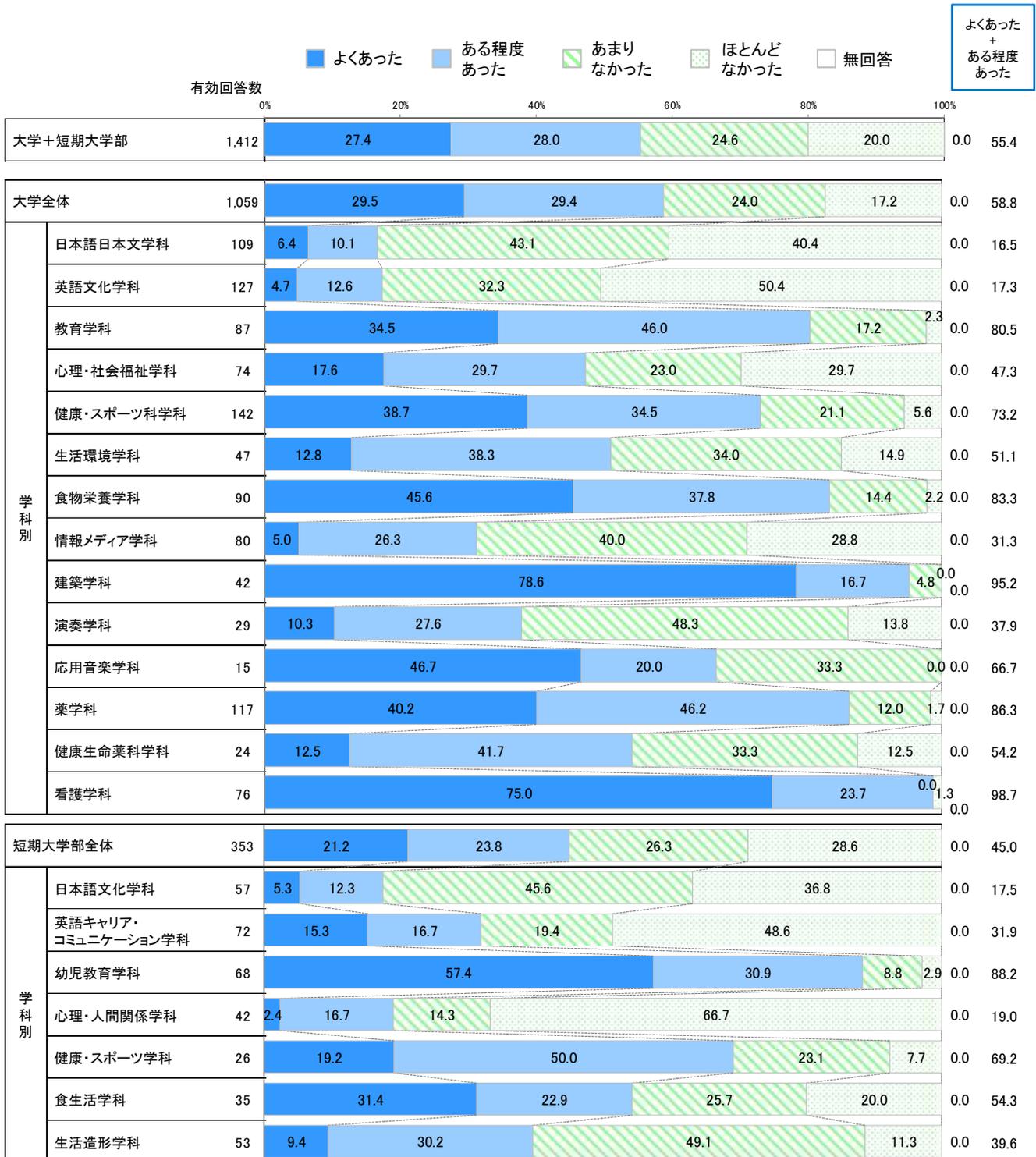


学びの機会【大学・短期大学部 学科別 今年度結果】

- 大学の学科別で、教室外での活動や実習を行う授業の経験率(「よくあった」+「ある程度あった」)が特に高いのは、建築学科、看護学科で、ともに9割半ばを超える。
- 対して、日本語日本文学科、英語文化学科は、ともに経験率が2割に満たない。
- 短期大学部の学科別で経験率が特に高いのは、幼児教育学科、健康・スポーツ学科で、約7割～約9割である。
- 対して、日本語文化学科、心理・人間関係学科は、経験率が2割に満たず低い。

Q3 あなたが在学中に受講した授業の中で、次のような経験がどの程度ありましたか。

<教室外での活動や実習を行う授業>

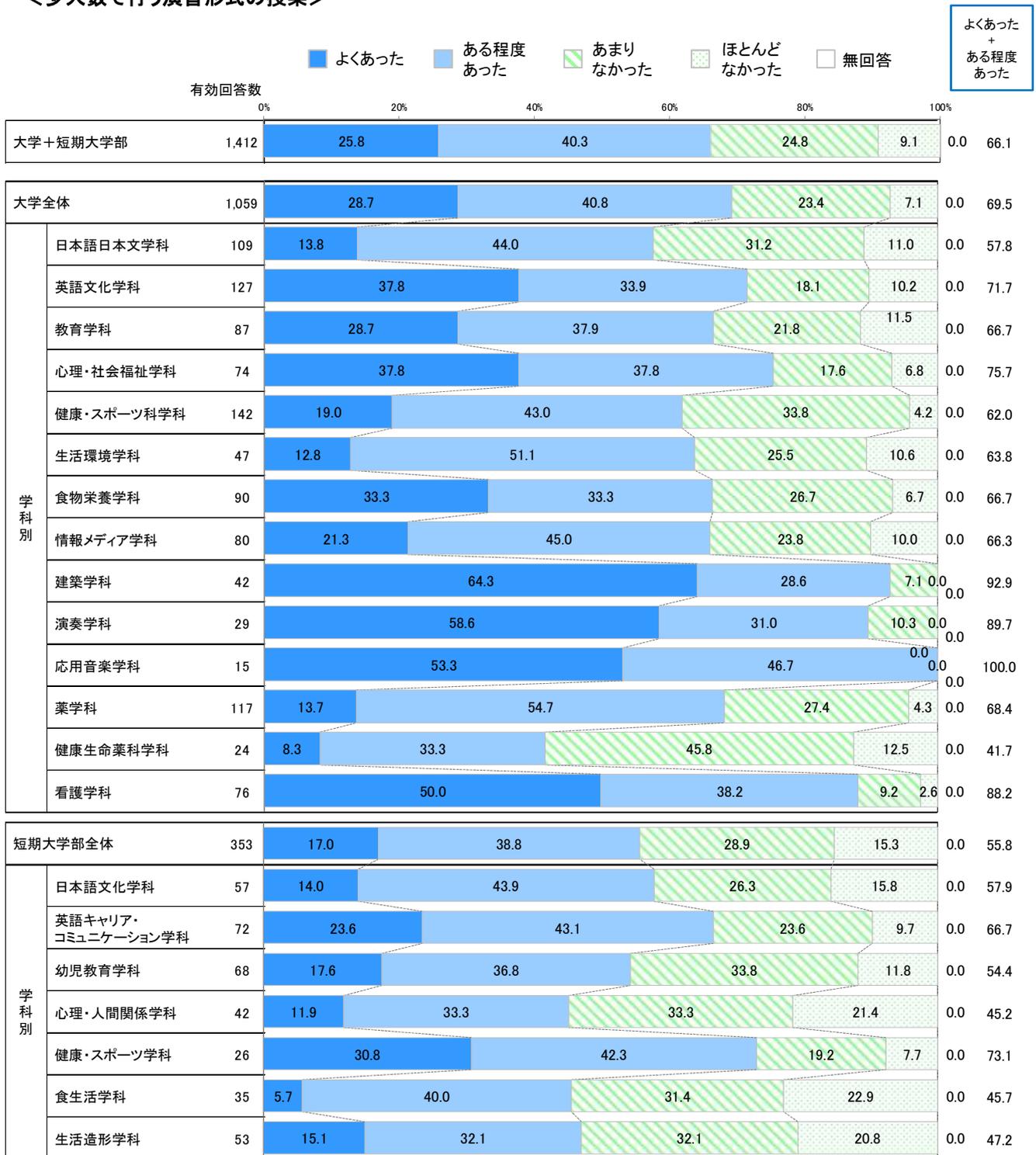


学びの機会【大学・短期大学部 学科別 今年度結果】

- 大学の学科別で、少人数で行う演習形式の授業の経験率(「よくあった」+「ある程度あった」)が特に高いのは、建築学科、演奏学科、応用音楽学科、看護学科で、いずれも約9割～10割である。
- 対して、日本語日本文学科、健康生命薬科学科は、経験率が6割に満たない。
- 短期大学部の学科別で経験率が特に高いのは、英語キャリア・コミュニケーション学科、健康・スポーツ学科で、7割弱～7割強である。
- 対して、心理・人間関係学科、食生活学科、生活造形学科は、いずれも経験率が5割に満たない。また、いずれも「ほとんどなかった」と回答した学生が約2割にのぼる。

Q3 あなたが在学中に受講した授業の中で、次のような経験がどの程度ありましたか。

<少人数で行う演習形式の授業>

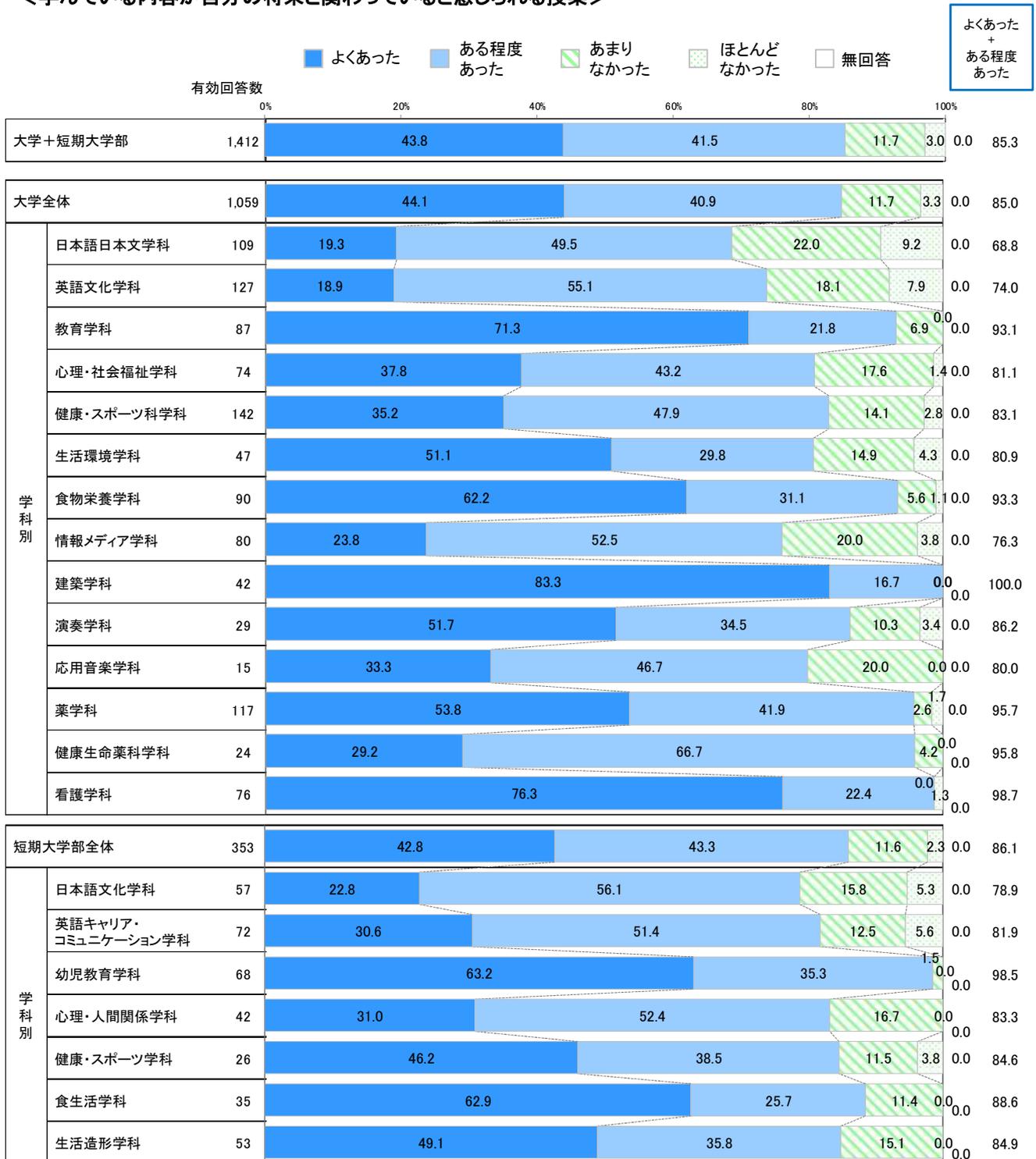


学びの機会【大学・短期大学部 学科別 今年度結果】

- 大学の学科別で、学んでいる内容が自分の将来と関わっていると感じられる授業の経験率(「よくあった」+「ある程度あった」)が特に高いのは、建築学科、看護学科で、ともに9割台後半である。なかでも建築学科は、「よくあった」と回答した学生が8割強と高い。
- 対して、日本語日本文学科、英語文化学科は、経験率が約7割～7割半ばと低い。
- 短期大学部の学科別で経験率が特に高いのは、幼児教育学科で、9割台後半である。
- 対して、日本語文化学科は唯一、経験率が8割に満たない学科である。

Q3 あなたが在学中に受講した授業の中で、次のような経験がどの程度ありましたか。

<学んでいる内容が自分の将来と関わっていると感じられる授業>

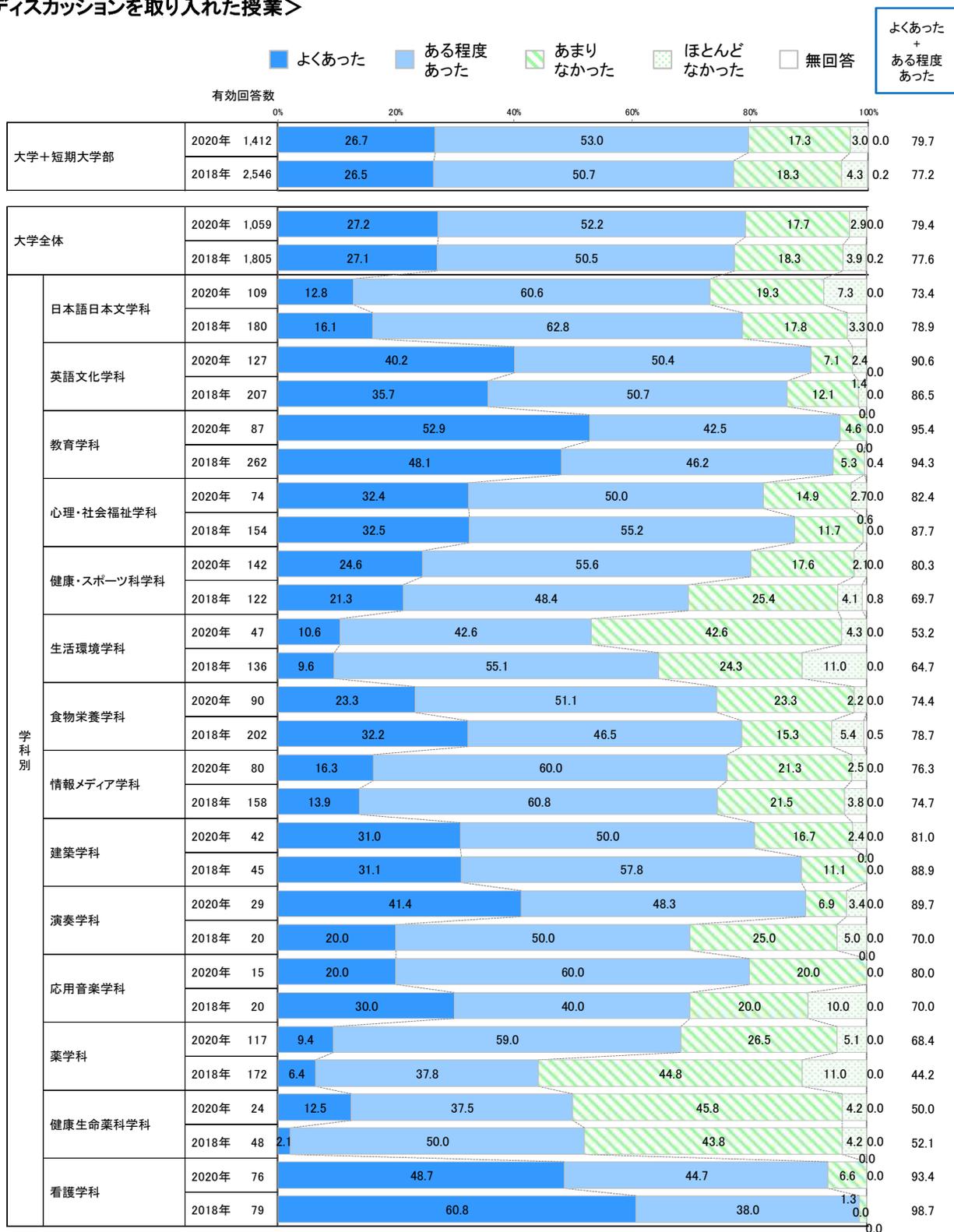


学びの機会【大学 学科別 経年比較】

- 大学の結果を経年で比較すると、ディスカッションを取り入れた授業の経験率(「よくあった」+「ある程度あった」)が特に高まっているのは薬学科で、24.2pt上昇している。また、演奏学科でも19.7pt上昇している。
- 対して、生活環境学科は、経験率が2018年度よりも11.5pt低下している。

Q3 あなたが在学中に受講した授業の中で、次のような経験がどの程度ありましたか。

<ディスカッションを取り入れた授業>

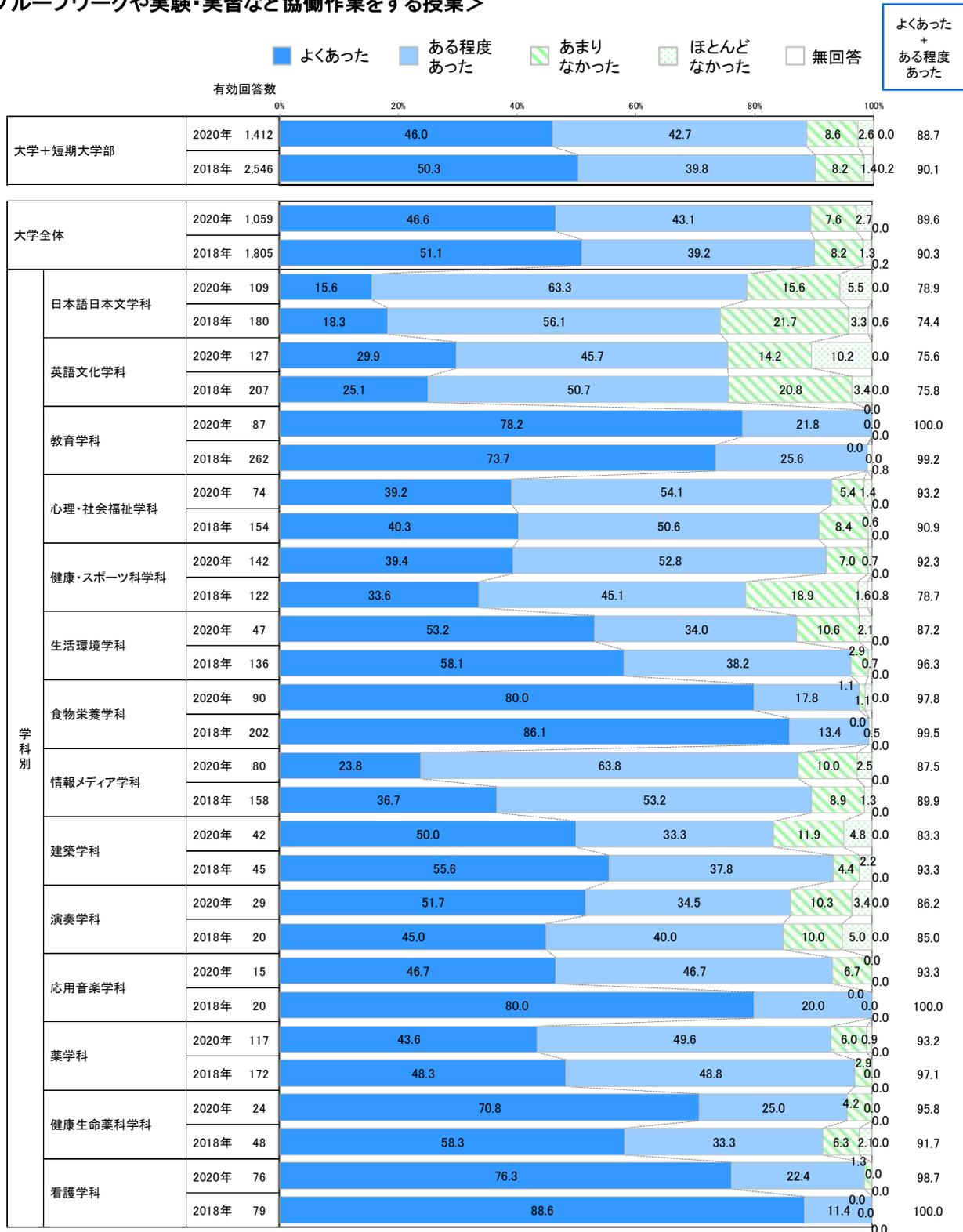


学びの機会【大学 学科別 経年比較】

- 大学の結果を経年で比較すると、グループワークや実験・実習など協働作業をする授業の経験率(「よくあった」+「ある程度あった」)が特に高まっているのは健康・スポーツ科学科で、13.6pt上昇している。また、日本語日本文学科、健康生命薬科学科でも4pt以上の上昇がみられる。
- 対して、生活環境学科、建築学科は、経験率が2018年度よりも9~10pt程度低下している。

Q3 あなたが在学中に受講した授業の中で、次のような経験がどの程度ありましたか。

<グループワークや実験・実習など協働作業をする授業>

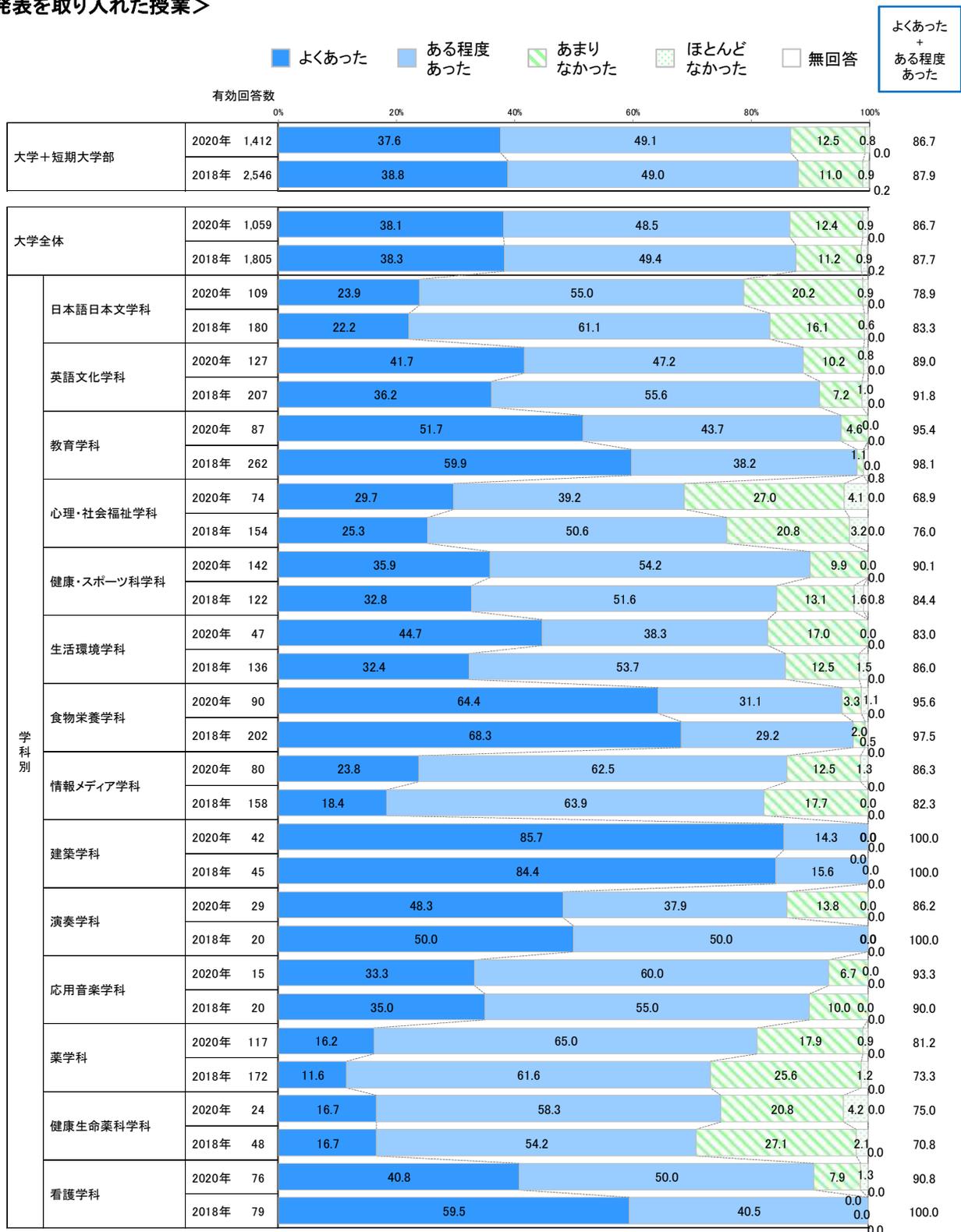


学びの機会【大学 学科別 経年比較】

- 大学の結果を経年で比較すると、発表を取り入れた授業の経験率(「よくあった」+「ある程度あった」)が特に高まっているのは薬学科で、7.9pt上昇している。また、健康・スポーツ科学科、情報メディア学科、健康生命薬科学科でも4pt以上の上昇がみられる。
- 対して、演奏学科は、経験率が2018年度よりも13.8pt低下している。また、心理・社会福祉学科、看護学科でも7~9pt程度の低下がみられる。

Q3 あなたが在学中に受講した授業の中で、次のような経験がどの程度ありましたか。

<発表を取り入れた授業>

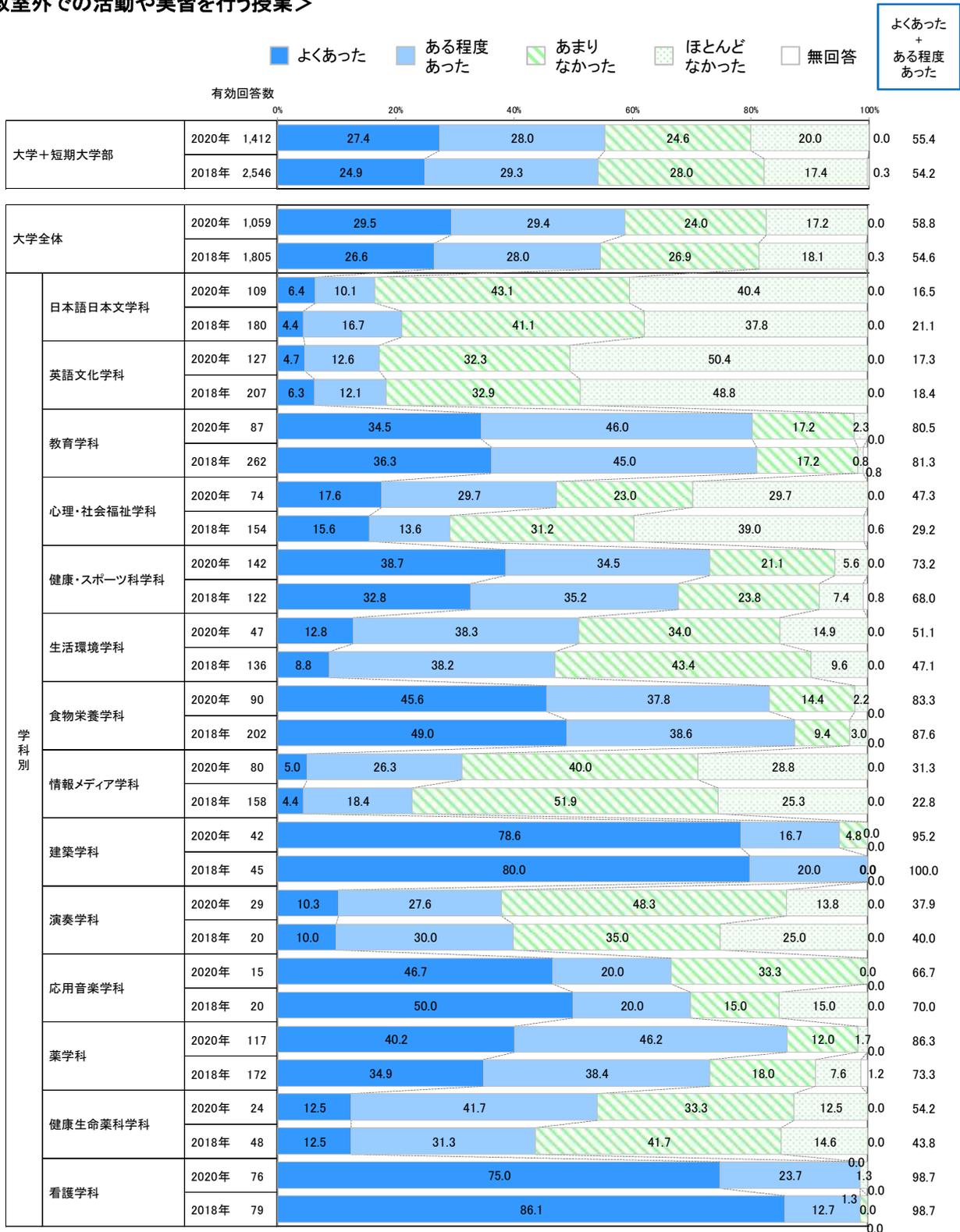


学びの機会【大学 学科別 経年比較】

- 大学の結果を経年で比較すると、教室外での活動や実習を行う授業の経験率(「よくあった」+「ある程度あった」)が特に高まっているのは心理・社会福祉学科で、18.1pt上昇している。また、薬学科、健康生命薬科学科でも10~13pt程度上昇している。
- 対して、日本語日本文学科、食物栄養学科、建築学科は、いずれも経験率が2018年度よりも4pt以上低下している。

Q3 あなたが在学中に受講した授業の中で、次のような経験がどの程度ありましたか。

<教室外での活動や実習を行う授業>

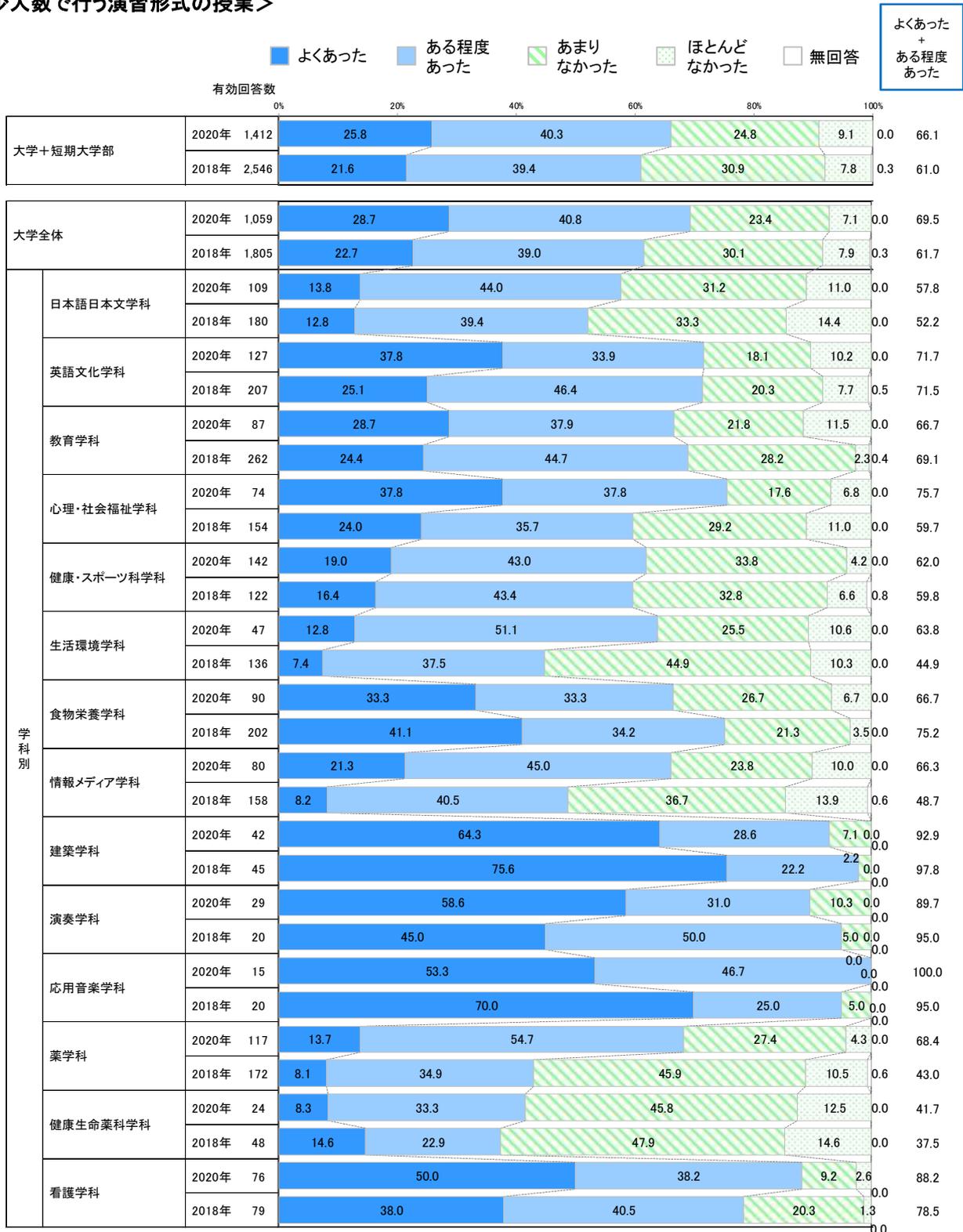


学びの機会【大学 学科別 経年比較】

- 大学の結果を経年で比較すると、少人数で行う演習形式の授業の経験率(「よくあった」+「ある程度あった」)が特に高まっているのは薬学科で、25.4pt上昇している。また、心理・社会福祉学科、生活環境学科、情報メディア学科でも16~19pt程度上昇している。
- 対して、食物栄養学科は、経験率が2018年度よりも8.5pt低下している。

Q3 あなたが在学中に受講した授業の中で、次のような経験がどの程度ありましたか。

<少人数で行う演習形式の授業>

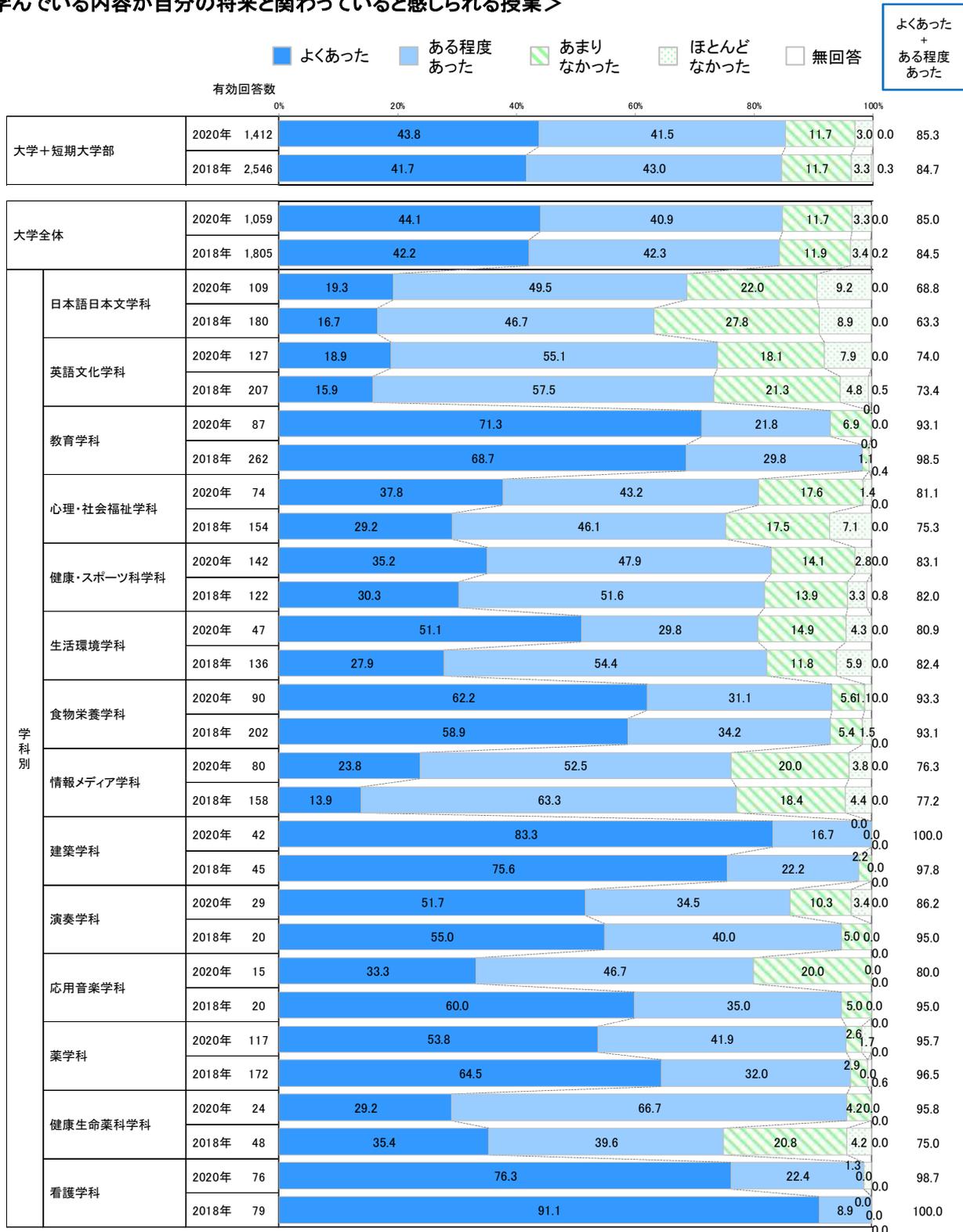


学びの機会【大学 学科別 経年比較】

- 大学の結果を経年で比較すると、学んでいる内容が自分の将来と関わっていると感じられる授業の経験率(「よくあった」+「ある程度あった」)が特に高まっているのは健康生命薬科学科で、20.8pt上昇している。また、日本語日本文学科、心理・社会福祉学科でも5pt以上の上昇がみられる。
- 対して、応用音楽学科は、経験率が2018年度よりも15.0pt低下している。また、演奏学科でも8.8pt低下している。

Q3 あなたが在学中に受講した授業の中で、次のような経験がどの程度ありましたか。

<学んでいる内容が自分の将来と関わっていると感じられる授業>

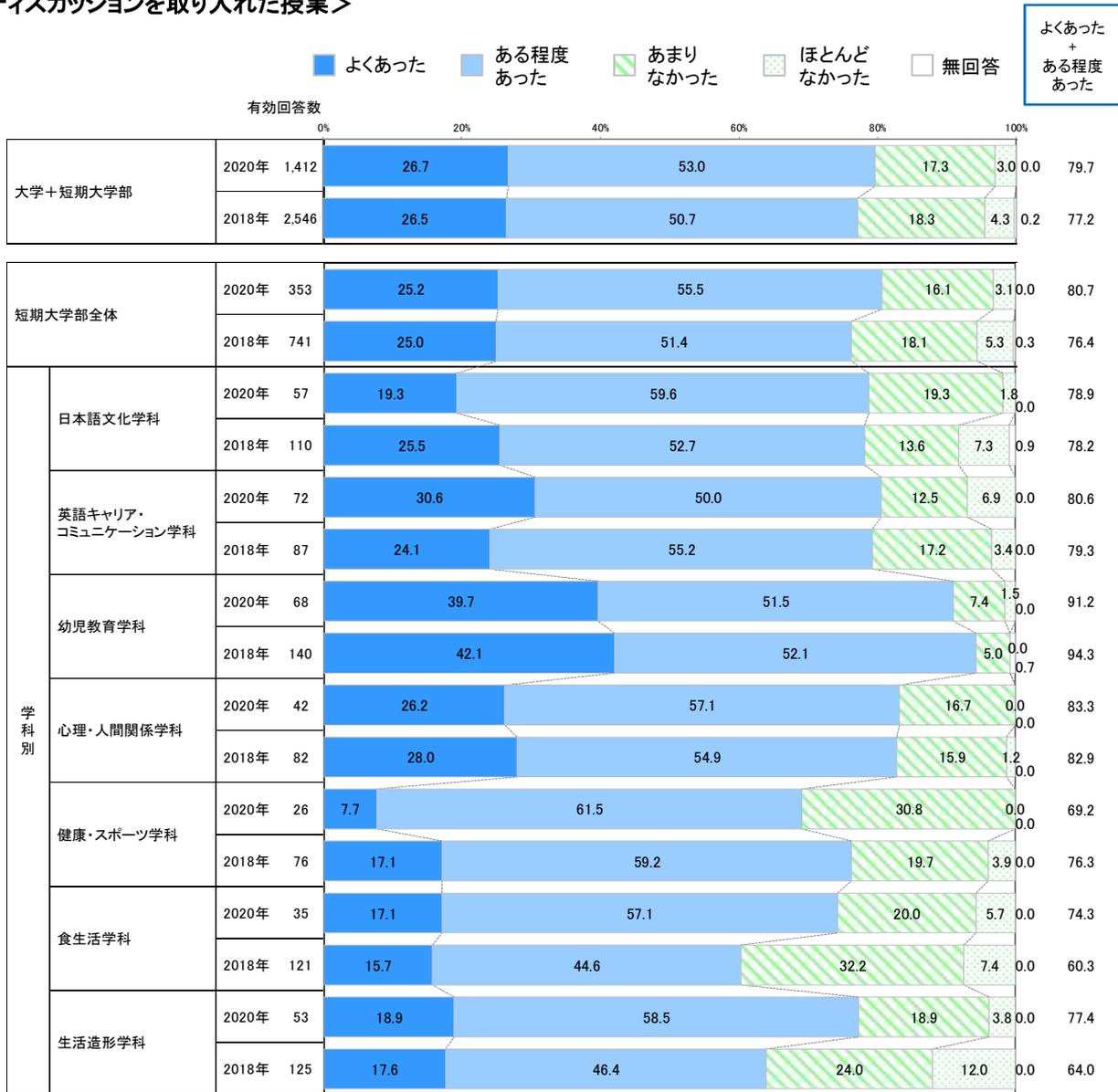


学びの機会【短期大学部 学科別 経年比較】

- 短期大学部の結果を経年で比較すると、ディスカッションを取り入れた授業の経験率(「よくあった」+「ある程度あった」)が高まっているのは食生活学科、生活造形学科で、いずれも13~14pt程度上昇している。
- 対して、健康・スポーツ学科は、経験率が2018年度よりも7.1pt低下し、「よくあった」の割合も7.7%と低い。

Q3 あなたが在学中に受講した授業の中で、次のような経験がどの程度ありましたか。

<ディスカッションを取り入れた授業>

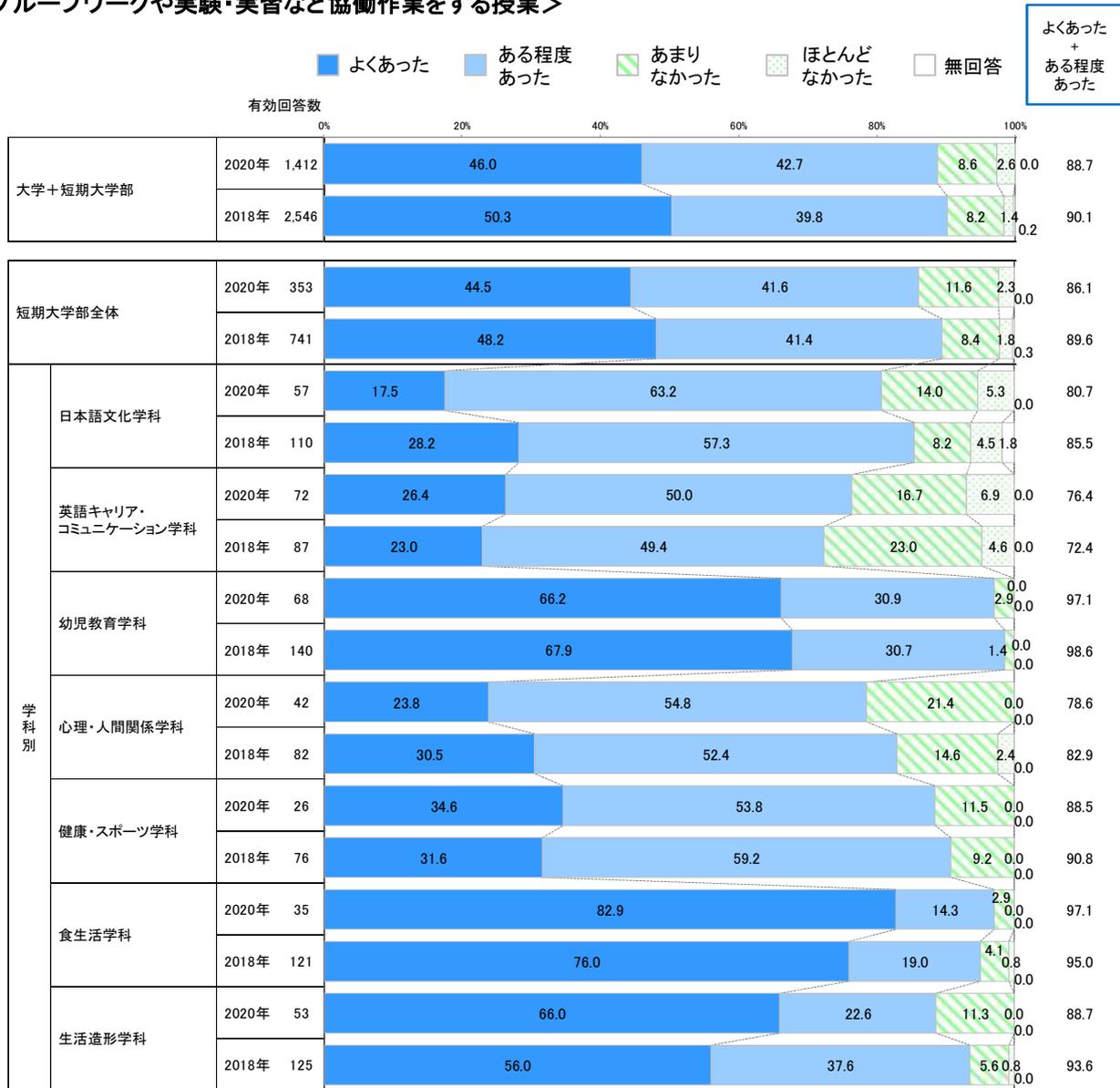


学びの機会【短期大学部 学科別 経年比較】

- 短期大学部の結果を経年で比較すると、グループワークや実験・実習など協働作業をする授業の経験率（「よくあった」+「ある程度あった」）が特に高まっているのは英語キャリア・コミュニケーション学科で、4.0pt上昇している。
- 対して、日本語文化学科、心理・人間関係学科、生活造形学科は、経験率が2018年度よりも4pt以上低下している。

Q3 あなたが在学中に受講した授業の中で、次のような経験がどの程度ありましたか。

<グループワークや実験・実習など協働作業をする授業>

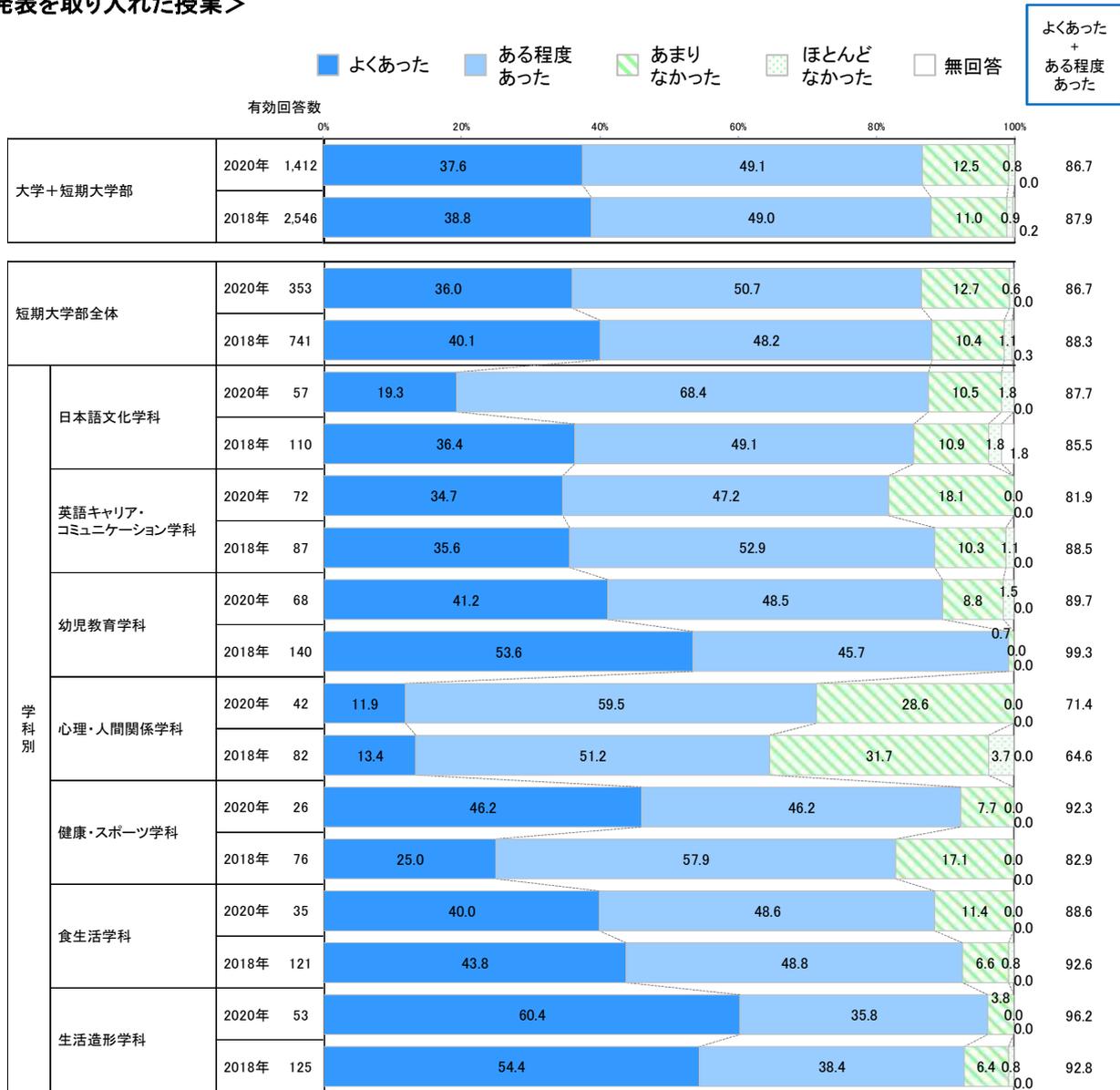


学びの機会【短期大学部 学科別 経年比較】

- 短期大学部の結果を経年で比較すると、発表を取り入れた授業の経験率(「よくあった」+「ある程度あった」)が特に高まっているのは、心理・人間関係学科、健康・スポーツ学科で、7～9pt程度上昇している。
- 対して、英語キャリア・コミュニケーション学科、幼児教育学科は、経験率が2018年度よりも7～10pt程度低下している。

Q3 あなたが在学中に受講した授業の中で、次のような経験がどの程度ありましたか。

<発表を取り入れた授業>

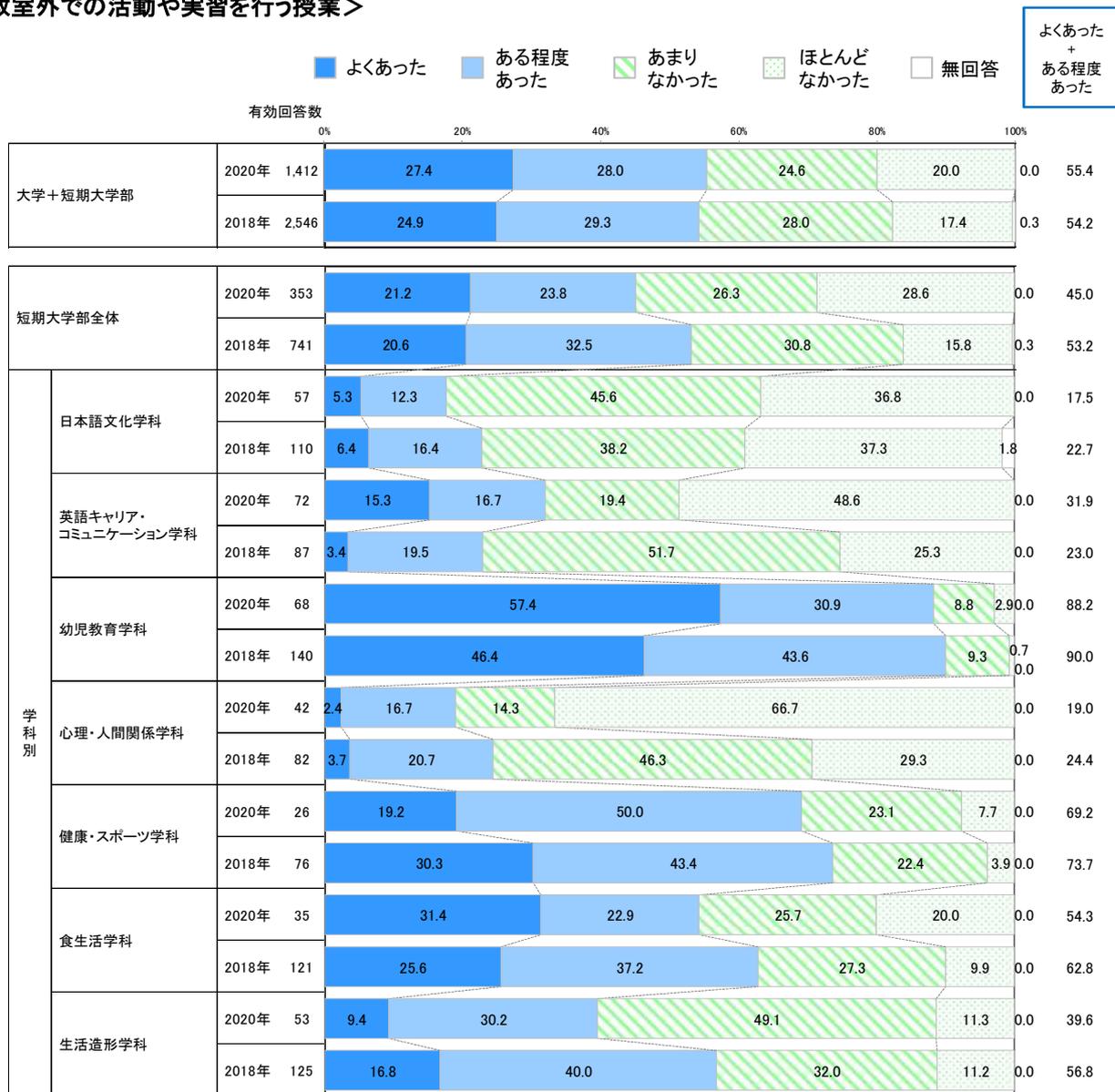


学びの機会【短期大学部 学科別 経年比較】

- 短期大学部の結果を経年で比較すると、教室外での活動や実習を行う授業の経験率(「よくあった」+「ある程度あった」)が高まっているのは英語キャリア・コミュニケーション学科のみで、8.9pt上昇している。
- 対して、生活造形学科は、経験率が2018年度よりも17.2pt低下している。また、食生活学科でも8.5ptの低下がみられる。

Q3 あなたが在学中に受講した授業の中で、次のような経験がどの程度ありましたか。

<教室外での活動や実習を行う授業>

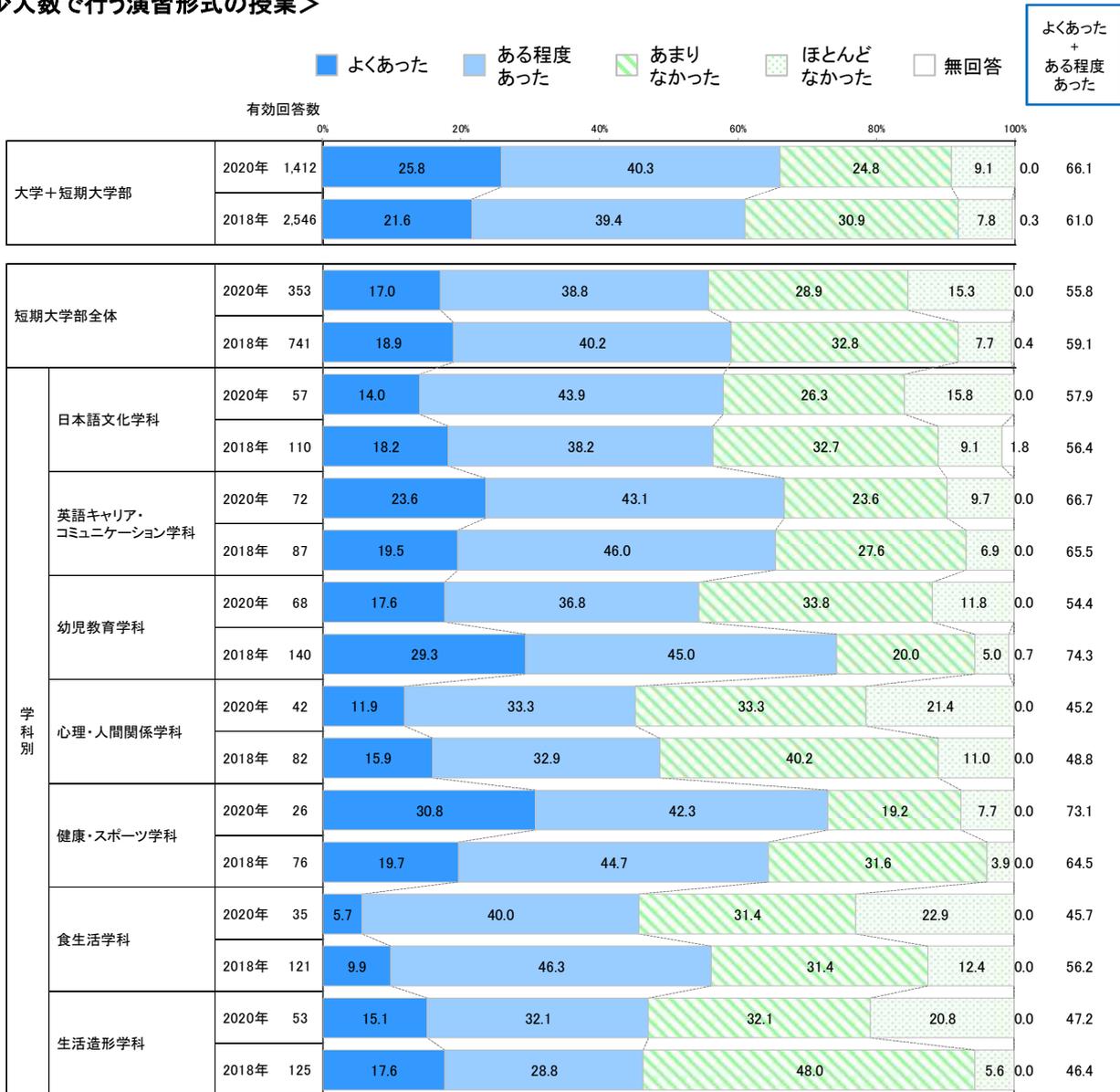


学びの機会【短期大学部 学科別 経年比較】

- 短期大学部の結果を経年で比較すると、少人数で行う演習形式の授業の経験率(「よくあった」+「ある程度あった」)が特に高まっているのは健康・スポーツ学科で、8.6pt上昇している。
- 対して、幼児教育学科は、経験率が2018年度よりも19.9pt低下している。また、食生活学科でも10.5pt低下している。

Q3 あなたが在学中に受講した授業の中で、次のような経験がどの程度ありましたか。

<少人数で行う演習形式の授業>

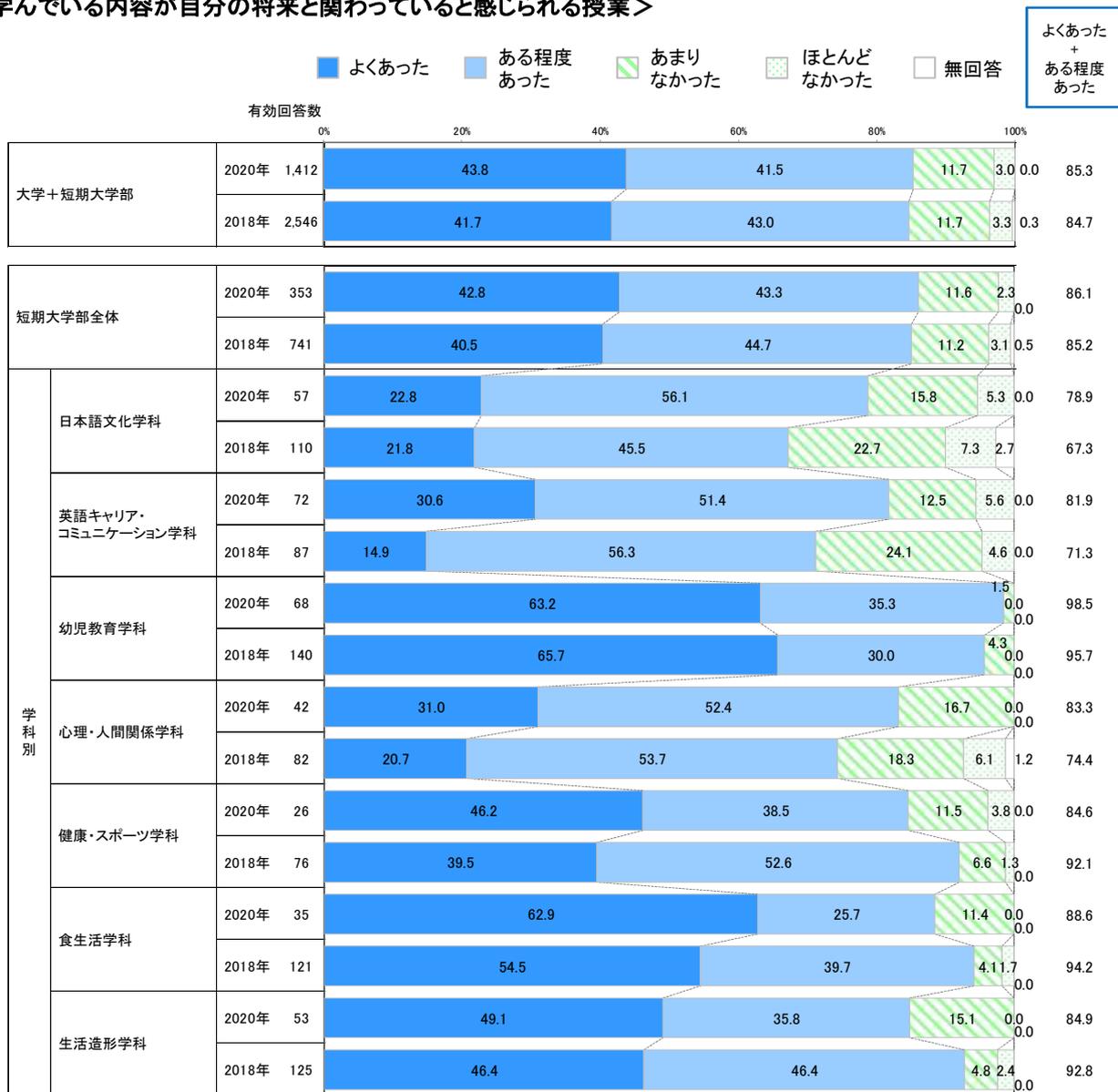


学びの機会【短期大学部 学科別 経年比較】

- 短期大学部の結果を経年で比較すると、学んでいる内容が自分の将来と関わっていると感じられる授業の経験率(「よくあった」+「ある程度あった」)が特に高まっているのは日本語文化学科、英語キャリア・コミュニケーション学科で、ともに10pt以上上昇している。
- 対して、健康・スポーツ学科、生活造形学科は、経験率が2018年度よりも8pt程度低下している。

Q3 あなたが在学中に受講した授業の中で、次のような経験がどの程度ありましたか。

<学んでいる内容が自分の将来と関わっていると感じられる授業>



学びの機会【大学院 専攻別 今年度結果】

- 大学院は、ディスカッションを取り入れた授業の経験率(「よくあった」+「ある程度あった」)が約9割と高い。
- 「よくあった」と回答した学生が6割半ばを占める。

Q3 あなたが在学中に受講した授業の中で、次のような経験がどの程度ありましたか。

＜ディスカッションを取り入れた授業＞

		有効回答数	よくあった	ある程度あった	あまりなかった	ほとんどなかった	無回答	よくあった+ある程度あった
大学院全体		42	66.7	23.8	7.1	2.4	0.0	90.5
専攻別	大学院 修士課程・計	40	65.0	25.0	7.5	2.5	0.0	90.0
	文学研究科 日本語日本文学専攻	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	文学研究科 英語英米文学専攻	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	文学研究科 臨床心理学専攻	2	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	臨床教育学研究科 臨床教育学専攻	5	40.0	40.0	0.0	20.0	0.0	80.0
	健康・スポーツ科学研究科 健康・スポーツ科学専攻	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	生活環境学研究科 食物栄養学専攻	4	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	生活環境学研究科 生活環境学専攻	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	生活環境学研究科 建築学専攻	22	54.5	31.8	13.6	0.0	0.0	86.4
	薬学研究科 薬科学専攻	2	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	看護学研究科 看護学専攻(看護学研究コース)	2	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	看護学研究科 看護学専攻(看護学研究保健師コース)	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	大学院 博士後期課程・計	2	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	文学研究科 英語英米文学専攻	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	臨床教育学研究科 臨床教育学専攻	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	生活環境学研究科 食物栄養学専攻	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	生活環境学研究科 生活環境学専攻	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
薬学研究科 薬学専攻	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
看護学研究科 看護学専攻	2	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	

【単位：%】

※大学院については回収サンプル数が少ないため、参考値として数表で結果を掲載

学びの機会【大学院 専攻別 今年度結果】

- 大学院は、グループワークや実験・実習など協働作業をする授業の経験率(「よくあった」+「ある程度あった」)が9割半ばと高い。
- 「よくあった」と回答した学生が約7割を占める。

Q3 あなたが在学中に受講した授業の中で、次のような経験がどの程度ありましたか。

<グループワークや実験・実習など協働作業をする授業>

		有効回答数	よくあった	ある程度あった	あまりなかった	ほとんどなかった	無回答	よくあった+ある程度あった
大学院全体		42	69.0	26.2	4.8	0.0	0.0	95.2
専攻別	大学院 修士課程・計	40	70.0	27.5	2.5	0.0	0.0	97.5
	文学研究科 日本語日本文学専攻	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	文学研究科 英語英米文学専攻	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	文学研究科 臨床心理学専攻	2	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	臨床教育学研究科 臨床教育学専攻	5	40.0	60.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	健康・スポーツ科学研究科 健康・スポーツ科学専攻	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	生活環境学研究科 食物栄養学専攻	4	50.0	25.0	25.0	0.0	0.0	75.0
	生活環境学研究科 生活環境学専攻	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	生活環境学研究科 建築学専攻	22	72.7	27.3	0.0	0.0	0.0	100.0
	薬学研究科 薬科学専攻	2	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	看護学研究科 看護学専攻(看護学研究コース)	2	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	看護学研究科 看護学専攻(看護学研究保健師コース)	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	大学院 博士後期課程・計	2	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0
	文学研究科 英語英米文学専攻	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	臨床教育学研究科 臨床教育学専攻	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	生活環境学研究科 食物栄養学専攻	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	生活環境学研究科 生活環境学専攻	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
薬学研究科 薬学専攻	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
看護学研究科 看護学専攻	2	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0	

【単位：%】

※大学院については回収サンプル数が少ないため、参考値として数表で結果を掲載

学びの機会【大学院 専攻別 今年度結果】

- 大学院は、発表を取り入れた授業の経験率(「よくあった」+「ある程度あった」)が100.0%である。
- 「よくあった」と回答した学生が約9割を占めている。

Q3 あなたが在学中に受講した授業の中で、次のような経験がどの程度ありましたか。

<発表を取り入れた授業>

		有効回答数	よくあった	ある程度あった	あまりなかった	ほとんどなかった	無回答	よくあった ⁺ ある程度あった
大学院全体		42	90.5	9.5	0.0	0.0	0.0	100.0
専攻別	大学院 修士課程・計	40	90.0	10.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	文学研究科 日本語日本文学専攻	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	文学研究科 英語英米文学専攻	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	文学研究科 臨床心理学専攻	2	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	臨床教育学研究科 臨床教育学専攻	5	60.0	40.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	健康・スポーツ科学研究科 健康・スポーツ科学専攻	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	生活環境学研究科 食物栄養学専攻	4	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	生活環境学研究科 生活環境学専攻	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	生活環境学研究科 建築学専攻	22	95.5	4.5	0.0	0.0	0.0	100.0
	薬学研究科 薬科学専攻	2	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	看護学研究科 看護学専攻(看護学研究コース)	2	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	看護学研究科 看護学専攻(看護学研究保健師コース)	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	大学院 博士後期課程・計	2	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	文学研究科 英語英米文学専攻	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	臨床教育学研究科 臨床教育学専攻	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	生活環境学研究科 食物栄養学専攻	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	生活環境学研究科 生活環境学専攻	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
薬学研究科 薬学専攻	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
看護学研究科 看護学専攻	2	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	

【単位：%】

※大学院については回収サンプル数が少ないため、参考値として数表で結果を掲載

学びの機会【大学院 専攻別 今年度結果】

- 大学院は、教室外での活動や実習を行う授業の経験率(「よくあった」+「ある程度あった」)が7割半ばとなっている。
- 「よくあった」と回答した学生は5割半ばである。

Q3 あなたが在学中に受講した授業の中で、次のような経験がどの程度ありましたか。

<教室外での活動や実習を行う授業>

		有効回答数	よくあった	ある程度あった	あまりなかった	ほとんどなかった	無回答	よくあった+ある程度あった
大学院全体		42	54.8	21.4	11.9	11.9	0.0	76.2
専攻別	大学院 修士課程・計	40	55.0	22.5	10.0	12.5	0.0	77.5
	文学研究科 日本語日本文学専攻	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	文学研究科 英語英米文学専攻	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	文学研究科 臨床心理学専攻	2	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	臨床教育学研究科 臨床教育学専攻	5	0.0	40.0	40.0	20.0	0.0	40.0
	健康・スポーツ科学研究科 健康・スポーツ科学専攻	1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	生活環境学研究科 食物栄養学専攻	4	0.0	75.0	25.0	0.0	0.0	75.0
	生活環境学研究科 生活環境学専攻	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	生活環境学研究科 建築学専攻	22	86.4	13.6	0.0	0.0	0.0	100.0
	薬学研究科 薬科学専攻	2	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0	50.0
	看護学研究科 看護学専攻(看護学研究コース)	2	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	看護学研究科 看護学専攻(看護学研究保健師コース)	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	大学院 博士後期課程・計	2	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0
	文学研究科 英語英米文学専攻	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	臨床教育学研究科 臨床教育学専攻	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	生活環境学研究科 食物栄養学専攻	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	生活環境学研究科 生活環境学専攻	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
薬学研究科 薬学専攻	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
看護学研究科 看護学専攻	2	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0	

【単位：%】

※大学院については回収サンプル数が少ないため、参考値として数表で結果を掲載

学びの機会【大学院 専攻別 今年度結果】

- 大学院は、少人数で行う演習形式の授業の経験率(「よくあった」+「ある程度あった」)が9割台後半と非常に高い。
- 「よくあった」と回答した学生が約8割を占める。

Q3 あなたが在学中に受講した授業の中で、次のような経験がどの程度ありましたか。

<少人数で行う演習形式の授業>

		有効回答数	よくあった	ある程度あった	あまりなかった	ほとんどなかった	無回答	よくあった ⁺ ある程度あった
大学院全体		42	78.6	19.0	2.4	0.0	0.0	97.6
専攻別	大学院 修士課程・計	40	80.0	17.5	2.5	0.0	0.0	97.5
	文学研究科 日本語日本文学専攻	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	文学研究科 英語英米文学専攻	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	文学研究科 臨床心理学専攻	2	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	臨床教育学研究科 臨床教育学専攻	5	40.0	60.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	健康・スポーツ科学研究科 健康・スポーツ科学専攻	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	生活環境学研究科 食物栄養学専攻	4	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	生活環境学研究科 生活環境学専攻	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	生活環境学研究科 建築学専攻	22	81.8	13.6	4.5	0.0	0.0	95.5
	薬学研究科 薬科学専攻	2	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	看護学研究科 看護学専攻(看護学研究コース)	2	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	看護学研究科 看護学専攻(看護学研究保健師コース)	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	大学院 博士後期課程・計	2	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	文学研究科 英語英米文学専攻	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	臨床教育学研究科 臨床教育学専攻	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	生活環境学研究科 食物栄養学専攻	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	生活環境学研究科 生活環境学専攻	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
薬学研究科 薬学専攻	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
看護学研究科 看護学専攻	2	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	100.0	

【単位：%】

※大学院については回収サンプル数が少ないため、参考値として数表で結果を掲載

学びの機会【大学院 専攻別 今年度結果】

- 大学院は、学んでいる内容が自分の将来と関わっていると感じられる授業の経験率(「よくあった」+「ある程度あった」)が9割台後半と非常に高い。
- 「よくあった」と回答した学生が約8割を占める。

Q3 あなたが在学中に受講した授業の中で、次のような経験がどの程度ありましたか。

<学んでいる内容が自分の将来と関わっていると感じられる授業>

		有効回答数	よくあった	ある程度あった	あまりなかった	ほとんどなかった	無回答	よくあった+ある程度あった
大学院全体		42	78.6	19.0	2.4	0.0	0.0	97.6
専攻別	大学院 修士課程・計	40	77.5	20.0	2.5	0.0	0.0	97.5
	文学研究科 日本語日本文学専攻	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	文学研究科 英語英米文学専攻	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	文学研究科 臨床心理学専攻	2	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	臨床教育学研究科 臨床教育学専攻	5	60.0	40.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	健康・スポーツ科学研究科 健康・スポーツ科学専攻	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	生活環境学研究科 食物栄養学専攻	4	75.0	25.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	生活環境学研究科 生活環境学専攻	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	生活環境学研究科 建築学専攻	22	86.4	9.1	4.5	0.0	0.0	95.5
	薬学研究科 薬科学専攻	2	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	看護学研究科 看護学専攻(看護学研究コース)	2	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	看護学研究科 看護学専攻(看護学研究保健師コース)	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	大学院 博士後期課程・計	2	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	文学研究科 英語英米文学専攻	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	臨床教育学研究科 臨床教育学専攻	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	生活環境学研究科 食物栄養学専攻	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
生活環境学研究科 生活環境学専攻	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
薬学研究科 薬学専攻	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
看護学研究科 看護学専攻	2	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	

【単位：%】

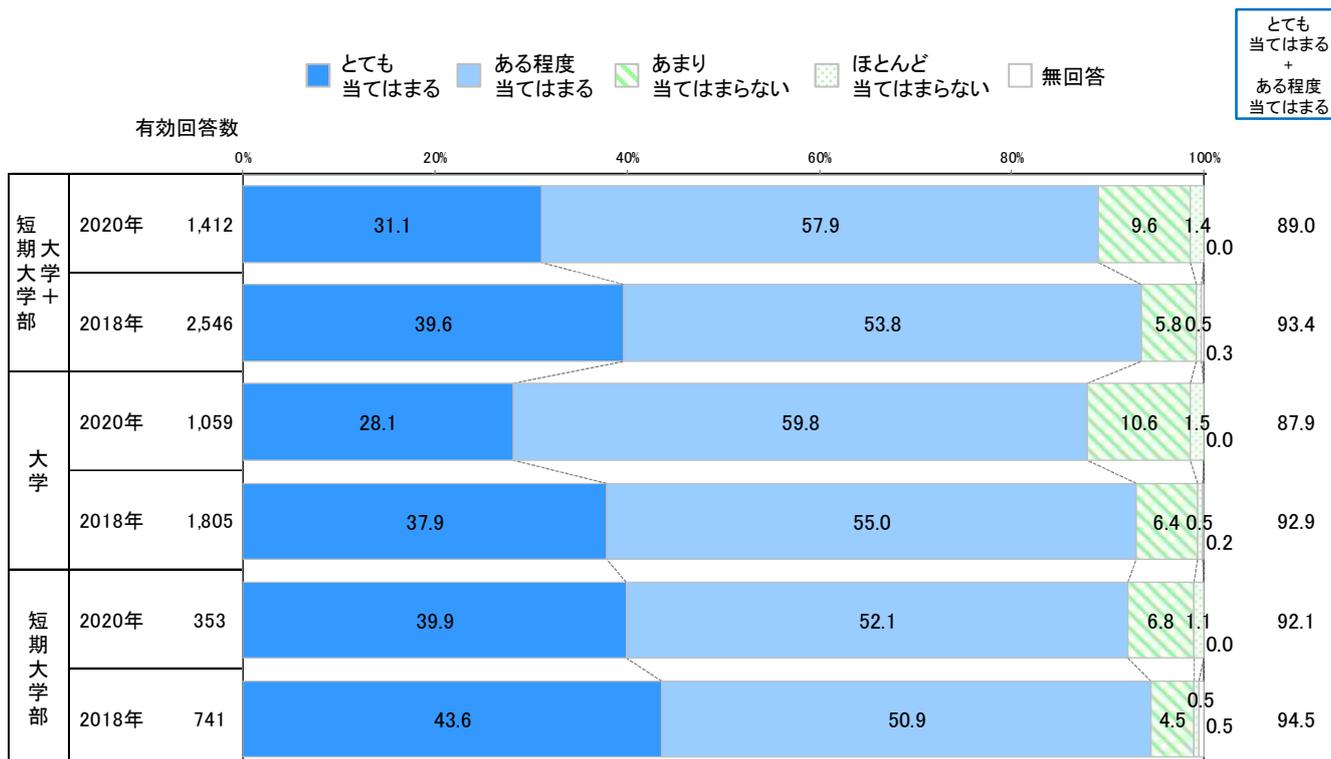
※大学院については回収サンプル数が少ないため、参考値として数表で結果を掲載

学びの充実度【大学・短期大学部 学校区分別 経年比較】

- 2020年度の結果をみると、教養分野の教育(共通教育)が充実している(「とても当てはまる」+「ある程度当てはまる」)と回答した充実度評価は、大学、短期大学部ともに、約9割を占める。
- 結果を経年で比較すると、大学は充実度評価が5.0pt低下している。短期大学部はほぼ同程度。

Q6 あなたは、在学期間を通して、本学の教育内容をどのように感じましたか。

<教養分野の教育(共通教育)が充実している>

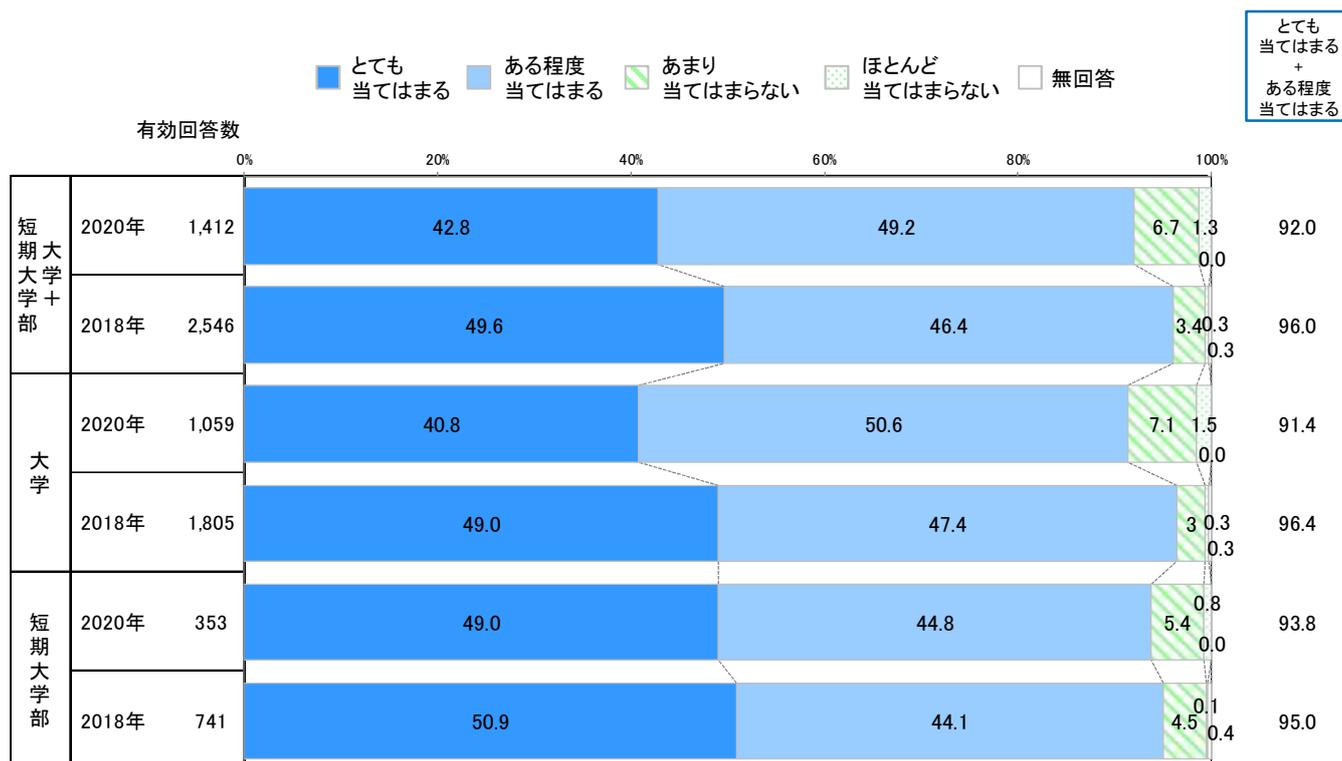


学びの充実度【大学・短期大学部 学校区分別 経年比較】

- 2020年度の結果をみると、専門分野の教育が充実している（「とても当てはまる」+「ある程度当てはまる」）と回答した充実度評価は、大学は約9割、短期大学部は9割強である。
- 結果を経年で比較すると、大学は充実度評価が5.0pt低下している。短期大学部はほぼ同程度。

Q6 あなたは、在学期間を通して、本学の教育内容をどのように感じましたか。

<専門分野の教育が充実している>

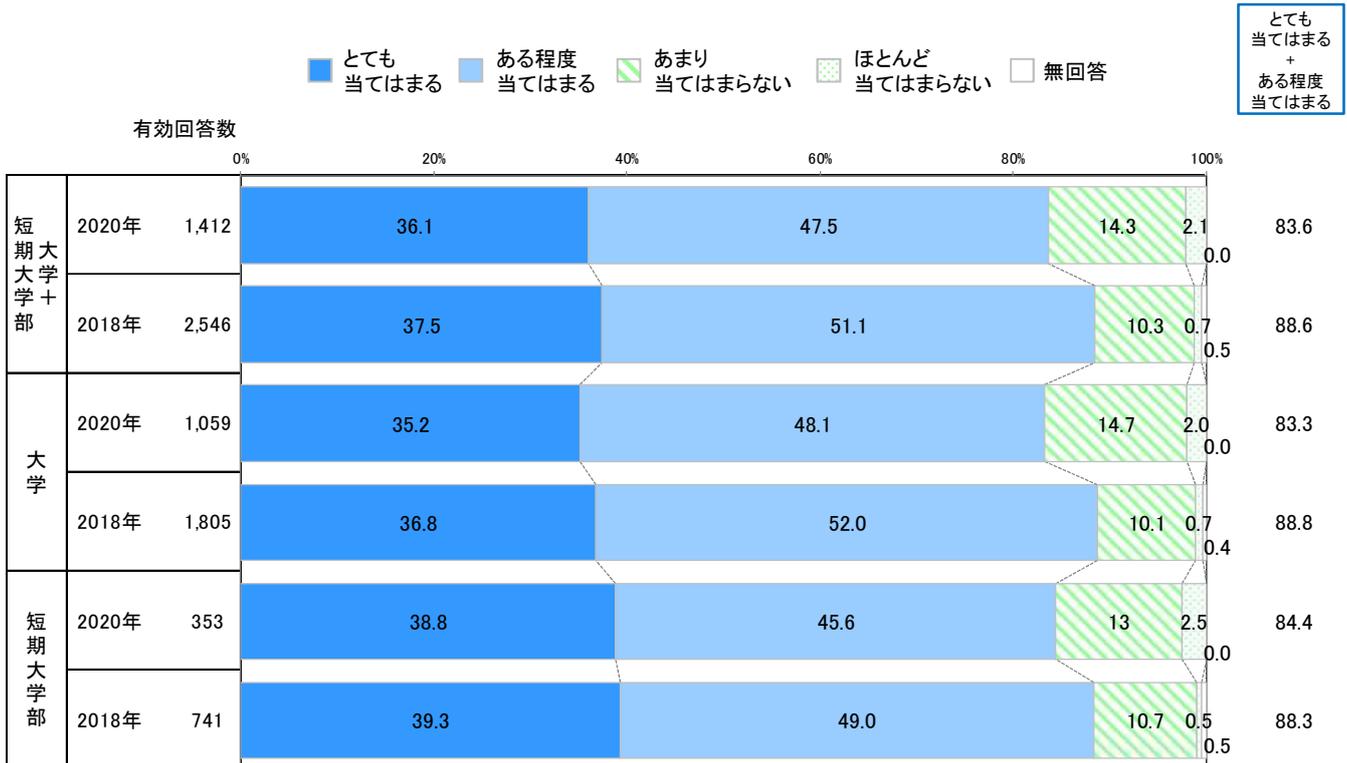


学びの充実度【大学・短期大学部 学校区分別 経年比較】

- 2020年度の結果をみると、実践的・実務的教育が充実している（「とても当てはまる」+「ある程度当てはまる」）と回答した充実度評価は、大学、短期大学部ともに8割強となっている。
- 結果を経年で比較すると、大学は充実度評価が5.5pt低下、短期大学部も3.9pt低下している。

Q6 あなたは、在学期間を通して、本学の教育内容をどのように感じましたか。

<実践的・実務的教育が充実している>

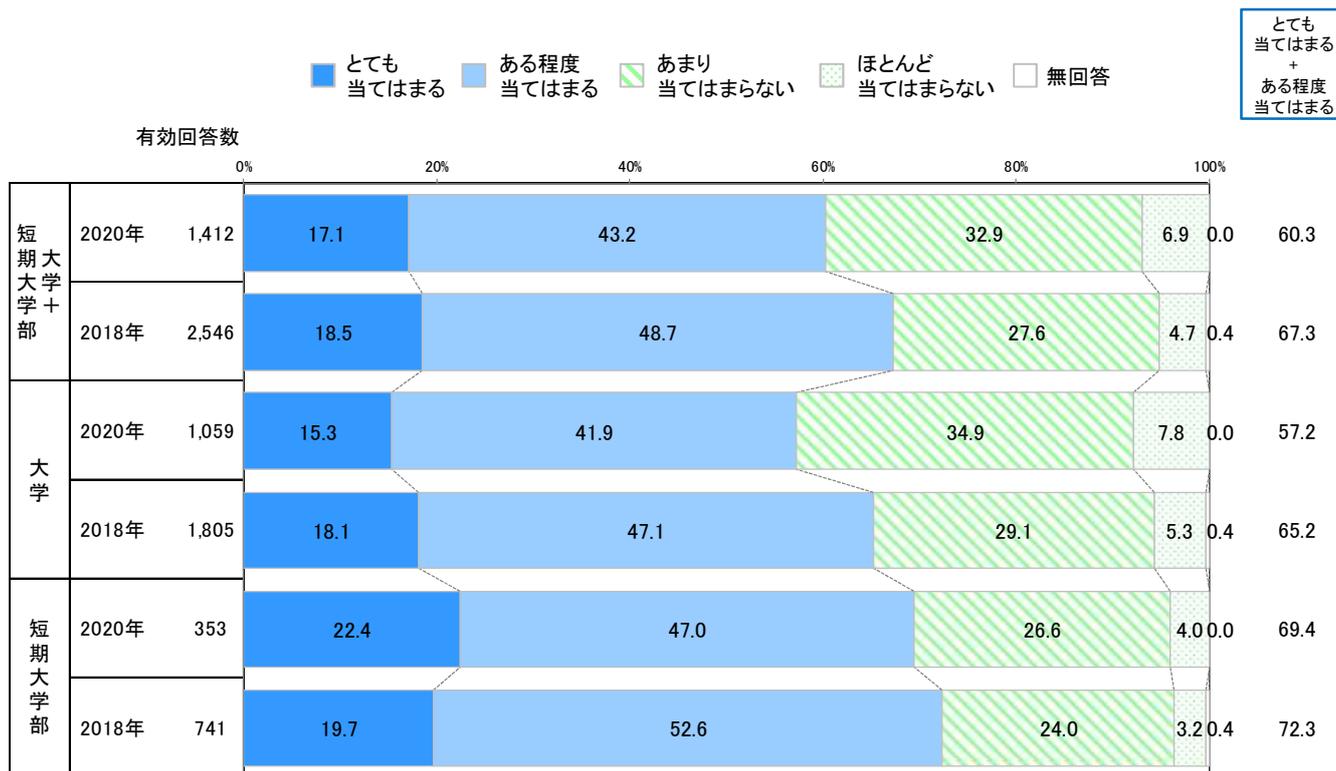


学びの充実度【大学・短期大学部 学校区別 経年比較】

- 2020年度の結果をみると、外国語教育が充実している（「とても当てはまる」+「ある程度当てはまる」）と回答した充実度評価は、大学が約6割、短期大学部は約7割を占めているが、他の充実度評価と比べると低い。「とても当てはまる」の割合も1割～2割程度にとどまる。
- 結果を経年で比較すると、大学は充実度評価が8.0pt低下している。短期大学部はほぼ同程度。

Q6 あなたは、在学期間を通して、本学の教育内容をどのように感じましたか。

<外国語教育が充実している>

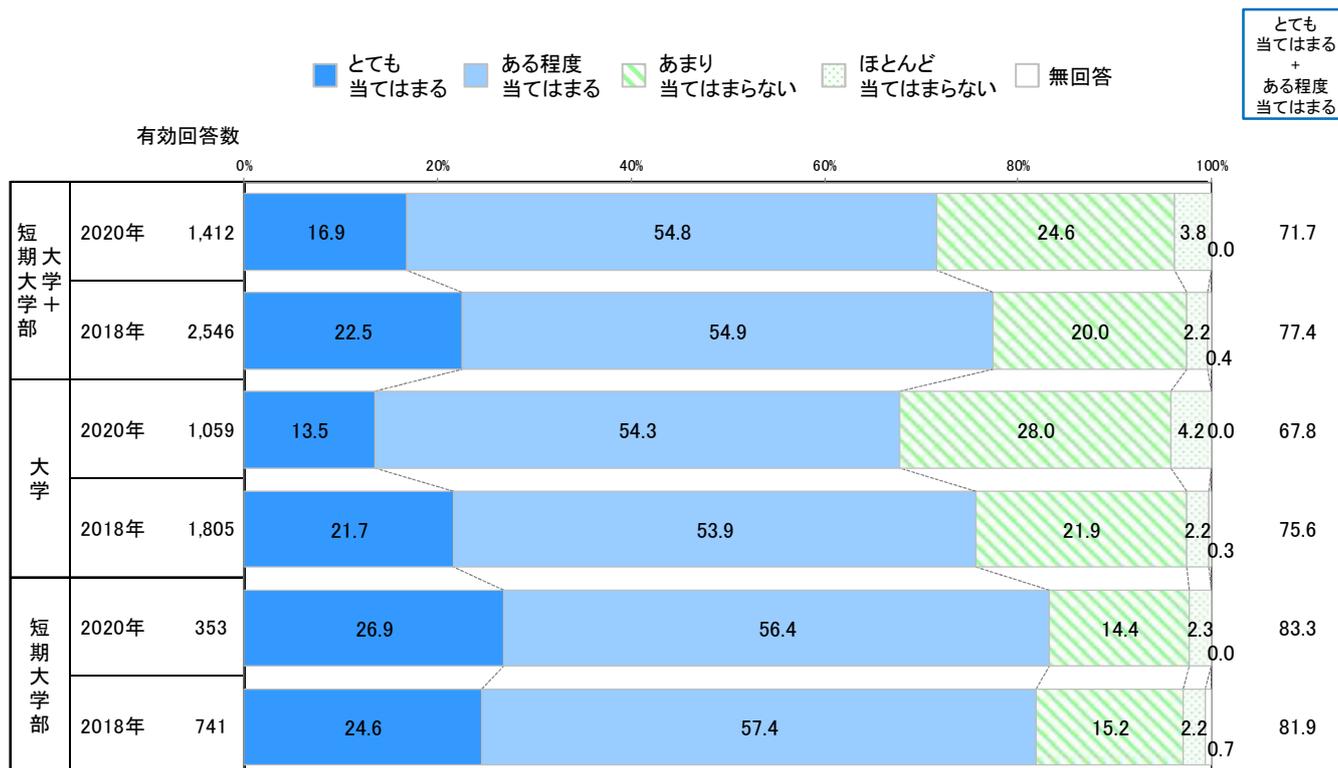


学びの充実度【大学・短期大学部 学校区分別 経年比較】

- 2020年度の結果をみると、情報リテラシー教育(パソコン操作技術や情報処理)が充実している(「とても当てはまる」+「ある程度当てはまる」と回答した充実度評価は、大学では約7割、短期大学部では8割強を占める。しかし、「とても当てはまる」の割合は、大学では1割半ばにとどまる。
- 結果を経年で比較すると、大学は充実度評価が7.8pt低下している。短期大学部はほぼ同程度。

Q6 あなたは、在学期間を通して、本学の教育内容をどのように感じましたか。

<情報リテラシー教育(パソコン操作技術や情報処理)が充実している>

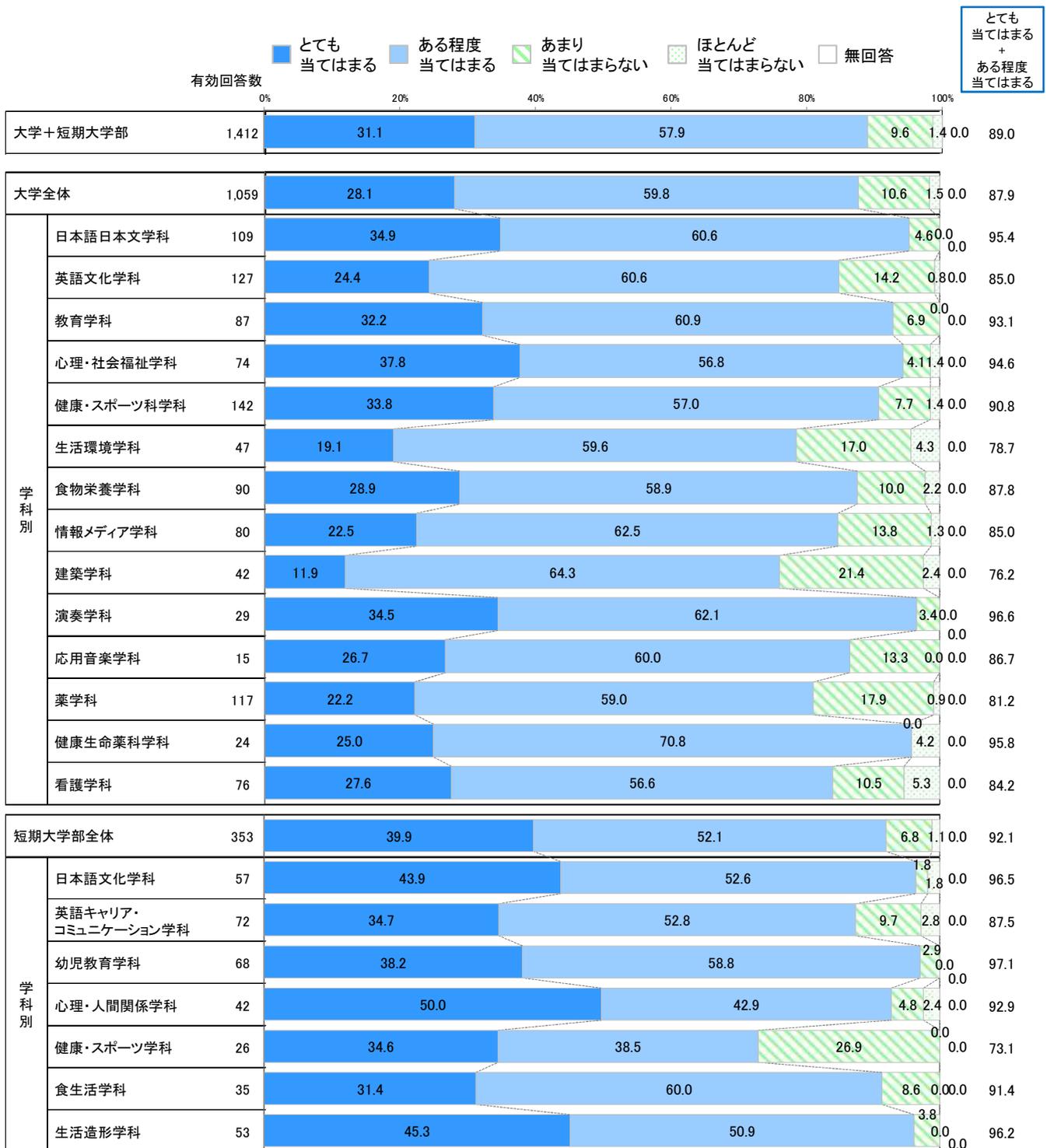


学びの充実度【大学・短期大学部 学科別 今年度結果】

- 大学の学科別で、教養分野の教育(共通教育)が充実している(「とても当てはまる」+「ある程度当てはまる」)と回答した充実度評価が特に高いのは、日本語日本文学科、演奏学科、健康生命薬科学科で、いずれも9割半ばを超える。
- 対して、生活環境学科、建築学科は、充実度評価がいずれも8割に満たない。
- 短期大学部の学科別で充実度評価が特に高いのは、日本語文化学科、幼児教育学科、生活造形学科で、9割半ばを超える。
- 対して、健康・スポーツ学科は、充実度評価が7割強と低い。

Q6 あなたは、在学期間を通して、本学の教育内容をどのように感じましたか。

<教養分野の教育(共通教育)が充実している>

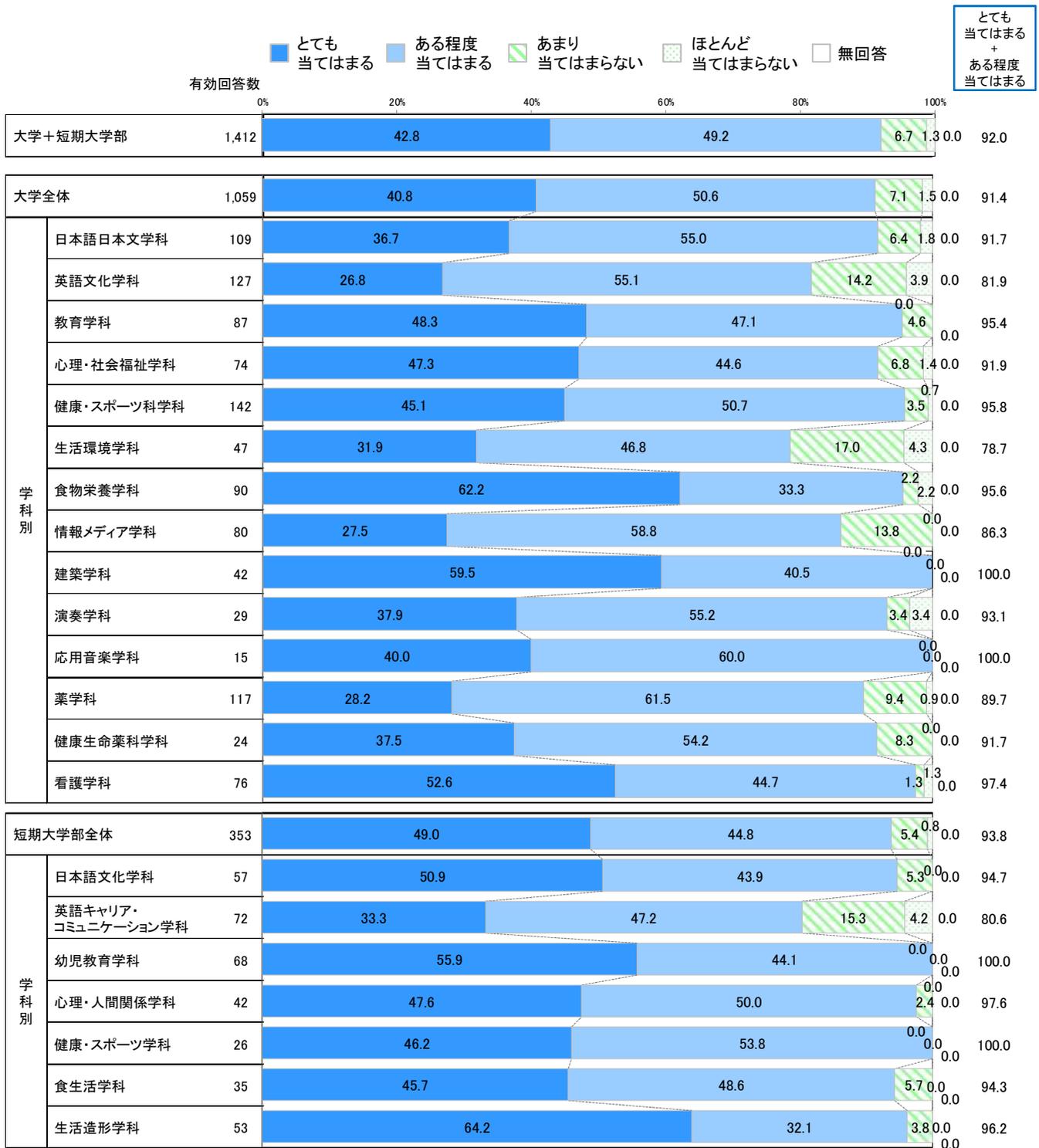


学びの充実度【大学・短期大学部 学科別 今年度結果】

- 大学の学科別で、専門分野の教育が充実している(「とても当てはまる」+「ある程度当てはまる」と回答した充実度評価が特に高いのは、建築学科、応用音楽学科で、ともに100.0%である。
- 対して、英語文化学科、生活環境学科は、充実度評価がともに約8割と低い。
- 短期大学部の学科別で充実度評価が特に高いのは、幼児教育学科、健康・スポーツ学科で、ともに100.0%である。
- 対して、英語キャリア・コミュニケーション学科は、充実度評価が約8割と低く、「とても当てはまる」と回答した学生も3割強と、他の学科と比べて低い。

Q6 あなたは、在学期間を通して、本学の教育内容をどのように感じましたか。

<専門分野の教育が充実している>

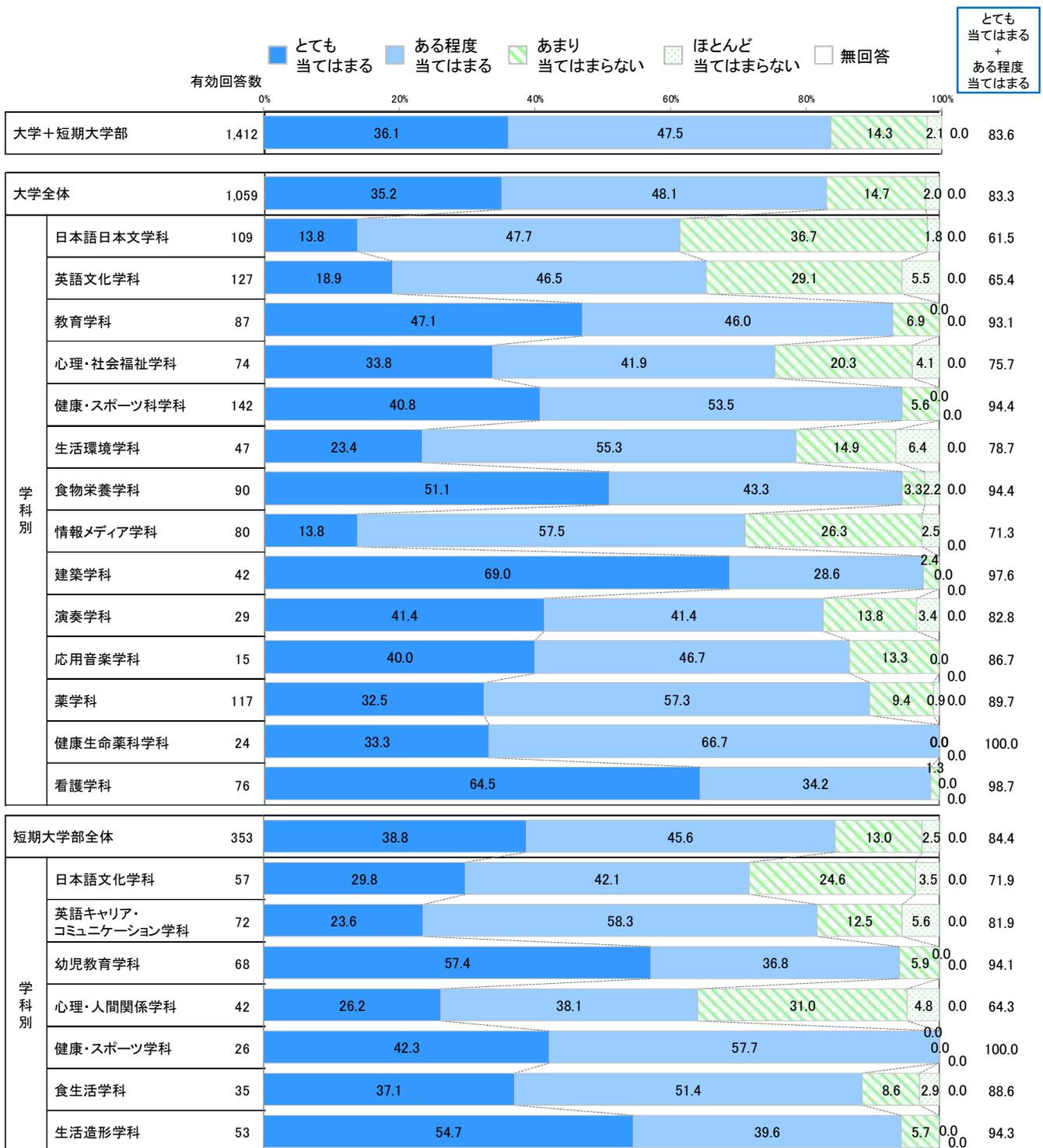


学びの充実度【大学・短期大学部 学科別 今年度結果】

- 大学の学科別で、実践的・実務的教育が充実している(「とても当てはまる」+「ある程度当てはまる」と回答した充実度評価が特に高いのは、建築学科、健康生命薬科学科、看護学科で、いずれも9割台後半と非常に高い(100%も含む)。
- 対して、日本語日本文学科、英語文化学科は、充実度評価がともに7割に満たない。
- 短期大学部の学科別で充実度評価が特に高いのは、幼児教育学科、健康・スポーツ学科、生活造形学科で、いずれも9割を超える。
- 対して、心理・人間関係学科は、充実度評価が6割半ばと低い。

Q6 あなたは、在学期間を通して、本学の教育内容をどのように感じましたか。

<実践的・実務的教育が充実している>

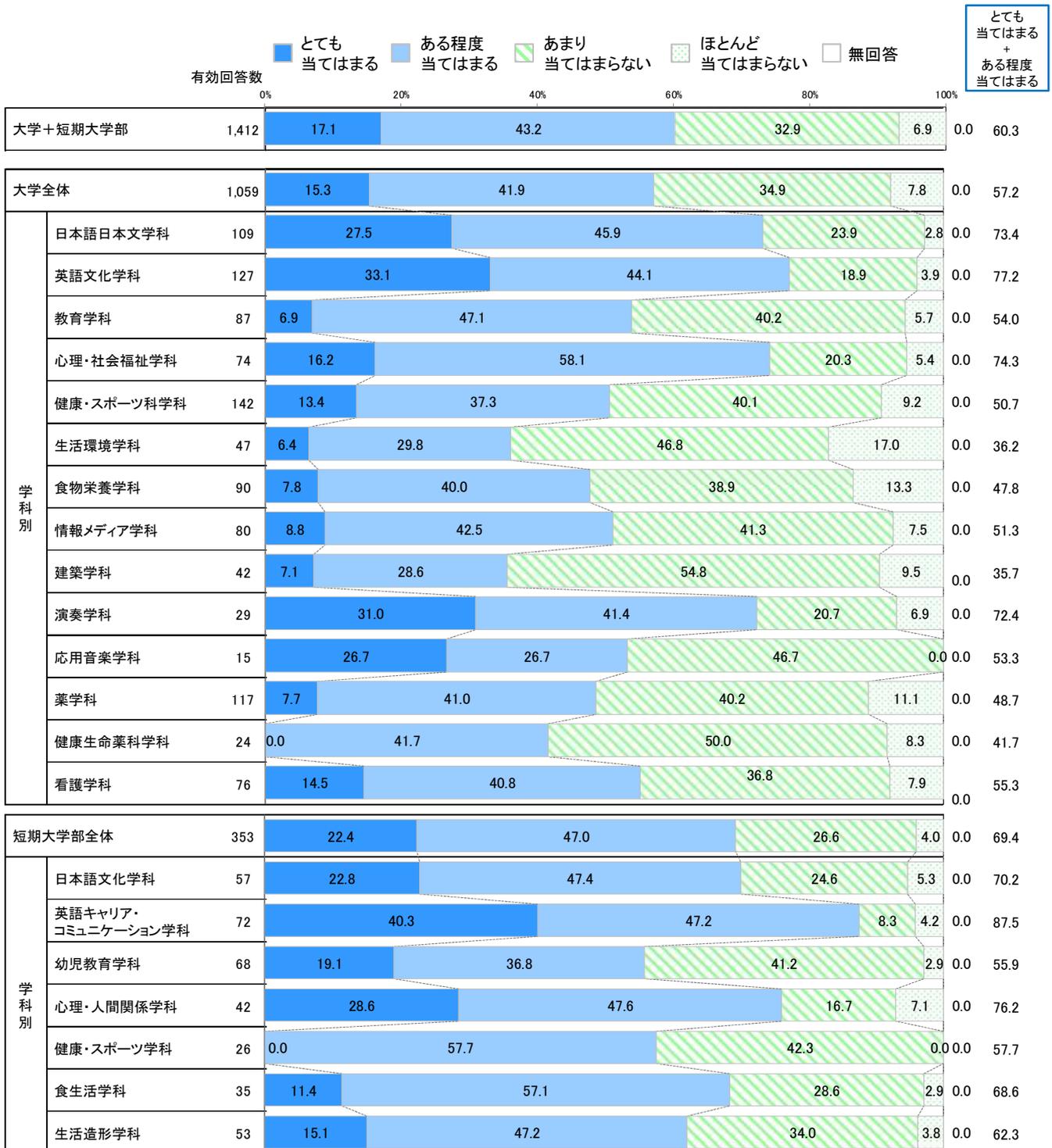


学びの充実度【大学・短期大学部 学科別 今年度結果】

- 大学の学科別で、外国語教育が充実している(「とても当てはまる」+「ある程度当てはまる」と回答した充実度評価が特に高いのは、日本語日本文学科、英語文化学科、心理・社会福祉学科、演奏学科で、いずれも7割以上と高い。
- 対して、生活環境学科、建築学科は、充実度評価がともに4割に満たない。
- 短期大学部の学科別で充実度評価が特に高いのは、英語キャリア・コミュニケーション学科、心理・人間関係学科で、8割弱～約9割である。
- 対して、幼児教育学科、健康・スポーツ学科は、充実度評価が5割台と低い。

Q6 あなたは、在学期間を通して、本学の教育内容をどのように感じましたか。

<外国語教育が充実している>

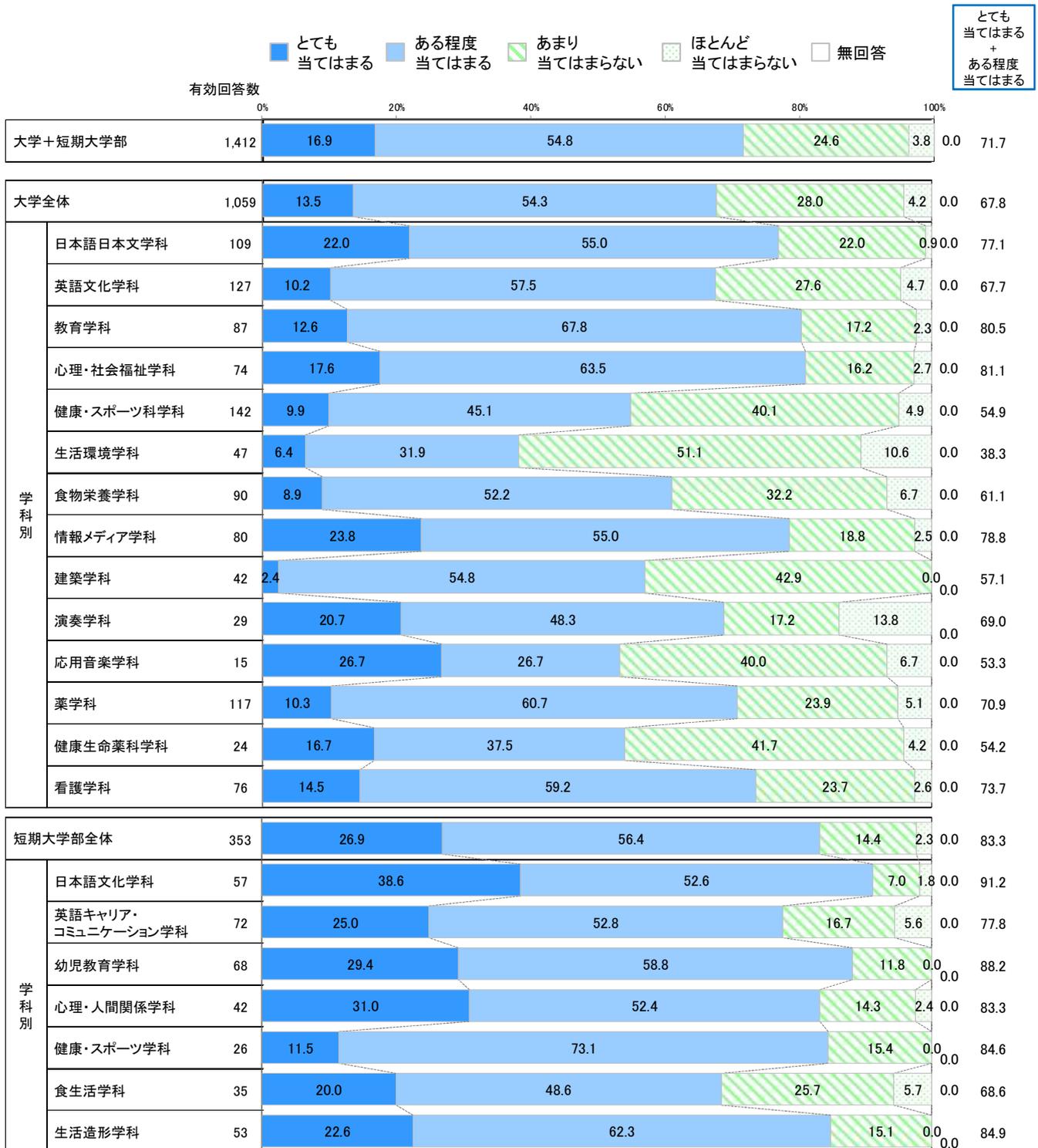


学びの充実度【大学・短期大学部 学科別 今年度結果】

- 大学の学科別で、情報リテラシー教育(パソコン操作技術や情報処理)が充実している(「とても当てはまる」+「ある程度当てはまる」と回答した充実度評価が特に高いのは、教育学科、心理・社会福祉学科で、ともに8割を超えている。
- 対して、生活環境学科は充実度評価が4割に満たない。
- 短期大学部の学科別で充実度評価が特に高いのは日本語文化学科で、9割を超える。
- 対して、食生活学科は充実度評価が約7割と低い。

Q6 あなたは、在学期間を通して、本学の教育内容をどのように感じましたか。

<情報リテラシー教育(パソコン操作技術や情報処理)が充実している>

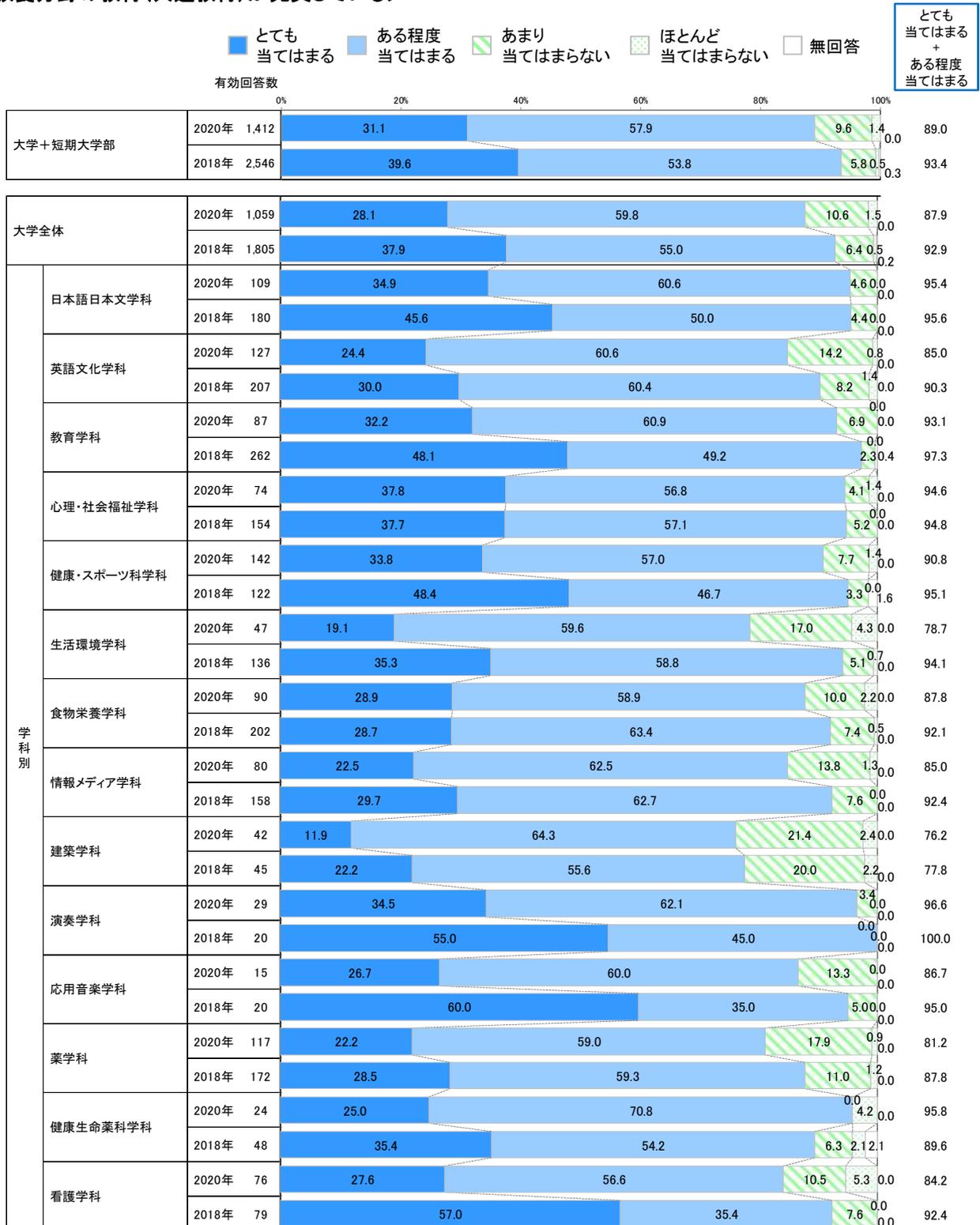


学びの充実度【大学 学科別 経年比較】

- 大学の結果を経年で比較すると、教養分野の教育(共通教育)が充実している(「とても当てはまる」+「ある程度当てはまる」と回答した充実度評価が高まっているのは健康生命薬科学科のみで、6.2pt上昇している。
- 対して、生活環境学科は、充実度評価が2018年度よりも15.4pt低下している。他の多くの学科でも3pt以上低下している。

Q6 あなたは、在学期間を通して、本学の教育内容をどのように感じましたか。

<教養分野の教育(共通教育)が充実している>

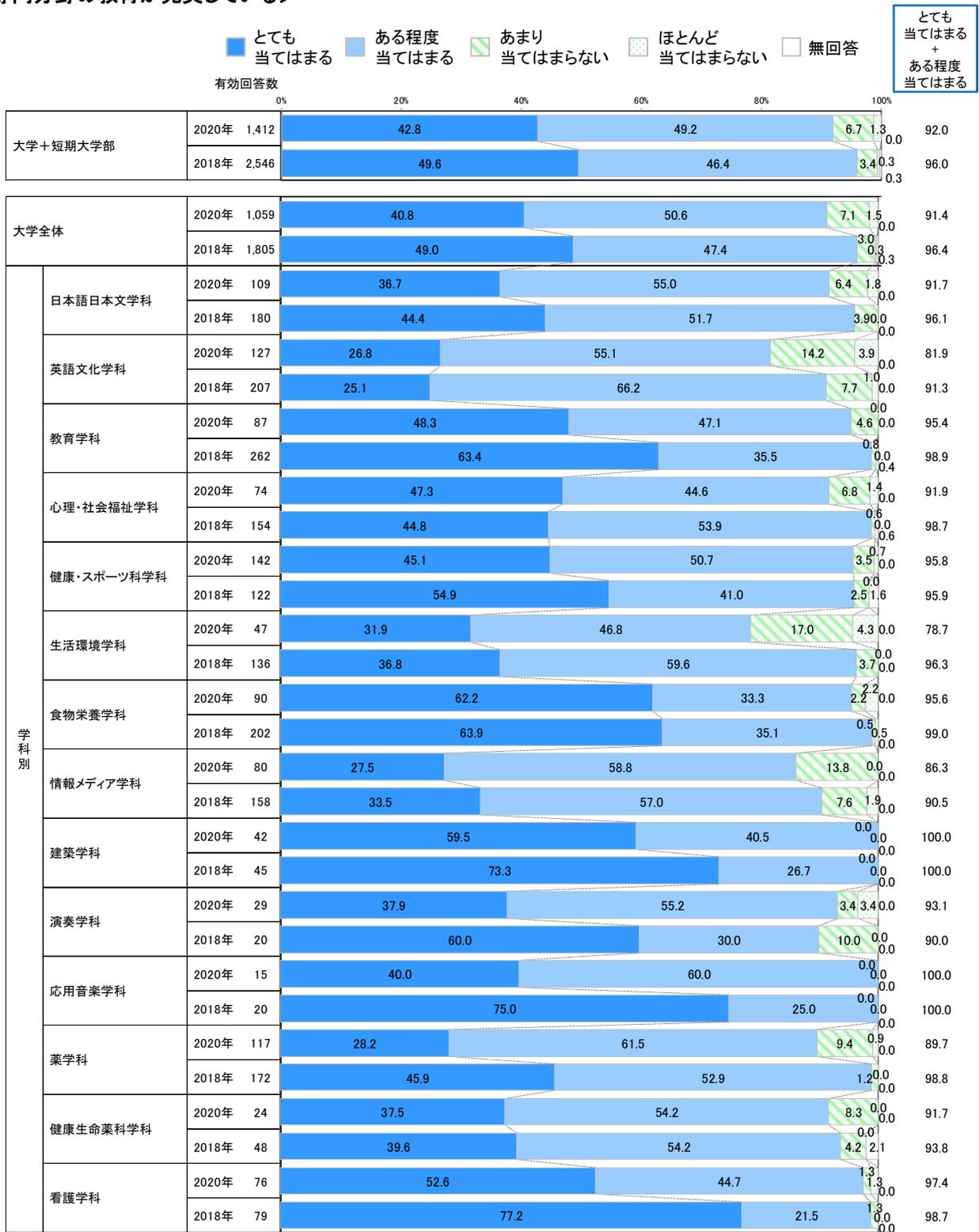


学びの充実度【大学 学科別 経年比較】

- 大学の結果を経年で比較すると、専門分野の教育が充実している(「とても当てはまる」+「ある程度当てはまる」と回答した充実度評価が高まっているのは演奏学科のみで、3.1pt上昇している。建築学科、応用音楽学科は、充実度評価が昨年と変わらず100.0%である。
- 対して、生活環境学科は、充実度評価が2018年度よりも17.6pt低下している。また、英語文化学科、薬学科でも、9pt程度低下している。

Q6 あなたは、在学期間を通して、本学の教育内容をどのように感じましたか。

<専門分野の教育が充実している>

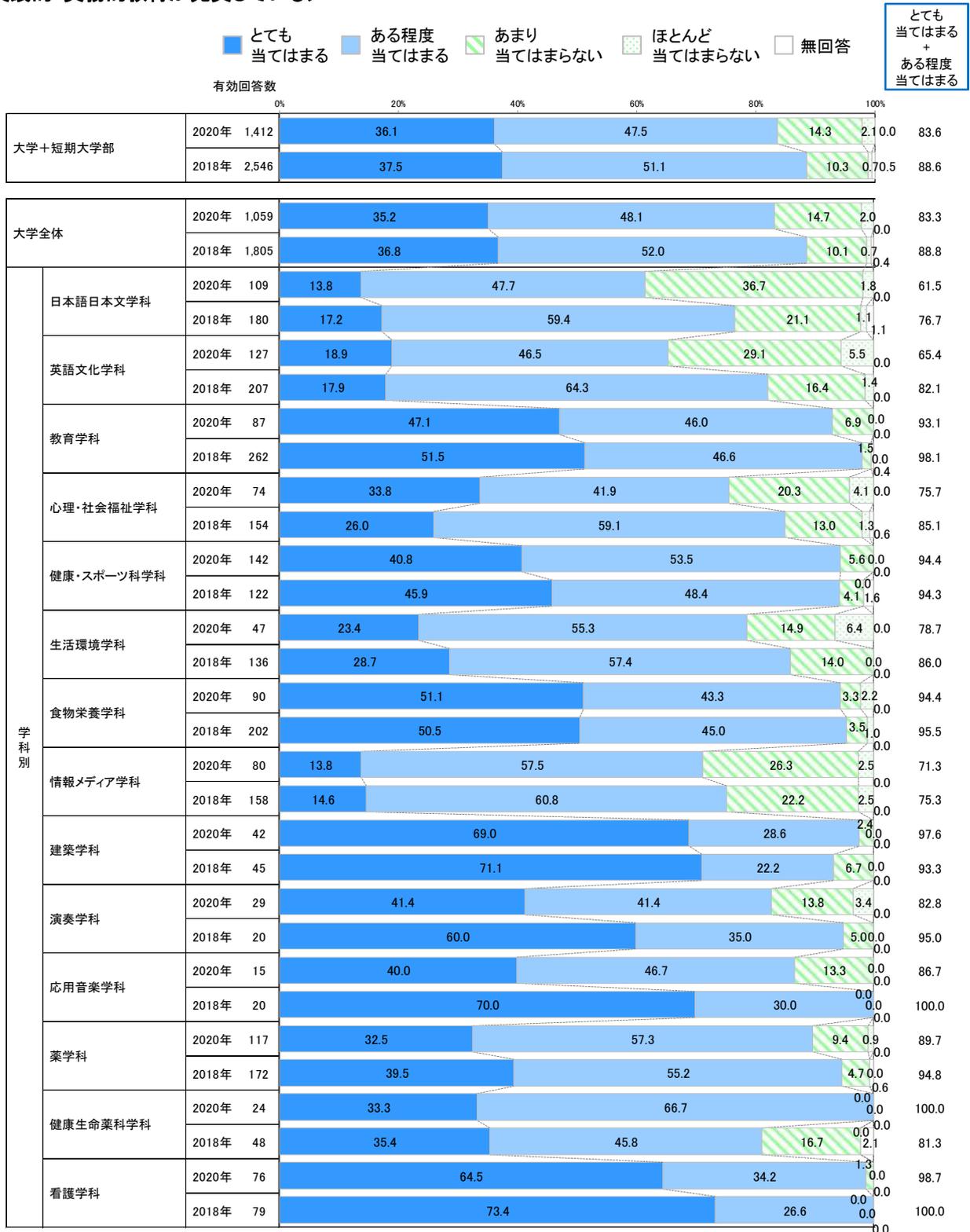


学びの充実度【大学 学科別 経年比較】

- 大学の結果を経年で比較すると、実践的・実務的教育が充実している(「とても当てはまる」+「ある程度当てはまる」と回答した充実度評価が特に高まっているのは健康生命薬科学科で、18.7pt上昇している。また、建築学科も4.3pt上昇している。
- 対して、日本語日本文学科、英語文化学科、演奏学科、応用音楽学科は、充実度評価が2018年度よりも12～17pt程度低下している。

Q6 あなたは、在学期間を通して、本学の教育内容をどのように感じましたか。

<実践的・実務的教育が充実している>

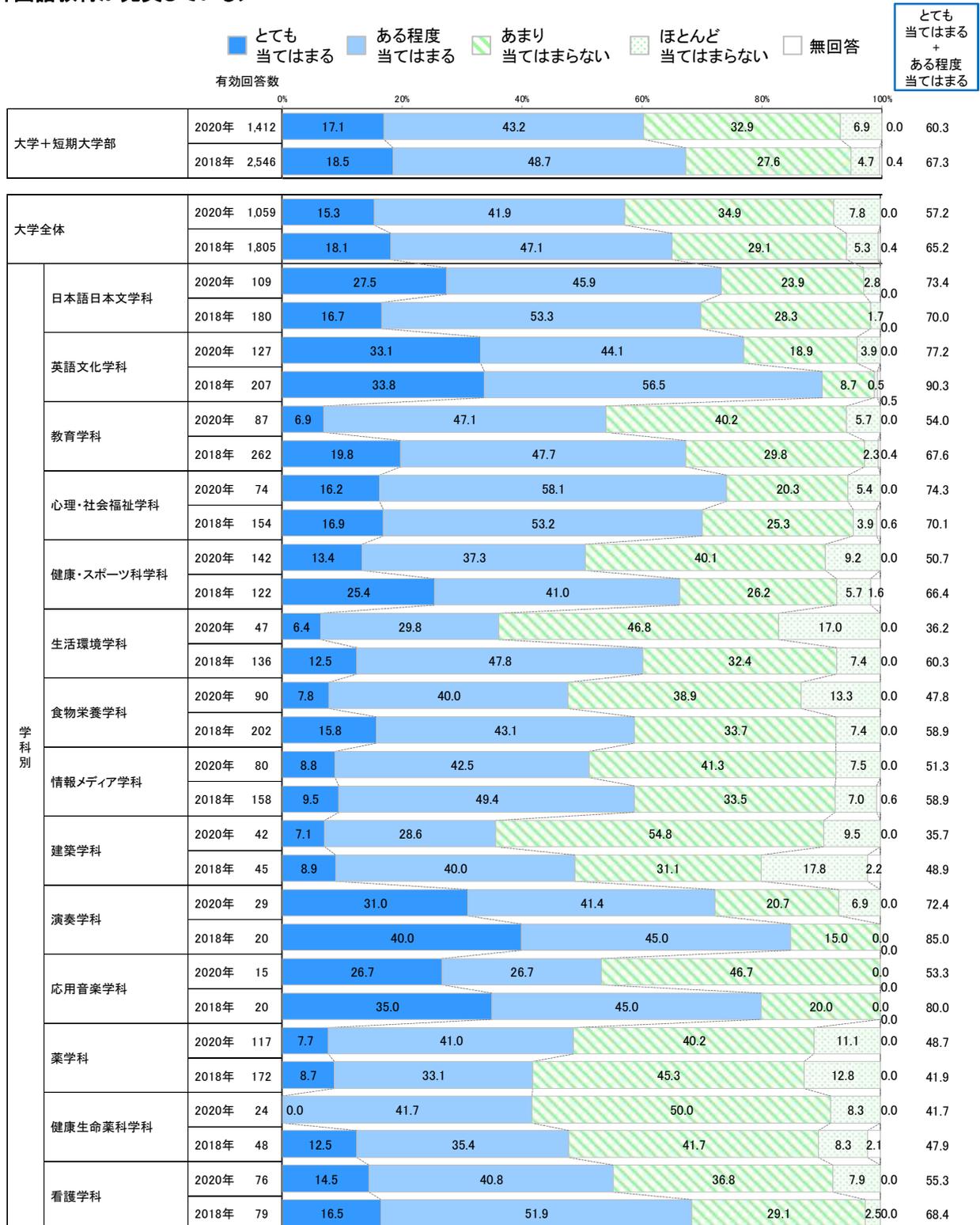


学びの充実度【大学 学科別 経年比較】

- 大学の結果を経年で比較すると、外国語教育が充実している(「とても当てはまる」+「ある程度当てはまる」と回答した充実度評価が高まっているのは日本語日本文学科、心理・社会福祉学科、薬学科で、いずれも3~7pt程度上昇している。
- 対して、生活環境学科、応用音楽学科は、充実度評価が2018年度よりも24~27pt程度低下している。他にも10pt以上低下している学科が多い。

Q6 あなたは、在学期間を通して、本学の教育内容をどのように感じましたか。

<外国語教育が充実している>

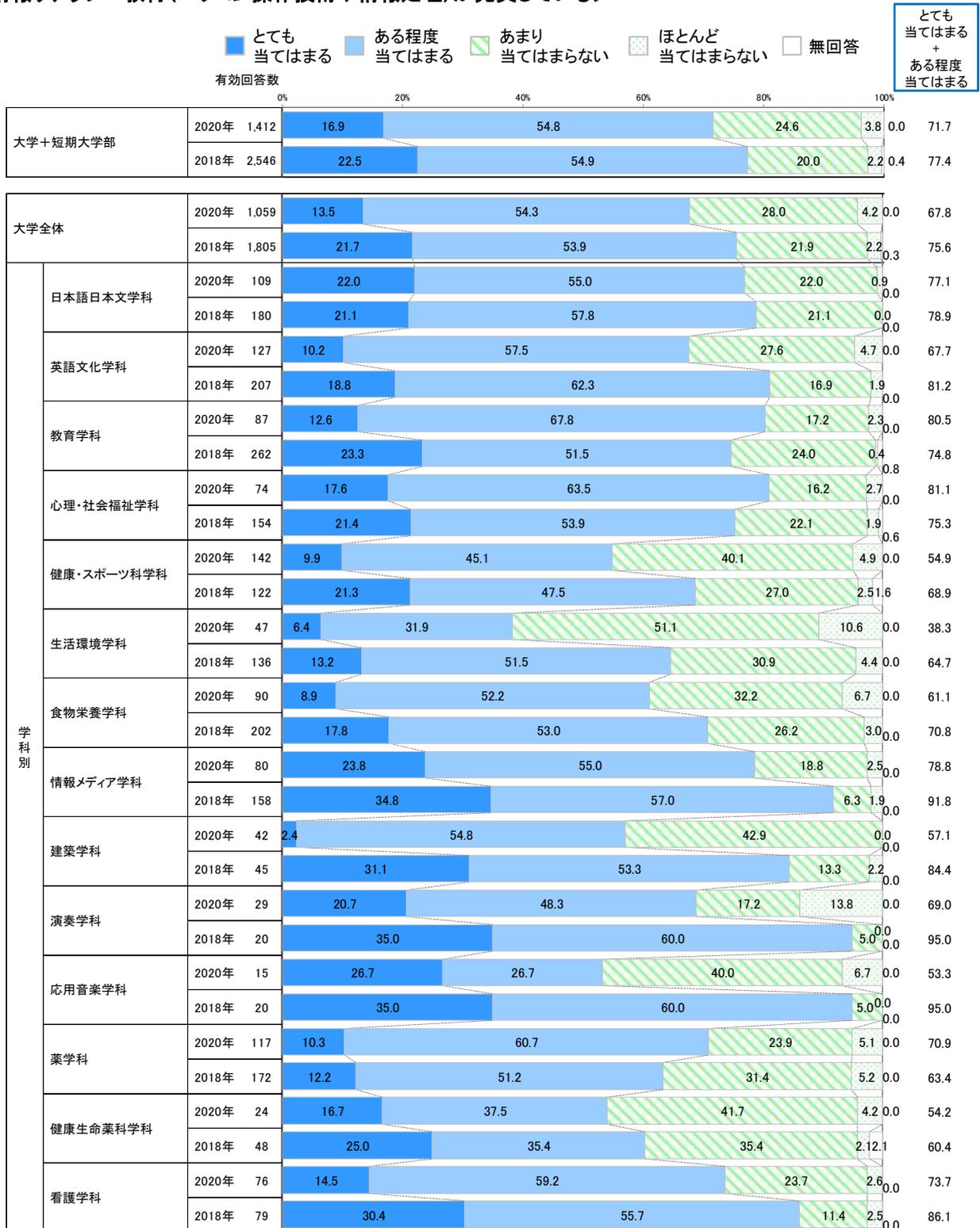


学びの充実度【大学 学科別 経年比較】

- 大学の結果を経年で比較すると、情報リテラシー教育(パソコン操作技術や情報処理)が充実している(「とても当てはまる」+「ある程度当てはまる」と回答した充実度評価が高まっているのは教育学科、心理・社会福祉学科、薬学科で、いずれも6~8pt程度上昇している。
- 対して、応用音楽学科は、充実度評価が2018年度よりも41.7pt低下している。また、生活環境学科、建築学科、演奏学科も、充実度評価が2018年度よりも26~27pt程度低下している。他にも10pt以上低下している学科が多い。

Q6 あなたは、在学期間を通して、本学の教育内容をどのように感じましたか。

<情報リテラシー教育(パソコン操作技術や情報処理)が充実している>

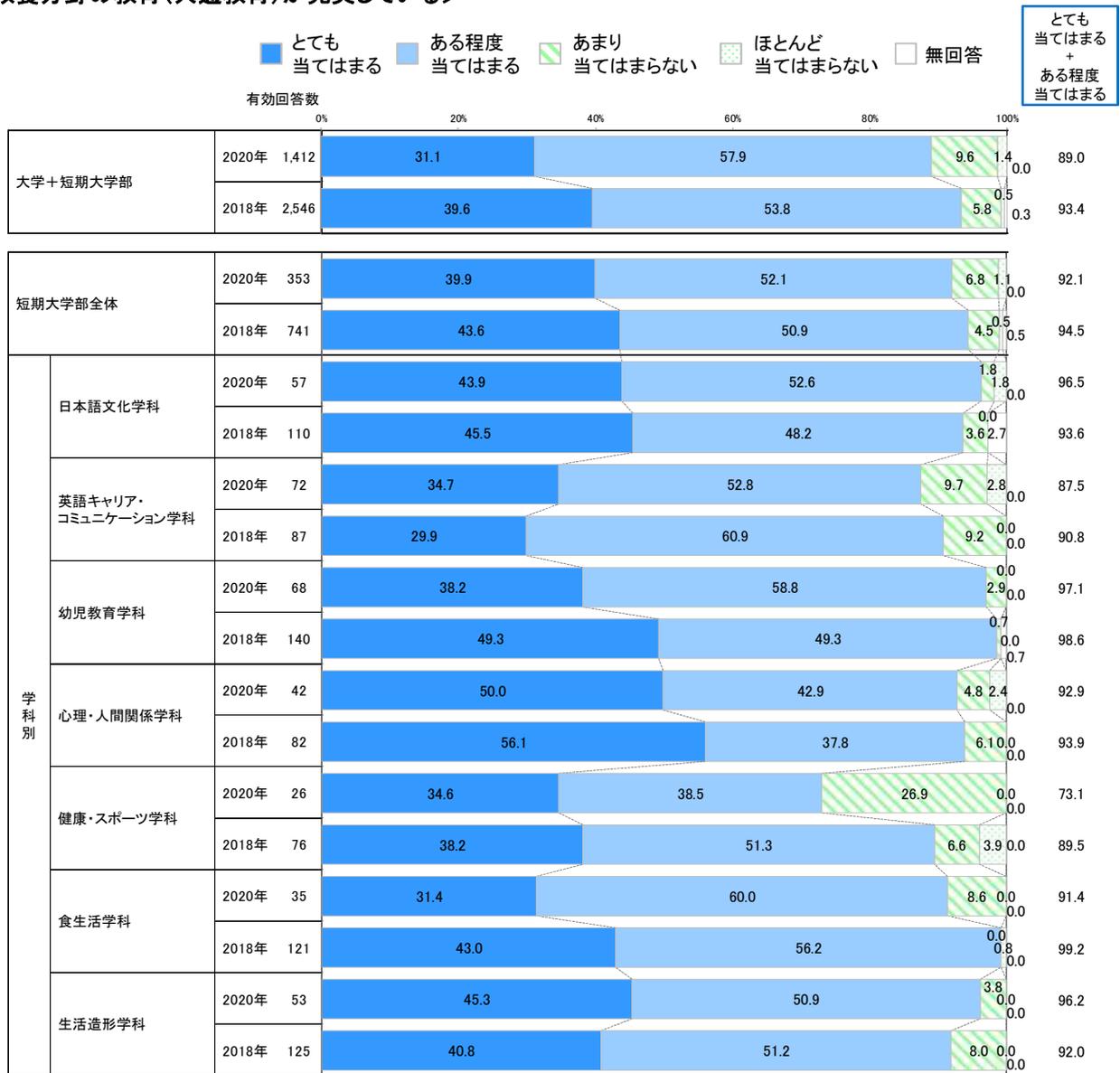


学びの充実度【短期大学部 学科別 経年比較】

- 短期大学部の結果を経年で比較すると、教養分野の教育(共通教育)が充実している(「とても当てはまる」+「ある程度当てはまる」と回答した充実度評価が特に高まっているのは生活造形学科で、4.2pt上昇している。
- 対して、健康・スポーツ学科は、充実度評価が2018年度よりも16.4pt低下している。

Q6 あなたは、在学期間を通して、本学の教育内容をどのように感じましたか。

<教養分野の教育(共通教育)が充実している>

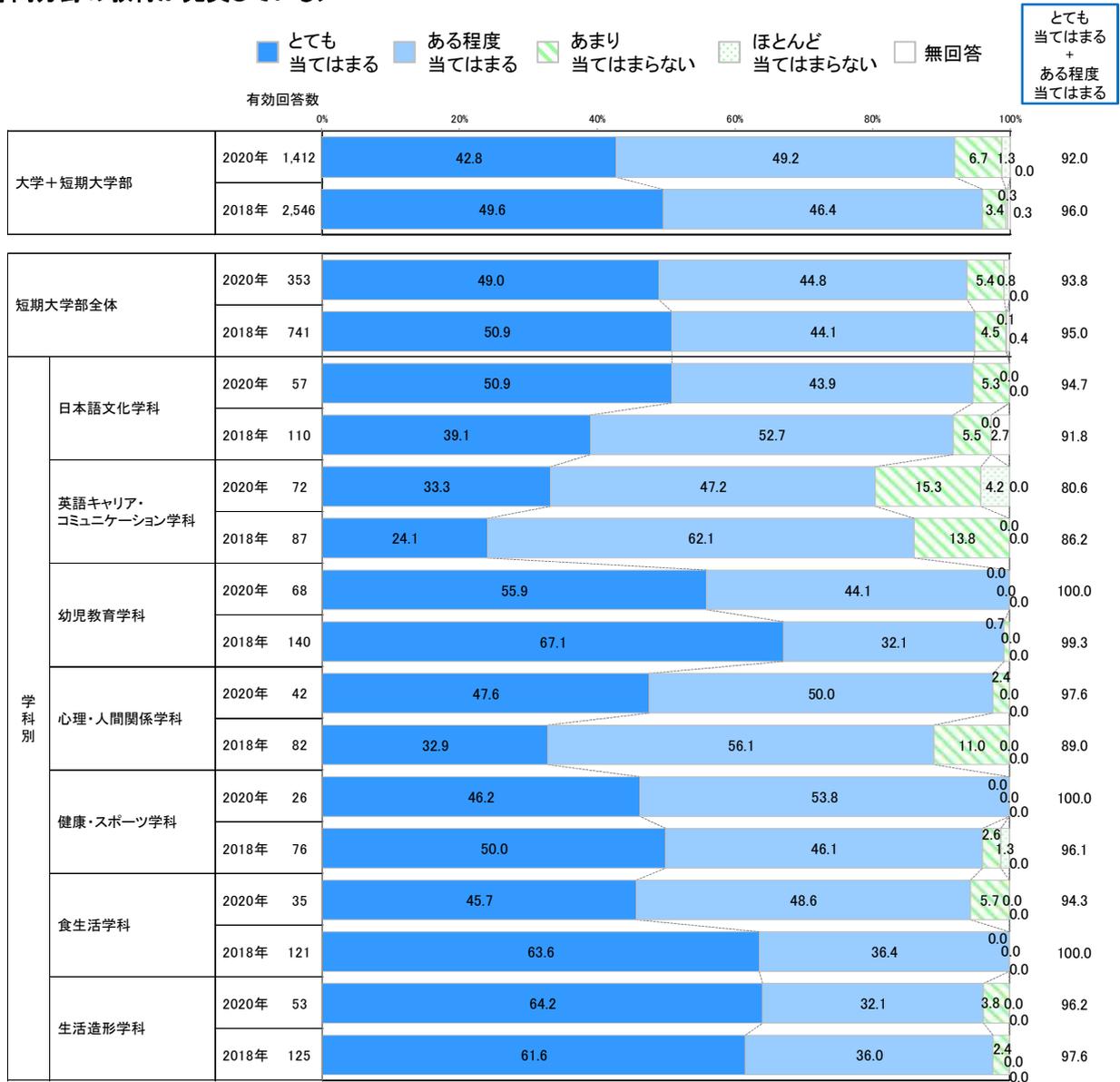


学びの充実度【短期大学部 学科別 経年比較】

- 短期大学部の結果を経年で比較すると、専門分野の教育が充実している(「とても当てはまる」+「ある程度当てはまる」と回答した充実度評価が特に高まっているのは心理・人間関係学科で、8.6pt上昇している。
- 対して、英語キャリア・コミュニケーション学科、食生活学科は、充実度評価が2018年度よりも6pt程度低下している。

Q6 あなたは、在学期間を通して、本学の教育内容をどのように感じましたか。

<専門分野の教育が充実している>

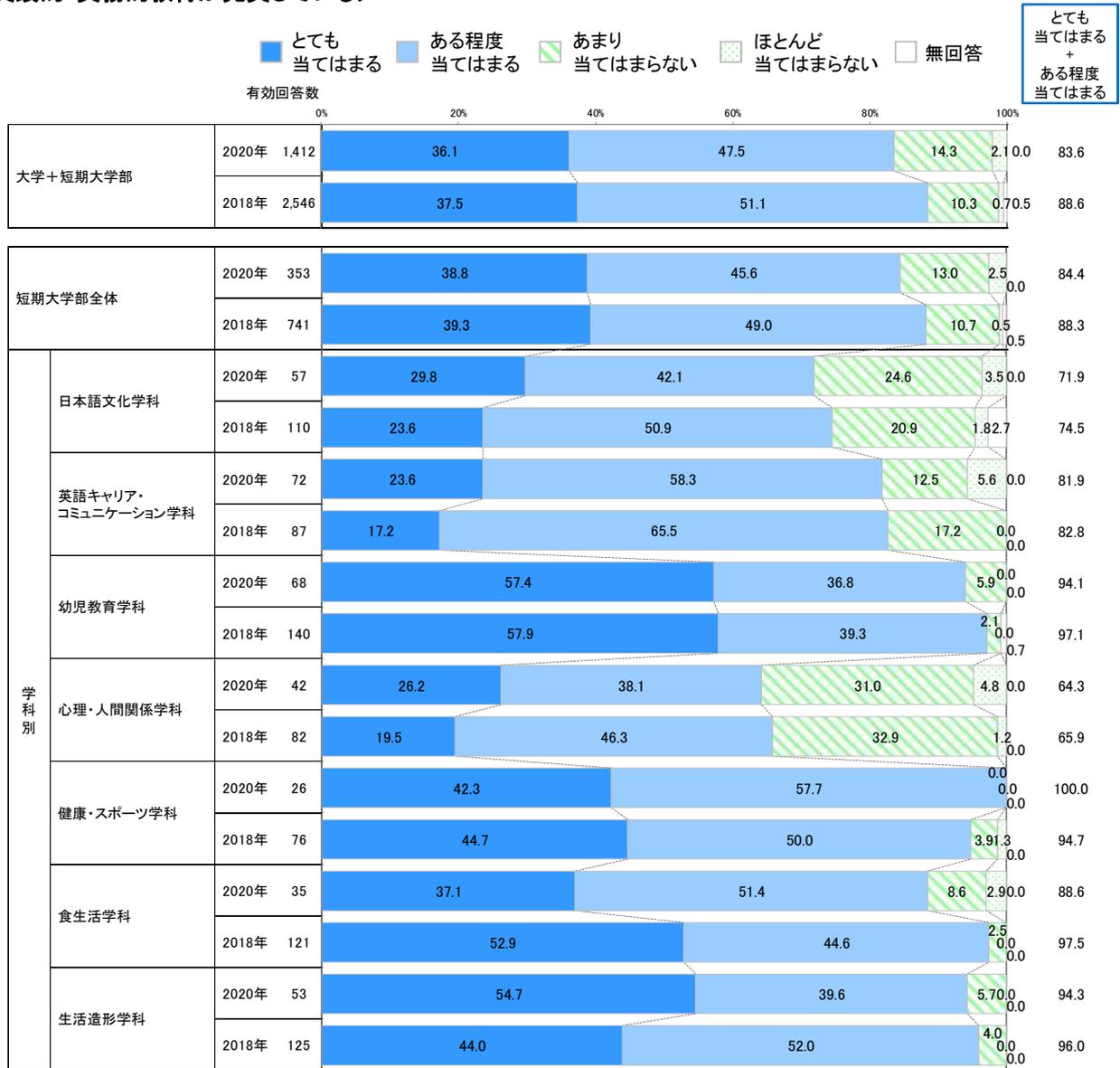


学びの充実度【短期大学部 学科別 経年比較】

- 短期大学部の結果を経年で比較すると、実践的・実務的教育が充実している(「とても当てはまる」+「ある程度当てはまる」と回答した充実度評価が高まっているのは健康・スポーツ学科のみで、5.3pt上昇している。
- 対して、食生活学科は、充実度評価が2018年度よりも8.9pt低下している。また、幼児教育学科も、充実度評価が3.0pt低下している。

Q6 あなたは、在学期間を通して、本学の教育内容をどのように感じましたか。

<実践的・実務的教育が充実している>

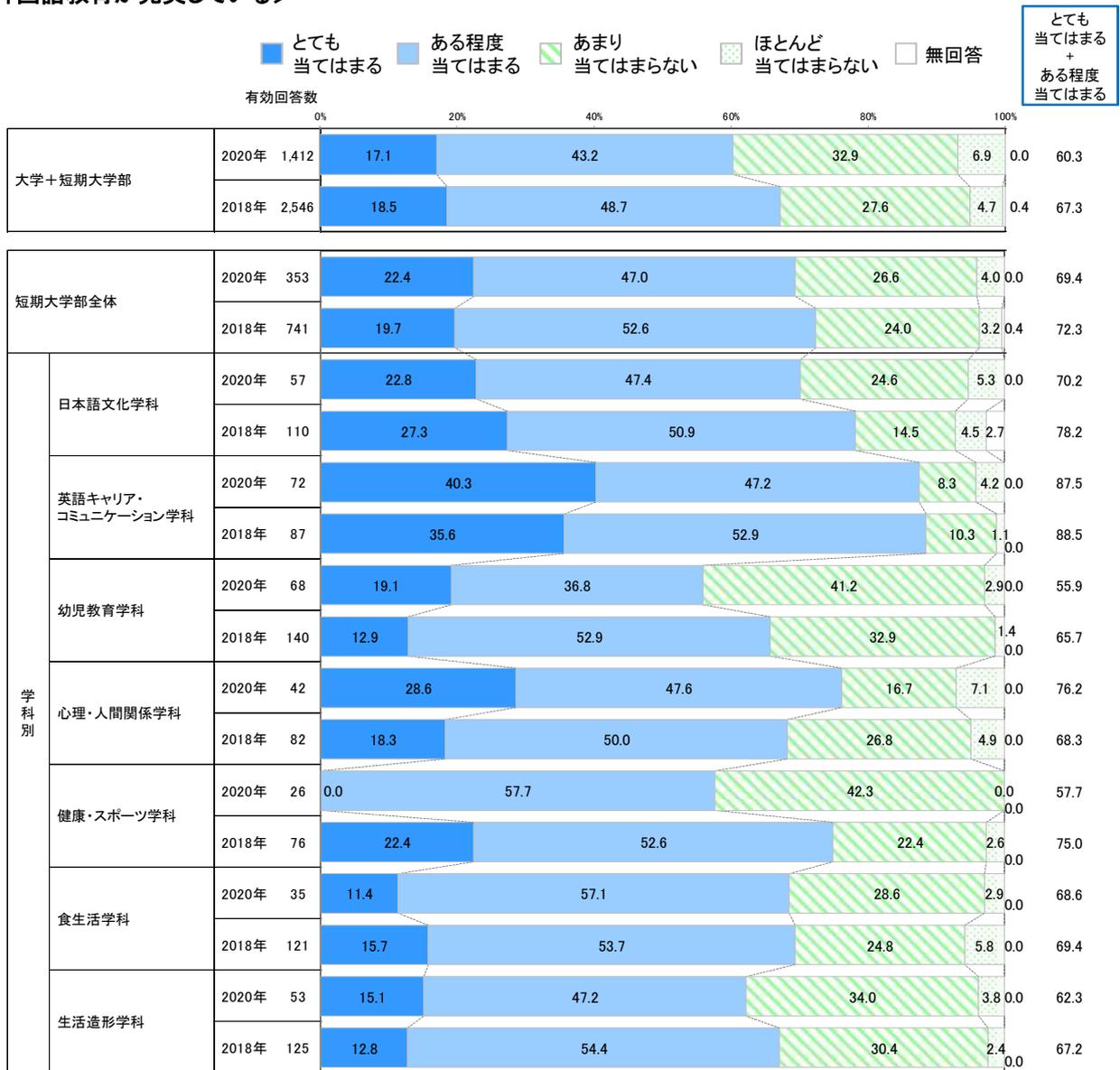


学びの充実度【短期大学部 学科別 経年比較】

- 短期大学部の結果を経年で比較すると、外国語教育が充実している(「とても当てはまる」+「ある程度当てはまる」と回答した充実度評価が高まっているのは心理・人間関係学科のみで、7.9pt上昇している。
- 対して、健康・スポーツ学科は、充実度評価が2018年度よりも17.3pt低下している。また、日本語文化学科、幼児教育学科も、充実度評価が2018年度より8~10pt程度低下している。

Q6 あなたは、在学期間を通して、本学の教育内容をどのように感じましたか。

<外国語教育が充実している>

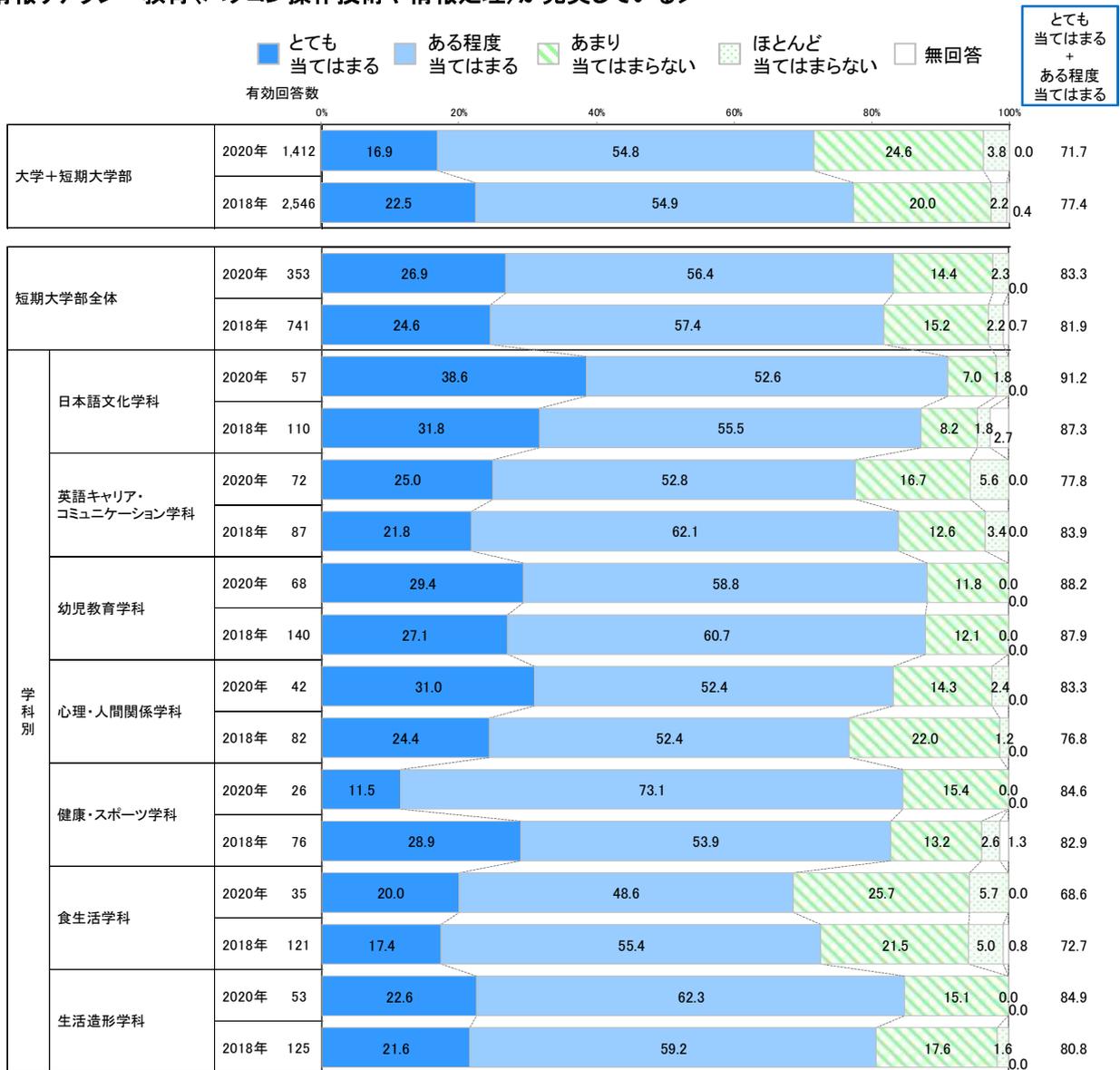


学びの充実度【短期大学部 学科別 経年比較】

- 短期大学部の結果を経年で比較すると、情報リテラシー教育(パソコン操作技術や情報処理)が充実している(「とても当てはまる」+「ある程度当てはまる」と回答した充実度評価が特に高まっているのは心理・人間関係学科、生活造形学科で、いずれも4~7pt程度上昇している。
- 対して、英語キャリア・コミュニケーション学科、食生活学科は、充実度評価が2018年度よりも4~6pt程度低下している。

Q6 あなたは、在学期間を通して、本学の教育内容をどのように感じましたか。

<情報リテラシー教育(パソコン操作技術や情報処理)が充実している>



学びの充実度【大学院 専攻別 今年度結果】

- 大学院は、教養分野の教育(共通教育)が充実している(「とても当てはまる」+「ある程度当てはまる」)と回答した充実度評価が、約8割と高い。
- 「とても当てはまる」と回答した学生が約4割を占める。

Q6 あなたは、在学期間を通して、本学の教育内容をどのように感じましたか。

<教養分野の教育(共通教育)が充実している>

		有効回答数	とても当てはまる	ある程度当てはまる	あまり当てはまらない	ほとんど当てはまらない	無回答	とても当てはまる+ある程度当てはまる+
大学院全体		42	40.5	38.1	19.0	2.4	0.0	78.6
専攻別	大学院 修士課程・計	40	42.5	35.0	20.0	2.5	0.0	77.5
	文学研究科 日本語日本文学専攻	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	文学研究科 英語英米文学専攻	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	文学研究科 臨床心理学専攻	2	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	臨床教育学研究科 臨床教育学専攻	5	40.0	40.0	20.0	0.0	0.0	80.0
	健康・スポーツ科学研究科 健康・スポーツ科学専攻	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	生活環境学研究科 食物栄養学専攻	4	25.0	25.0	50.0	0.0	0.0	50.0
	生活環境学研究科 生活環境学専攻	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	生活環境学研究科 建築学専攻	22	40.9	31.8	22.7	4.5	0.0	72.7
	薬学研究科 薬科学専攻	2	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	看護学研究科 看護学専攻(看護学研究コース)	2	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	看護学研究科 看護学専攻(看護学研究保健師コース)	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	大学院 博士後期課程・計	2	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	文学研究科 英語英米文学専攻	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	臨床教育学研究科 臨床教育学専攻	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	生活環境学研究科 食物栄養学専攻	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	生活環境学研究科 生活環境学専攻	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
薬学研究科 薬学専攻	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
看護学研究科 看護学専攻	2	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	

【単位：%】

※大学院については回収サンプル数が少ないため、参考値として数表で結果を掲載

学びの充実度【大学院 専攻別 今年度結果】

- 大学院は、専門分野の教育が充実している(「とても当てはまる」+「ある程度当てはまる」と回答した充実度評価が、9割台後半と非常に高い。
- 「とても当てはまる」と回答した学生が7割強を占める。

Q6 あなたは、在学期間を通して、本学の教育内容をどのように感じましたか。

<専門分野の教育が充実している>

		有効回答数	とても当てはまる	ある程度当てはまる	あまり当てはまらない	ほとんど当てはまらない	無回答	とても当てはまる+ある程度当てはまる+
大学院全体		42	73.8	23.8	2.4	0.0	0.0	97.6
専攻別	大学院 修士課程・計	40	72.5	25.0	2.5	0.0	0.0	97.5
	文学研究科 日本語日本文学専攻	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	文学研究科 英語英米文学専攻	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	文学研究科 臨床心理学専攻	2	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	臨床教育学研究科 臨床教育学専攻	5	40.0	40.0	20.0	0.0	0.0	80.0
	健康・スポーツ科学研究科 健康・スポーツ科学専攻	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	生活環境学研究科 食物栄養学専攻	4	25.0	75.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	生活環境学研究科 生活環境学専攻	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	生活環境学研究科 建築学専攻	22	86.4	13.6	0.0	0.0	0.0	100.0
	薬学研究科 薬科学専攻	2	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	看護学研究科 看護学専攻(看護学研究コース)	2	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	看護学研究科 看護学専攻(看護学研究保健師コース)	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	大学院 博士後期課程・計	2	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	文学研究科 英語英米文学専攻	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	臨床教育学研究科 臨床教育学専攻	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	生活環境学研究科 食物栄養学専攻	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	生活環境学研究科 生活環境学専攻	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
薬学研究科 薬学専攻	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
看護学研究科 看護学専攻	2	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	

【単位:%】

※大学院については回収サンプル数が少ないため、参考値として数表で結果を掲載

学びの充実度【大学院 専攻別 今年度結果】

- 大学院は、実践的・実務的教育が充実している(「とても当てはまる」+「ある程度当てはまる」と回答した充実度評価が、9割半ばと高い。
- 「とても当てはまる」と回答した学生が約7割を占める。

Q6 あなたは、在学期間を通して、本学の教育内容をどのように感じましたか。

<実践的・実務的教育が充実している>

		有効回答数	とても当てはまる	ある程度当てはまる	あまり当てはまらない	ほとんど当てはまらない	無回答	とても当てはまる+ある程度当てはまる+
大学院全体		42	69.0	26.2	4.8	0.0	0.0	95.2
専攻別	大学院 修士課程・計	40	70.0	25.0	5.0	0.0	0.0	95.0
	文学研究科 日本語日本文学専攻	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	文学研究科 英語英米文学専攻	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	文学研究科 臨床心理学専攻	2	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	臨床教育学研究科 臨床教育学専攻	5	20.0	60.0	20.0	0.0	0.0	80.0
	健康・スポーツ科学研究科 健康・スポーツ科学専攻	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	生活環境学研究科 食物栄養学専攻	4	25.0	50.0	25.0	0.0	0.0	75.0
	生活環境学研究科 生活環境学専攻	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	生活環境学研究科 建築学専攻	22	90.9	9.1	0.0	0.0	0.0	100.0
	薬学研究科 薬科学専攻	2	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	看護学研究科 看護学専攻(看護学研究コース)	2	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	看護学研究科 看護学専攻(看護学研究保健師コース)	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	大学院 博士後期課程・計	2	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	文学研究科 英語英米文学専攻	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	臨床教育学研究科 臨床教育学専攻	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	生活環境学研究科 食物栄養学専攻	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
生活環境学研究科 生活環境学専攻	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
薬学研究科 薬学専攻	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
看護学研究科 看護学専攻	2	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	100.0	

【単位：%】

※大学院については回収サンプル数が少ないため、参考値として数表で結果を掲載

学びの充実度【大学院 専攻別 今年度結果】

- 大学院は、外国語教育が充実している(「とても当てはまる」+「ある程度当てはまる」と回答した充実度評価が約5割と、他の教育内容と比べて低い。
- 「とても当てはまる」と回答した学生も約1割にとどまる。

Q6 あなたは、在学期間を通して、本学の教育内容をどのように感じましたか。

<外国語教育が充実している>

		有効回答数	とても当てはまる	ある程度当てはまる	あまり当てはまらない	ほとんど当てはまらない	無回答	とても当てはまる+ある程度当てはまる+
大学院全体		42	9.5	42.9	33.3	14.3	0.0	52.4
専攻別	大学院 修士課程・計	40	10.0	42.5	32.5	15.0	0.0	52.5
	文学研究科 日本語日本文学専攻	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	文学研究科 英語英米文学専攻	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	文学研究科 臨床心理学専攻	2	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	臨床教育学研究科 臨床教育学専攻	5	20.0	60.0	0.0	20.0	0.0	80.0
	健康・スポーツ科学研究科 健康・スポーツ科学専攻	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	生活環境学研究科 食物栄養学専攻	4	0.0	25.0	50.0	25.0	0.0	25.0
	生活環境学研究科 生活環境学専攻	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	生活環境学研究科 建築学専攻	22	4.5	54.5	27.3	13.6	0.0	59.1
	薬学研究科 薬科学専攻	2	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	看護学研究科 看護学専攻(看護学研究コース)	2	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	50.0
	看護学研究科 看護学専攻(看護学研究保健師コース)	1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	大学院 博士後期課程・計	2	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	50.0
	文学研究科 英語英米文学専攻	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	臨床教育学研究科 臨床教育学専攻	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	生活環境学研究科 食物栄養学専攻	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
生活環境学研究科 生活環境学専攻	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
薬学研究科 薬学専攻	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
看護学研究科 看護学専攻	2	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	50.0	

【単位：%】

※大学院については回収サンプル数が少ないため、参考値として数表で結果を掲載

学びの充実度【大学院 専攻別 今年度結果】

- 大学院は、情報リテラシー教育(パソコン操作技術や情報処理)が充実している(「とても当てはまる」+「ある程度当てはまる」と回答した充実度評価が、約8割と高い。
- 「とても当てはまる」と回答した学生は約3割にとどまる。

Q6 あなたは、在学期間を通して、本学の教育内容をどのように感じましたか。

<情報リテラシー教育(パソコン操作技術や情報処理)が充実している>

		有効回答数	とても当てはまる	ある程度当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない	無回答	とても当てはまる+ある程度当てはまる
大学院全体		42	31.0	50.0	16.7	2.4	0.0	81.0
専攻別	大学院 修士課程・計	40	32.5	50.0	15.0	2.5	0.0	82.5
	文学研究科 日本語日文学専攻	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	文学研究科 英語英米文学専攻	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	文学研究科 臨床心理学専攻	2	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	50.0
	臨床教育学研究科 臨床教育学専攻	5	40.0	40.0	20.0	0.0	0.0	80.0
	健康・スポーツ科学研究科 健康・スポーツ科学専攻	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	生活環境学研究科 食物栄養学専攻	4	25.0	75.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	生活環境学研究科 生活環境学専攻	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	生活環境学研究科 建築学専攻	22	22.7	54.5	18.2	4.5	0.0	77.3
	薬学研究科 薬科学専攻	2	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	看護学研究科 看護学専攻(看護学研究コース)	2	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	看護学研究科 看護学専攻(看護学研究保健師コース)	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	大学院 博士後期課程・計	2	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	50.0
	文学研究科 英語英米文学専攻	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	臨床教育学研究科 臨床教育学専攻	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	生活環境学研究科 食物栄養学専攻	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	生活環境学研究科 生活環境学専攻	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
薬学研究科 薬学専攻	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
看護学研究科 看護学専攻	2	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	50.0	

【単位:%】

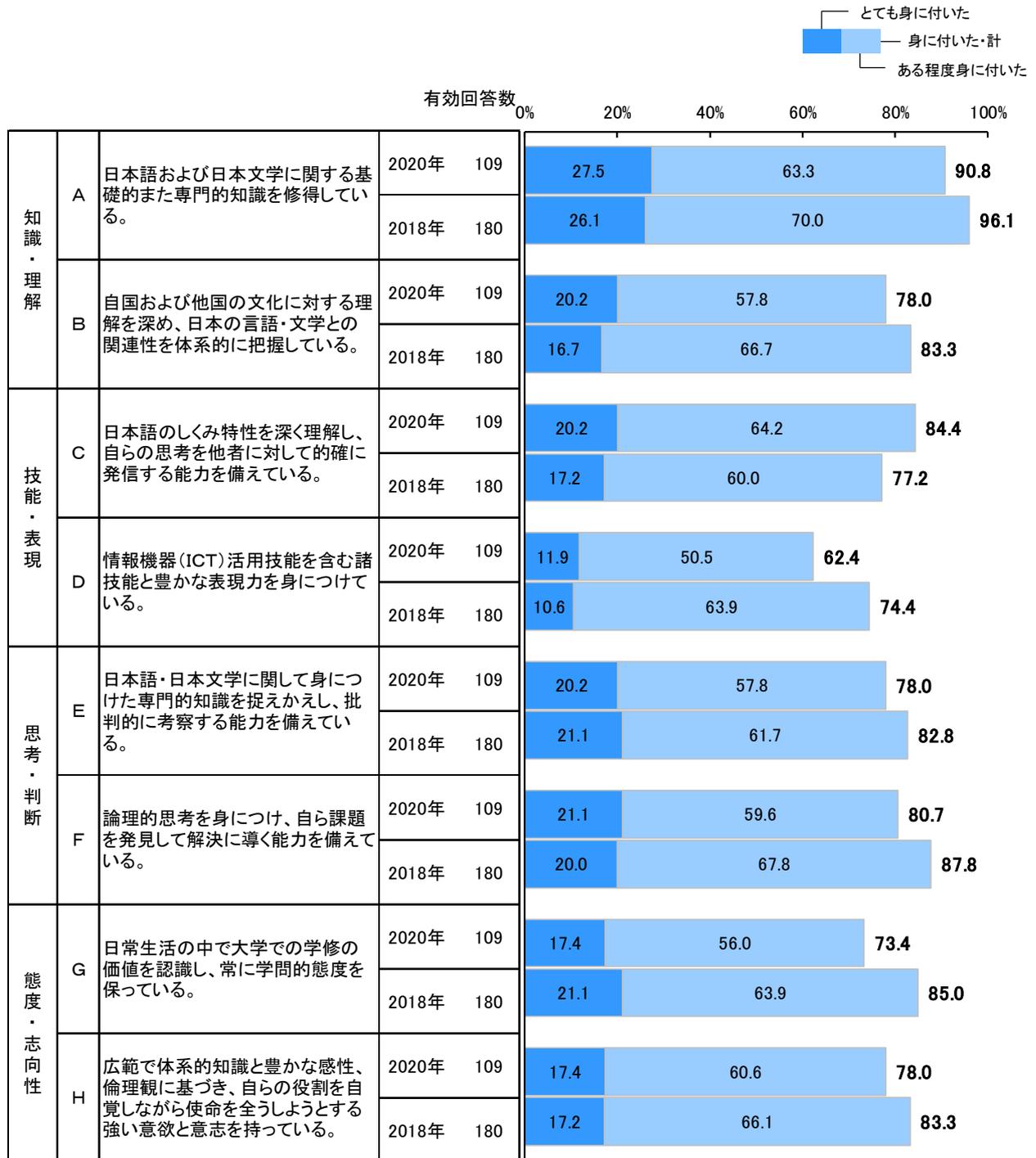
※大学院については回収サンプル数が少ないため、参考値として数表で結果を掲載

**アンケート結果 詳細内容
【ディプロマ・ポリシーの修得度】**

修得した能力【大学 文学部 日本語日本文学科】

- 2020年度の結果をみると、ディプロマ・ポリシーの修得度(TOP2計)は約6割～約9割。
- 「技能・表現 D 情報機器(ICT)活用技能を含む諸技能と豊かな表現力を身につけている。」の修得度は約6割と低い。
- 結果を経年で比較すると、多くの項目で修得度が5～12pt程度低下。最も低下したのは「技能・表現 D 情報機器(ICT)活用技能を含む諸技能と豊かな表現力を身につけている。」で12.0ptの低下。

Q5 あなたは、ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力が、在学中にどの程度身に付いたと思いますか。



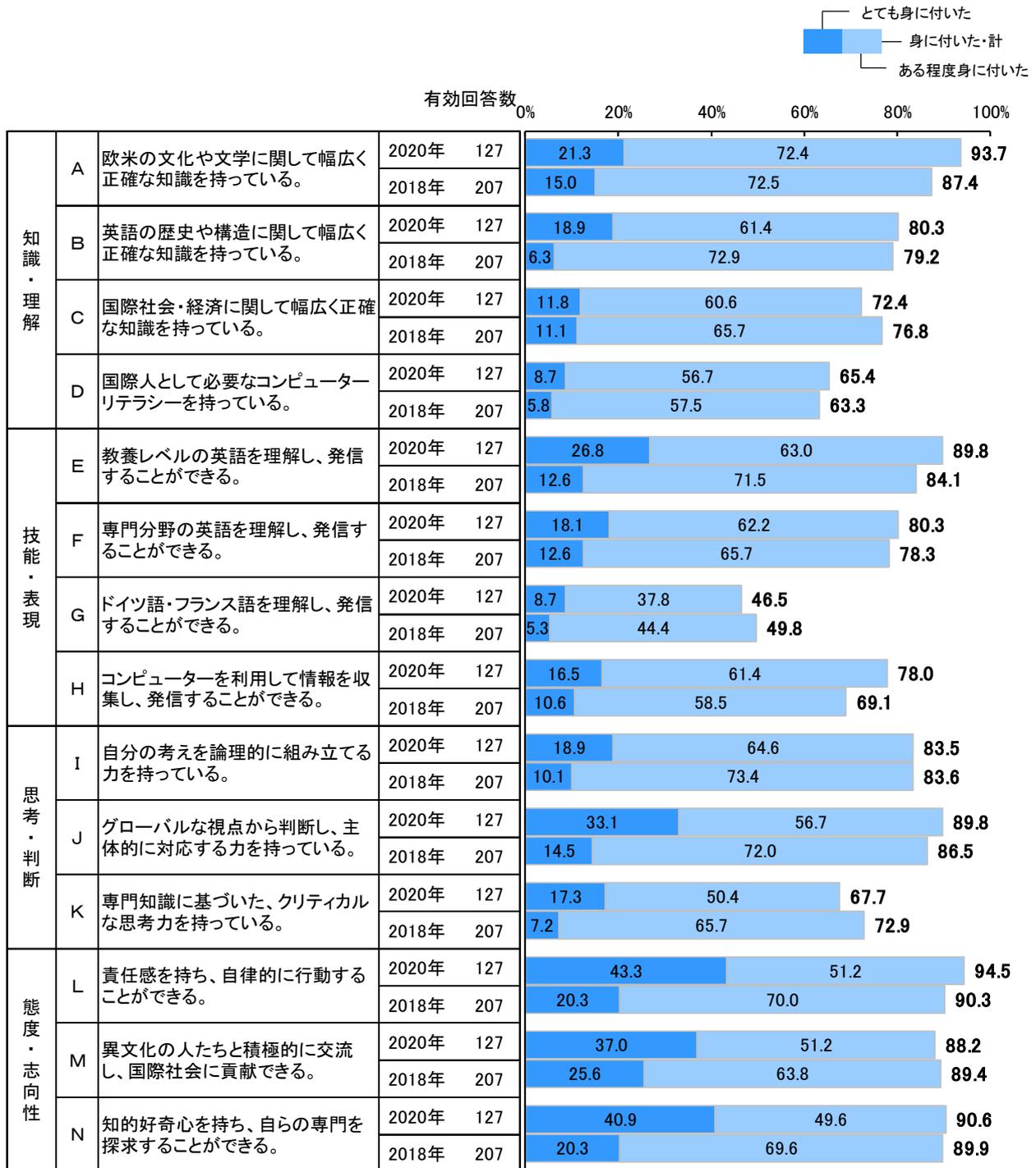
※【知識・理解】体系的知識を複数の異なる視点・国際的観点から把握し、現象を多様な価値観の下に捉えている。」は2020年度は聴取なしのため非掲載

※DPの表記は2020年度の文言で掲載

修得した能力【大学 文学部 英語文化学科】

- 2020年度の結果をみると、ディプロマ・ポリシーの修得度(TOP2計)は5割弱～9割半ば。
- 「技能・表現 G ドイツ語・フランス語を理解し、発信することができる。」の修得度は5割弱と低い。
- 結果を経年で比較すると、14項目中3項目で修得度が3～5pt程度低下。最も低下したのは「思考・判断 K 専門知識に基づいた、クリティカルな思考力を持っている。」で5.2ptの低下。

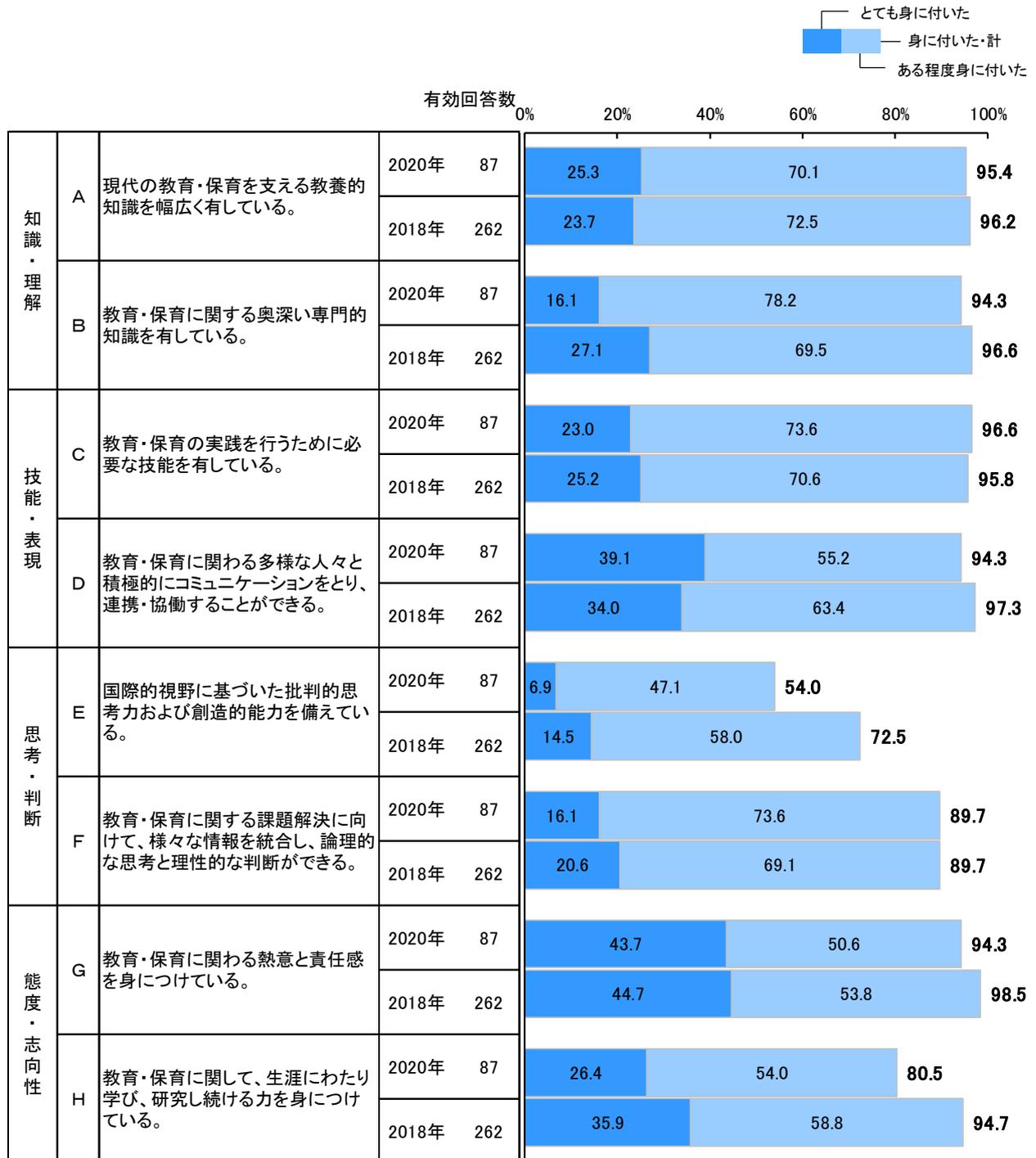
Q5 あなたは、ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力が、在学中にどの程度身に付いたと思いますか。



修得した能力【大学 文学部 教育学科】

- 2020年度の結果をみると、ディプロマ・ポリシーの修得度(TOP2計)は5割半ば～9割半ば。
- 「思考・判断 E 国際的視野に基づいた批判的思考力および創造的能力を備えている。」の修得度は5割半ばと低い。
- 結果を経年で比較すると、半数の項目で修得度が3～19pt程度低下。最も低下したのは「思考・判断 E 国際的視野に基づいた批判的思考力および創造的能力を備えている。」で18.5ptの低下。

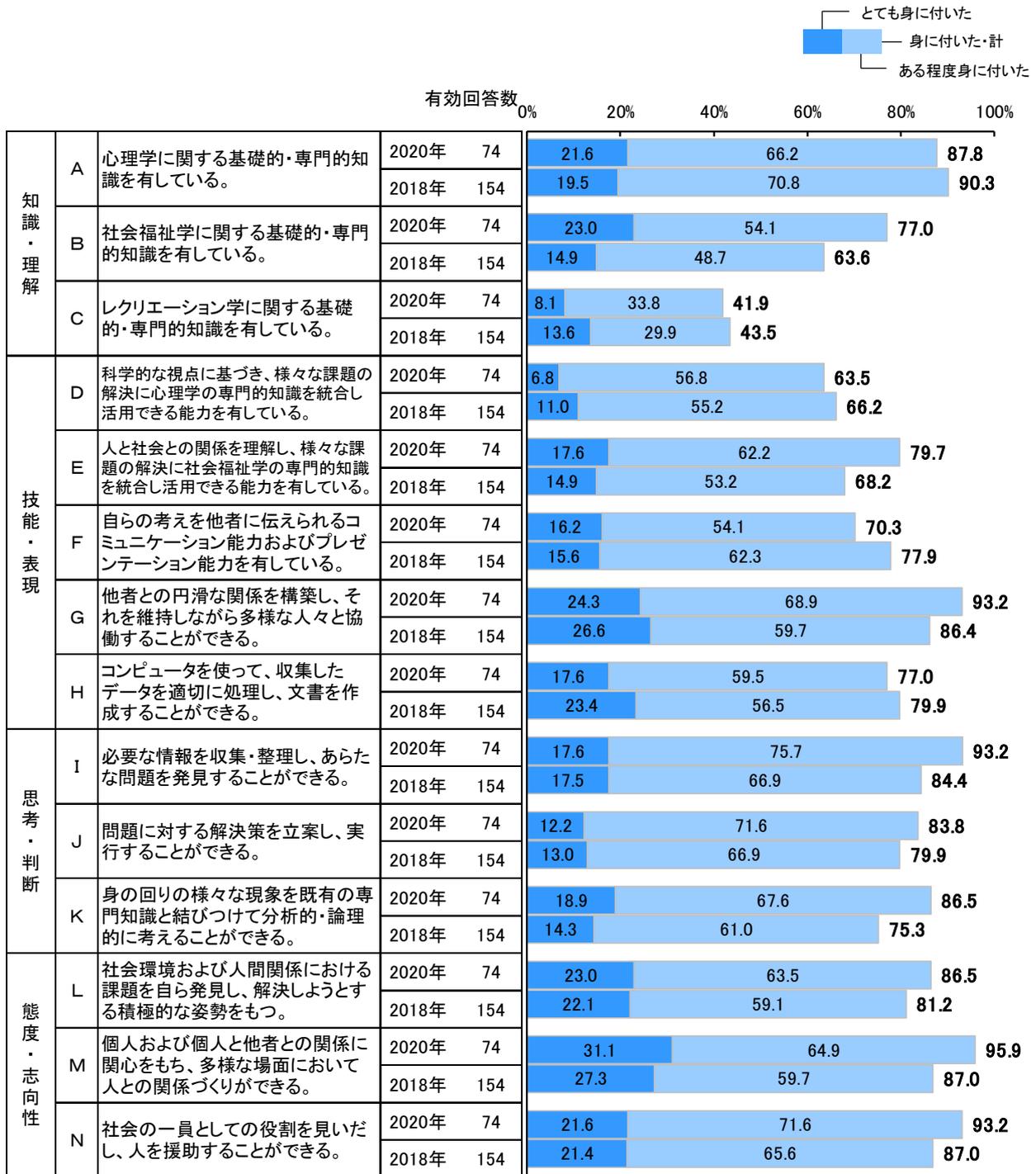
Q5 あなたは、ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力が、在学中にどの程度身に付いたと思いますか。



修得した能力【大学 文学部 心理・社会福祉学科】

- 2020年度の結果をみると、ディプロマ・ポリシーの修得度(TOP2計)は約4割～9割半ば。
- 「知識・理解 C レクリエーション学に関する基礎的・専門的知識を有している。」の修得度は約4割と低い。
- 結果を経年で比較すると、修得度が低下している項目は「技能・表現 F 自らの考えを他者に伝えられるコミュニケーション能力およびプレゼンテーション能力を有している。」で7.6ptの低下。

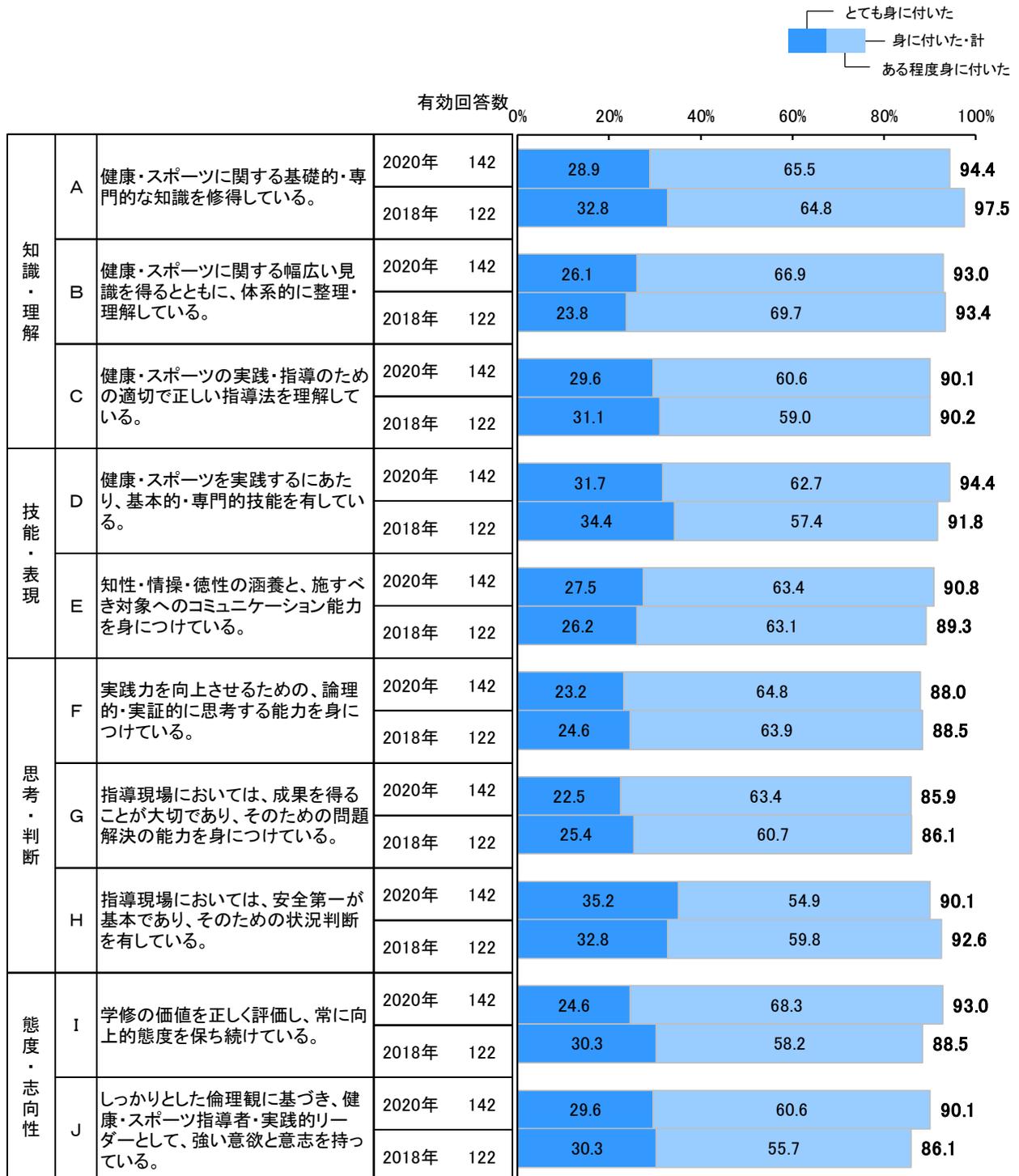
Q5 あなたは、ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力が、在学中にどの程度身に付いたと思いますか。



修得した能力【大学 健康・スポーツ科学部 健康・スポーツ科学科】

- 2020年度の結果をみると、ディプロマ・ポリシーの修得度(TOP2計)は8割半ば～9割半ば。
- 「思考・判断 G 指導現場においては、成果を得ることが大切であり、そのための問題解決の能力を身につけている。」の修得度は8割半ばと低い。
- 結果を経年で比較すると、修得度が低下している項目は「知識・理解 A 健康・スポーツに関する基礎的・専門的な知識を修得している。」で3.1ptの低下。

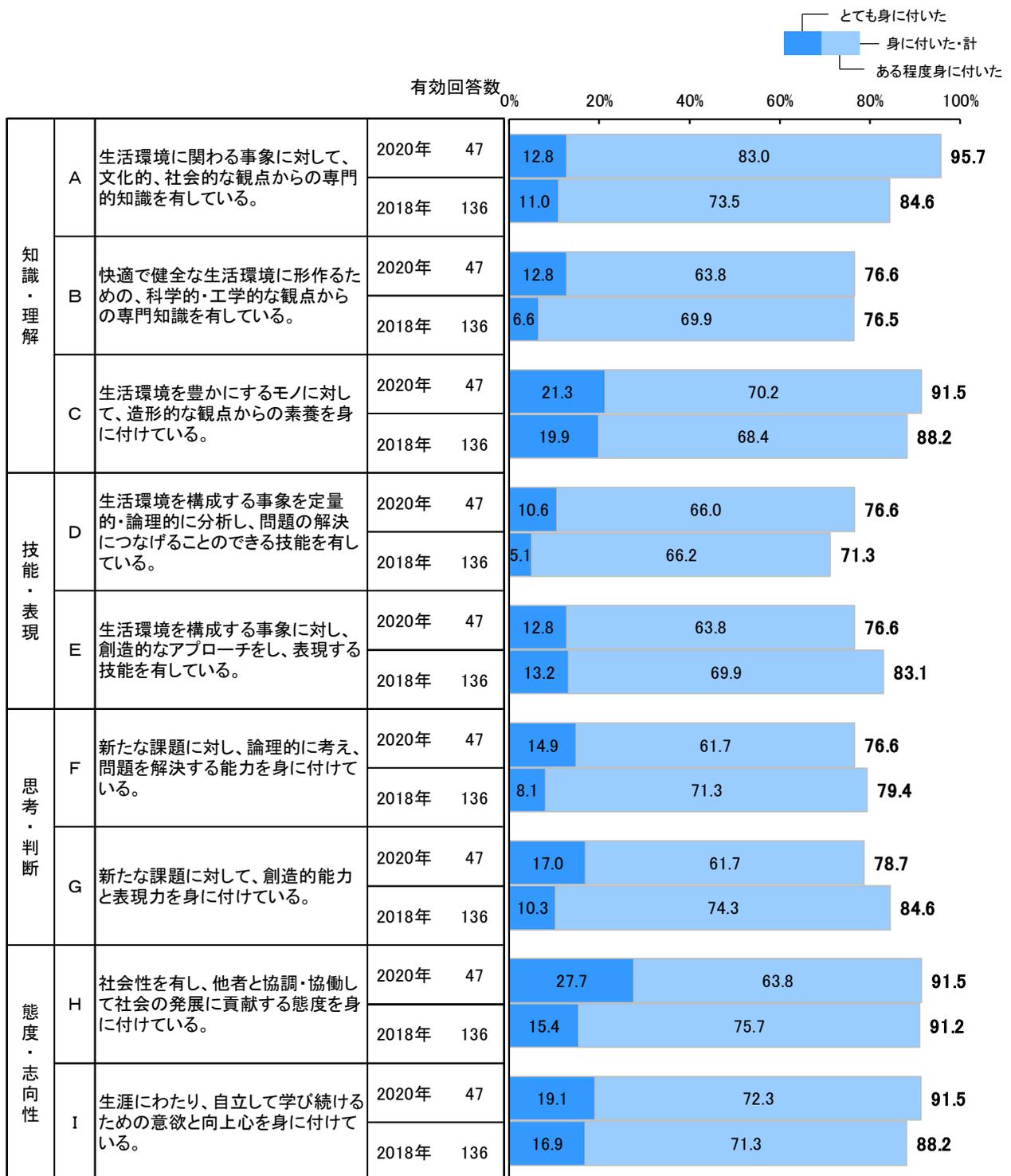
Q5 あなたは、ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力が、在学中にどの程度身に付いたと思いますか。



修得した能力【大学 生活環境学部 生活環境学科】

- 2020年度の結果をみると、ディプロマ・ポリシーの修得度(TOP2計)は8割弱～9割半ば。
- 「知識・理解 B 快適で健全な生活環境に形作るための、科学的・工学的な観点からの専門知識を有している。」「技能・表現 D 生活環境を構成する事象を定量的・論理的に分析し、問題の解決につなげることのできる技能を有している。」「技能・表現 E 生活環境を構成する事象に対し、創造的なアプローチをし、表現する技能を有している。」「思考・判断 F 新たな課題に対し、論理的に考え、問題を解決する能力を身に付けている。」「思考・判断 G 新たな課題に対して、創造的能力と表現力を身に付けている。」の修得度はいずれも8割弱と低い。
- 結果を経年で比較すると、9項目中2項目で修得度が6～7pt程度低下。最も低下したのは「技能・表現 E 生活環境を構成する事象に対し、創造的なアプローチをし、表現する技能を有している。」で6.5ptの低下。

Q5 あなたは、ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力が、在学中にどの程度身に付いたと思いますか。

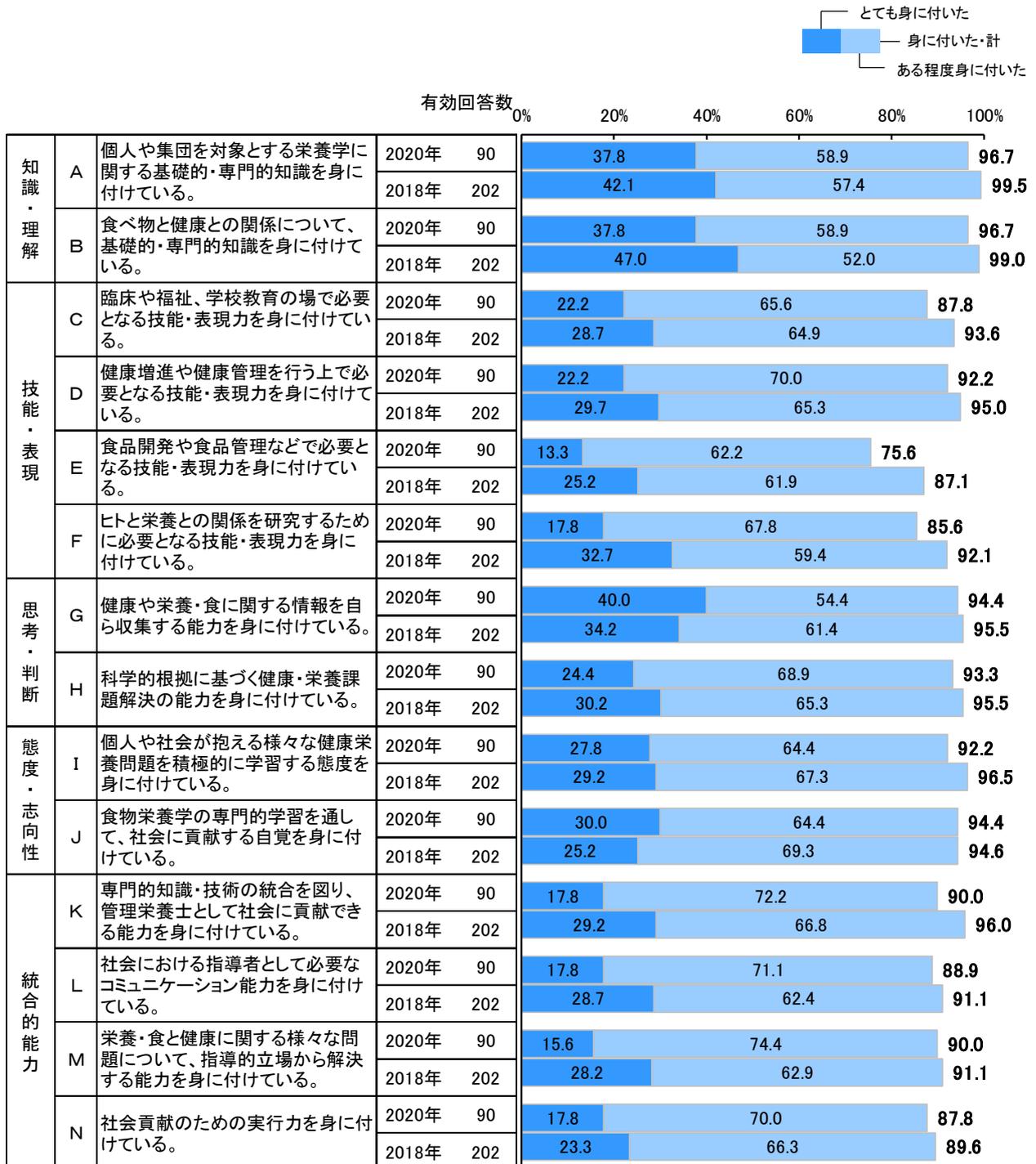


※DPの表記は2020年度の文言で掲載

修得した能力【大学 生活環境学部 食物栄養学科】

- 2020年度の結果をみると、ディプロマ・ポリシーの修得度(TOP2計)は7割半ば～9割半ば。
- 「技能・表現 E 食品開発や食品管理などで必要となる技能・表現力を身に付けている。」の修得度は7割半ばと低い。
- 結果を経年で比較すると、14項目中5項目で修得度が4～12pt程度低下。最も低下したのは「技能・表現 E 食品開発や食品管理などで必要となる技能・表現力を身に付けている。」で11.5ptの低下。

Q5 あなたは、ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力が、在学中にどの程度身に付いたと思いますか。

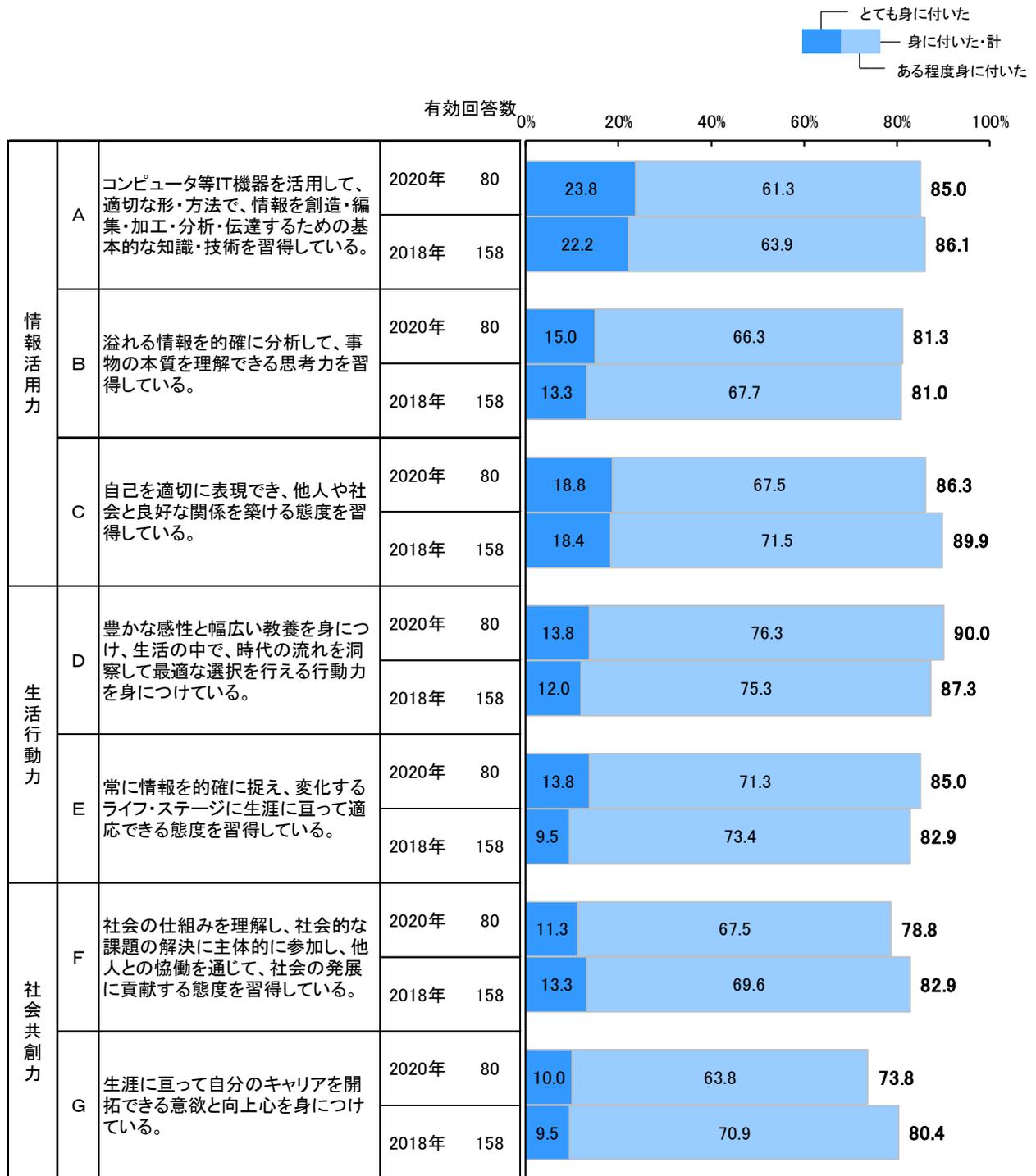


※【思考・判断】情報収集によって発見された課題を自ら解決できる能力を身につける。」は2020年度は聴取なしのため非掲載
 ※DPの表記は2020年度の文言で掲載

修得した能力【大学 生活環境学部 情報メディア学科】

- 2020年度の結果をみると、ディプロマ・ポリシーの修得度(TOP2計)は7割強～9割。
- 「社会共創力 G 生涯に亘って自分のキャリアを開拓できる意欲と向上心を身につけている。」の修得度は7割強と低い。
- 結果を経年で比較すると、7項目中3項目で修得度が4～7pt程度低下。最も低下したのは「社会共創力 G 生涯に亘って自分のキャリアを開拓できる意欲と向上心を身につけている。」で6.6ptの低下。

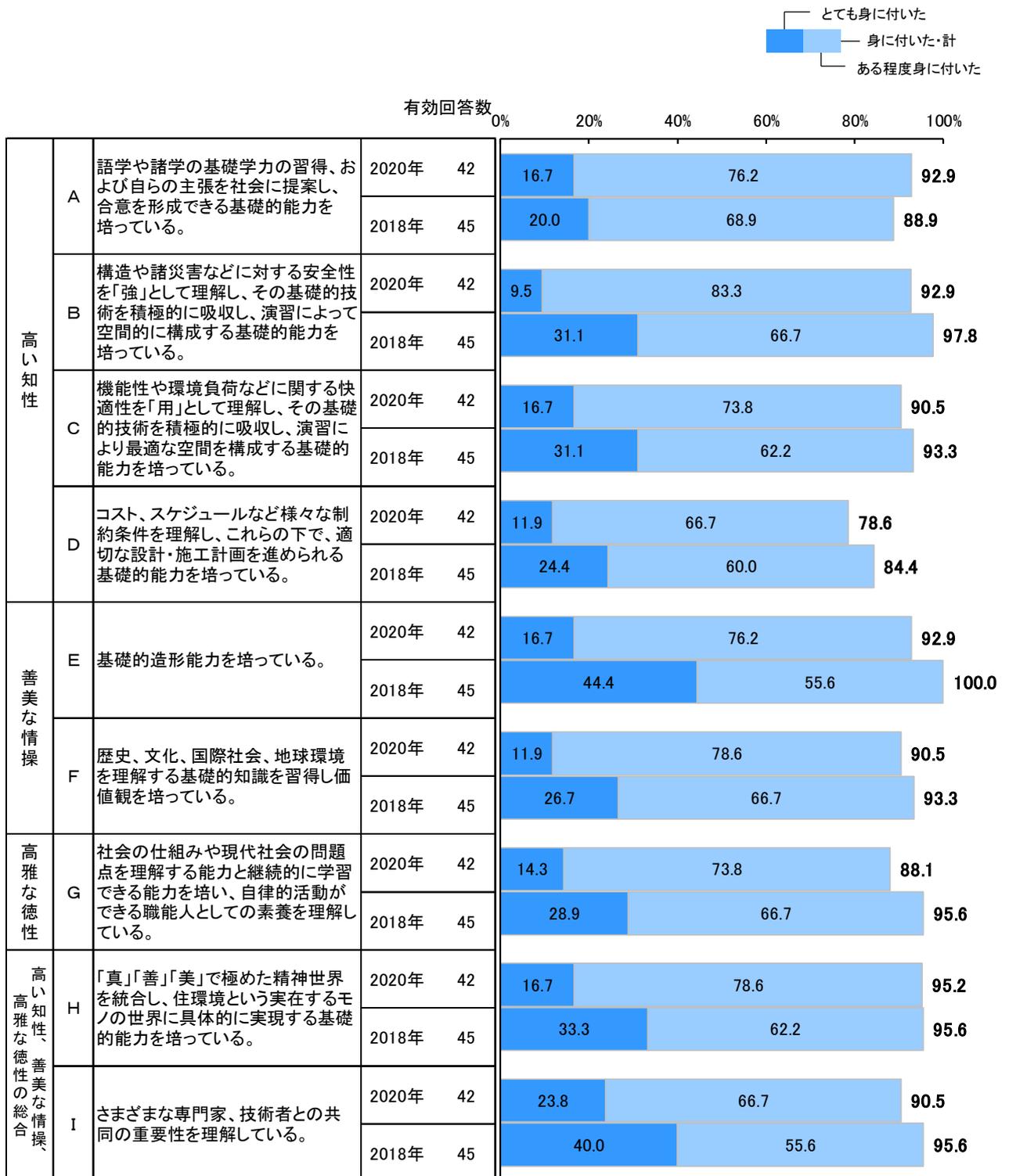
Q5 あなたは、ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力が、在学中にどの程度身に付いたと思いますか。



修得した能力【大学 生活環境学部 建築学科】

- 2020年度の結果をみると、ディプロマ・ポリシーの修得度(TOP2計)は約8割～9割半ば。
- 「高い知性 D コスト、スケジュールなど様々な制約条件を理解し、これらの下で、適切な設計・施工計画を進められる基礎的能力を培っている。」の修得度は約8割と低い。
- 結果を経年で比較すると、半数以上の項目で修得度が5～8pt程度低下。最も低下したのは「高雅な徳性 G 社会の仕組みや現代社会の問題点を理解する能力と継続的に学習できる能力を培い、自律的活動ができる職能人としての素養を理解している。」で7.5ptの低下。

Q5 あなたは、ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力が、在学中にどの程度身に付いたと思いますか。

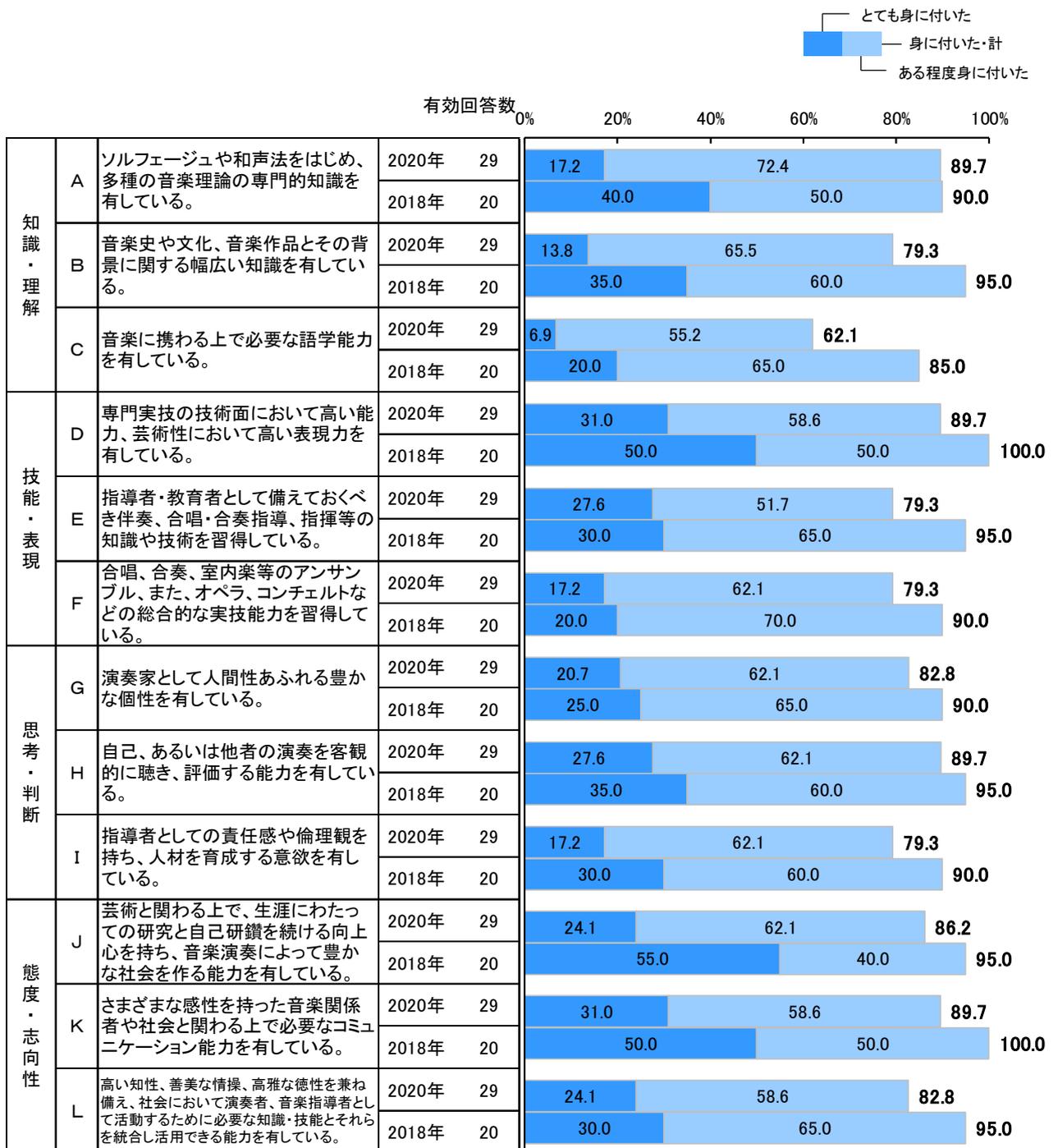


※DPの表記は2020年度の文言で掲載

修得した能力【大学 音楽学部 演奏学科】

- 2020年度の結果をみると、ディプロマ・ポリシーの修得度(TOP2計)は約6割～約9割。
- 「知識・理解 C 音楽に携わる上で必要な語学能力を有している。」の修得度は約6割と低い。
- 結果を経年で比較すると、多くの項目で修得度が5～23pt程度低下。最も低下したのは「知識・理解 C 音楽に携わる上で必要な語学能力を有している。」で22.9ptの低下。

Q5 あなたは、ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力が、在学中にどの程度身に付いたと思いますか。

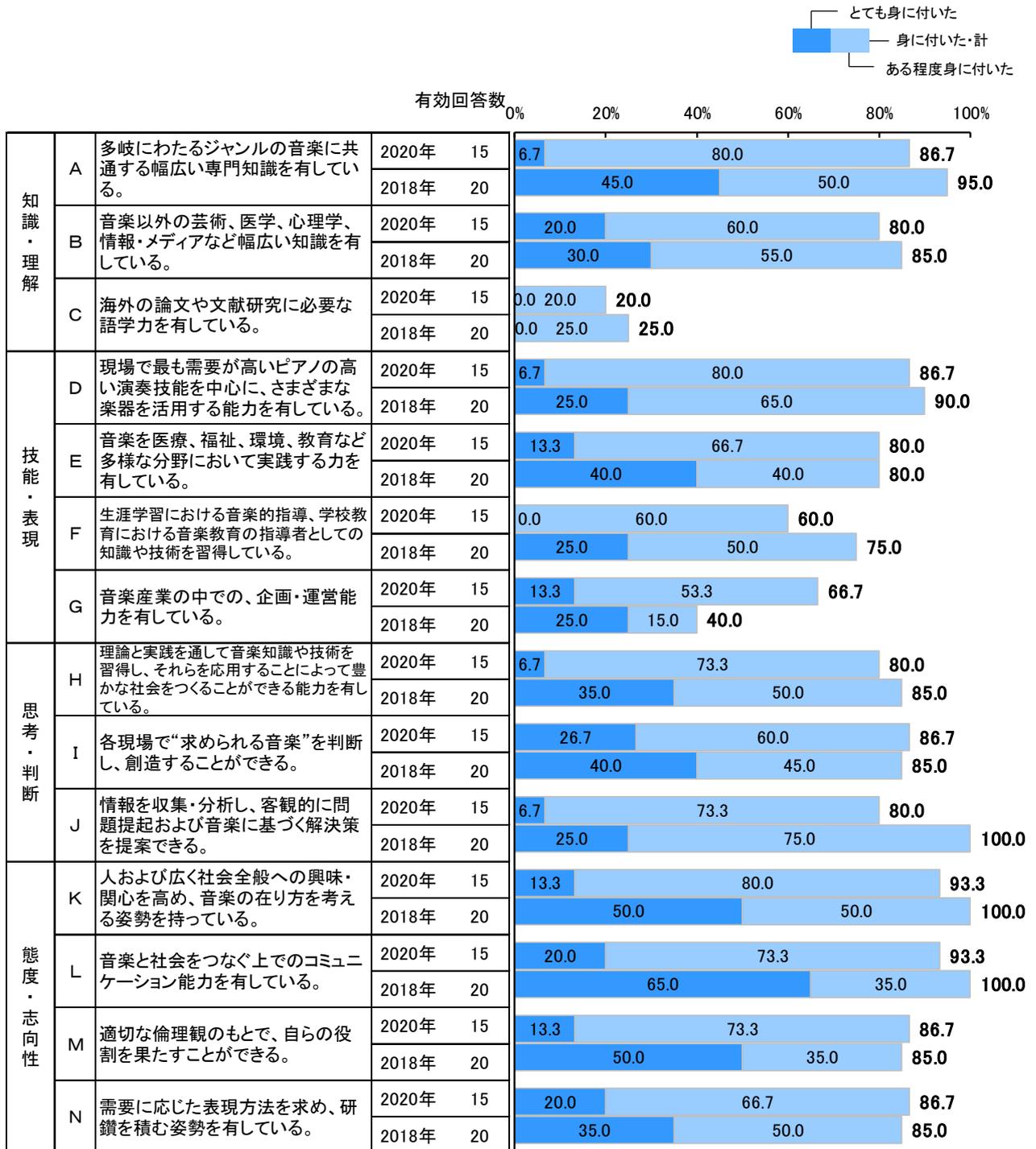


※DPの表記は2020年度の文言で掲載

修得した能力【大学 音楽学部 応用音楽学科】

- 2020年度の結果をみると、ディプロマ・ポリシーの修得度(TOP2計)は2割～9割強。
- 「知識・理解 C 海外の論文や文献研究に必要な語学力を有している。」の修得度は2割と低い。
- 結果を経年で比較すると、多くの項目で修得度が3～20pt程度低下。最も低下したのは「思考・判断 J 情報を収集・分析し、客観的に問題提起および音楽に基づく解決策を提案できる。」で20.0ptの低下。

Q5 あなたは、ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力が、在学中にどの程度身に付いたと思いますか。

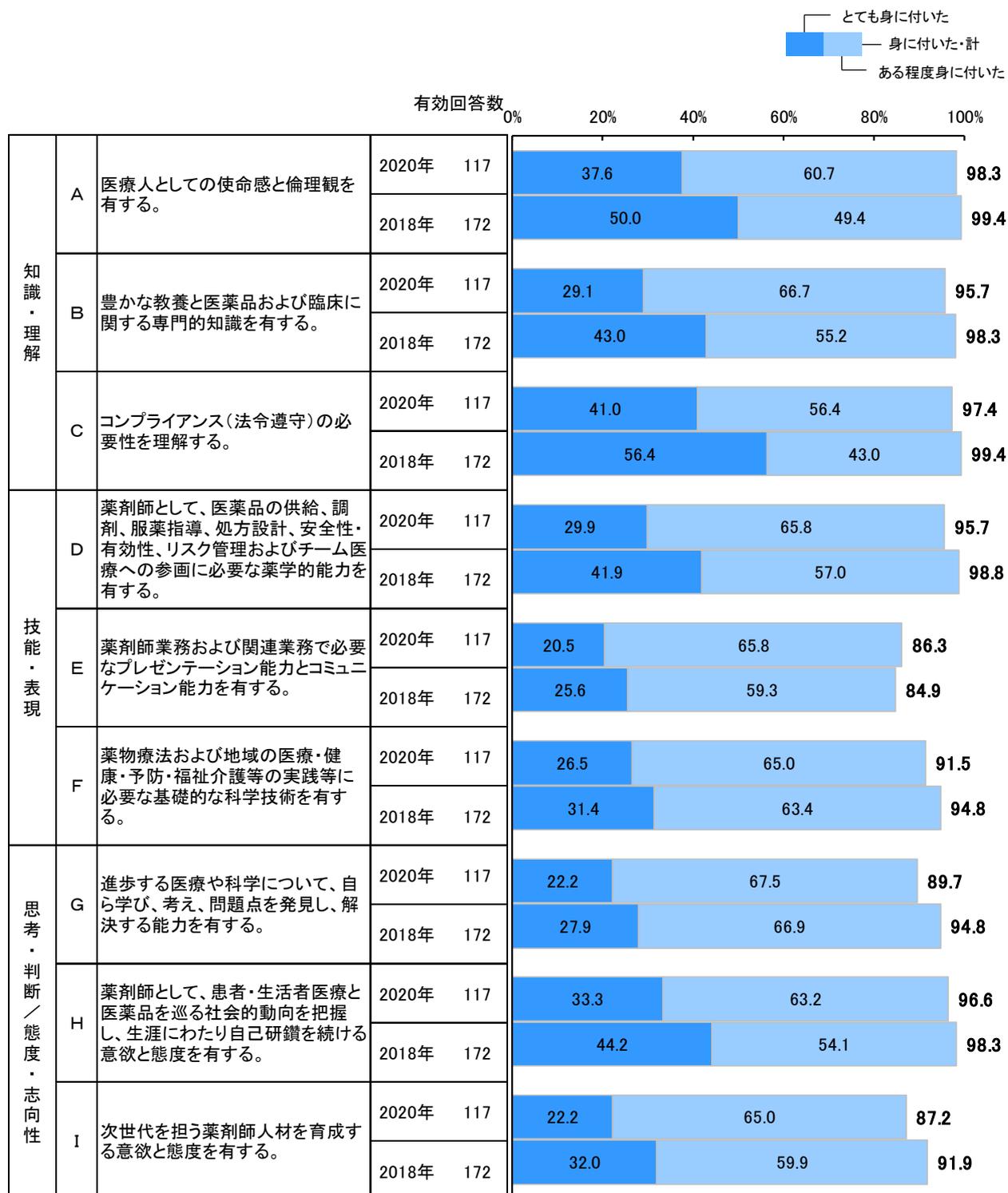


※DPの表記は2020年度の文言で掲載

修得した能力【大学 薬学部 薬学科】

- 2020年度の結果をみると、ディプロマ・ポリシーの修得度(TOP2計)は9割弱～9割台後半。
- 「技能・表現 E 薬剤師業務および関連業務で必要なプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力を有する。」の修得度は9割弱と低い。
- 結果を経年で比較すると、9項目中4項目で修得度が3～5pt程度低下。最も低下したのは「思考・判断／態度・志向性 G 進歩する医療や科学について、自ら学び、考え、問題点を発見し、解決する能力を有する。」で5.1ptの低下。

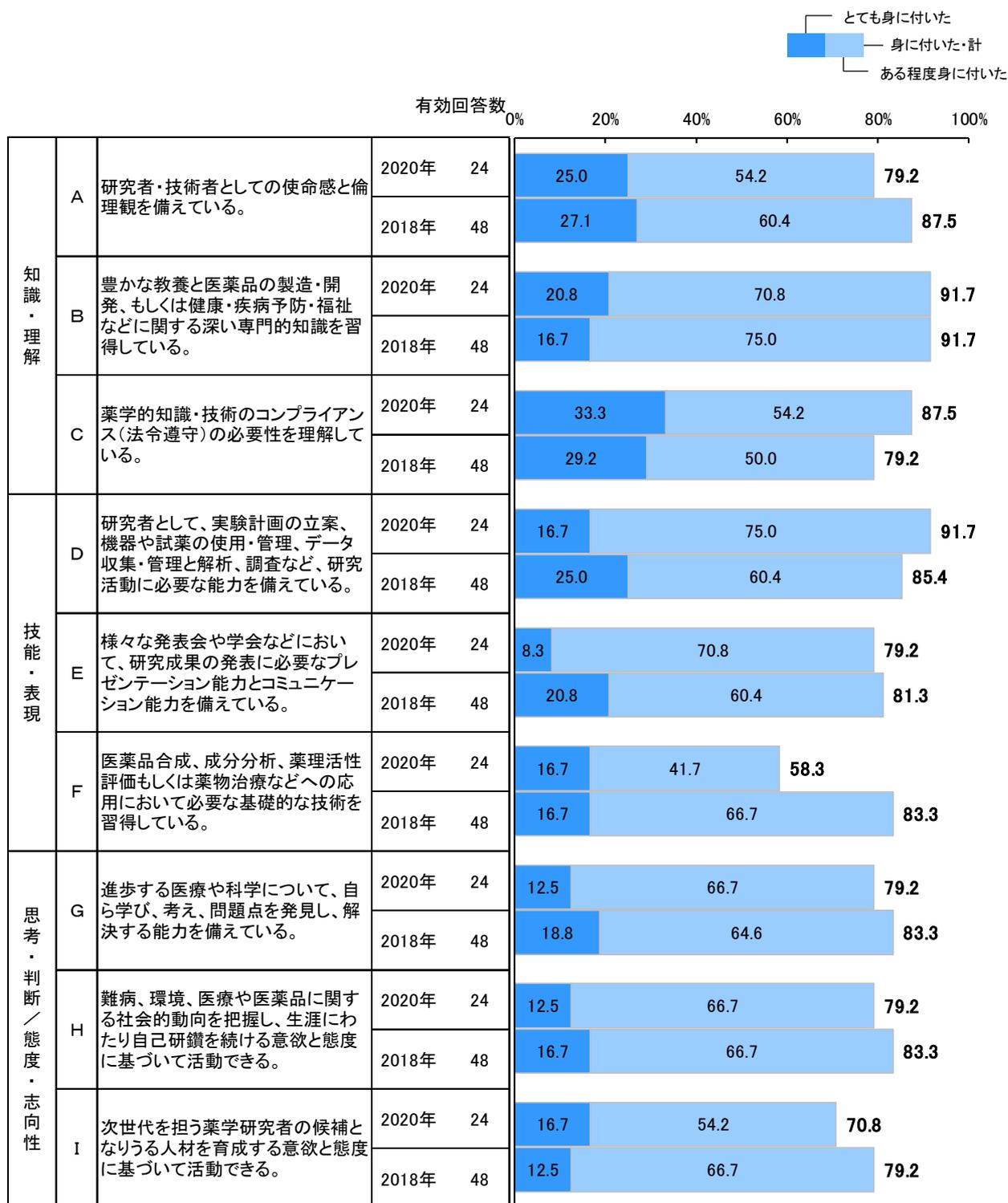
Q5 あなたは、ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力が、在学中にどの程度身に付いたと思いますか。



修得した能力【大学 薬学部 健康生命薬科学科】

- 2020年度の結果をみると、ディプロマ・ポリシーの修得度(TOP2計)は約6割～約9割。
- 「技能・表現 F 医薬品合成、成分分析、薬理活性評価もしくは薬物治療などへの応用において必要な基礎的な技術を習得している。」の修得度は約6割と低い。
- 結果を経年で比較すると、半数以上の項目で修得度が4～25pt程度低下。最も低下したのは「技能・表現 F 医薬品合成、成分分析、薬理活性評価もしくは薬物治療などへの応用において必要な基礎的な技術を習得している。」で25.0ptの低下。

Q5 あなたは、ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力が、在学中にどの程度身に付いたと思いますか。

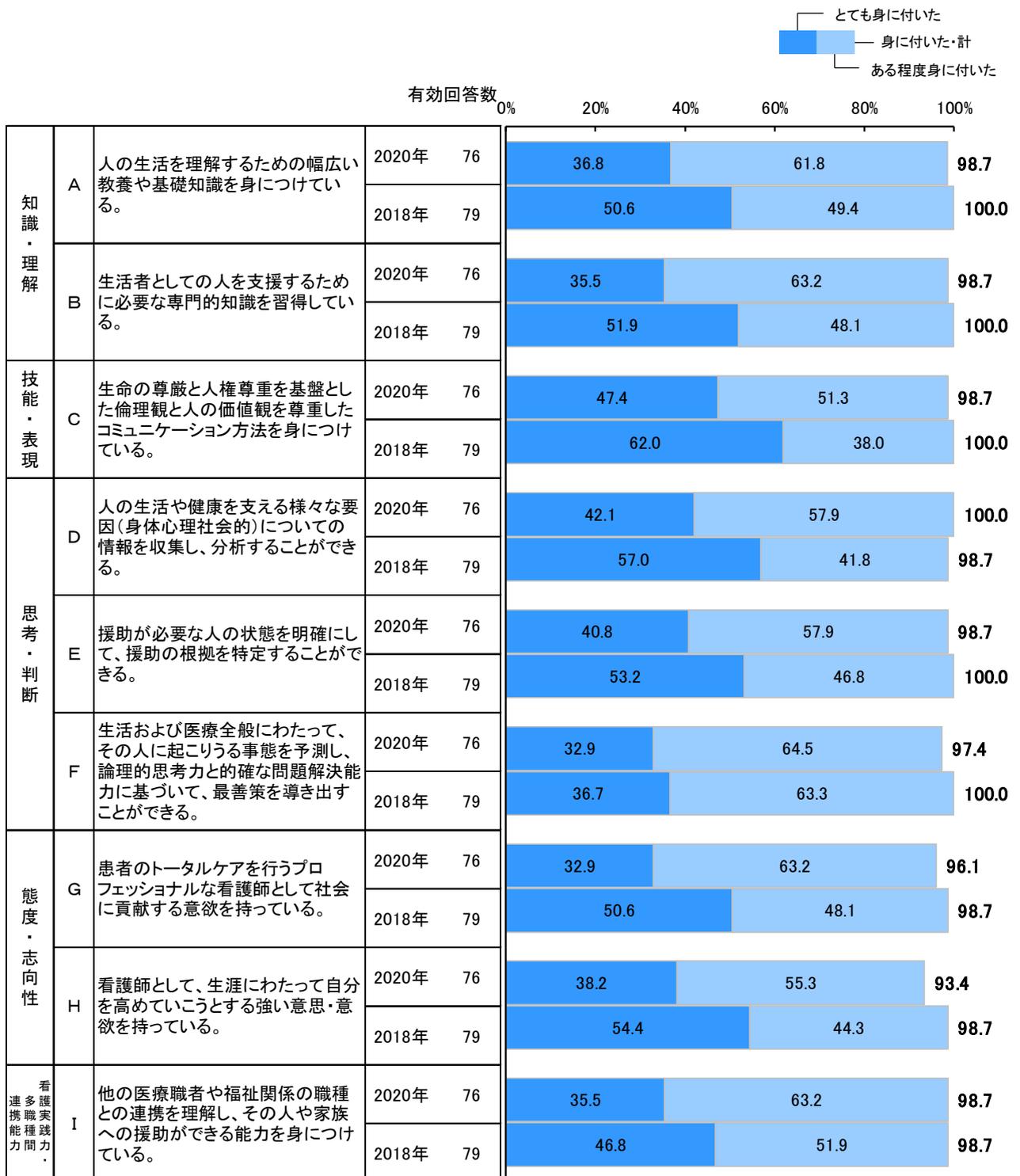


※DPの表記は2020年度の文言で掲載

修得した能力【大学 看護学部 看護学科】

- 2020年度の結果をみると、ディプロマ・ポリシーの修得度(TOP2計)は9割強～100.0%。
- 「態度・志向性 H 看護師として、生涯にわたって自分を高めていこうとする強い意思・意欲を持っている。」の修得度は9割強と他と比べて低い。
- 結果を経年で比較すると、修得度が低下している項目は「態度・志向性 H 看護師として、生涯にわたって自分を高めていこうとする強い意思・意欲を持っている。」で5.3ptの低下。

Q5 あなたは、ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力が、在学中にどの程度身に付いたと思いますか。

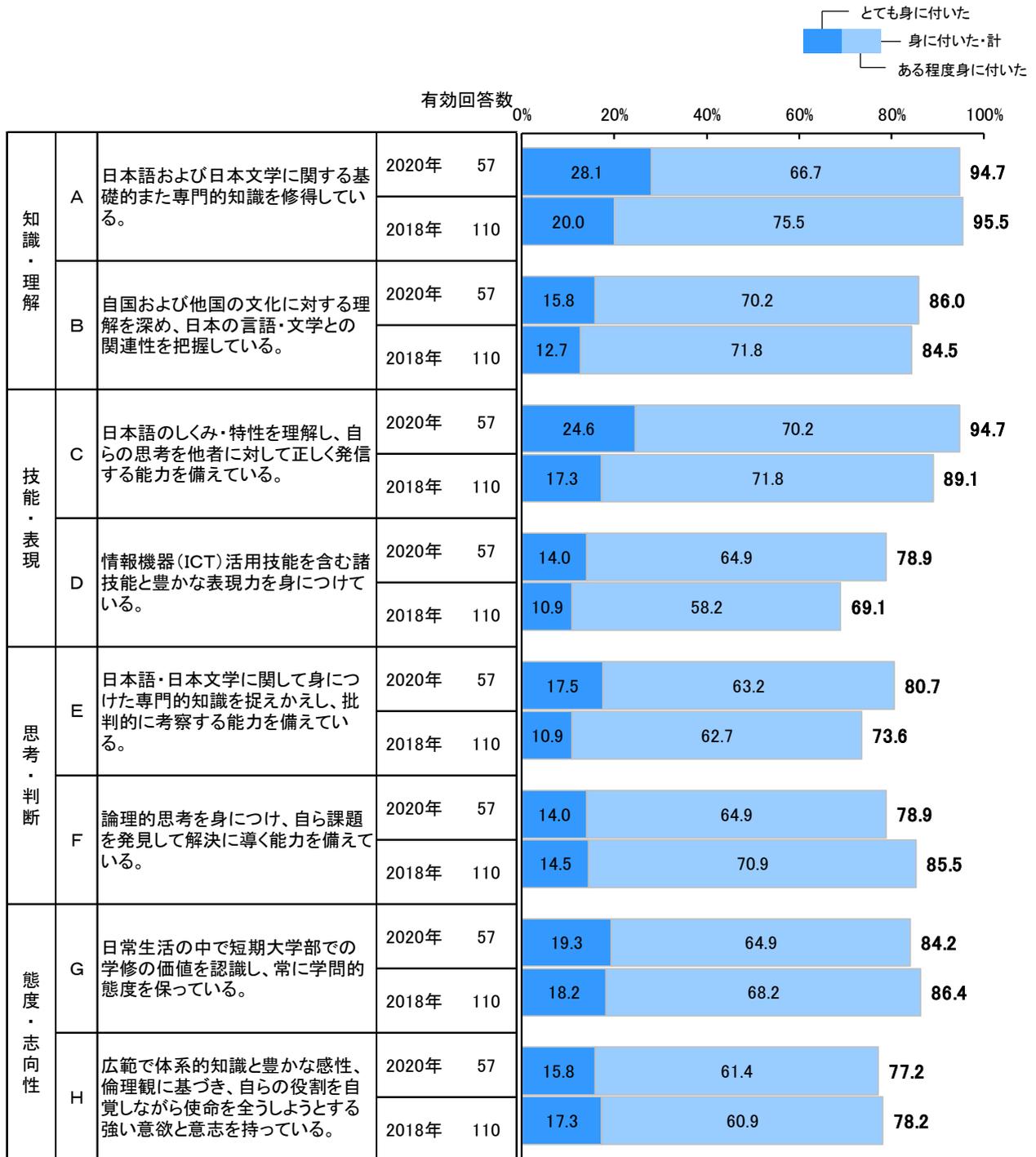


※DPの表記は2020年度の文言で掲載

修得した能力【短期大学部 日本語文化学科】

- 2020年度の結果をみると、ディプロマ・ポリシーの修得度(TOP2計)は約8割～9割半ば。
- 「態度・志向性 H 広範で体系的知識と豊かな感性、倫理観に基づき、自らの役割を自覚しながら使命を全うしようとする強い意欲と意志を持っている。」の修得度は約8割と低い。
- 結果を経年で比較すると、修得度が低下している項目は「思考・判断 F 論理的思考を身につけ、自ら課題を発見して解決に導く能力を備えている。」で6.6ptの低下。

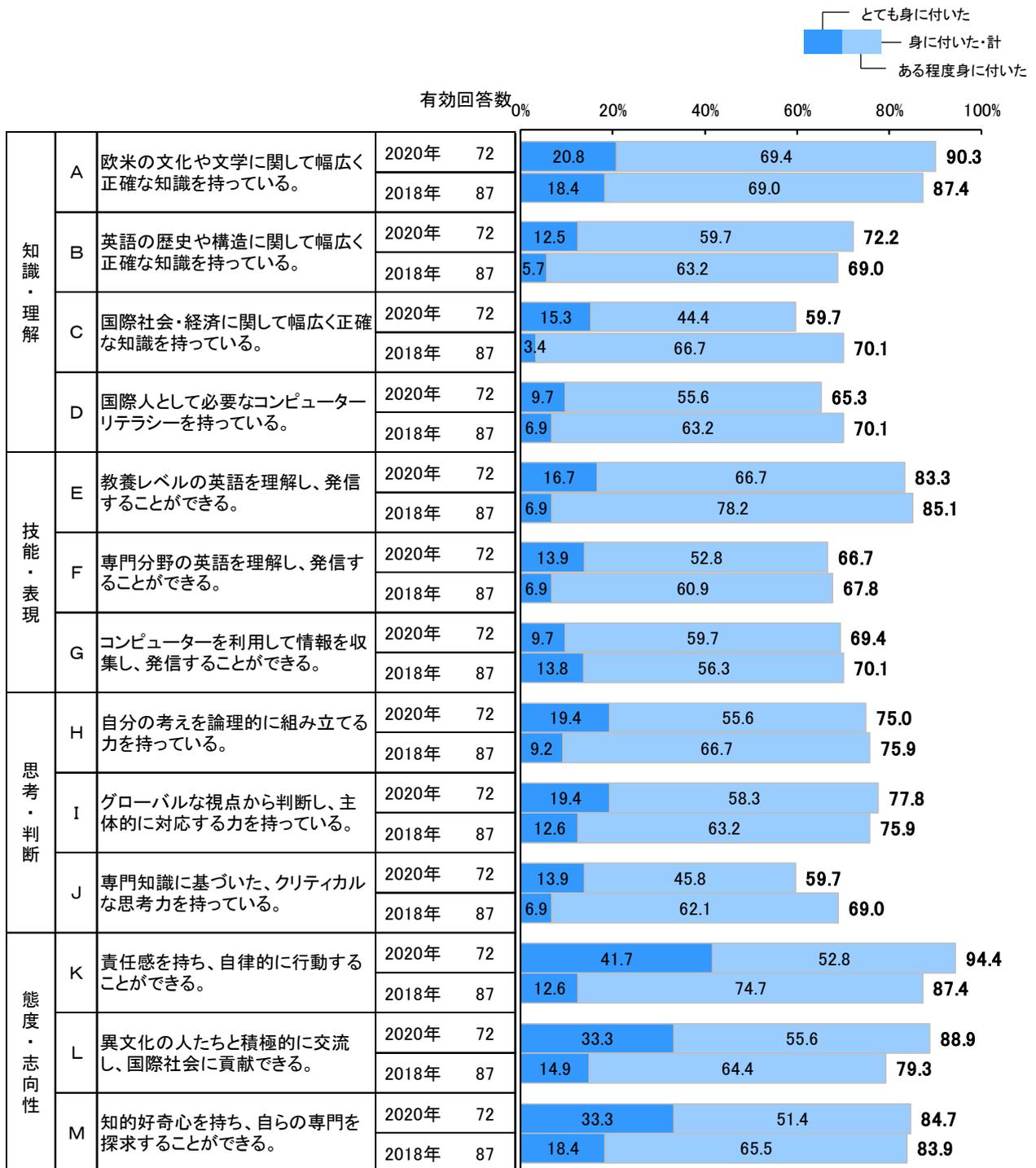
Q5 あなたは、ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力が、在学中にどの程度身に付いたと思いますか。



修得した能力【短期大学部 英語キャリア・コミュニケーション学科】

- 2020年度の結果をみると、ディプロマ・ポリシーの修得度(TOP2計)は約6割～9割半ば。
- 「知識・理解 C 国際社会・経済に関して幅広く正確な知識を持っている。」「思考・判断 J 専門知識に基づいた、クリティカルな思考力を持っている。」の修得度はともに約6割と低い。
- 結果を経年で比較すると、13項目中3項目で修得度が5～10pt程度低下。最も低下したのは「知識・理解 C 国際社会・経済に関して幅広く正確な知識を持っている。」で10.4ptの低下。

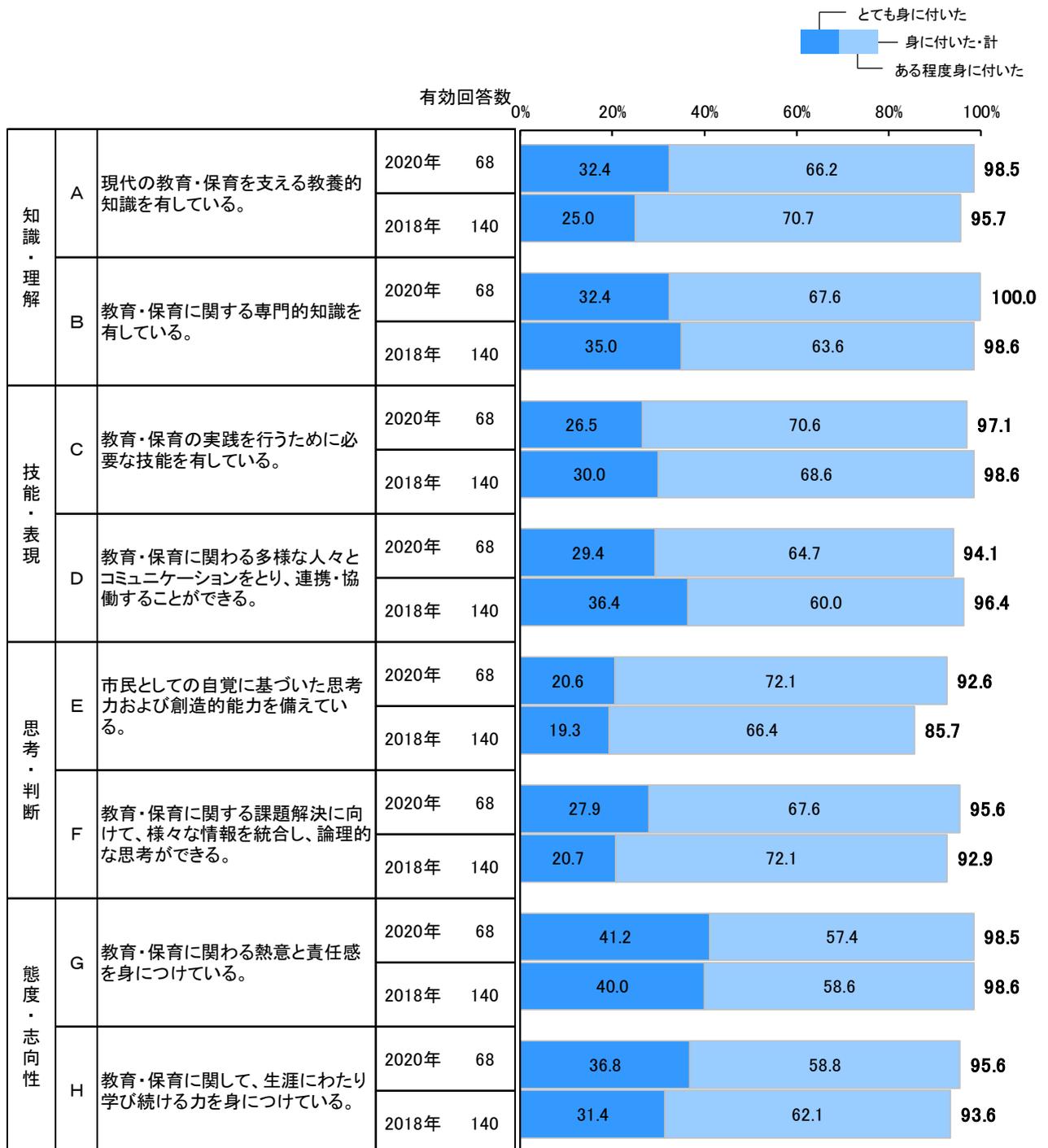
Q5 あなたは、ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力が、在学中にどの程度身に付いたと思いますか。



修得した能力【短期大学部 幼児教育学科】

- 2020年度の結果をみると、ディプロマ・ポリシーの修得度(TOP2計)は約9割～100.0%。
- 「思考・判断 E 市民としての自覚に基づいた思考力および創造的能力を備えている。」の修得度は約9割と低い。
- 結果を経年で比較すると、修得度が低下している項目はみられない。

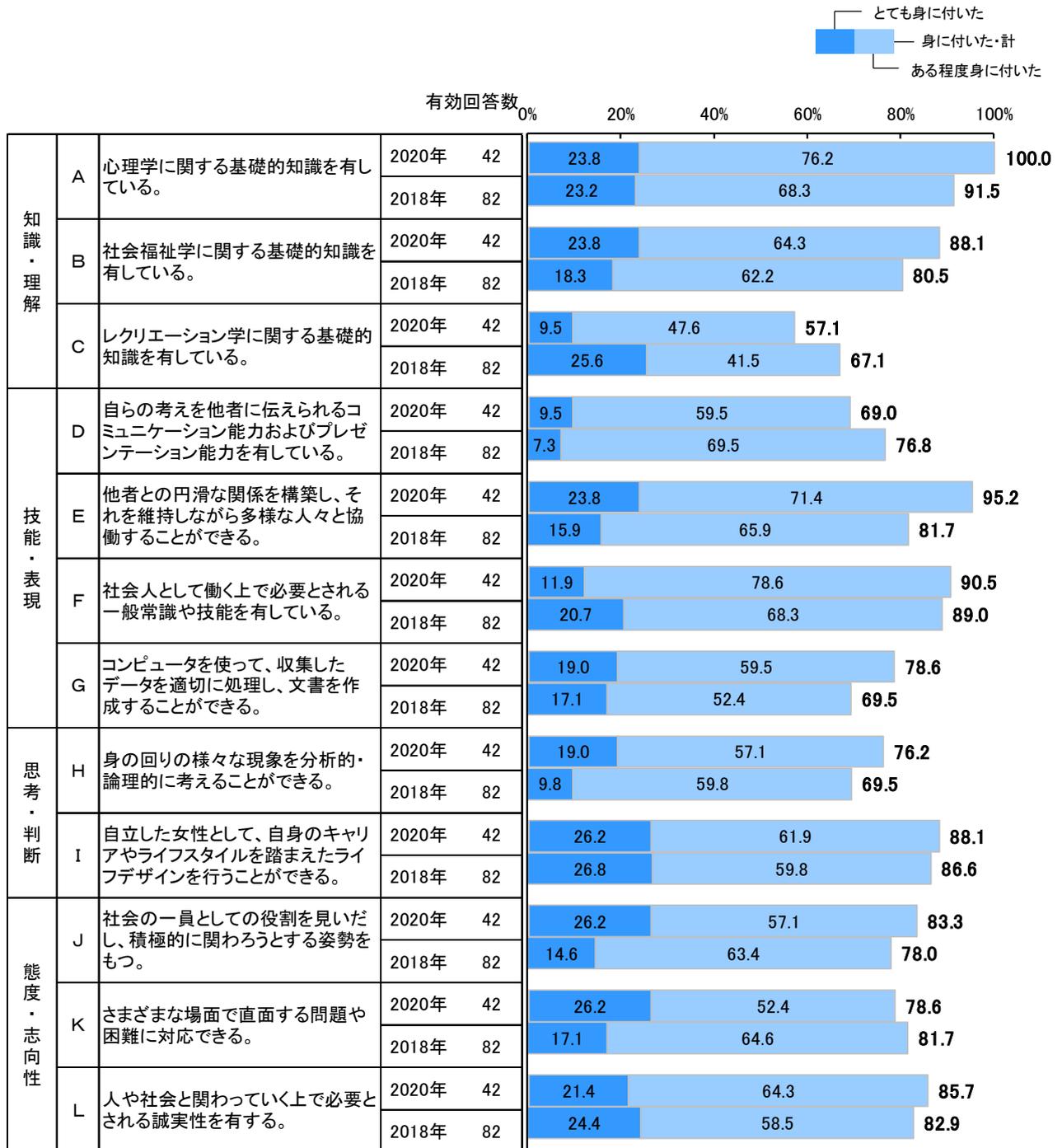
Q5 あなたは、ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力が、在学中にどの程度身に付いたと思いますか。



修得した能力【短期大学部 心理・人間関係学科】

- 2020年度の結果をみると、ディプロマ・ポリシーの修得度(TOP2計)は約6割～100.0%。
- 「知識・理解 C レクリエーション学に関する基礎的知識を有している。」の修得度は約6割と低い。
- 結果を経年で比較すると、12項目中3項目で修得度が3～10pt程度低下。最も低下したのは「知識・理解 C レクリエーション学に関する基礎的知識を有している。」で10.0ptの低下。

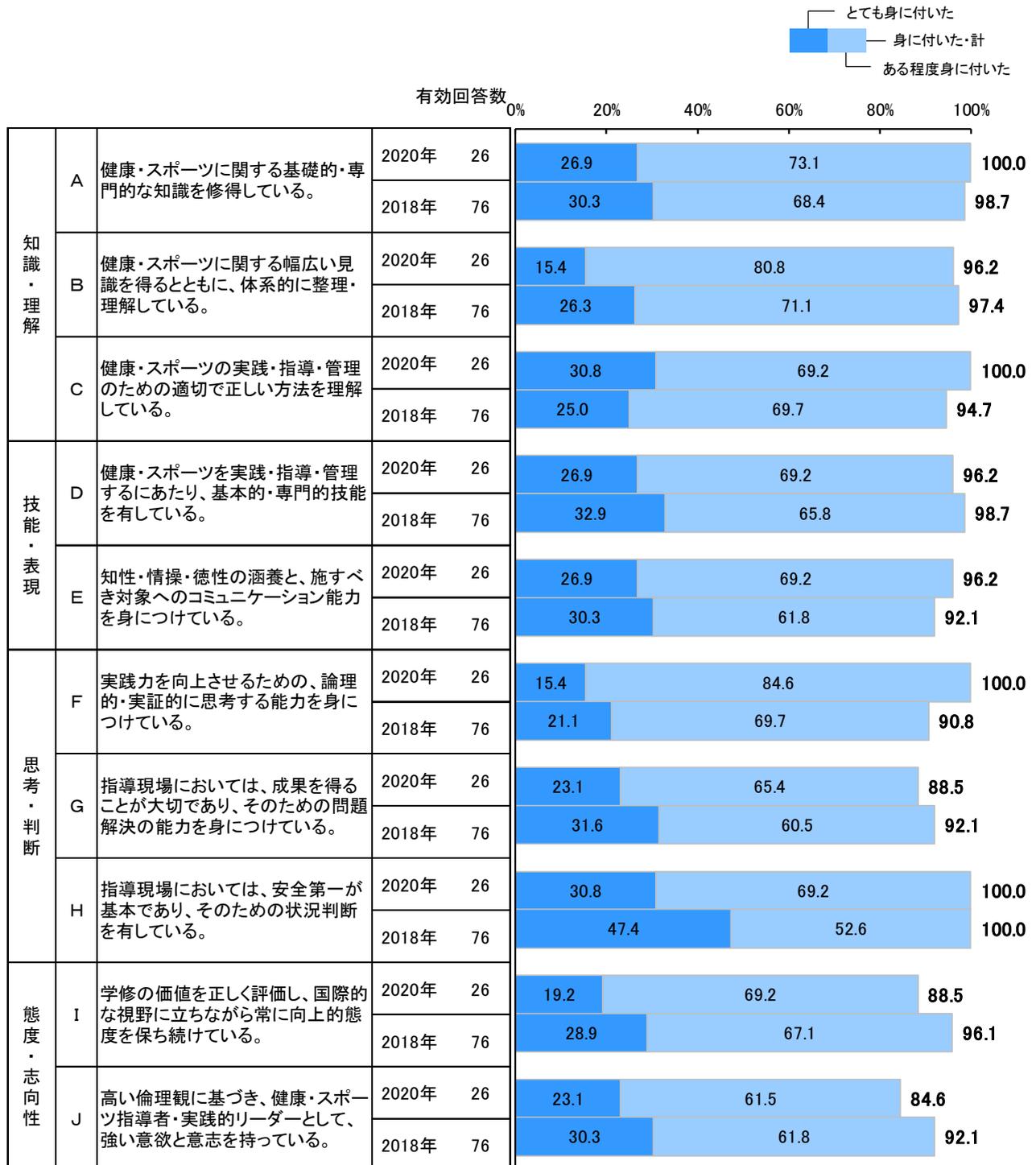
Q5 あなたは、ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力が、在学中にどの程度身に付いたと思いますか。



修得した能力【短期大学部 健康・スポーツ学科】

- 2020年度の結果をみると、ディプロマ・ポリシーの修得度(TOP2計)は8割半ば～100.0%。
- 「態度・志向性 J 高い倫理観に基づき、健康・スポーツ指導者・実践的リーダーとして、強い意欲と意志を持っている。」の修得度は8割半ばと低い。
- 結果を経年で比較すると、10項目中3項目で修得度が4～8pt程度低下。最も低下したのは「態度・志向性 I 学修の価値を正しく評価し、国際的な視野に立ちながら常に向上的態度を保ち続けている。」で7.6ptの低下。

Q5 あなたは、ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力が、在学中にどの程度身に付いたと思いますか。

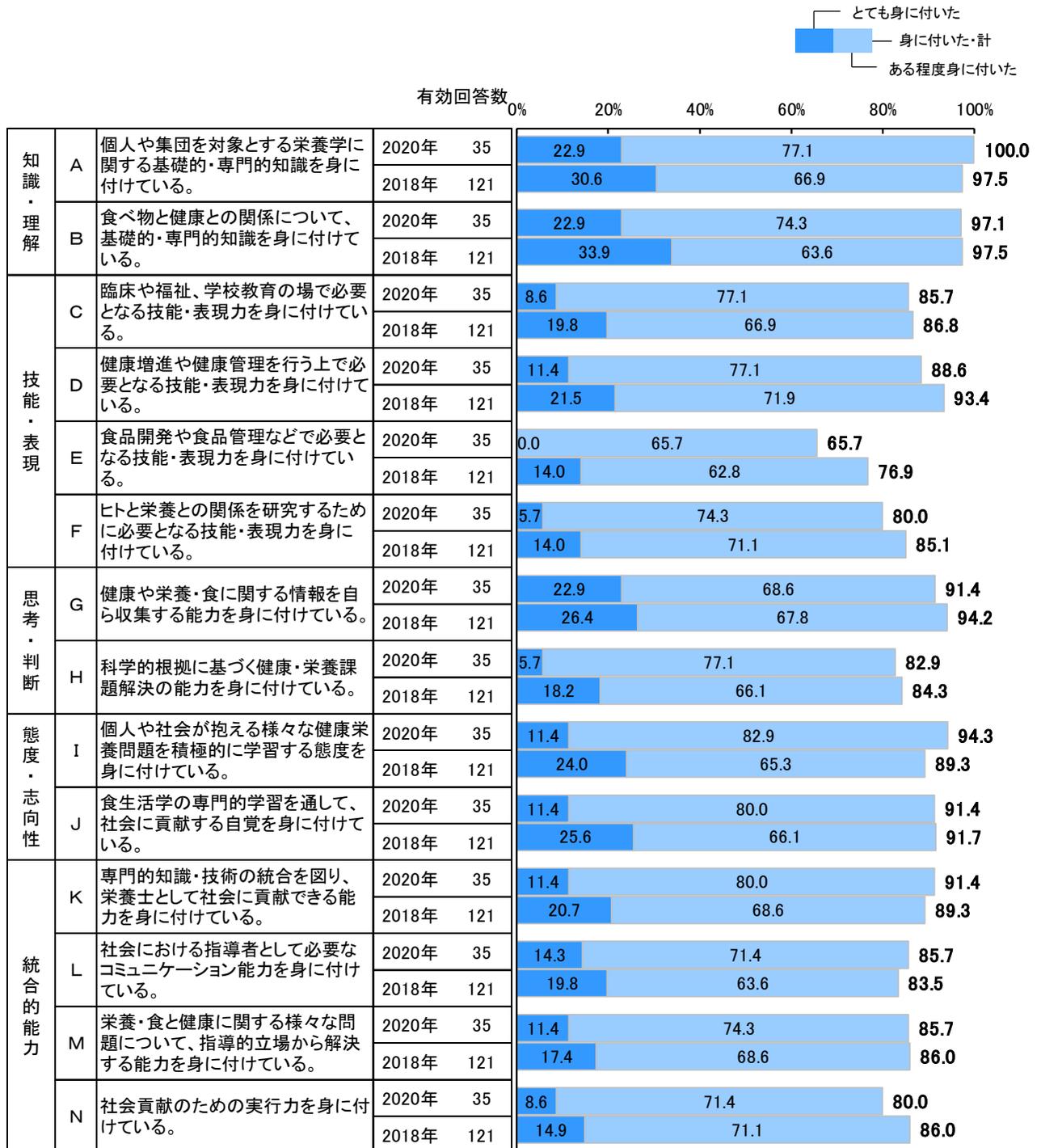


※DPの表記は2020年度の文言で掲載

修得した能力【短期大学部 食生活学科】

- 2020年度の結果をみると、ディプロマ・ポリシーの修得度(TOP2計)は6割半ば～100.0%。
- 「技能・表現 E 食品開発や食品管理などで必要となる技能・表現力を身に付けている。」の修得度は6割半ばと低い。
- 結果を経年で比較すると、14項目中4項目で修得度が5～11pt程度低下。最も低下したのは「技能・表現 E 食品開発や食品管理などで必要となる技能・表現力を身に付けている。」で11.2ptの低下。

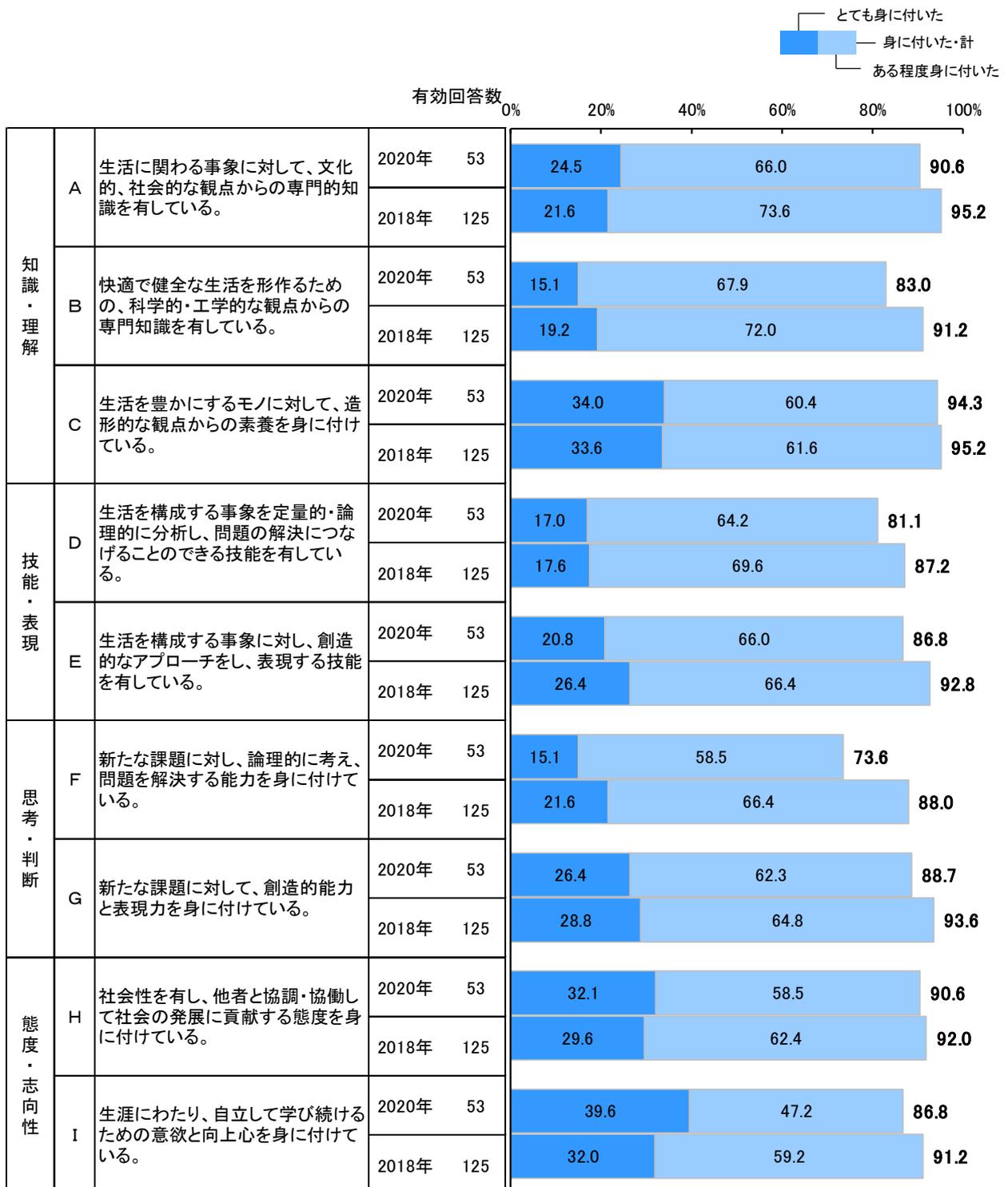
Q5 あなたは、ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力が、在学中にどの程度身に付いたと思いますか。



修得した能力【短期大学部 生活造形学科】

- 2020年度の結果をみると、ディプロマ・ポリシーの修得度(TOP2計)は7割強～9割半ば。
- 「思考・判断 F 新たな課題に対し、論理的に考え、問題を解決する能力を身に付けている。」の修得度は7割強と低い。
- 結果を経年で比較すると、多くの項目で修得度が4～14pt程度低下。最も低下したのは「思考・判断 F 新たな課題に対し、論理的に考え、問題を解決する能力を身に付けている。」で14.4ptの低下。

Q5 あなたは、ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力が、在学中にどの程度身に付いたと思いますか。



修得した能力【大学院 専攻別 今年度結果】

Q5 あなたは、ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力が、在学中にどの程度身に付いたと思いますか。

※各専攻において 90%以上 50%以下の項目に色付けを行った
※数値は「とても身に付いた」+「ある程度身に付いた」の合計値

	有効 回答数	知識・理解						技能・表現				思考・判断			態度・志向性			平均
		1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	1	2	3	1	2	3	
文学研究科 日本語日本文学専攻(修士)	1	100.0	100.0	100.0	-	-	-	100.0	100.0	-	-	100.0	100.0	-	100.0	100.0	-	100.0
文学研究科 臨床心理学専攻(修士)	2	100.0	50.0	50.0	-	-	-	100.0	100.0	100.0	-	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	50.0	87.5
臨床教育学研究科 臨床教育学専攻(修士)	5	80.0	80.0	-	-	-	-	80.0	80.0	80.0	-	80.0	80.0	-	80.0	80.0	-	80.0
健康・スポーツ科学研究科 健康・スポーツ科学専攻(修士)	1	100.0	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	100.0	100.0	100.0	0.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	-	73.3
薬学研究科 薬科学専攻(修士)	2	100.0	100.0	100.0	-	-	-	100.0	100.0	100.0	-	100.0	100.0	-	100.0	100.0	-	100.0

	有効 回答数	知識・理解		技能・表現				思考・判断			態度・志向性		統合的能力				平均
		1	2	1	2	3	4	1	2	3	1	2	1	2	3	4	
生活環境学研究科 食物栄養学専攻(修士)	4	75.0	100.0	75.0	75.0	50.0	75.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	50.0	75.0	75.0	75.0	81.7

	有効 回答数	高い知性				善美な情操		高雅な 徳性	高い知性、善美な 情操、高雅な 徳性の総合		平均
		1	2	3	4	1	2	1	2		
生活環境学研究科 建築学専攻(修士)	22	90.9	90.9	100.0	81.8	100.0	95.5	86.4	90.9	95.5	92.4

	有効 回答数	知識・ 理解	技能・ 表現	思考・ 判断	態度・ 志向性	多職種間 連携能力	平均
		1	1	1	1	1	
看護学研究科 看護学専攻(修士) (看護学研究コース)	2	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
看護学研究科 看護学専攻 (博士後期課程)	2	100.0	100.0	100.0	100.0	50.0	90.0

	有効 回答数	知識・ 理解	技能・表現		思考・ 判断	態度・ 志向性	多職種間連携能力 ・保健行政参画力		平均
		1	1	2	1	1	1	2	
看護学研究科 看護学専攻(修士) (看護学研究保健師コース)	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

【単位：%】

※個別のディプロマ・ポリシーの内容は次ページに掲載

※回収数が1件以上あった専攻・コースのみ掲載

※大学院については回収サンプル数が少ないため、参考値として数表で結果を掲載

修得した能力【大学院 専攻別 ディプロマポリシー一覧】

修士	日本語文学 日本文学 日本文学専攻	知識・理解	1	A	日本の言語・文学・文化に関する専門的な知識を修得している。
			2	B	人文・社会・自然に関する広範な知識を体系的に整理・理解し、日本語・日本文学の諸問題をその知識体系において把握している。
			3	C	体系的知識を複数の異なる視点・国際的観点から把握し、現象を多様な価値観の下に捉えている。
		技能・表現	1	D	大学院における学修を自らの知性・感性・徳性の涵養と言語能力を基礎とするプレゼンテーション能力・コミュニケーション能力の向上に役立たせることができる。
			2	E	大学院における学修の成果を、学会等を含む社会での諸活動に具体的に活用できる。
		思考・判断	1	F	日本語・日本文学に関して身に付けた専門的知識を捉えなおし、批判的に考察する能力を身に付けている。
	2		G	日本語・日本文学の学習に基づく知性と感性によって、論理的・実証的に思考する能力および状況判断・問題解決の能力を備えている。	
	態度・志向性	1	H	日常生活の中で大学院での学修の価値を認識し、常に学問的態度を保ち続けている。	
		2	I	広範で体系的な知識、豊かな感性、しっかりとした倫理観に基づき、家庭・事業体・地域社会・国際社会において自らの役割を自覚しながら使命を全うしようとする強い意欲と意思を持っている。	
	臨床心理学 心理学専攻	知識・理解	1	A	保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働分野等における心理的援助に関する様々な理論や専門的知識を習得している。
			2	B	保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働分野等の関連分野についての法律・制度、職業倫理についての知識を有している。
			3	C	臨床心理学関連領域の専門的知識および基礎的な医学知識を有している。
		技能・表現	1	D	種々の心理的アセスメントの技能を習得し、心理に関する援助に応用することができる。
			2	E	心理状態の観察・分析等の内容について、適切に記録ができ、関係者に説明することができる。
			3	F	臨床的視点からの研究課題を設定し、適切な研究方法の選択および研究計画を立案し、研究論文としてまとめることができる。
		思考・判断	1	G	心理に関する支援を要する人に対して、アセスメント結果を分析し、適切な援助方法を選択・調整することができる。
			2	H	守秘義務等の倫理を遵守すること、また、支援を行う関係者の間で、必要な情報共有を行うことについて、適切に判断することができる。
			3	I	自ら問題を発見し、問題解決に向けて、報告・連絡・相談を適切に行いながら、提案・発信することができる。
態度・志向性	1	J	援助者として支援を必要とする人とラポールを形成し、適切な関係を構築することができる。		
	2	K	多職種連携・地域連携について、実習を通して積極的に学び、心理の支援を行う人としての役割を理解することができる。		
	3	L	自らの臨床実践について責任をもち、スーパービジョンを受けるとともに、学内・学外実習を通して自己研鑽に努める。		
臨床教育学 教育学専攻	知識・理解	1	A	複合領域としての臨床教育学を構成する、教育学・福祉学・心理学諸領域の専門的知識を修得している。	
		2	B	修得された知識を、実社会や臨床現場との関係から理解し、活用することができる。	
	技能・表現	1	C	知識に基づき、客観的根拠を持って分析する力を備えている。	
		2	D	様々な職場、様々な立場の人々と協働する技能と方法を備えている。	
		3	E	考えを的確にまとめ、職場や社会のニーズに合う形で適切に伝えることができる。	
	思考・判断	1	F	社会における諸課題を、臨床教育学の知識と技能を活用して分析し、適切な問題解決に至ることができる。	
		2	G	諸課題を多面的にとらえ、適切な方法を判断・選択することができる。	
	態度・志向性	1	H	社会の諸事象に対して、柔軟な考え方ができる。	
		2	I	人権に配慮し、対人援助への強い意欲を持って行動できる。	

修得した能力【大学院 専攻別 ディプロマポリシー一覧】

修士	健康・スポーツ科学研究科	知識・理解	1	A	欧米の論文を読んで研究の知識を深め、最新の情報を得ることができる。
			2	B	修士論文の作成に不可欠な「研究のプロセス」、「統計手法」および「研究スタイル」に関する基礎的知識を得ることができる。
			3	C	幅広い年齢層における一次予防を目的とした運動処方や現代社会において要請度の高いフィジカル・レクリエーションに関する知識、さらに二次予防として種々の病態に相応しい運動療法について、高度な医科学的知識に加えて行動科学的な手法が理解できる。
			4	D	発育期におけるより専門的な科学的理論に裏づけられた運動発達のプロセスやトレーニングの原則、スポーツ傷害の予防および回復に関する高度な医科学的知識や競技力向上のための優れたコーチングとスポーツ生理学・バイオメカニクス・心理学等の科学的なトレーニング理論が理解できる。
			5	E	運動機能障害および運動機能回復分野に関連する諸問題をリハビリテーション科学の学術的知見に基づき、総合的に理解できるようになる。また、それらを基盤として基礎的研究から臨床の応用へと幅広い研究に対応できる知識を身につける。さらに、細胞生物学や分子生物学のレベルから、運動機能障害が生じる分子メカニズムが理解できる。
			6	F	健康・スポーツに関連するビジネスを展開する上で必要な経営学や商学の基礎が理解できる。
		技能・表現	1	G	安全に運動を実施するための運動負荷試験をはじめ効果的な運動プログラムが作成できるようになる。また、身体活動及びストレス・マネジメントなどの健康行動科学に関連する実験・調査と適切な統計処理ができるようになる。さらに、レジャー・レクリエーションの研究で多く用いられる調査・分析方法を身につけている。
			2	H	学校教育現場において解明しようとする課題を設定してデータを収集・解析し、論理的に組み立てて一定の知見を得る能力を身につける。また、スポーツ競技における種々の動作分析とデータの数理解釈ができ、スポーツの傷害予防や競技力向上のための研究に貢献する思考・技術を身につける。さらに、スポーツの適切なコーチングを推進するための目標・課題の設定法を理解し、課題解決手段や計画立案法及び効果的なコーチングの実践能力を身につけている。
			3	I	身体運動機能系障害に対するリハビリテーション(理学療法学)の評価と介入に関する技術を習得し、さらに客観的データに対する統計処理ができる。さらに、運動機能障害や運動失調症についての細胞生物学・分子生物学の手法を用いた解析法を習得することができる。
			4	J	健康・スポーツに関連する製品開発やメディアプロモーション戦略におけるコミュニケーションデザインなど、実践的なマーケティングアプローチができる。
		思考・判断	1	K	研究テーマを絞り込んだ社会的背景と研究課題の成果を合理的かつ論理的に思考することができる。
			2	L	研究課題を解決するための実験・調査の条件を計画的に絞り込むことができる。
			3	M	論理的思考でプレゼンテーションやディスカッションができる。
		態度・志向性	1	N	本研究科では、学校教育現場、スポーツ競技選手をはじめ身体機能障害および身体機能回復に関する人、さらにスポーツビジネスの対象となる消費者を対象とした研究を推進している。そのため、人を思いやり、人の立場に立って物事を考えることができる高い倫理観に支えられた規律のある態度で研究に臨み、それぞれの研究目標の実現に向け、主体的・論理性・実行力をもって努力することができる。
			2	O	動物実験を伴う生命科学研究は、人の健康・福祉、さらに先端医療の発展などにおいて必要な手段である。本研究科では「武庫川女子大学動物実験規程」を遵守し、動物実験の適正な運用のもとで研究に臨むことができる。

修得した能力【大学院 専攻別 ディプロマポリシー一覧】

修士	生活環境学専攻 食物栄養学専攻 生活環境学専攻	知識・理解	1	A	個人や集団を対象とする栄養学に関する高度な専門的知識を身に付けている。
			2	B	食べ物と健康との関係について、高度な専門的知識を身に付けている。
		技能・表現	1	C	臨床や福祉、学校教育の場で必要となる高度な技能・表現力を身に付けている。
			2	D	健康増進や健康管理を行う上で必要となる高度な技能・表現力を身に付けている。
			3	E	食品開発や食品管理などで必要となる高度な技能・表現力を身に付けている。
			4	F	ヒトと栄養との関係を研究するために必要となる高度な技能・表現力を身に付けている。
		思考・判断	1	G	健康や栄養・食に関する高度かつ専門的な情報を自ら収集する能力を身に付けている。
			2	H	情報収集によって発見された課題を自ら解決できる能力を身に付けている。
			3	I	科学的根拠に基づく健康・栄養課題解決の能力を身に付けている。
		態度・志向性	1	J	個人や社会が抱える様々な健康栄養問題を積極的に学習する態度を身に付けている。
			2	K	食物栄養学の高度な専門的学習を通して、社会に貢献する自覚を身に付けている。
		統合的能力	1	L	高度な専門的知識・技術の統合を図り、管理栄養士として社会に貢献できる能力を身に付けている。
			2	M	社会における指導者として必要なコミュニケーション能力を身に付けている。
			3	N	栄養・食と健康に関する様々な問題について、指導的立場から解決する高度な能力を身に付けている。
	4		O	社会貢献のための実行力を身に付けている。	
	生活環境学専攻 建築学専攻	高い知性	1	A	語学や諸学の基礎学力の習得、および自らの主張を社会に提案し、合意を形成できる実践的能力を修得している。
			2	B	構造や諸災害などに対する安全性を「強」として理解し、その基礎的・先端的技術を積極的に吸収し、演習や実習によって空間的に構成する実践的能力を修得している。
			3	C	機能性や環境負荷などに関する快適性を「用」として理解し、その基礎的・先端的技術を積極的に吸収し、演習や実習により最適な空間を構成する実践的能力を修得している。
			4	D	コスト、スケジュールなど様々な制約条件を理解し、これらの中で、適切な設計・施工計画を進められる実践的能力を修得している。
		善美な情操	1	E	基礎的造形能力を培っている。
2			F	歴史、文化、国際社会、地球環境を理解する実践的知識を習得し価値観を身に付けている。	
高雅な徳性		1	G	社会の仕組みや現代社会の問題点を理解する能力と継続的に学習できる能力を身に付け、自律的活動ができる職能人としての自覚を形成している。	
高い知性、善美な情操、高雅な徳性の総合		1	H	「真」「善」「美」で極めた精神世界を統合し、住環境という実在するモノの世界に具体的、実践的に実現する能力を修得している。	
	2	I	さまざまな専門家、技術者との共同の重要性を理解し、チームワークで建築をつくりこむことのできる能力を修得している。		

修得した能力【大学院 専攻別 ディプロマポリシー一覧】

修士	薬学専攻 薬学専攻	知識・理解	1	A	医薬品の創製のための有機化学、物理化学、分析化学、生命科学、薬理学、薬剤学、衛生・環境化学などの「基礎薬科学」に関する専門的な知識を有し、体系的に理解している。	
			2	B	医薬品の開発のための医薬品の有効性・安全性評価、製剤化、治験などの「応用薬科学」に関する専門的な知識を有し、体系的に理解している。	
			3	C	医薬品の適正使用のための薬物治療、医療倫理、処方、看護学などの「臨床薬科学」に関する専門的な知識を有し、体系的に理解している。	
		技能・表現	1	D	「基礎薬科学」に関する研究を行うための技能を有し、新たな展開を図ることができる。	
			2	E	「応用薬科学」に関する研究を行うための技能を有し、新たな展開を図ることができる。	
			3	F	「臨床薬科学」に関する研究を行うための技能を有し、新たな展開を図ることができる。	
		思考・判断	1	G	「基礎薬科学」、「応用薬科学」あるいは「臨床薬科学」分野の新たな問題・課題を見出すことができる。	
			2	H	「基礎薬科学」、「応用薬科学」あるいは「臨床薬科学」分野の新たな問題・課題の解決への方策を提示できる。	
		態度・志向性	1	I	医薬品の創製、医薬品の開発、医薬品の適正使用に関わる専門的な教育・研究を行うことを志向する。	
	2		J	製薬・化学・食品産業、環境衛生・試験研究機関、理科教員として活躍することを志向する。		
	(看護学専攻) 看護学専攻	(看護学専攻) 看護学専攻	知識・理解	1	A	専門領域における幅広い専門知識と理解力を身につけている。
			技能・表現	1	B	看護の臨床現場で生じている課題の解決・改善に向けての研究を実施し、公表できる。
			思考・判断	1	C	臨床現場で生じている課題を科学的・論理的思考に基づいて解決する方法を見出すことができる。
			態度・志向性	1	D	看護実践、看護教育、看護研究の発展に寄与するように、自らの実践能力を向上していくことができる。
			多職種間連携能力	1	E	保健医療チームにおけるリーダーとして、メンバーの役割を尊重し、メンバー間の協働や連携を促進することができる。
	(看護学専攻) 看護学専攻	(看護学専攻) 看護学専攻	知識・理解	1	A	専門領域における幅広い専門知識と理解力を身につけている。
			技能・表現	1	B	看護の臨床現場で生じている課題の解決・改善に向けての研究を実施し、公表できる。
				2	C	保健師として、複雑困難化している健康問題へ対応できる。
思考・判断			1	D	臨床現場で生じている課題を科学的・論理的思考に基づいて解決する方法を見出すことができる。	
態度・志向性			1	E	看護実践、看護教育、看護研究の発展に寄与するように、自らの実践能力を向上していくことができる。	
多職種間連携能力・保健行政参画力			1	F	保健医療チームにおけるリーダーとして、メンバーの役割を尊重し、メンバー間の協働や連携を促進することができる。	
	2	G	地域の健康課題を解決する方策を探究し、施策の企画、立案、実施及び評価が行える。			
博士後期課程	看護学専攻 看護学専攻	知識・理解	1	A	社会の変化に対応した看護を推進するために、経験知から新たな理論知を創生し、看護実践と研究の連続的なスパイラルの中で思考・実践できる研究能力を有する。現任教育や看護学実習教育を担うことのできる教育研究能力を有する。	
		技能・表現	1	B	看護学の発展に貢献するために、研究結果を学術集会や社会活動に発信し、それらの成果を実践の場に伝えることができる発信力と教育能力を身に付けている。	
		思考・判断	1	C	社会の変化に対応した看護を推進するために、経験知から新たな理論知を創生し、看護実践、看護教育と研究の連続的なスパイラルの中で思考に基づいて解決する方法を見出すことができる。	
		態度・志向性	1	D	より幅広い視野で見識を深め、統合力・連携力・創造力と看護職のアイデンティティを基盤として、教育研究活動を個人の志向により自立して実践することができる。	
		多職種間連携能力	1	E	より幅広い視野で見識を深め、統合力・連携力・創造力と看護職のアイデンティティを基盤として、教育研究活動を個人の志向により自立して実践することができる。	

学科別サマリー

学科特徴	
志望度 (Q1)	<ul style="list-style-type: none"> 「第一志望」の割合は4割台後半で、大学全体と比べてやや低い。前回よりも3.5pt低下している。
立学の精神、 DPの浸透度 (Q2/Q4)	<ul style="list-style-type: none"> 立学の精神の認知は、「入学前から知っていた」「在学中に知った」の割合を合わせて5割台後半で、大学全体とほぼ同程度。前回と比べてもほぼ同様の認知率。 DPは、「理解している」「なんとなく聞いたことがある」の割合を合わせて5割台と、大学全体とほぼ同程度の認知率だが、「理解している」学生は5%未満と大学全体よりもやや低い。前回比較ではほぼ変わらず。
満足度 (Q7/Q8/Q9)	<ul style="list-style-type: none"> 教育満足度(TOP2計)は93.6%で、大学全体と同様に高く、前回とも同程度。 進路満足度(TOP2計)は83.5%で、大学全体と比べるとやや低く、約9割だった前回と比べても低下がみられる。 総合満足度(TOP2計)は96.3%と、大学全体と同様に高く、前回とも同程度。
学びの機会 (Q3)	<ul style="list-style-type: none"> 授業における「教室外での活動」「将来との関わりを感じる授業」の体験率(TOP2計)は、大学全体より15pt以上低い。なかでも、「教室外での活動」の体験率は、大学全体と比べて非常に低く、「あまりなかった」「ほとんどなかった」を合わせると(BOTTOM2計)8割強を占める。 「ディスカッション」「少人数の演習形式」「協働作業」「発表」の体験率も大学全体と比べて低い。差は5～10pt程度にとどまる。 前回と比べると、「少人数の演習形式」「将来との関わりを感じる授業」は5pt程度上昇。対して、「ディスカッション」は5pt程度低下した。
学びの充実度 (Q6)	<ul style="list-style-type: none"> 「共通教育」「外国語教育」「情報リテラシー教育」の充実度(TOP2計)は大学全体と比べると5～15pt程度高い。「専門教育」は大学全体とほぼ同等。 一方で、「実務教育」の充実度は大学全体よりも20pt以上低い。 前回と比べると、「実務教育」が15pt程度低くなっているが「とても当てはまる」は若干の低下にとどまる。他項目は前回とほぼ同等。
修得した能力 (Q5)	<ul style="list-style-type: none"> 修得度(TOP2計)は、約6割～約9割。 同学科の他のDPと比べて修得度(TOP2計)が低いのは、「情報機器(ICT)活用技能を含む諸技能と豊かな表現力を身につけている。」で約6割。 前回と比較すると、多くの項目で修得度が5～10pt程度低下している。最も低下したのは「情報機器(ICT)活用技能を含む諸技能と豊かな表現力を身につけている。」で、12.0ptの低下。

学科特徴	
志望度 (Q1)	<ul style="list-style-type: none"> 「第一志望」の割合は約6割で、大学全体と比べてやや高い。前回よりも8.6pt上昇している。
立学の精神、 DPの浸透度 (Q2/Q4)	<ul style="list-style-type: none"> 立学の精神の認知は、「入学前から知っていた」「在学中に知った」の割合を合わせて5割台後半で、大学全体とほぼ同程度。前回と比べてもほぼ同様の認知率。 DPは、「理解している」「なんとなく聞いたことがある」の割合を合わせて約4割と、大学全体と比べて14.3pt低い。前回比較では、「理解している」「なんとなく聞いたことがある」が3～4pt上昇。
満足度 (Q7/Q8/Q9)	<ul style="list-style-type: none"> 教育満足度(TOP2計)は88.2%で、大学全体と同様に高い。前回とも同程度。 進路満足度(TOP2計)は82.7%で、大学全体と比べるとやや低く、9割強だった前回と比べてもやや低下がみられる。 総合満足度(TOP2計)は95.3%と、大学全体と同様に高く、前回とも同程度。
学びの機会 (Q3)	<ul style="list-style-type: none"> 授業における「協働作業」「教室外での活動」「将来との関わりを感じる授業」の体験率(TOP2計)は、大学全体より10pt以上低い。なかでも、「教室外での活動」の体験率は、大学全体と比べて非常に低く、「あまりなかった」「ほとんどなかった」を合わせると(BOTTOM2計)約8割を占める。 「ディスカッション」の体験率は大学全体と比べて10pt程度高い。 前回と比べて学びの機会に大きな変化はみられない。 「発表」、「少人数の演習形式」は大学全体および前回と比べても同程度。
学びの充実度 (Q6)	<ul style="list-style-type: none"> 「外国語教育」の充実度(TOP2計)は大学全体と比べると20.0pt高い。「共通教育」「情報リテラシー教育」は大学全体とほぼ同等。 一方で、「専門教育」「実務教育」の充実度は大学全体よりも10～20pt程度低い。 前回と比べると、「専門教育」「実務教育」「外国語教育」「情報リテラシー教育」が10～15pt程度低くなっている。「共通教育」も低下しているが、差は5pt程度にとどまる。
修得した能力 (Q5)	<ul style="list-style-type: none"> 修得度(TOP2計)は、5割弱～9割半ば。 同学科の他のDPと比べて修得度(TOP2計)が低いのは、「ドイツ語・フランス語を理解し、発信することができる。」で5割弱。 前回と比較すると、14項目中3項目で修得度の低下がみられる。最も低下したのは「専門知識に基づいた、クリティカルな思考力を持っている。」で、5.2ptの低下。

学科特徴	
志望度 (Q1)	<ul style="list-style-type: none"> 「第一志望」の割合は約6割で、大学全体と比べてやや高い。前回よりも6.7pt上昇している。
立学の精神、 DPの浸透度 (Q2/Q4)	<ul style="list-style-type: none"> 立学の精神の認知は、「入学前から知っていた」「在学中に知った」の割合を合わせて約6割で、大学全体と比べてやや高い認知率。前回と比べるとほぼ同程度の認知率。 DPは、「理解している」「なんとなく聞いたことがある」の割合を合わせて約5割と、大学全体よりもやや低い認知率。「なんとなく聞いたことがある」学生は3割台と大学全体よりも低い。前回比較ではほぼ変わらず。
満足度 (Q7/Q8/Q9)	<ul style="list-style-type: none"> 教育満足度(TOP2計)は97.7%で、大学全体と比べてやや高く、前回と比べると同程度。 進路満足度(TOP2計)は96.6%で、大学全体と比べてやや高い。前回とも同程度。 総合満足度(TOP2計)は100.0%で、大学全体と同様に高く、前回とも同程度。
学びの機会 (Q3)	<ul style="list-style-type: none"> 授業における「ディスカッション」「協働作業」「教室外での活動」の体験率(TOP2計)は、大学全体より10pt以上高い。なかでも、「教室外での活動」の体験率は、大学全体と比べて非常に高く、「よくあった」「ある程度あった」を合わせて(TOP2計)8割を超える。 「発表」「将来との関わりを感じる授業」の体験率も大学全体と比べて高いが、差は10pt近くにとどまる。 前回と比べると、「将来との関わりを感じる授業」は5pt程度低下した。 「少人数の演習形式」は大学全体および前回と比べても同程度。
学びの充実度 (Q6)	<ul style="list-style-type: none"> 「共通教育」「専門教育」「実務教育」「情報リテラシー教育」の充実度(TOP2計)は大学全体と比べると5～15pt程度高い。 一方で、「外国語教育」の充実度は大学全体よりも3.2pt低い。 前回と比べると、「外国語教育」が10pt以上低くなっており、「とても当てはまる」の割合は1割を下回る。「共通教育」「専門教育」「実務教育」も低下したが、差は5pt以内にとどまる。対して、「情報リテラシー教育」は5pt程度上昇した。
修得した能力 (Q5)	<ul style="list-style-type: none"> 修得度(TOP2計)は、5割半ば～9割半ば。 同学科の他のDPと比べて修得度(TOP2計)が低いのは、「国際的視野に基づいた批判的思考力および創造的能力を備えている。」で54.0%。 前回と比較すると、半数の項目で修得度が3～19pt程度低下。最も低下したのは「国際的視野に基づいた批判的思考力および創造的能力を備えている。」で、18.5ptの低下。

学科特徴	
志望度 (Q1)	<ul style="list-style-type: none"> 「第一志望」の割合は約5割で、大学全体と比べてやや低い。前回からの増減はほぼみられない。
立学の精神、 DPの浸透度 (Q2/Q4)	<ul style="list-style-type: none"> 立学の精神の認知は、「入学前から知っていた」「在学中に知った」の割合を合わせて7割弱で大学全体よりも高い。前回と比べて認知率は20pt以上上昇している。 DPは、「理解している」「なんとなく聞いたことがある」の割合が6割強で、大学全体よりもやや高い認知率。「なんとなく聞いたことがある」学生は6割弱と大学全体よりも9.8pt高い。前回比較では認知率は25.2pt高くなっている。
満足度 (Q7/Q8/Q9)	<ul style="list-style-type: none"> 教育満足度(TOP2計)は94.6%で、大学全体と同様に高く、前回とも同程度。 進路満足度(TOP2計)は87.8%で、大学全体と同様に高いが、93.5%だった前回と比べるとやや低下がみられる。 総合満足度(TOP2計)は98.6%と、大学全体と同様に高く、前回とも同程度。
学びの機会 (Q3)	<ul style="list-style-type: none"> 授業における「発表」「教室外での活動」の体験率(TOP2計)は、大学全体より10pt以上低い。「将来との関わりを感じる授業」の体験率の差は5pt以内にとどまる。 「少人数の演習形式」の体験率は大学全体と比べて5pt程度高く、「ディスカッション」「協働作業」の体験率の差は5pt程度にとどまる。 前回と比べると、「教室外での活動」「少人数の演習形式」は15～20pt程度上昇。対して、「ディスカッション」「発表」は5pt程度低下した。
学びの充実度 (Q6)	<ul style="list-style-type: none"> 「共通教育」「外国語教育」「情報リテラシー教育」の充実度(TOP2計)は大学全体と比べると5～15pt程度高い。「専門教育」は大学全体とほぼ同等。 一方で、「実務教育」の充実度は大学全体よりも10pt近く低い。 前回と比べると、「専門教育」「実務教育」が5～10pt程度低くなっている。対して、「外国語教育」「情報リテラシー教育」は5pt程度上昇した。
修得した能力 (Q5)	<ul style="list-style-type: none"> 修得度(TOP2計)は、約4割～9割半ば。 同学科の他のDPと比べて修得度(TOP2計)が低いのは、「レクリエーション学に関する基礎的・専門的知識を有している。」で約4割。 前回と比較すると、修得度が低下している項目は「自らの考えを他者に伝えられるコミュニケーション能力およびプレゼンテーション能力を有している。」で7.6ptの低下。

学科特徴	
志望度 (Q1)	<ul style="list-style-type: none"> 「第一志望」の割合は7割弱で、大学全体と比べて高い。前回からの増減はほぼみられない。
立学の精神、 DPの浸透度 (Q2/Q4)	<ul style="list-style-type: none"> 立学の精神の認知は、「入学前から知っていた」「在学中に知った」の割合を合わせて約5割で、大学全体と同程度。前回と比べて認知率は8.5pt低下している。 DPは、「理解している」「なんとなく聞いたことがある」の割合を合わせて5割台と、大学全体とほぼ同程度の認知率。前回比較では認知率は27.2pt上昇している。
満足度 (Q7/Q8/Q9)	<ul style="list-style-type: none"> 教育満足度(TOP2計)は95.1%で、大学全体と比べてやや高く、前回と比べると同率。 進路満足度(TOP2計)は95.8%で、大学全体と比べてやや高く、前回と比べると同程度。 総合満足度(TOP2計)は96.5%で、大学全体と同様に高く、前回とも同程度。
学びの機会 (Q3)	<ul style="list-style-type: none"> 授業における「教室外での活動」の体験率(TOP2計)は、大学全体より15pt程度高い。 「少人数の演習形式」の体験率(TOP2計)は大学全体と比べてやや低い。 前回と比べると、「ディスカッション」「協働作業」は10pt以上上昇した。「発表」「教室外での活動」も上昇したが、差は5pt程度にとどまる。 「将来との関わりを感じる授業」は大学全体および前回と比べても同程度。
学びの充実度 (Q6)	<ul style="list-style-type: none"> 「専門教育」「実務教育」の充実度(TOP2計)は大学全体と比べると5～10pt程度高い。 一方で、「外国語教育」「情報リテラシー教育」の充実度は大学全体よりも5～15pt程度低い。 前回と比べると、「外国語教育」「情報リテラシー教育」が15pt程度低くなっている。「共通教育」の低下は5pt以内にとどまる。他項目は前回とほぼ同等。
修得した能力 (Q5)	<ul style="list-style-type: none"> 修得度(TOP2計)は、8割半ば～9割半ば。 同学科の他のDPと比べて修得度(TOP2計)が低いのは、「指導現場においては、成果を得ることが大切であり、そのための問題解決の能力を身につけている。」で85.9%。 前回と比較すると、修得度が低下している項目は「健康・スポーツに関する基礎的・専門的な知識を修得している。」で3.1ptの低下。

学科特徴	
志望度 (Q1)	<ul style="list-style-type: none"> 「第一志望」の割合は約7割で、大学全体と比べて高い。前回よりも4.8pt上昇している。
立学の精神、 DPの浸透度 (Q2/Q4)	<ul style="list-style-type: none"> 立学の精神の認知は、「入学前から知っていた」「在学中に知った」の割合を合わせて約5割で、大学全体と同程度。前回と比べて認知率は11.4pt上昇。 DPは、「理解している」「なんとなく聞いたことがある」の割合を合わせて約5割と、大学全体よりもやや低い認知率。前回比較では認知率は14.3pt上昇。
満足度 (Q7/Q8/Q9)	<ul style="list-style-type: none"> 教育満足度(TOP2計)は89.4%で、大学全体と同様に高く、前回とも同程度。 進路満足度(TOP2計)は97.9%で、大学全体と比べるとやや高く、約9割だった前回と比べてもやや上昇している。 総合満足度(TOP2計)は89.4%と、大学全体と比べてやや低く、前回とも同程度。
学びの機会 (Q3)	<ul style="list-style-type: none"> 授業における「ディスカッション」の体験率(TOP2計)は、大学全体より25pt程度低く、「教室外での活動」「少人数の演習形式」も大学全体と比べて5～10pt程度低い。「発表」「将来との関りを感じる」の差は5pt以内にとどまる。 前回と比べると、「少人数の演習形式」は20pt程度上昇。対して、「ディスカッション」「協働作業」は10pt程度低下した。
学びの充実度 (Q6)	<ul style="list-style-type: none"> 「共通教育」「専門教育」「外国語教育」「情報リテラシー教育」の充実度(TOP2計)は大学全体と比べると10～30pt程度低い。 「実務教育」の充実度も低下しているが、差は5pt以内にとどまる。 前回と比べると、「共通教育」「専門教育」「外国語教育」「情報リテラシー教育」は15～25pt程度低くなっている。「実務教育」も低下しているが、下げ幅は10pt以内にとどまる。
修得した能力 (Q5)	<ul style="list-style-type: none"> 修得度(TOP2計)は、8割弱～9割半ば。 「快適で健全な生活環境に形作るための、科学的・工学的な観点からの専門知識を有している。」「生活環境を構成する事象を定量的・論理的に分析し、問題の解決につなげることのできる技能を有している。」「生活環境を構成する事象に対し、創造的なアプローチをし、表現する技能を有している。」「新たな課題に対し、論理的に考え、問題を解決する能力を身に付けている。」「新たな課題に対して、創造的能力と表現力を身に付けている。」の修得度はいずれも8割弱と低い。 前回と比較すると、最も低下したのは「生活環境を構成する事象に対し、創造的なアプローチをし、表現する技能を有している。」で、6.5ptの低下。

学科特徴	
志望度 (Q1)	<ul style="list-style-type: none"> 「第一志望」の割合は約6割で、大学全体と比べてやや高い。前回からの増減はほぼみられない。
立学の精神、 DPの浸透度 (Q2/Q4)	<ul style="list-style-type: none"> 立学の精神の認知は、「入学前から知っていた」「在学中に知った」の割合を合わせて約4割で、大学全体よりも低い。前回と比べると、ほぼ同様の認知率。 DPは、「理解している」「なんとなく聞いたことがある」の割合を合わせて約4割と、大学全体よりも低い認知率。「理解している」学生は2.2%と大学全体よりもやや低い。前回比較では認知率は7.1pt上昇。
満足度 (Q7/Q8/Q9)	<ul style="list-style-type: none"> 教育満足度(TOP2計)は95.6%で、大学全体と同様に高く、前回とも同程度。 進路満足度(TOP2計)は93.3%で、大学全体と同様に高く、前回とも同程度。 総合満足度(TOP2計)は95.6%で、大学全体と同様に高く、前回とも同程度。
学びの機会 (Q3)	<ul style="list-style-type: none"> 授業における「教室外での活動」の体験率(TOP2計)は、大学全体より25pt程度高く、「よくあった」「ある程度あった」を合わせて8割を超える。 「協働作業」「発表」「将来との関わりを感じる授業」の体験率も大学全体と比べて高いが、差は10pt以内にとどまる。 前回と比べると、「少人数の演習形式」は10pt程度低下した。「ディスカッション」「教室外での活動」も低下したが、差は5pt以内にとどまる。
学びの充実度 (Q6)	<ul style="list-style-type: none"> 「専門教育」「実務教育」の充実度(TOP2計)は大学全体と比べると5～10pt程度高い。「共通教育」は大学全体とほぼ同等。 一方で、「外国語教育」「情報リテラシー教育」の充実度は大学全体よりも5～10pt程度低い。なかでも「外国語教育」の「とても当てはまる」の割合は7.8%と低い充実度。 前回と比べると、「外国語教育」「情報リテラシー教育」が5～10pt程度低くなっている。「共通教育」「専門教育」の差は5pt以内にとどまる。「実務教育」は前回とほぼ同等。
修得した能力 (Q5)	<ul style="list-style-type: none"> 修得度(TOP2計)は、7割半ば～9割半ば。 同学科の他のDPと比べて修得度(TOP2計)が低いのは、「食品開発や食品管理などで必要となる技能・表現力を身に付けている。」で75.6%。 前回と比較すると、14項目中5項目で修得度が4～12pt程度低下。最も低下したのは「食品開発や食品管理などで必要となる技能・表現力を身に付けている。」で11.5ptの低下。

学科特徴	
志望度 (Q1)	<ul style="list-style-type: none"> 「第一志望」の割合は6割弱で、大学全体と同程度。前回よりも7.6pt上昇している。
立学の精神、 DPの浸透度 (Q2/Q4)	<ul style="list-style-type: none"> 立学の精神の認知は、「入学前から知っていた」「在学中に知った」の割合を合わせて約4割で、大学全体よりも9.9pt低い。前回と比べると、ほぼ同様の認知率。 DPは、「理解している」「なんとなく聞いたことがある」の割合を合わせて約8割と、大学全体よりも認知率は20pt以上高い。また、「理解している」学生は3割弱で、大学全体よりも15pt以上高い。前回比較では認知率は19.9pt上昇。
満足度 (Q7/Q8/Q9)	<ul style="list-style-type: none"> 教育満足度(TOP2計)は91.3%で、大学全体と同様に高く、前回とも同程度。 進路満足度(TOP2計)は86.3%で、大学全体と比べて同程度だが、約9割だった前回と比べてやや低下がみられる。 総合満足度(TOP2計)は91.3%で、大学全体と同様に高く、前回とも同程度。
学びの機会 (Q3)	<ul style="list-style-type: none"> 授業における「教室外での活動」の体験率(TOP2計)は、大学全体より30pt程度低く、「あまりなかった」「ほとんどなかった」を合わせて(BOTTOM2計)約7割を占める。 「将来との関わりを感じる授業」の体験率も大学全体と比べて低く、差は10pt近くで、「ディスカッション」「少人数の演習形式」の差は5pt以内にとどまる。 前回と比べると、「教室外での活動」「少人数の演習形式」は10～20pt程度上昇し、「発表」は5pt近く上昇。 「協働作業」は大学全体および前回と比べても同程度。
学びの充実度 (Q6)	<ul style="list-style-type: none"> 「情報リテラシー教育」の充実度(TOP2計)は大学全体と比べると10pt程度高い。 一方で、「専門教育」「実務教育」「外国語教育」の充実度は大学全体よりも5～10pt程度低い。「共通教育」も低い。差は5pt以内にとどまる。 前回と比べると、「共通教育」「外国語教育」「情報リテラシー教育」は5～10pt程度低くなっている。とくに、「情報リテラシー教育」は「とても当てはまる」の割合も11pt低下し2割強。他の項目も5pt程度低下。
修得した能力 (Q5)	<ul style="list-style-type: none"> 修得度(TOP2計)は、7割強～9割。 同学科の他のDPと比べて修得度(TOP2計)が低いのは、「生涯に亘って自分のキャリアを開拓できる意欲と向上心を身につけている。」で7割強。 前回と比較すると、7項目中3項目で修得度が4～7pt程度低下。最も低下したのは「生涯に亘って自分のキャリアを開拓できる意欲と向上心を身につけている。」で6.6ptの低下。

学科特徴	
志望度 (Q1)	<ul style="list-style-type: none"> 「第一志望」の割合は約3割で、大学全体と比べて低い。前回よりも11.4pt低下している。
立学の精神、 DPの浸透度 (Q2/Q4)	<ul style="list-style-type: none"> 立学の精神の認知は、「入学前から知っていた」「在学中に知った」の割合を合わせて約6割で、大学全体よりも7.0pt高い。前回と比べて認知率は5.0pt低下がみられる。 DPは、「理解している」「なんとなく聞いたことがある」の割合を合わせて9割台と、大学全体よりも高い認知率。「理解している」学生は約5割で、大学全体と比べて非常に高い。前回比較では認知率は21.9pt上昇。
満足度 (Q7/Q8/Q9)	<ul style="list-style-type: none"> 教育満足度(TOP2計)は97.6%で、大学全体と比べてやや高い。前回とは同程度。 進路満足度(TOP2計)は85.7%で、大学全体と比べるとやや低い。93.3%だった前回と比べても低下がみられる。 総合満足度(TOP2計)は97.6%で、大学全体と同様に高い。前回からは4.3pt上昇。
学びの機会 (Q3)	<ul style="list-style-type: none"> 授業における「発表」「教室外での活動」「少人数の演習形式」「将来との関わりを感じる授業」の体験率(TOP2計)は、大学全体より10～40pt程度高い。なかでも、「教室外での活動」の体験率は、大学全体と比べて非常に高く、「よくあった」「ある程度あった」(TOP2計)を合わせて9割を超える。 「協働作業」の体験率は大学全体と比べて5pt程度低い。 前回と比べると、「ディスカッション」「協働作業」「教室外での活動」「少人数の演習形式」は5～10pt程度低下した。
学びの充実度 (Q6)	<ul style="list-style-type: none"> 「専門教育」「実務教育」の充実度(TOP2計)は大学全体と比べると10～15pt程度高い。 一方で、「共通教育」「外国語教育」「情報リテラシー教育」の充実度は大学全体よりも10～20pt程度低い。 前回と比べると、「外国語教育」「情報リテラシー教育」が15～30pt程度低くなっている。なかでも「情報リテラシー教育」の「とても当てはまる」の割合は30pt程度低下し、1割を下回る。
修得した能力 (Q5)	<ul style="list-style-type: none"> 修得度(TOP2計)は、約8割～9割半ば。 同学科の他のDPと比べて修得度(TOP2計)が低いのは、「コスト、スケジュールなど様々な制約条件を理解し、これらの中で、適切な設計・施工計画を進められる基礎的能力を培っている。」で約8割。 前回と比較すると、半数以上の項目で修得度が5～8pt程度低下。最も低下したのは「社会の仕組みや現代社会の問題点を理解する能力と継続的に学習できる能力を培い、自律的活動ができる職能人としての素養を理解している。」で7.5ptの低下。

学科特徴	
志望度 (Q1)	<ul style="list-style-type: none"> 「第一志望」の割合は約7割で、大学全体と比べて高い。前回よりも27.4pt上昇している。
立学の精神、 DPの浸透度 (Q2/Q4)	<ul style="list-style-type: none"> 立学の精神の認知は、「入学前から知っていた」「在学中に知った」の割合を合わせて約7割で、大学全体と比べて15pt以上高い。前回と比べると、認知率は6.0pt低下。 DPは、「理解している」「なんとなく聞いたことがある」の割合を合わせて約6割と、大学全体とほぼ同程度の認知率だが、「理解している」学生は約2割と大学全体よりも高い。前回比較では認知率は18.6pt上昇。
満足度 (Q7/Q8/Q9)	<ul style="list-style-type: none"> 教育満足度(TOP2計)は93.1%で、大学全体と同様に高い。前回とも同程度。 進路満足度(TOP2計)は89.7%で、大学全体と同様に高く、前回とも同程度。 総合満足度(TOP2計)は89.7%で、大学全体と比べてやや低く、95.0%だった前回と比べても低下がみられる。
学びの機会 (Q3)	<ul style="list-style-type: none"> 授業における「ディスカッション」「少人数の演習形式」の体験率(TOP2計)は、大学全体より10～20pt程度高い。なかでも、「少人数の演習形式」の体験率は、大学全体と比べて非常に高く、「よくあった」「ある程度あった」(TOP2計)を合わせて約9割を占める。 「教室外での活動」の体験率は大学全体と比べて20pt程度低く、「あまりなかった」「ほとんどなかった」を合わせると(BOTTOM2計)約6割を占める。「協働作業」も大学全体と比べて低い。差は5pt以内にとどまる。 前回と比べると、「ディスカッション」は20pt程度上昇。対して、「発表」「少人数の演習形式」「将来との関わりを感じる授業」は5～15pt程度低下した。
学びの充実度 (Q6)	<ul style="list-style-type: none"> 「共通教育」「外国語教育」の充実度(TOP2計)は大学全体と比べると10～15pt程度高い。 前回と比べると、「実務教育」「外国語教育」「情報リテラシー教育」が10～25pt程度低下している。なかでも、「実務教育」の「とても当てはまる」の割合は20pt程度低下し、約4割。 「専門教育」は大学全体および前回と比べても同程度。
修得した能力 (Q5)	<ul style="list-style-type: none"> 修得度(TOP2計)は、約6割～約9割。 同学科の他のDPと比べて修得度(TOP2計)が低いのは、「音楽に携わる上で必要な語学能力を有している。」で約6割。 前回と比較すると、多くの項目で修得度が5～23pt程度低下。最も低下したのは「音楽に携わる上で必要な語学能力を有している。」で22.9ptの低下。

学科特徴	
志望度 (Q1)	<ul style="list-style-type: none"> 「第一志望」の割合は7割強で、大学全体と比べて高い。前回よりも3.3pt上昇している。
立学の精神、 DPの浸透度 (Q2/Q4)	<ul style="list-style-type: none"> 立学の精神の認知は、「入学前から知っていた」「在学中に知った」の割合を合わせて6割と、大学全体よりもやや高い。前回と比べて認知率は5.0pt上昇している。 DPは、「理解している」「なんとなく聞いたことがある」の割合を合わせて6割と、大学全体とほぼ同程度の認知率。前回比較では認知率は30pt上昇。
満足度 (Q7/Q8/Q9)	<ul style="list-style-type: none"> 教育満足度(TOP2計)は86.7%で、大学全体よりもやや低く、100.0%だった前回と比べても低下がみられる。 進路満足度(TOP2計)は93.3%で、大学全体と同様に高く、前回とも同程度。 総合満足度(TOP2計)は93.3%で、大学全体と同様に高いが、100.0%だった前回と比べてやや低下。
学びの機会 (Q3)	<ul style="list-style-type: none"> 授業における「発表」「教室外での活動」「少人数の演習形式」の体験率(TOP2計)は、大学全体より5～30pt程度高い。なかでも、「少人数の演習形式」の体験率は、大学全体と比べて非常に高く、「よくあった」「ある程度あった」を合わせて(TOP2計)100.0%である。 「将来との関わりを感じる授業」の体験率は、大学全体と比べて5.0pt低い。 前回と比べると、「ディスカッション」「少人数の演習形式」は5～10pt程度上昇。対して、「協働作業」「将来との関わりを感じる授業」は5～15pt程度低下した。
学びの充実度 (Q6)	<ul style="list-style-type: none"> 「専門教育」の充実度(TOP2計)は大学全体と比べると10pt程度高い。「実務教育」も高いが、差は5pt以内にとどまる。 一方で、「情報リテラシー教育」の充実度は大学全体よりも15pt程度低い。 前回と比べると、「共通教育」「実務教育」「外国語教育」「情報リテラシー教育」は10～40pt程度低くなっている。なかでも、「実務教育」の「とても当てはまる」の割合は30pt低下し4割。「専門教育」は前回と同様に非常に高い。
修得した能力 (Q5)	<ul style="list-style-type: none"> 修得度(TOP2計)は、2割～9割強。 同学科の他のDPと比べて修得度(TOP2計)が低いのは、「海外の論文や文献研究に必要な語学力を有している。」で2割。 前回と比較すると、多くの項目で修得度が3～20pt程度低下。最も低下したのは「情報を収集・分析し、客観的に問題提起および音楽に基づく解決策を提案できる。」で20.0ptの低下。

学科特徴	
志望度 (Q1)	<ul style="list-style-type: none"> 「第一志望」の割合は約4割で、大学全体と比べて低い。前回からの増減はほぼみられない。
立学の精神、 DPの浸透度 (Q2/Q4)	<ul style="list-style-type: none"> 立学の精神の認知は、「入学前から知っていた」「在学中に知った」の割合を合わせて約5割で、大学全体と同程度。前回と比べて認知率はやや低下がみられる。 DPは、「理解している」「なんとなく聞いたことがある」の割合を合わせて約7割と、大学全体と比べて高い認知率。前回比較では認知率は40pt以上上昇しており、「なんとなく聞いたことがある」学生の割合は6割に達している。
満足度 (Q7/Q8/Q9)	<ul style="list-style-type: none"> 教育満足度(TOP2計)は83.8%で、大学全体よりもやや低く、97.1%だった前回と比べても低下がみられる。「満足している」の割合は25pt以上低下している。 進路満足度(TOP2計)は89.7%で、大学全体と同様に高いが、97.7%だった前回と比べてやや低下がみられる。 総合満足度(TOP2計)は92.3%で、大学全体と同様に高い。前回とも同程度。
学びの機会 (Q3)	<ul style="list-style-type: none"> 授業における「教室外での活動」「将来との関わりを感じる授業」の体験率(TOP2計)は、大学全体より10～30pt程度高い。なかでも、「教室外での活動」の体験率は、大学全体と比べて非常に高く、「よくあった」「ある程度あった」を合わせて(TOP2計)9割弱。「協働作業」も高いが、差は5pt以内にとどまる。 「ディスカッション」「発表」の体験率(TOP2計)は、大学全体と比べて5～10pt程度低い。 前回と比べると、「ディスカッション」「教室外での活動」「少人数の演習形式」は15～25pt程度上昇。なかでも、「教室外での活動」の「よくあった」の割合は4割を超え高い。「協働作業」の前回との差は5pt以内にとどまる。
学びの充実度 (Q6)	<ul style="list-style-type: none"> 「実務教育」の充実度(TOP2計)は大学全体と比べると5pt程度高い。「情報リテラシー教育」も高いが差は5pt以内にとどまり、「専門教育」は大学全体とほぼ同等。 一方で、「共通教育」「外国語教育」の充実度は大学全体よりも5～10pt程度低い。 前回と比べると、「共通教育」「専門教育」「実務教育」は5～10pt程度低い。対して、「外国語教育」「情報リテラシー教育」は5～10pt程度高い。
修得した能力 (Q5)	<ul style="list-style-type: none"> 修得度(TOP2計)は、9割弱～9割台後半。 同学科の他のDPと比べて修得度(TOP2計)が低いのは、「薬剤師業務および関連業務で必要なプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力を有する。」で86.3%。 前回と比較すると、9項目中4項目で修得度が3～5pt程度低下。最も低下したのは「進歩する医療や科学について、自ら学び、考え、問題点を発見し、解決する能力を有する。」で5.1ptの低下。

学科特徴	
志望度 (Q1)	<ul style="list-style-type: none"> 「第一志望」の割合は約4割で、大学全体と比べて低い。前回よりも8.3pt低下している。
立学の精神、 DPの浸透度 (Q2/Q4)	<ul style="list-style-type: none"> 立学の精神の認知は、「入学前から知っていた」「在学中に知った」の割合を合わせて約6割で、大学全体よりもやや高い。前回と比べると、ほぼ同様の認知率。 DPは、「理解している」「なんとなく聞いたことがある」の割合を合わせて5割で、大学全体と比べてやや低い認知率。前回と認知率は変わらない。
満足度 (Q7/Q8/Q9)	<ul style="list-style-type: none"> 教育満足度(TOP2計)は95.8%で、大学全体と同様に高く、前回とも同程度。 進路満足度(TOP2計)は87.5%で、大学全体と同様に高い。97.9%だった前回と比べると低下している。 総合満足度(TOP2計)は95.8%と、大学全体と同様に高く、前回と変わらない。
学びの機会 (Q3)	<ul style="list-style-type: none"> 授業における「ディスカッション」「発表」「少人数の演習形式」の体験率(TOP2計)は、大学全体より10～30pt程度低い。なかでも、「少人数の演習形式」の体験率は、大学全体と比べて非常に低く、「あまりなかった」「ほとんどなかった」を合わせると(BOTTOM2計)約6割を占める。 「協働作業」「将来との関わりを感じる授業」の体験率は大学全体と比べて5～10pt程度高い。 前回と比べると、「教室外での活動」「将来との関わりを感じる授業」は10～20pt程度上昇した。「協働作業」「発表」「少人数の演習形式」も上昇したが、差は5pt以内にとどまる。
学びの充実度 (Q6)	<ul style="list-style-type: none"> 「共通教育」「実務教育」の充実度(TOP2計)は大学全体と比べると10～15pt程度高い。「専門教育」は大学全体とほぼ同等。 一方で、「外国語教育」「情報リテラシー教育」の充実度は大学全体よりも15pt程度低い。なかでも「外国語教育」の「とても当てはまる」の割合は12.5pt低下し0%。 前回と比べると、「共通教育」「実務教育」が5～20pt程度高くなっている。対して、「外国語教育」「情報リテラシー教育」は5pt程度低下した。「専門教育」は前回とほぼ同等。
修得した能力 (Q5)	<ul style="list-style-type: none"> 修得度(TOP2計)は、約6割～約9割。 同学科の他のDPと比べて修得度(TOP2計)が低いのは、「医薬品合成、成分分析、薬理活性評価もしくは薬物治療などへの応用において必要な基礎的な技術を習得している。」で約6割。 前回と比較すると、半数以上の項目で修得度が4～25pt程度低下。最も低下したのは「医薬品合成、成分分析、薬理活性評価もしくは薬物治療などへの応用において必要な基礎的な技術を習得している。」で25.0ptの低下。

学科特徴	
志望度 (Q1)	<ul style="list-style-type: none"> 「第一志望」の割合は約3割で、大学全体と比べて低い。前回よりも6.3pt上昇している。
立学の精神、 DPの浸透度 (Q2/Q4)	<ul style="list-style-type: none"> 立学の精神の認知は、「入学前から知っていた」「在学中に知った」の割合を合わせて約4割で、大学全体よりも10pt以上低い認知率。前回と比べて認知率は15pt程度低下している。 DPは、「理解している」「なんとなく聞いたことがある」の割合を合わせて約6割と、大学全体とほぼ同程度の認知率だが、「理解している」学生は3%未満と大学全体よりも低い。前回比較でも認知率はほぼ変わらないが、「理解している」学生の割合はやや低下。
満足度 (Q7/Q8/Q9)	<ul style="list-style-type: none"> 教育満足度(TOP2計)は97.4%で、大学全体と同様に高い。前回とも同程度。 進路満足度(TOP2計)は100.0%で、大学全体と比べてやや高く、前回と同率。 総合満足度(TOP2計)は97.4%で、大学全体と同様に高く、前回とも同程度。
学びの機会 (Q3)	<ul style="list-style-type: none"> 授業における「ディスカッション」「教室外での活動」「少人数の演習形式」「将来との関わりを感じる授業」の体験率(TOP2計)は、大学全体より10pt以上高い。なかでも、「教室外での活動」の体験率は、大学全体と比べて非常に高く、「よくあった」「ある程度あった」を合わせて(TOP2計)ほぼ100.0%。 「協働作業」の体験率も大学全体と比べて高いが、差は5～10pt程度にとどまる。 前回と比べると、「少人数の演習形式」は10pt程度上昇。対して、「ディスカッション」「発表」は5～10pt程度低下した。他の項目は前回と同程度。
学びの充実度 (Q6)	<ul style="list-style-type: none"> 「専門教育」「実務教育」「情報リテラシー教育」の充実度(TOP2計)は大学全体と比べると5～15pt程度高い。「外国語教育」は大学全体とほぼ同等。 「共通教育」の充実度は大学全体よりも低い。差は5pt以内にとどまる。 前回と比べると、「共通教育」「外国語教育」「情報リテラシー教育」は10～15pt程度低くなっている。なかでも、「共通教育」の「とても当てはまる」の割合は30pt程度低下し約3割。他項目は前回とほぼ同等。
修得した能力 (Q5)	<ul style="list-style-type: none"> 修得度(TOP2計)は、9割強～100.0%。 同学科の他のDPと比べて修得度(TOP2計)が低いのは、「看護師として、生涯にわたって自分を高めていこうとする強い意思・意欲を持っている。」で93.4%。 前回と比較すると、修得度が低下している項目は「看護師として、生涯にわたって自分を高めていこうとする強い意思・意欲を持っている。」で5.3ptの低下。

学科特徴	
志望度 (Q1)	<ul style="list-style-type: none"> 「第一志望」の割合は5割台で、短期大学部全体とほぼ同程度。前回よりも7.1pt上昇している。
立学の精神、 DPの浸透度 (Q2/Q4)	<ul style="list-style-type: none"> 立学の精神の認知は、「入学前から知っていた」「在学中に知った」の割合を合わせて7割強の認知率で、短期大学部全体よりもやや高い。前回と比べると認知率は20.1pt上昇。 DPは、「理解している」「なんとなく聞いたことがある」の割合を合わせて約8割と短期大学部全体よりも高い認知率。前回よりも35.4ptの大幅な上昇。
満足度 (Q7/Q8/Q9)	<ul style="list-style-type: none"> 教育満足度(TOP2計)は96.5%で、短期大学部全体と同様に高く、前回とも同程度。 進路満足度(TOP2計)は89.5%で、短期大学部全体と同様に高く、前回とも同程度。 総合満足度(TOP2計)は96.5%で、短期大学部全体と同様に高く、前回とも同程度。
学びの機会 (Q3)	<ul style="list-style-type: none"> 授業における「教室外での活動」の体験率(TOP2計)は、短期大学部全体と比べて25pt以上低く、「あまりなかった」「ほとんどなかった」を合わせると(BOTTOM2計)約8割を占める。 「協働作業」「将来との関わりを感じる授業」の体験率も短期大学部全体と比べて低いが、差は5pt前後にとどまる。 前回と比べると、「将来との関わりを感じる授業」は10pt程度上昇。対して、「協働作業」「教室外での活動」は5pt程度低下した。 「ディスカッション」「発表」「少人数の演習形式」は大学全体および前回と比べても同程度。
学びの充実度 (Q6)	<ul style="list-style-type: none"> 「共通教育」「情報リテラシー教育」の充実度(TOP2計)は短期大学部全体と比べると5～10pt程度高い。「専門教育」「外国語教育」は短期大学部全体とほぼ同等。 一方で、「実務教育」の充実度は短期大学部全体よりも10pt以上低い。 前回と比べると、「外国語教育」が8.0pt低くなっている。「共通教育」「専門教育」「情報リテラシー教育」は前回よりもやや高く、「実務教育」はやや低くなっているが、いずれも差は5pt以内にとどまる。
修得した能力 (Q5)	<ul style="list-style-type: none"> 修得度(TOP2計)は、約8割～9割半ば。 同学科の他のDPと比べて修得度(TOP2計)が低いのは、「広範で体系的知識と豊かな感性、倫理観に基づき、自らの役割を自覚しながら使命を全うしようとする強い意欲と意志を持っている。」で約8割。 前回と比較すると、修得度が低下している項目は「論理的思考を身につけ、自ら課題を発見して解決に導く能力を備えている。」で6.6ptの低下。

学科特徴	
志望度 (Q1)	<ul style="list-style-type: none"> 「第一志望」の割合は4割台で、短期大学部全体と比べて低い。前回からの増減はほぼみられない。
立学の精神、 DPの浸透度 (Q2/Q4)	<ul style="list-style-type: none"> 立学の精神の認知は、「入学前から知っていた」「在学中に知った」の割合を合わせて約6割で、短期大学部全体と同程度。前回と比べると、認知率は7.3pt上昇。 DPは、「理解している」「なんとなく聞いたことがある」の割合を合わせて約7割と、短期大学部全体とほぼ同程度の認知率。前回比較では認知率は37.1pt上昇。「理解している」学生の割合は11.4pt上昇し1割を超える。
満足度 (Q7/Q8/Q9)	<ul style="list-style-type: none"> 教育満足度(TOP2計)は81.9%で、短期大学部全体と比べると低く、88.5%だった前回と比べても低下がみられる。 進路満足度(TOP2計)は93.1%で、短期大学部全体と同様に高く、前回と比べてもやや高い。 総合満足度(TOP2計)は88.9%で、短期大学部全体と比べるとやや低く、94.3%だった前回と比べてもやや低下がみられる。
学びの機会 (Q3)	<ul style="list-style-type: none"> 授業における「協働作業」「教室外での活動」の体験率(TOP2計)は、短期大学部全体より10pt程度低い。「発表」「将来との関わりを感じる授業」の体験率も短期大学部全体と比べて低いが、差は5pt程度にとどまる。 「少人数の演習形式」は、短期大学部全体よりも10pt程度高い。 前回と比べると、「教室外での活動」「将来との関わりを感じる授業」は10pt程度上昇。対して、「発表」は5pt程度低下した。 「ディスカッション」は大学全体および前回と比べても同程度。
学びの充実度 (Q6)	<ul style="list-style-type: none"> 「共通教育」「専門教育」「情報リテラシー教育」の充実度(TOP2計)は短期大学部全体と比べると5～15pt程度低い。「実務教育」は短期大学部全体とほぼ同等。 一方で、「外国語教育」の充実度は短期大学部全体よりも20pt程度高い。 前回と比べると、「専門教育」「情報リテラシー教育」が5pt程度低くなっている。他項目は前回とほぼ同等。
修得した能力 (Q5)	<ul style="list-style-type: none"> 修得度(TOP2計)は、約6割～9割半ば。 同学科の他のDPと比べて修得度(TOP2計)が低いのは、「国際社会・経済に関して幅広く正確な知識を持っている。」「専門知識に基づいた、クリティカルな思考力を持っている。」で、ともに約6割。 前回と比較すると、13項目中3項目で修得度が5～10pt程度低下。最も低下したのは「国際社会・経済に関して幅広く正確な知識を持っている。」で10.4ptの低下。

学科特徴	
志望度 (Q1)	<ul style="list-style-type: none"> 「第一志望」の割合は8割弱で、短期大学部全体と比べて非常に高い。前回よりも10.8pt上昇している。
立学の精神、 DPの浸透度 (Q2/Q4)	<ul style="list-style-type: none"> 立学の精神の認知は、「入学前から知っていた」「在学中に知った」の割合を合わせて6割台で、短期大学部全体と同程度。前回と比べると11.1pt上昇している。 DPは、「理解している」「なんとなく聞いたことがある」の割合を合わせて5割台と、短期大学部全体よりも低い認知率。前回比較では、「理解していた」「なんとなく聞いたことがある」を合わせて、認知率は19.4pt上昇。
満足度 (Q7/Q8/Q9)	<ul style="list-style-type: none"> 教育満足度(TOP2計)は95.6%で、短期大学部全体と同様に高く、前回とも同程度。 進路満足度(TOP2計)は97.1%で、短期大学部全体と比べるとやや高く、前回と比べると同程度。 総合満足度(TOP2計)は98.5%と、短期大学部全体と同様に高く、前回とも同程度。
学びの機会 (Q3)	<ul style="list-style-type: none"> 授業における「ディスカッション」「協働作業」「教室外での活動」「将来との関わりを感じる授業」の体験率(TOP2計)は、短期大学部全体より10pt以上高い。なかでも、「教室外での活動」の体験率は、短期大学部全体と比べて非常に高く、「よくあった」「ある程度あった」を合わせて(TOP2計)約9割を占める。 前回と比べると、「発表」「少人数の演習形式」は10～20pt程度低下した。「ディスカッション」差は5pt以内にとどまり、「協働作業」「教室外での活動」は同程度。
学びの充実度 (Q6)	<ul style="list-style-type: none"> 「共通教育」「専門教育」「実務教育」「情報リテラシー教育」の充実度(TOP2計)は短期大学部全体と比べると5～10pt程度高い 一方で、「外国語教育」の充実度は短期大学部全体よりも15pt程度低い。 前回と比べると、「外国語教育」が10pt程度低くなっているが、「とても当てはまる」の割合はやや上昇し、約2割。他項目は前回とほぼ同等。
修得した能力 (Q5)	<ul style="list-style-type: none"> 修得度(TOP2計)は、約9割～100.0%。 同学科の他のDPと比べて修得度(TOP2計)が特に高いのは、「教育・保育に関する専門的知識を有している。」の100.0%。全ての学生が能力を修得したと感じている。 前回と比較すると、結果を経年で比較すると、修得度が低下している項目はみられない。

学科特徴	
志望度 (Q1)	<ul style="list-style-type: none"> 「第一志望」の割合は5割で、大学全体と比べてやや低い。前回よりも7.3pt上昇している。
立学の精神、 DPの浸透度 (Q2/Q4)	<ul style="list-style-type: none"> 立学の精神の認知は、「入学前から知っていた」「在学中に知った」の割合を合わせて7割弱で、短期大学部全体と同程度。前回と比べると、認知率は19.1pt上昇。 DPは、「理解している」「なんとなく聞いたことがある」の割合を合わせて6割台と、短期大学部全体とほぼ同程度の認知率。前回比較では「理解している」「なんとなく聞いたことがある」を合わせて、認知率は30pt以上上昇。
満足度 (Q7/Q8/Q9)	<ul style="list-style-type: none"> 教育満足度(TOP2計)は95.2%で、短期大学部全体と同様に高く、前回と比べてやや高い。 進路満足度(TOP2計)は88.1%で、短期大学部全体と同様に高く、前回とも同程度。 総合満足度(TOP2計)は95.2%で、短期大学部全体と同様に高く、前回とも同程度。
学びの機会 (Q3)	<ul style="list-style-type: none"> 授業における「発表」「教室外での活動」「少人数の演習形式」の体験率(TOP2計)は、短期大学部全体より10pt以上低い。なかでも、「教室外での活動」の体験率は、短期大学部全体と比べて非常に低く、「あまりなかった」「ほとんどなかった」を合わせると(BOTTOM2計)約8割を占める。 「協働作業」の体験率も短期大学部全体と比べて低いが、差は10pt以内にとどまり、「将来との関わりを感じる授業」の差は5pt以内にとどまる。 前回と比べると、「発表」「将来との関わりを感じる授業」は5～10pt程度上昇。対して、「協働作業」「教室外での活動」「少人数の演習形式」は5pt程度低下。
学びの充実度 (Q6)	<ul style="list-style-type: none"> 「専門教育」「外国語教育」の充実度(TOP2計)は短期大学部全体と比べると5pt程度高い。「共通教育」「情報リテラシー教育」は短期大学部全体とほぼ同等。 一方で、「実務教育」の充実度は短期大学部全体よりも20pt以上低い。 前回と比べると、「専門教育」「外国語教育」「情報リテラシー教育」が5～10pt程度高くなっている。他項目は前回とほぼ同等。
修得した能力 (Q5)	<ul style="list-style-type: none"> 修得度(TOP2計)は、約6割～100.0%。 同学科の他のDPと比べて修得度(TOP2計)が低いのは、「レクリエーション学に関する基礎的知識を有している。」で約6割。 前回と比較すると、12項目中3項目で修得度が3～10pt程度低下。最も低下したのは「レクリエーション学に関する基礎的知識を有している。」で10.0ptの低下。

学科特徴	
志望度 (Q1)	<ul style="list-style-type: none"> 「第一志望」の割合は5割強で、短期大学部全体とほぼ同程度。前回よりも10.7pt低下している。
立学の精神、 DPの浸透度 (Q2/Q4)	<ul style="list-style-type: none"> 立学の精神の認知は、「入学前から知っていた」「在学中に知った」の割合を合わせて約7割で、短期大学部全体と同程度。前回と比べると、認知率は13.9pt上昇。 DPは、「理解している」「なんとなく聞いたことがある」の割合を合わせて約8割と、短期大学部全体よりも高い認知率だが、「理解している」学生は1割未満と短期大学部全体よりもやや低い。前回比較では、認知率は44.0pt上昇しており、「何となく聞いたことがある」学生の割合は7割を超える。
満足度 (Q7/Q8/Q9)	<ul style="list-style-type: none"> 教育満足度(TOP2計)は92.3%で、短期大学部全体と同様に高く、前回とも同程度。 進路満足度(TOP2計)は92.3%で、短期大学部全体と同様に高く、前回とも同程度。 総合満足度(TOP2計)は96.2%と、短期大学部全体と同様に高く、前回とも同程度。
学びの機会 (Q3)	<ul style="list-style-type: none"> 授業における「教室外での活動」「少人数の演習形式」の体験率(TOP2計)は、短期大学部全体より15pt以上高い。なかでも、「教室外での活動」の体験率は、短期大学部全体と比べて非常に高く、「よくあった」「ある程度あった」を合わせると(TOP2計)約7割を占める。 「ディスカッション」の体験率は短期大学部全体と比べて10pt程度低い。 前回と比べると、「発表」「少人数の演習形式」は10pt程度上昇。対して、「ディスカッション」「教室外での活動」「将来との関わりを感じる授業」は5～10pt程度低下した。 「協働作業」は大学全体および前回と比べても同程度。
学びの充実度 (Q6)	<ul style="list-style-type: none"> 「専門教育」「実務教育」の充実度(TOP2計)は短期大学部全体と比べると5～15pt程度高い。「情報リテラシー教育」は短期大学部全体とほぼ同等。 一方で、「共通教育」「外国語教育」の充実度は短期大学部全体よりも10～20pt程度低い。 前回と比べると、「専門教育」「実務教育」は5pt程度高い。対して、「共通教育」「外国語教育」は15pt程度低くなっている。なかでも、「外国語教育」の「とても当てはまる」の割合は20pt以上低下した。「情報リテラシー教育」は前回とほぼ同等。
修得した能力 (Q5)	<ul style="list-style-type: none"> 修得度(TOP2計)は、8割半ば～100.0%。 同学科の他のDPと比べて修得度(TOP2計)が相対的に低いのは「高い倫理観に基づき、健康・スポーツ指導者・実践的リーダーとして、強い意欲と意志を持っている。」で、8割半ば。 前回と比較すると、10項目中3項目で修得度が4～8pt程度低下。最も低下したのは「学修の価値を正しく評価し、国際的な視野に立ちながら常に向上的態度を保ち続けている。」で7.6ptの低下。

学科特徴	
志望度 (Q1)	<ul style="list-style-type: none"> 「第一志望」の割合は6割台後半で、短期大学部全体と比べてやや高い。前回よりも3.7pt上昇している。
立学の精神、 DPの浸透度 (Q2/Q4)	<ul style="list-style-type: none"> 立学の精神の認知は、「入学前から知っていた」「在学中に知った」の割合を合わせて約6割で、短期大学部全体と比べてやや低い。前回と比べると認知率は10pt以上上昇。 DPは、「理解している」「なんとなく聞いたことがある」の割合を合わせて5割台と、短期大学部全体と比べて低い認知率。前回比較では、「理解している」の割合が14.5pt上昇。
満足度 (Q7/Q8/Q9)	<ul style="list-style-type: none"> 教育満足度(TOP2計)は91.4%で、短期大学部全体と同様に高いが、98.3%だった前回と比べるとやや低下がみられる。 進路満足度(TOP2計)は97.1%で、短期大学部全体と比べるとやや高く、前回と比べると同程度。 総合満足度(TOP2計)は97.1%で、短期大学部全体と同様に高く、前回とも同程度。
学びの機会 (Q3)	<ul style="list-style-type: none"> 授業における「協働作業」「教室外での活動」の体験率(TOP2計)は、短期大学部全体より10pt程度高い。 「ディスカッション」「少人数の演習形式」の体験率(TOP2計)は、短期大学部全体と比べて5～10pt程度低い。 前回と比べると、「ディスカッション」は15pt程度上昇。対して、「教室外での活動」「少人数の演習形式」「将来との関わりを感じる授業」は5～10pt程度低下した。
学びの充実度 (Q6)	<ul style="list-style-type: none"> 「実務教育」の充実度(TOP2計)は短期大学部全体と比べると5pt程度高い。「共通教育」「専門教育」「外国語教育」は短期大学部全体とほぼ同等。 一方で、「情報リテラシー教育」の充実度は短期大学部全体よりも15pt程度低い。 前回と比べると、「共通教育」「専門教育」「実務教育」「情報リテラシー教育」が5～10pt程度低くなっている。「外国語教育」は前回とほぼ同等。
修得した能力 (Q5)	<ul style="list-style-type: none"> 修得度(TOP2計)は、6割半ば～100.0%。 同学科の他のDPと比べて修得度(TOP2計)が低いのは、「食品開発や食品管理などで必要となる技能・表現力を身に付けている。」で65.7%。 前回と比較すると、14項目中4項目で修得度が5～11pt程度低下。最も低下したのは「食品開発や食品管理などで必要となる技能・表現力を身に付けている。」で11.2ptの低下。

学科特徴	
志望度 (Q1)	<ul style="list-style-type: none"> 「第一志望」の割合は約6割で、短期大学部全体とほぼ同程度。前回よりも9.7pt上昇している。
立学の精神、 DPの浸透度 (Q2/Q4)	<ul style="list-style-type: none"> 立学の精神の認知は、「入学前から知っていた」「在学中に知った」の割合を合わせて約7割で、短期大学部全体と同程度。前回と比べて認知率は25pt以上上昇。 DPは、「理解している」「なんとなく聞いたことがある」の割合を合わせて7割強と、短期大学部全体よりやや高い認知率だが、「理解している」学生は1割未満と短期大学部全体よりやや低い。前回比較では、認知率は35pt以上上昇したが、「理解していた」学生の割合はほぼ変わらず。
満足度 (Q7/Q8/Q9)	<ul style="list-style-type: none"> 教育満足度(TOP2計)は98.1%で、短期大学部全体全体と比べるとやや高く、前回とも同程度。 進路満足度(TOP2計)は86.8%で、短期大学部全体と比べるとやや低く、93.6%だった前回と比べても低下がみられる。 総合満足度(TOP2計)は98.1%と、短期大学部全体と同様に高く、前回とも同程度。
学びの機会 (Q3)	<ul style="list-style-type: none"> 授業における「発表」の体験率(TOP2計)は、短期大学部全体より10pt程度高い。 「教室外での活動」「少人数の演習形式」の体験率(TOP2)は、短期大学部全体と比べて5～10pt程度低い。 前回と比べると、「ディスカッション」は15pt程度上昇。対して、「教室外での活動」「将来との関わりを感じる授業」は5～15pt程度低下した。その他、「協働作業」も4.9pt低下。
学びの充実度 (Q6)	<ul style="list-style-type: none"> 「共通教育」「実務教育」の充実度(TOP2計)は短期大学部全体と比べると5～10pt程度高い。「専門教育」「情報リテラシー教育」は短期大学部全体とほぼ同等。 一方で、「外国語教育」の充実度は短期大学部全体よりも7pt程度低い。 前回と比べると、「共通教育」「情報リテラシー教育」が5pt程度高い。対して、「外国語教育」は5pt程度低い。他項目は前回とほぼ同等。
修得した能力 (Q5)	<ul style="list-style-type: none"> 修得度(TOP2計)は、7割強～9割半ば。 同学科の他のDPと比べて修得度(TOP2計)が低いのは、「新たな課題に対し、論理的に考え、問題を解決する能力を身に付けている。」で7割強。 前回と比較すると、多くの項目で修得度が4～14pt程度低下。最も低下したのは「新たな課題に対し、論理的に考え、問題を解決する能力を身に付けている。」で14.4ptの低下。

卷末資料
【調査票】

武庫川女子大学・武庫川女子大学短期大学 部 令和2年度『卒業時アンケート』

このたび本学では、令和3年3月に卒業予定の皆さんを対象にアンケートを実施することになりました。みなさんからは、本学に対する率直な意見をお伺いし、魅力ある大学・短大となるための改善・改革に取り組んでいく所存です。アンケートの結果は統計資料としてのみ活用いたしますのでご安心ください。ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

Q 1. 本学はどの程度の志望順位でしたか。 *

- 第一志望
- 第二志望
- 第三志望以下

Q 2. 本学では、立学の精神の中で、「高い知性」、「善美な情操」、「高雅な徳性」を兼ね備えた有為な女性を育成することを掲げています。あなたは、このことを知っていましたか。 *

- 入学前から知っていた
- 在学中に知った
- 今まで知らなかった

Q 3. あなたが在学中に受講した授業の中で、次のような経験がどの程度ありましたか。 *

	よくあった	ある程度あった	あまりなかった	ほとんどなかった
ディスカッションを取り入れた授業	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
グループワークや実験・実習など協働作業をする授業	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
発表を取り入れた授業	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
教室外での活動や実習を行う授業	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
少人数で行う演習形式の授業	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
学んでいる内容が自分の将来と関わっていると感じられる授業	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

ここからは、学科・専攻ごとの回答になります。所属を選択し、続けてアンケートへの回答をお願いいたします。

所属 *

- 大学
- 短期大学
- 大学院（修士課程）
- 大学院（博士課程）

学科（大学） *

1. 大日
2. 大英
3. 大教
4. 大心
5. 新健
6. 大環
7. 大食
8. 大情
9. 大築
10. 大演
11. 大応
12. 新薬
13. 大康
14. 大護

学科（短期大学）*

1. 短日
2. 短英新
3. 短教
4. 短心
5. 短健
6. 短食
7. 短生

専攻（大学院 修士課程）*

1. 院日修
2. 院英修
3. 院心修
4. 院臨修
5. 院健修
6. 院食修
7. 院環修
8. 院薬修
9. 薬科修
10. 院護修(看護学研究コース)
11. 院護修(看護学研究保健師コース)

専攻（大学院 博士課程）*

1. 院英博
2. 院臨博
3. 院食博
4. 院環博
5. 院薬博
6. 院護博

大日の方にお聞きします

本学では、学科ごとに卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を設定しています。

<ディプロマ・ポリシー（大日）>

本学科では、本学の定める修業年限以上在学し、共通教育科目・基礎教育科目および専門教育科目を所定の履修方法に従って124単位以上を修得し、次のような能力・資質を備えた者に対し、教授会の意見を聴いて、学長が卒業を認定します。

卒業が認定された者には、学士（日本語日本文学）の学位を授与します。

【知識・理解】

- A 日本語および日本文学に関する基礎的また専門的知識を修得している。
- B 自国および他国の文化に対する理解を深め、日本の言語・文学との関連性を体系的に把握している。

【技能・表現】

- C 日本語のしくみ特性を深く理解し、自らの思考を他者に対して的確に発信する能力を備えている。
- D 情報機器（ICT）活用技能を含む諸技能と豊かな表現力を身につけている。

【思考・判断】

- E 日本語・日本文学に関して身につけた専門的知識を捉えかえし、批判的に考察する能力を備えている。
- F 論理的思考を身につけ、自ら課題を発見して解決に導く能力を備えている。

【態度・志向性】

- G 日常生活の中で大学での学修の価値を認識し、常に学問的態度を保っている。
- H 広範で体系的知識と豊かな感性、倫理観に基づき、自らの役割を自覚しながら使命を全うしようとする強い意欲と意志を持っている。

Q 4. あなたは上記のディプロマ・ポリシーの内容を知っていましたか。*

- 知っていて、内容を理解していた
- 詳しくは知らないが、なんとなく聞いた（見た）ことがある
- ほとんど知らなかった

Q 5. あなたは、ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力が、在学中にどの程度身に付いたと思いますか。対応するアルファベットのディプロマポリシーに対してそれぞれ回答してください。

【知識・理解】

- A 日本語および日本文学に関する基礎的また専門的知識を修得している。
- B 自国および他国の文化に対する理解を深め、日本の言語・文学との関連性を体系的に把握している。

【技能・表現】

- C 日本語のしくみ特性を深く理解し、自らの思考を他者に対して的確に発信する能力を備えている。
- D 情報機器（ICT）活用技能を含む諸技能と豊かな表現力を身につけている。

	とても身に付いた	ある程度身に付いた	あまり身に付いていない	ほとんど身に付いていない
A. 日本語および日本文学に関する基礎的また専門的知識を修得している。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
B. 自国および他国の文化に対する理解を深め、日本の言語・文学との関連性を体系的に把握している。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
C. 日本語のしくみ特性を深く理解し、自らの思考を他者に対して的確に発信する能力を備えている。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
D. 情報機器（ICT）活用技能を含む諸技能と豊かな表現力を身につけている。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

※Q4、Q5は調査対象学科・専攻のDPIにあわせて調査を実施している

※個別のDPの内容については大学はP111～124、短期大学部はP125～131、大学院はP133～136を参照

【思考・判断】

E 日本語・日本文学に関して身につけた専門的知識を捉えかえし、批判的に考察する能力を備えている。

F 論理的思考を身につけ、自ら課題を発見して解決に導く能力を備えている。

【態度・志向性】

G 日常生活の中で大学での学修の価値を認識し、常に学問的態度を保っている。

H 広範で体系的知識と豊かな感性、倫理観に基づき、自らの役割を自覚しながら使命を全うしようとする強い意欲と意志を持っている。

	とても身に付いた	ある程度身に付いた	あまり身に付いていない	ほとんど身に付いていない
E. 日本語・日本文学に関して身につけた専門的知識を捉えかえし、批判的に考察する能力を備えている。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
F. 論理的思考を身につけ、自ら課題を発見して解決に導く能力を備えている。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
G. 日常生活の中で大学での学修の価値を認識し、常に学問的態度を保っている。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
H. 広範で体系的知識と豊かな感性、倫理観に基づき、自らの役割を自覚しながら使命を全うしようとする強い意欲と意志を持っている。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

Q 6. あなたは、在学期間を通して、本学の教育内容をどのように感じましたか。 *

	とても当てはまる	ある程度当てはまる	あまり当てはまらない	ほとんど当てはまらない
教養分野の教育（共通教育）が充実している	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
専門分野の教育が充実している	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
実践的・実務的教育が充実している	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
外国語教育が充実している	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
情報リテラシー教育（パソコン操作技術や情報処理）が充実している	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

※Q4, Q5は調査対象学科・専攻のDPIにあわせて調査を実施している

※個別のDPの内容については大学はP111～124、短期大学部はP125～131、大学院はP133～136を参照

Q 7. 総合的にみて、あなたは本学の教育内容に満足していますか。 *

- 満足している
- やや満足している
- あまり満足していない
- 満足していない

Q 8. 卒業後の進路について伺います。あなたはご自身の卒業後の進路に満足していますか。 *

- 満足している
- やや満足している
- あまり満足していない
- 満足していない

Q 9. 学生生活を振り返ってみて、本学に入学してよかったと思いますか。 *

- そう思う
- ややそう思う
- あまりそう思わない
- そう思わない

Q10. 最後に、本学の教育について感想があれば、ご自由にお書きください。 *

記述式テキスト（長文回答）
